

下老子笛川遺跡発掘調査報告

— 能越自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告V —

第一分冊
縄文時代編



2006年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

下老子笛川遺跡発掘調査報告

第一分冊
縄文時代編

富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第三集

二〇〇六年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所



下老子笹川遺跡遠景（南から）



下老子笹川遺跡遠景（北から）



C 4 地区 全景（東から）



D 2・D 3 地区 全景（南から）



C 4 地区自然流路西側 縄文土器



C 4 地区自然流路東側 縄文土器



D地区 繩文土器



E地区 繩文土器

下老子笛川遺跡発掘調査報告

— 能越自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告V —

第一分冊
縄文時代編

2006年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道は、東海北陸自動車道が北陸自動道と交差する小矢部・砺波JCTからさらに北方へ向かって高岡市、氷見市を通って石川県輪島市に至る高規格幹線道路として計画されました。この能越自動車道及び関連アクセス道の建設に伴い、富山県文化振興財団はその計画路線内の多数の遺跡を発掘調査してまいりました。

本書は、平成7年度から10年度までの4箇年にわたり調査を実施した旧福岡町（現高岡市）から高岡市にかけて所在する、下老子笹川遺跡の発掘調査報告書です。

下老子笹川遺跡は、総延長南北約1.8kmにわたる遺跡で、今回の発掘調査では縄文時代晚期から近代にかけての集落が発見されました。

縄文時代晚期の遺構は、調査区北側で確認され、建物・焼土・土坑・溝・自然流路・土器集中地点を検出しました。

弥生時代では、後期から終末期の集落が調査区中央で確認され、竪穴建物や掘立柱建物・周溝遺構・柵・道路・土坑・溝を検出しました。また、建物を中心に多くの弥生土器、緑色凝灰岩などの玉作関連遺物が出土しました。これらは、富山県内でも大量に出土した遺跡の一つで、富山の弥生時代を考える上で貴重な資料となりました。

このほか、弥生時代後期から古墳時代中期にかけての水田、古代から近代の遺構や遺物を検出し、古くから人々の生活に関わる土地であったことがわかりました。

こうした発掘調査の成果が、文献には表れない人々の生活をひもとく一助となり、今後の調査・研究に活用されれば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導をいただきました関係機関及び関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

所長 桃野真晃

例 言

- 1 本書は高岡市笹川・千鳥丘町内、旧西礪波郡福岡町（現高岡市福岡町）下老子・一步二歩地内にまたがって所在する下老子笹川遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は能越自動車道（砺波高岡道路）建設に伴い、旧建設省北陸地方建設局（現国土交通省北陸地方整備局）からの委託を受けて財団法人富山県文化振興財團理蔵文化財調査事務所が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記の通りである。
- | | |
|--------|-------------------------|
| 発掘調査期間 | 平成7（1995）年5月25日～12月11日 |
| | 平成8（1996）年5月13日～12月24日 |
| | 平成9（1997）年5月13日～12月19日 |
| | 平成10（1998）年5月26日～11月30日 |
- 報告書整理作業期間 平成11（1999）年4月1日～平成18（2006）年3月31日
- 4 本書の執筆は、本文を宮田進一、伊藤潔、岡本淳一郎、島田美佐子、武田健次郎、新宅茜、高柳由紀子、細辻真澄、町田賢一、町田尚美が担当し、執筆分担は文末に記した。本書の編集は、町田賢一（第1・5分冊）、新宅茜（第4分冊）、高柳由紀子（第2～5分冊）が行った。
- 5 整理作業中に下記の方の指導・助言等を受けた。
- | | |
|-------------|------------------|
| 木製品について | 山田昌久東京都立大学助教授 |
| 縄文・弥生土器について | 石川日出志明治大学教授 |
| 鋳型について | 元井實氏・西川實氏（株老子製作所 |
| 軽石について | 小林武彦富山大学教授 |
- なお弥生土器について、石川日出志氏より玉稿を賜った。
- 6 遺物の撮影は、写房楠華堂（代表 内田真紀子）、いろは写房（代表 稲野彰子）、アオヤマスター（代表 青山清寛）に委託した。
- 7 自然科学的な分析は以下の諸期間に委託し、その成果について報告文を得た。
- | | |
|-------------------|------------------------------|
| 石器の使用痕分析 | （株）アルカ |
| 石製玉作関連遺物分割・製作工具分析 | （株）アルカ |
| プラント・オパール分析 | 株古環境研究所 |
| 珪藻分析 | 株古環境研究所 |
| 花粉分析 | 株古環境研究所 |
| 土壤理化学分析 | 株古環境研究所 |
| 植物硅酸体分析 | 株古環境研究所 |
| 木製品樹種同定 | 株古環境研究所、財元興寺文化財研究所、（株）バレオ・ラボ |
| 骨同定 | （株）バレオ・ラボ |
| 熱ルミネッセンス年代測定 | 奈良教育大学 長友恒人氏、株古環境研究所 |
| 放射性炭素年代測定 | 株古環境研究所、（株）加速器研究所 |
| 炭化米DNA分析 | 総合地球環境学研究所 佐藤洋一郎氏、株古環境研究所 |
| 鉄製錐 | （株）九州テクノリサーチ・TACセンター 大澤正己、 |
| | 財元興寺文化財研究所 |
- 8 骨同定の一部は金子浩昌氏（東京国立博物館客員研究員）、石製品の石材鑑定は赤羽久忠氏（富山市科学文化センター芸芸課長）、墨書き土器の解説の一部は、鈴木景二氏（富山大学助教授）が行った。
- 9 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略、五十音順）
赤澤徳明、浅川滋男、浅野良治、荒川隆史、石黒立人、石川ゆずは、市川創、伊藤雅文、大庭重信、大熊厚志、太田雅史、大野英子、岡田一広、岡村涉、岡本茂史、岡安雅彦、尾崎高宏、及川良彦、川崎保、楠正勝、小島俊彰、佐伯安一、酒井重洋、笠澤正史、佐藤由紀男、篠原和大、下濱貴子、須原拓、高野陽子、高橋浩二、澁沢規朗、立田佳美、坪田聰子、田海義正、戸谷邦隆、永井宏幸、中沢道彦、長瀬出、中村明央、布尾和史、野積正吉、野村忠司、浜崎悟司、林大智、藤岡比呂志、藤澤祐祐、藤田慎一、藤田富士夫、藤村茂克、久田正弘、廣瀬時習、松井潔、麻柄一志、松尾信裕、松尾実、松本岩雄、宮田明、村木淳、森田利枝、安英樹、安中哲徳、渡邊朋和、渡邊裕之、富山県教育委員会、高岡市教育委員会、福岡町教育委員会

凡　例

- 1 本書は5分冊からなる。第一分冊には縄文時代の本文・挿図・一覧表・写真図版、第二分冊には弥生～古墳時代の本文・挿図、第三分冊には弥生～古墳時代の一覧表・写真図版、第四分冊には古代～近代の本文・挿図・一覧表・写真図版を掲載する。第五分冊は、委託業者による自然科学分析報告と職員他による考察からなる。
- 2 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。
- 3 時期区分は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世～近代の5つとし、それぞれ章を分けた掲載した。
- 4 本書で示す方位は、全て真北である。
- 5 挿図の縮尺は、その都度示した。
- 6 遺構の略号は、以下のとおりである。
S A : 柵, S B : 掘立柱建物, S D : 溝, S E : 井戸, S F : 道路, S H : 周溝遺構, S I : 竪穴建物, S K : 土坑, S O : 焼土, S P : 柱穴, S X : その他
- 7 遺構番号は、調査時に地区ごとに付した番号にある一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は、遺構の種類に関わらず連番とするが、建物・柵・焼土・土器集中地点には時代ごとに新たに番号を付した。各地区の遺構番号に加算した数値は、次のとおりである。但し複数の地区にわたる遺構は、小さい方の遺構番号で示す。
A 1 地区：加算せず、A 2 地区：+100, A 3 地区：+300, A 4 地区：+500, A 5 地区：+600, A 6 地区：+1100, A 7 地区：+1400, A 8 地区：+1900, B 1 地区：+2200, B 2 地区：+2500, B 3 地区：+2800, B 4 地区：+3000, B 5 地区：+3500, B 6 地区：+3700, B 7 地区：+4000, C 1 地区：+4100, C 2 地区：+4200, C 3 地区：+4300, C 4 地区：+4400, D 1 地区：+4600, D 2 地区：+4700, D 3 地区：+4900, D 4 地区：+5000, E 1 西側・E 2 地区：+5100, E 1 東側・E 3 地区：+5300
- 8 遺物は、分冊ごとに種類に関わらず連番を付し、本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号は、一致する。
- 9 遺跡の略号は、旧福岡町域のA 1～B 7 地区が「35 S S - 地区名」、旧高岡市域のC 1～E 4 地区が「02 S S - 地区名」で、遺物の注記には略号を用いた。
- 10 遺物のスス付着部分及び赤彩部分等、遺構の地山及び炭化物層等は以下のとおりに示す。これ以外については図中に凡例を示した。



スス・コゲ
炭化物



黒漆
(漆器碗・盤以外)



赤彩・黒色漆



漆
(土器)



赤彩



緑
緑色凝灰岩



赤
鉄石英



石
石英



炭化物層



燒土・地床灰



盛土



砂質・噴砂



lignite



地山

- 11 土層・遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』を参照した。また、土質については、建設業労働災害防止協会1973「土の種類の見分け方」「土止め支保工組立等の作業指針〔第1巻〕－作業主任者講習テキスト－」を参照した。
- 12 遺構一覧及び本文中に用いる遺構についての用語は以下のとおりとする。
掘立柱建物：用語は『平城宮発掘調査報告Ⅶ』を参考とした。
井戸：用語等は、宇野隆夫 1982「井戸考」『史林第65巻第5号』を参考とした。
- 13 遺物のうち珠洲の編年については、吉岡康暢 1994年「珠洲陶器の編年の考察」『中世須恵器の研究』吉川弘文館 を参考にした。
- 14 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
 - ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。
 - ②規模・法量の（ ）内は現存長を表す。
 - ③胎土色調・釉色調は農林水産省技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』・財団法人日本規格協会『標準色票 光沢版』を使用し、釉色調の和名は小学館『色の手帖』より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色が見られる場合は、最も多く使用されている色を記し、その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。

目 次

第Ⅰ章 調査経緯	1
1 調査に至る経緯	1
(1) 調査の契機	1
(3) 試掘調査	3
(2) 分布調査	1
(4) 本調査	4
2 調査経過	6
(1) 調査方法	6
(3) 調査指導	9
(5) 現地説明会	11
(7) 整理体制	13
(2) 調査の経過	6
(4) 調査体制	9
(6) 整理経過	13
第Ⅱ章 立地と歴史的環境	16
1 立地	16
(1) 立地	16
(3) 地形と地質	16
2 歴史的環境	16
(1) 地名の由来	16
(2) 既往の調査と知見	19
3 周辺の遺跡	24
第Ⅲ章 調査の概要	30
1 概要	30
2 基本層序	32
第Ⅳ章 縄文時代の遺構・遺物	36
1 遺構の分類	36
(1) 建物の分類	36
(2) 建物以外の遺構の分類	36
2 遺物の分類	38
(1) 縄文土器の分類	38
A 縄文土器の器種分類	38
B 縄文土器の調整と文様	40
(2) 石製品の分類	50
A 打製石斧の分類	50
B 打製石斧以外の石製品分類	50
3 縄文時代の概要	51
4 C地区	53
(1) C 3 地区の遺構と遺物	53
A 土器集中地点	53
(2) C 1 ~ 3 地区の包含層出土遺物	57
A 土器	57
B 石製品	58
(3) C 4 地区の遺構と遺物	59
A 建物	59
B 焼土	76
C 土坑	78
D 自然流路	81
E 土器集中地点	85

(4) C 4 地区の包含層出土遺物	100		
A 自然流路 S D4535東側包含層	100	B 自然流路 S D4535西側包含層	114
5 D 地区			119
(1) D 地区の遺構と遺物	119		
A 土坑	119	B 自然流路	126
C 土器集中地点	130		
(2) D 地区の包含層出土遺物	135		
A 土器	135	B 石製品	142
6 E 地区			145
(1) E 地区の遺構と遺物	145		
A 建物	145		
(2) E 地区の包含層出土遺物	154		
A 土器	154	B 石製品	154
参考文献			155

表目次

第1表 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査一覧	5
第2表 調査一覧	8
第3表 現地説明会見学者の動向表	11
第4表 現地説明会見学者の動向グラフ	11
第5表 下老子笹川遺跡既往の調査	22
第6表 周辺の遺跡	26
第7表 地区別基本層序	35
第8表 土の種類の見分け方	35
第9表 縄文時代 建物一覧	160
第10表 縄文時代 焼土一覧	162
第11表 縄文時代 土坑一覧	162
第12表 縄文時代 自然流路一覧	163
第13表 縄文時代 土器一覧	164
第14表 縄文時代 石製品一覧	174

卷首図版目次

- 卷首図版 1 下老子笹川遺跡遠景
 卷首図版 2 C 4 地区全景 D 2・3 地区全景
 卷首図版 3 C 4 地区自然流路西側縄文土器 東側縄文土器
 卷首図版 4 D 地区縄文土器 E 地区縄文土器

写真図版目次

図版 1	航空写真	図版 2	遠景
図版 3	C・D 地区遺構	図版 4~19	C 地区遺構
図版 20~25	D 地区遺構	図版 26~28	E 地区遺構
図版 29~51	C 地区縄文土器	図版 51~59	D 地区縄文土器
図版 59~62	E 地区縄文土器	図版 62~66	C~E 地区石製品

第Ⅰ章 調査経緯

1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

能越自動車道（一般国道470号）は、石川県輪島市と富山県砺波市を結ぶ延長約100kmの自動車専用道路で、昭和62年に高規格幹線道路網計画⁽¹⁾の一部として策定された。富山県内では、約45kmが計画され、これまでに北陸自動車道・東海北陸自動車道と連結する小矢部砺波JCT（ジャンクション）から高岡北IC（インターチェンジ）までの約18km（高岡砺波道路）が開通し、さらに氷見IC（氷見高岡道路）・瀧浦IC（七尾水見道路）が設置される予定となっている。

能越自動車道の建設計画は、平成2年4月に旧建設省（現国土交通省）から富山県教育委員会（以下、県教委）に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、旧建設省北陸建設局（現国土交通省北陸地方整備局）・県教委・小矢部市教育委員会の三者により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、小矢部市の用地買取完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。以後、平成3年12月に小矢部市域と旧福岡町（現高岡市）域、次いで平成5年3月に高岡市域の分布調査を県教委（富山県埋蔵文化財センター）が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て実施した。

(2) 分布調査

平成2年度の分布調査は、小矢部市域の能越自動車道本線敷地内（小矢部砺波JCT～福岡IC間）とアクセス道路敷地内（国道8号線芦川交差点～福岡IC間）を対象として4月17・18日の2日間で実施し、両地内で新たに6箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。これらは便宜上、本線敷地内をNE J-01・02・03・04、アクセス道路敷地内をNE J-A-01・02とした⁽²⁾。

平成3年度の分布調査は、旧福岡町域の本線敷地内（福岡IC～福岡PA間）、用地買収が完了した小矢部市芹川地内と旧福岡町域のアクセス道路敷地内を対象として12月3日に実施し、両地内で4箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。本線敷地内にはNE J-05・06・07、アクセス道路敷地内は前年度のNE J-A-01が旧福岡町域で範囲を拡大したため、拡大域をNE J-A-03、小矢部市芹川地内をNE J-A-04とした。

平成4年度の分布調査は、本線敷地内の高岡市笠川地内他（福岡PA～JR北陸本線間）を対象として3月22日に実施し、平成3年度に実施した試掘調査で明らかになった下老子遺跡（NE J-07）の高岡市域への拡大とみてNE J-08とした。

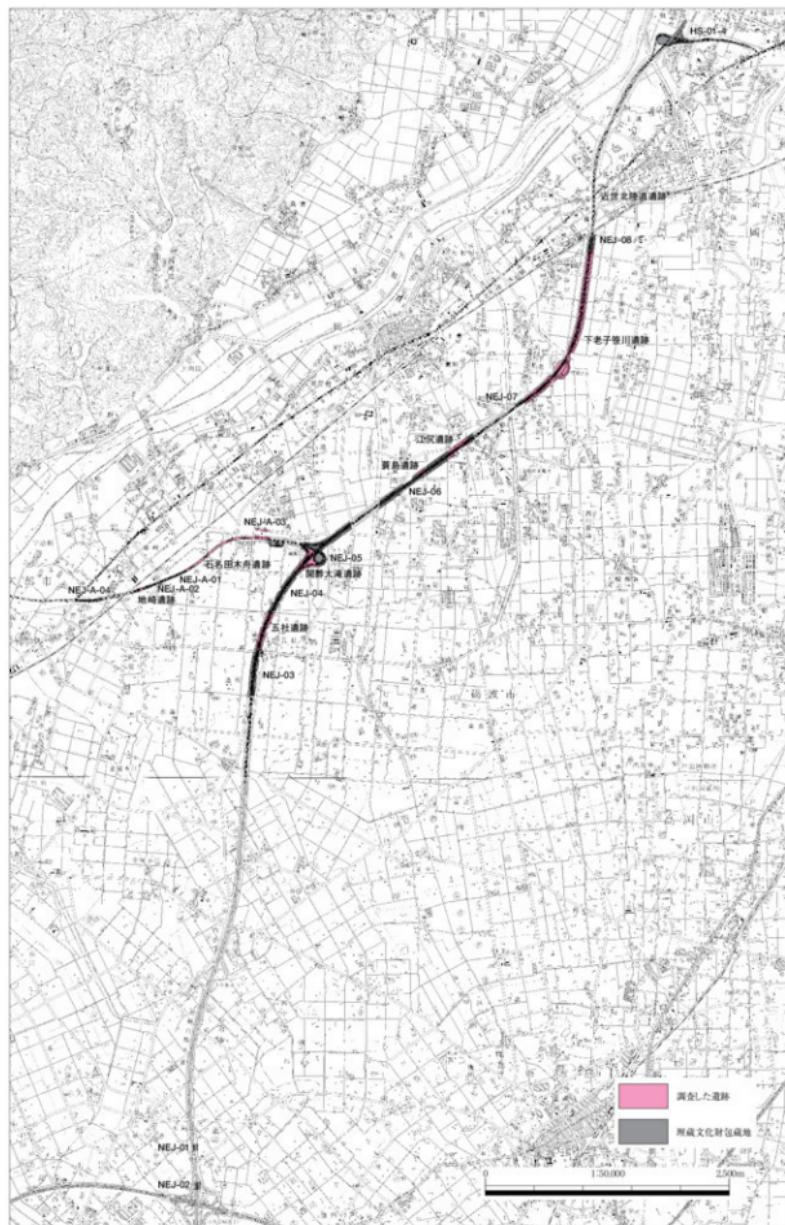
平成5年度の分布調査は、本線敷地内の高岡市笠

注1 高岡砺波道路とは、1967年に自動車の高速交通の確保を目的に建設大臣（現国土交通大臣）によって策定された全国的約14,000kmにも及ぶ自動車専用道路。

注2 「J」とは、建設自動車道の略称。建設自動車道建設に伴う分布調査で新たに発見された埋蔵文化財包蔵地は、試掘調査で測定と確認されるまで「NE J」とと被称される。「NE J-A」は、建設自動車道アセスメントの略称。



第1図 調査位置図



第2図 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵位置図 (1/50,000)

島・上渡地内（JR北陸本線～県道小野上渡線間）を対象として3月30日に実施し、位置的状況から近世北陸道推定地を確認した。

平成7年度の分布調査は、本線敷地内の高岡市上渡・東五位・池田・六家地内（県道小野上渡線～高岡IC間）を対象として3月23日に実施し、周知のHS-01を確認した。

平成9年度の分布調査は、本線敷地内の高岡市国吉・五十里地内（高岡IC～高岡北IC間）を対象として3月22日に実施し、両地内で新たに3箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。その結果、高岡市国吉地内をNEJ-10・11、五十里地内をNEJ-12とした。

（3）試掘調査

分布調査の結果報告から、埋蔵文化財包蔵地の今後の取り扱いについて検討が行われた。その結果、遺跡のより明確な範囲と内容を把握するため、試掘調査を実施することとなった。平成2年度の試掘調査は、11月1日から12月22日まで実施した。その結果、NEJ-04・NEJ-A-01・NEJ-A-02の3箇所で遺構・遺物を確認し、五社遺跡・石名田遺跡・地崎遺跡（いずれも小矢部市）と命名した。また、本調査の必要な面積は、約54,000m²に確定した。

平成4年度の試掘調査は、6月1日から7月7日まで実施した。その結果、NEJ-05・NEJ-06・NEJ-07・NEJ-A-03の4箇所で遺構・遺物を確認し、NEJ-05は開辟大溝遺跡（高岡市）、NEJ-06は2地点に分かれて蓑島遺跡・江尻遺跡（高岡市）、NEJ-07は下老子遺跡（高岡市）、NEJ-A-03は石名田遺跡と同一遺跡で範囲が拡大したため石名田木舟遺跡（小矢部市・高岡市）と命名した。また、本調査の必要な面積は、約130,900m²に確定した。

平成6年度の試掘調査は、6月6日から7月4日まで実施した。その結果、NEJ-08は下老子遺跡と同一遺跡で範囲が拡大したため下老子篠川遺跡（高岡市）と命名した。また、本調査の必要な面積は、67,050m²と確定した。

平成8年度の試掘調査は、高岡市教育委員会が7月15日から10月14日まで実施した。その結果、周知のHS-01遺跡では、近代以降の遺構のみで、本調査の必要なしとした。

平成10年度の試掘調査は、6月1日に近世北陸道推定地、11月9日から12月12日までNEJ-10・11で実施した。その結果、いずれの埋蔵文化財包蔵地でも遺構・遺物を確認し、近世北陸道推定地を近世北陸道遺跡、NEJ-10を手洗野赤浦遺跡、NEJ-11を岩坪岡田島遺跡と命名した。また、本調査の必要な面積は、約17,700m²に確定した。



調査前風景



重機によるトレーニング掘削状況

(4) 本調査

本調査については、平成3年4月に、旧建設省・県教委（富山県埋蔵文化財センター）・財団の協議で、遺跡の範囲が確定している五社遺跡・石名田遺跡・地崎遺跡の本調査の要望が出された。その結果、県教委及び財団は、東海北陸自動車道関連の調査が終了する平成4年度から、同財團埋蔵文化財調査事務所が能越自動車道関連の本調査を受託することで合意し、調査体制の整備及び調査方法の検討を進めた。

平成4年度は小矢部東IC～福岡IC間にある五社遺跡を対象に、7月20日から12月27日まで本調査を実施した。

平成5年度は、福岡IC内の開辟大滝遺跡・石名田木舟遺跡を中心に、五社遺跡・地崎遺跡もあわせて4月19日から12月21日まで本調査を実施した。

平成6年度は福岡ICアクセス道内の石名田木舟遺跡を中心に、五社遺跡もあわせて5月18日から平成7年1月19日まで実施した。

平成7年度は、旧福岡町域の能越自動車道に係り消滅する町道の代替道路用地内の石名田木舟遺跡の調査を5月17日から7月25日まで実施した。また、福岡IC～福岡PA（現在は福岡本線料金所）間にある蓑島遺跡・江尻遺跡・下老子笹川遺跡の本調査を5月18日から12月18日まで実施した。

平成8年度は、福岡PA内の下老子笹川遺跡の本調査を5月13日から12月24日まで実施した。

平成9年度は、福岡PA～高岡IC間にある下老子笹川遺跡の本調査を5月13日から12月19日まで実施した。

平成10年度は、福岡PA～高岡IC間にある下老子笹川遺跡を中心に、近世北陸道遺跡もあわせて5月26日から11月30日まで本調査を実施した。

能越自動車道開通埋蔵文化財包蔵地調査一覧 文献

- 1 山森伸正・塚田一成 1991「富山県小矢部市『能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告－五社遺跡・石名田遺跡・地崎遺跡－』」小矢部市教育委員会
- 2 山本正敏・岡本淳一郎・中川道子・三島道子 1998『五社遺跡発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－I』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 3 神保孝造・河西健二・佐賀和美・山本慎子 1993『能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－小矢部市～福岡町間－』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 4 池野正男・狩野雄一・酒井重洋・島田美也子・中川道子・深瀬西 2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－I』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 5 池野正男・中川道子・越前慎子・三島道子 2000『開辟大滝遺跡・地崎遺跡発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－II』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 6 森隆・鳥田美佐子・金三津道子・新宅青・中野由紀子 2003『江尻遺跡・蓑島遺跡発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－I』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 7 池野正男・酒井重洋・河西健二 1995『能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－NEJ-08遺跡－』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 8 中村亮仁 1999『試掘確認調査－近世北陸道指定地－』『埋蔵文化財調査概要－平成10年度－』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 9 山口辰一・小村正之 1997『富山県高岡市 HS-01遺跡第4次調査－試掘調査概要報告書－』富山県高岡市教育委員会
- 10 岡本淳一郎・深瀬西・中野由紀子・平井晶子・松田隆二 1999『能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－NEJ-10・NEJ-11－』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 11 深瀬西 2000『NEJ-12埋蔵文化財包蔵地試掘調査』『埋蔵文化財調査概要－平成11年度－』財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所

所蔵文化財包藏地名	所在地	調査面積 (m ²)	調査期間	遺構	遺物	時代	文獻
N E J - 01	小矢部市水島	分布調査 5,600	H2.4.17~4.18				
		試掘調査 271	H2.11.1~11.2	なし	珠洲・陶器	中世・近世	1
N E J - 02	小矢部市水島	分布調査 8,000	H2.4.17~4.18				
		試掘調査 237	H2.11.1~11.2	なし	陶器	近世	1
N E J - 03	小矢部市道明	分布調査 16,800	H2.4.17~4.18				
		試掘調査 1,184	H2.11.1~11.2	なし	陶器	近世	1
N E J - 04 (五柱道路)	小矢部市五柱	分布調査 67,000	H2.4.17~4.18				
		試掘調査 2,977	H2.11.6~12.5	掘立柱建物・溝・土坑	土師器・須恵器・埴塙土器・中世土器・珠洲・中國陶磁	平安時代後半 ○中世 近世	1
		本調査(延べ) 51,299	H4.7.20~12.27 H5.4.19~12.8 H6.5.18~10.25	多穴住居・掘立柱建物・橋・溝・埴塙・井戸・土坑・集石	土師器・須恵器・灰陶器・縁 釉陶器・質造土器・中世土器・珠洲・瀬戸美濃・中國陶磁 ・木製品・金銅製品	古墳時代中期 ○平安時代後半 ○中世 近世	2
N E J - A - 01 (G名舟印道路)	小矢部市石名田	分布調査 25,200	H2.4.17~4.18				
		試掘調査 1,462	H2.11.30~12.13	掘立柱建物・溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・中國陶磁・木製品	○奈良・平安時代 ○中世 近世	1
N E J - A - 03 (G名舟印道路)	高岡市福岡町 舟舟	分布調査 32,600	H3.12.3				
		試掘調査 2,100	H4.6.16~7.1	多穴住居・掘立柱建物・溝・杭型・礎石・建物・土坑・埋状土坑	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸・中國陶磁・近世陶器・木製品・金属製品	○古代 ○中世 近世	3
		本調査(延べ) 57,324	H5.5.11~12.15 H6.5.18~H7.1 H7.5.17~7.25	多穴住居・掘立柱建物・土台建物・礎石・古墳・道路・溝・井戸・土坑	鐵文土器・弥生土器・土師器・須恵器・質造土器・中世土器・珠洲・越後・八尾・瀬戸・越前・瀬戸美濃・中國陶磁・父野・越中織部・近世陶器・土師器・木製品・石製品・金銅製品	古墳 ○古代 ○中世 近世	4
N E J - A - 02 (船崎道路)	小矢部市船崎	分布調査 19,800	H2.4.17~4.18				
		試掘調査 1,049	H2.11.30~12.21	掘立柱建物・穴	近世陶器・木製品	○近世	1
		本調査 1,636	H5.5.11~7.27	掘立柱建物・溝・井戸・土坑	八尾・珠洲・瀬戸美濃・中國陶磁・近世陶器・木製品・石製品・金属製品	○近世	5
N E J - A - 04	小矢部市芹川	分布調査 19,400	H3.12.3				
		試掘調査 900	H4.6.15~6.16	なし	近世陶器		3
N E J - 05 (開幹大泥走路)	高岡市福岡町 開幹・大泥	分布調査 78,400	H3.12.3				
		試掘調査 4,660	H4.6.19~7.7	掘立柱建物・溝・井戸・土坑	中世土器・珠洲・近世陶器・木製品	○中世 近世	3
		本調査(延べ) 28,063	H5.5.19~12.21	掘立柱建物・橋・道路・溝・井戸・土坑・石列	中世土器・珠洲・越前・瀬戸・八尾・珠洲・瀬戸美濃・中國陶磁・近世陶器・木製品・石製品・金属製品	○中世 近世	5
N E J - 06	高岡市福岡町 江尻・蓑島	分布調査 72,500	H3.12.3				
		試掘調査 2,900	H4.6.17~6.29	掘立柱建物・溝・土坑	鐵文土器・弥生土器・中世土器・須恵器・中世土陶器・近世陶器	○鐵文時代後期 弥生時代後期 ○中世 ○近世	3
N E J - 06-a (江尻道路)	高岡市福岡町 江尻	本調査(延べ) 22,204	H7.5.19~12.18	多穴住居・掘立柱建物・土台建物・井戸・溝・土坑・水利施設	鐵文土器・弥生土器・中世土器・珠洲・瀬戸・瀬戸・中國陶磁・越中織部・伊万里・万葉・質造土器・古代陶器・木製品・木製品・金属製品	○鐵文時代後期 弥生時代後期 中世 ○近世	6
N E J - 06-b (蓑島道路)	高岡市福岡町 蓑島	本調査(延べ) 3,476	H7.5.18~8.11	溝・土坑・自然流路	鐵文土器・弥生土器・土師器・越中織部・伊万里・近代陶器・土製品・木製品・石製品	○鐵文時代後期 弥生時代・古墳時代 近代	
N E J - 07 (下老子道路)	高岡市福岡町 下老子	分布調査 74,800	H3.12.3				
		試掘調査 4,900	H4.6.1~6.17	多穴住居・掘立柱建物・溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・中世土器・珠洲・中國陶磁・近世陶器・木製品・石製品・金属製品	○弥生時代後期・終末期 古代 中世 ○近世	3
N E J - 08 (下老子篠川道路)	高岡市篠川	分布調査 76,800	H5.3.22				
		試掘調査 3,800	H6.6.~7.4	溝・土坑	鐵文土器・弥生土器・土師器・須恵器・中世土器・珠洲・石製品	○鐵文時代後期 弥生時代後期 奈良・平安時代 中世 ○近世	7
近世北跡遺跡定地 (近世北跡道路)	高岡市高岡町	分布調査 67,000	H7.3.30				
		試掘調査 111	H10.6.1	溝			
H S - 01 - 4	高岡市内鳥・六家・池田	分布調査 28,000	H8.3.23				
		試掘調査 8,628	H8.7.15~10.14	溝・井戸・土坑	古墳陶器・木製品	○近世	8
N E J - 10 (手洗野赤浦遺跡)	高岡市手洗野	分布調査 45,600	H10.3.4				
		試掘調査 3,247	H10.11.24~12.8	溝	須恵器・中世土器・珠洲・縁 中壇)・陶器	古代 ○中世 近世	10
N E J - 11 (岩岸網田島遺跡)	高岡市岩岸	分布調査 46,800	H10.3.4				
		試掘調査 4,181	H10.11.9~12.12	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・中世土器・珠洲・中國陶磁	○弥生 ○古代 ○中世	10
N E J - 12	高岡市五十里	分布調査 33,500	H10.3.4				
		試掘調査 3,193	H11.10.18~12.11	自然流路	越后瀬戸・吉津・伊万里	近世	11

第1表 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査一覧

※○は主体をしめる時代

2 調査経過

(1) 調査方法

発掘調査の基準となるグリッドの設定に際しては、国家座標を用い、+77,700～-19,600をX 0 Y 0とし、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。グリッドは、2m方眼とし、各グリッド名は右上のX軸とY軸の座標とした。発掘範囲は、X52～X893、Y49～Y409である。調査区は、広大な面積であることと複数年に渡る調査となることから、道路や水路や現況水田の畔などによってA 1～8・B 1～7（高岡市福岡町一歩二歩・下老子地内）、C 1～4・D 1～6・E 1～4（高岡市千鳥丘町・笹川地内）の合計29地区に分けた。

調査は、表土・耕作土・無遺物層の除去、遺物包含層の発掘、遺構確認面の精査・遺構の検出、遺構の発掘、遺構の記録、写真撮影、空中写真測量、補足作業の順で行った。なお、調査に係わる作業員の管理・機械掘削・人力掘削・写真撮影用足場の組み立てや解体及び安全対策等は、（株）佐藤工業が請け負った。空中写真測量及び平面図の作成は、（株）日本テクニカルセンター（平成7年度）・（株）アジア航測（平成8～10年度）に委託した。

表土・耕作土・無遺物層の除去は、人力掘削による調査の事前準備として、財團調査員立ち会いのもと、試掘調査の結果をふまえ、基本層序を確認しながら、重機により行った。また、場所によっては無遺物層を除去した。

遺物包含層の発掘はスコップ等を用い、人力で掘削した。堆土搬出にはベルトコンベヤーを使用し、路線敷内の調査区隣接地に集積し、ダンプにより調査区外へ搬出した。

遺構確認面の精査・遺構の検出は、遺構確認面に達するとジョレンやねじり鎌で精査し、検出した遺構は石灰等でマーキングを行い、遺構概略図を作成した。検出した遺構には、遺構番号を付すが、各地区毎に遺構の種類に関わらず通し番号とした。

遺構の発掘は、柱穴・井戸・小さい土坑は長軸に沿って半截し、大きい土坑は十字に土層観察用のセクションベルトを残し、溝は適宜に間隔をあけてセクションベルトを残し、移植ごて等で発掘した。

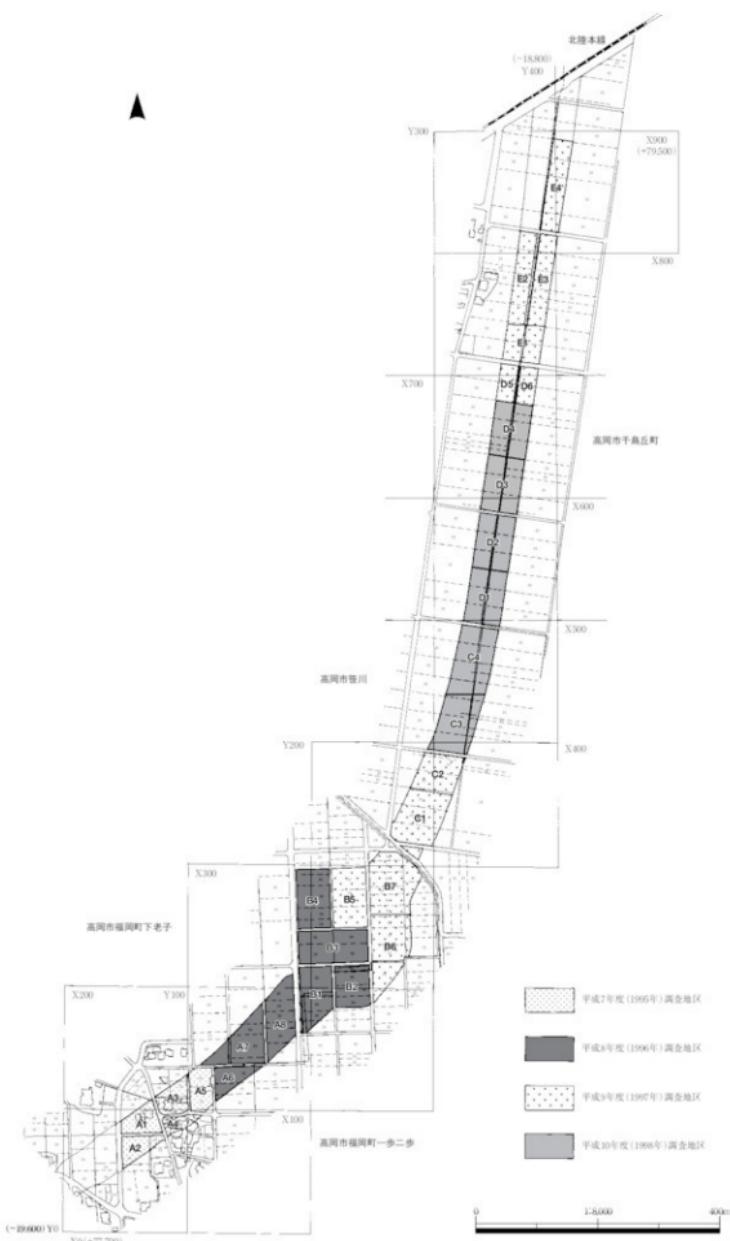
遺構の記録は、断面図を1/20で実測し、遺構によっては1/10の遺物出土状況図や平面図を作成した。各遺構の断面は35mmカメラを用いた。遺物出土状況や個別遺構の完掘写真・ブロック写真はプローニー判（6×7cm）カメラもあわせて撮影した。調査区の全景写真は、35mmカメラ・プローニー判カメラ・4×5判カメラで2方向以上から撮影している。フィルムは、35mmはカラーと白黒、プローニー判・4×5判はカラースライドと白黒を使用した。遺構の平面図作成には、空中写真測量を利用し、撮影にはヘリコプターまたはラジコンヘリコプターを使用した。

最後に、井戸や柱根の残る柱穴など完掘するのに困難な遺構は、空中写真測量終了後に撕ち割りを行い、遺構の底面を確認し、図面等を作成した。また、調査区によっては人力または重機で遺構面よりも下層の状況を確認した。

(2) 調査の経過

平成7年度の調査は県教委・当財団が旧建設省との協議のうえ、石名田木舟遺跡、蓑島遺跡、江尻遺跡、下老子笹川遺跡を対象に行った。下老子笹川遺跡はA 1～5地区（計5地区）の調査を行い、遺構の時期は近世～近代であった。なおA 5地区では下層から弥生土器が出土したが、弥生時代の遺構は検出できなかった。調査の延面積は9,994m²、調査期間は5月25日～12月11日である。

平成8年度は、下老子笹川遺跡のA 6～8・B 1～4地区（計7地区）の調査を行った。遺構の検



第3図 調査区区割図 (1/8,000)

施設名	調査用語	調査用語	調査用語	出土品	
				土器	陶器
A1 遺跡・古代的	平成8年5月25日	30日間	2,330件	石器類	土器、陶器
A2 遺跡・古代的	平成8年6月22日	45日間	2,111件	石器類	土器、陶器
A3 遺跡・古代的	平成8年5月25日	30日間	2,191件	石器類	土器、陶器
A4 遺跡・古代的	平成8年7月29日	20日間	885件	土器類	土器、陶器
A5 遺跡・古代的	平成8年5月26日	36日間	2,906件	石器類	土器、陶器
A6 室内・遺物庫	平成8年5月13日	30日間	2,078件	鐵器類	土器、陶器
A7 室内・化粧檻	平成8年5月26日	40日間	6,200件	漆器類	土器、陶器
衛生施設	平成8年8月8日	60日間	4,920件	土器類	土器
B1 古代・古墳時代	平成8年5月21日	40日間	6,950件	土器類	土器
古墳面	平成8年8月8日	20日間	2,467件	土器類	土器
衛生施設	平成8年5月26日	30日間	4,920件	土器類	土器
B2 古代・古墳時代	平成8年5月26日	30日間	2,300件	土器類	土器
古墳面	平成8年5月26日	20日間	3,800件	土器類	土器
衛生施設	平成8年5月21日	30日間	3,800件	土器類	土器
B3 古代・古墳時代	平成8年5月21日	40日間	5,440件	土器類	土器
古墳面	平成8年8月8日	40日間	5,440件	土器類	土器
衛生施設	平成8年5月26日	20日間	4,480件	土器類	土器
B4 古代・古墳時代	平成8年5月26日	30日間	3,300件	土器類	土器
古墳面	平成8年5月26日	20日間	4,100件	土器類	土器
衛生施設	平成8年5月26日	30日間	3,300件	土器類	土器
B5 古代・古墳時代	平成8年5月21日	30日間	5,287件	土器類	土器
古墳面	平成8年6月1日	20日間	5,257件	土器類	土器
衛生施設	平成8年5月26日	30日間	5,287件	土器類	土器
B6 古代・古墳時代	平成8年5月26日	20日間	4,424件	土器類	土器
古墳面	平成8年6月1日	20日間	2,800件	土器類	土器
衛生施設	平成8年8月7日	30日間	2,800件	土器類	土器
衛生施設	平成8年5月26日	30日間	5,287件	土器類	土器
B7 養生施設	平成8年5月26日	12月間	5,287件	土器類	土器
C1 室内・遺物庫	平成9年5月25日	20日間	6,217件	自然	土器、陶器
衛生施設	平成9年5月25日	12月間	6,444件	自然	土器、陶器
C2 室内・遺物庫	平成9年5月26日	100日間	5,741件	自然	土器、陶器
C3 遺跡面	平成9年5月26日	20日間	5,256件	自然	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	20日間	3,526件	自然	土器、陶器
C4 閣文面	平成9年5月26日	-11月8日	8,121件	第六建物	土器、陶器
D1 室内・化粧檻	平成9年5月26日	20日間	6,894件	土器類	土器、陶器
鶴文面	平成9年7月25日	45日間	4,894件	土器類	土器、陶器
D2 古代・古墳時代	平成9年5月26日	20日間	5,256件	土器類	土器、陶器
鶴文面	平成9年7月25日	45日間	5,256件	土器類	土器、陶器
D3 古代・古墳時代	平成9年5月26日	20日間	5,400件	土器類	土器、陶器
鶴文面	平成9年7月25日	45日間	5,400件	土器類	土器、陶器
D4 遺跡面	平成9年5月26日	20日間	5,826件	土器類	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	20日間	5,826件	土器類	土器、陶器
D5 室内・化粧檻	平成9年5月26日	100日間	5,800件	自然	土器、陶器
D6 室内・遺物庫	平成9年5月26日	100日間	5,771件	自然	土器、陶器
E1 室内・化粧檻	平成9年5月26日	30日間	5,084件	自然	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	30日間	5,084件	自然	土器、陶器
E2 室内・化粧檻	平成9年5月26日	30日間	6,000件	自然	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	30日間	6,000件	自然	土器、陶器
E3 室内・化粧檻	平成9年5月26日	30日間	3,856件	自然	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	30日間	3,856件	自然	土器、陶器
E4 室内・化粧檻	平成9年5月26日	30日間	3,856件	自然	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	30日間	3,856件	自然	土器、陶器
E5 室内・化粧檻	平成9年5月26日	30日間	1,200件	第六建物	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	30日間	1,200件	第六建物	土器、陶器
E6 室内・化粧檻	平成9年5月26日	30日間	3,816件	第六建物	土器、陶器
鶴文面	平成9年5月26日	30日間	3,817件	第六建物	土器、陶器

第2表 調査一覧

出は、A 6 地区で中世～近世の 1 面、A 7 地区で弥生時代・中世～近世の 2 面、A 8 地区で弥生時代・古墳時代・中世～近世の 3 面、B 1 ～ 3 地区で弥生時代・古墳時代・古代～近世の 3 面、B 4 地区で弥生時代・中世～近世の 2 面を確認した。調査の平面積は 34,700m²、延面積は 78,688m²で、調査期間は 5 月 13 日～12 月 24 日である。

平成 9 年度は、下老子笠川遺跡の B 5 ～ 7 ・ C 1 ・ 2 ・ D 5 ・ 6 ・ E 1 ～ 4 地区（計 11 地区）の調査を行った。遺構の検出は、B 5 ・ 6 地区で弥生時代・弥生～古墳時代・古墳時代・中世～近世の 4 面、B 7 地区で弥生時代の 1 面、C 1 地区で弥生時代・古代～近世の 2 面、C 2 ・ D 5 ・ 6 地区で古代～近世の 1 面、E 1 ～ 4 地区で縄文時代・中世～近世の 2 面を確認した。調査の平面積は 52,730m²、延面積は 79,388m²で、調査期間は 5 月 13 日～12 月 19 日である。

平成 10 年度の調査は、下老子笠川遺跡、近世北陸道遺跡を対象に行った。下老子笠川遺跡は、C 3 ・ 4 ・ D 1 ～ 4 地区（計 6 地区）の調査を行った。遺構の検出は、C 3 地区で縄文時代・近世の 2 面、C 4 地区で縄文時代の 1 面、D 1 ・ 3 ・ 4 地区で縄文時代・中世～近世の 2 面、D 2 地区で縄文時代・古代～近世の 2 面を確認した。調査の平面積は 34,860m²、延面積は 56,869m²で、調査期間は 5 月 26 日～11 月 30 日である。

（3）調査指導

発掘調査にあたり、以下の専門家による現地指導を受けた。

- ・平成 9 年 8 月 6 ～ 7 日 高橋学 立命館大学助教授
- ・平成 9 年 11 月 25 日 宮本長二郎 東京国立文化財研究所国際文化財保存修復協力センター長

（4）調査体制

平成 7（1995）年度

総括 岸本雅敏 埋蔵文化財調査事務所所長心得

加藤善吾 埋蔵文化財調査事務所副所長

庶務 大房友明 埋蔵文化財調査事務所主任

岩崎証意 埋蔵文化財調査事務所主事

調査総括 犬野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

調査員 烏田美佐子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

山元祐人 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

武田健次郎 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

大野淳也 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

河西英津子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成 8（1996）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長

谷井保男 埋蔵文化財調査事務所副所長

庶務 宮成真幸 埋蔵文化財調査事務所主事

岩崎証意 埋蔵文化財調査事務所主事

調査総括 犬野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

調査員 岡本淳一郎 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

烏田美佐子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

越前慎子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

山元祐人 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 大野淳也 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 深堀 茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 柴口真澄 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 上田尚美 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 大岡由記子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 中野由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 匂坂友秋 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成9（1997）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
 谷井保男 埋蔵文化財調査事務所副所長

庶務 宮成真幸 埋蔵文化財調査事務所主任
 蒲田和志 埋蔵文化財調査事務所主事
 棚田信之 埋蔵文化財調査事務所嘱託

調査総括 犬野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

調査員 岡本淳一郎 埋蔵文化財調査事務所主任
 烏田美佐子 埋蔵文化財調査事務所主任
 越前慎子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 山元祐人 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 大野淳也 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 深堀 茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 中野由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 柴口真澄 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 上田尚美 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 松原一哉 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 新宅輝久 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 細辻嘉門 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 町田賢一 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 平井晶子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成10（1998）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
 谷井保男 埋蔵文化財調査事務所副所長

庶務 宮成真幸 埋蔵文化財調査事務所主任
 蒲田和志 埋蔵文化財調査事務所主事
 江本裕一 埋蔵文化財調査事務所主事
 棚田信之 埋蔵文化財調査事務所嘱託

調査総括 犬野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

調査員 岡本淳一郎 埋蔵文化財調査事務所主任
 烏田美佐子 埋蔵文化財調査事務所主任

越前慎子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 山元祐人 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 中村亮仁 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 深堀 茂 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 中野由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 柴口真澄 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 上田尚美 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 町田賢一 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 新宅輝久 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 平井晶子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 金三津英則 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

(5) 現地説明会

発掘調査の結果を広く一般に公開するために、調査工程を検討しながら対象地区を選定して平成8～10年の間に年に1回ずつ計3回の現地説明会を実施した。

平成8年度 弥生時代終末期の集落を検出したA7・8地区、弥生～古墳時代の水田を検出したB1～3地区を会場に約330名の見学者が訪れた。概略図を用いて全体説明を行い各地区の主な遺構で調査員が説明及び見学者の質問等に対応した。中でも北陸地方では初めてとなる弥生時代の周堤が残存する建物、県内初の弥生～古墳時代の水田は注目を集めた。また遺物展示会場では、平成8年度の出土遺物・遺構の写真パネル等の展示・平成7年度の調査の様子を収めたビデオ上映などを行った。

平成9年度 弥生時代後期の集落を検出したB5・6・7地区を会場に、約300名の見学者が訪れた。概略図を用いて全体説明を行い、各地区の主な遺構で調査員が説明及び見学者の質問等に対応した。中でも、B5地区の「焼失住居」は焼土や炭化材が良好に残存しており、注目を集めていた。

年度	総数	高岡市	福岡町	西礪波郡	東礪波郡	氷見市	射水郡	婦負郡	富山市	新川郡	石川県	その他
平成8年度	323	56	149	23	16	1	10	4	37	13	10	4
平成9年度	295	91	104	12	15	1	7	3	37	9	13	3
平成10年度	145	65	24	9	5	2	4	2	15	12	4	3

西礪波郡…小矢部市・福光町

東礪波郡…砺波市・福野町・庄川町・井波町・井口村・城端町・平村・利賀村・上平村

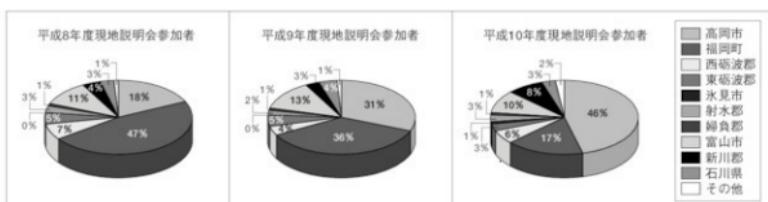
射水郡…新湊市・大鳥町・下村・小杉町・大門町

婦負郡…婦中町・八尾町・山田村・婦入村

新川郡…滑川市・魚津市・黒部市・大沢野町・大山村・立山町・舟橋村・上市町・宇奈月町・入善町・朝日町

*市町村名は調査当時のものとする。

第3表 現地説明会見学者の動向表



第4表 現地説明会見学者の動向グラフ



丘の下に広がる水準器の本体部分「水准器」
一帯は山林地帯で、その中に下老子川遺跡がある。

1800年前 最古の水準器

日本で最初に発見された
水準器の本体部分「水准器」
は、約1800年前のものと
推定される。この水準器は、
現在では、日本で最も古い水準器
とされる。この水準器は、
現在では、日本で最も古い水準器
とされる。

この水準器は、約1800年前のものと
推定される。この水準器は、
現在では、日本で最も古い水準器
とされる。

県内初 弥生期の水田跡

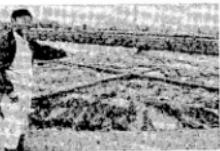


福岡町下老子 笹川遺跡

北陸「周堤」持つ住居跡も

1万平方メートル、940区画

下老子 笹川遺跡 平地住居跡を発掘



周堤で囲まれた22棟
弥生後期 住宅構造解明に期待

福岡町下老子 笹川遺跡
平成8年11月14日付
北日本新聞
平成9年11月26日付
北日本新聞
平成9年11月27日付
北陸中日新聞
平成10年10月21日付
富山新聞

国内最古の水準器を確認



福岡町 下老子 笹川遺跡
出土した日本最古の水準器
1800年前のものと推定
（左）出土した日本最古の水準器
（右）出土した日本最古の水準器

弥生後期に傾き計測 木製角材、炭化し残る

県内初 縄文晩期の住居跡

状態良く貴重
研究者本氏

①平成8年11月8日付
北日本新聞
②平成9年11月14日付
北日本新聞
③平成9年11月26日付
北日本新聞
④平成9年11月27日付
北陸中日新聞
⑤平成10年10月21日付
富山新聞



下老子 笹川遺跡の竪穴式、8棟発掘

第4回 現地説明会報道記事

また、遺物展示会場では、平成9年度の出土遺物・遺構の写真パネル等の展示・平成8年度の調査の様子を収めたビデオ上映などを行った。

平成10年度 繩文時代後半の集落を検出したC4地区を会場に、約150名の見学者が訪れた。現場では、建物や土器集中地点に調査員を配し、説明を行った。また、遺物展示会場では、下老子笹川遺跡の調査最終年度になることから、7~10年度までの出土遺物・遺構の写真パネル等を一同に集めて展示を行い、見学者が遺跡全体の理解を深められるようにした。それから、体験コーナーを設け粘土板に原体を転がし、縄文土器の文様を再現できるようにした。

この他に、平成7年11月3日に行われた江尻遺跡現地説明会遺物展示会場でA1~5地区の出土遺物・遺構の写真パネルの展示を行っている。

(6) 整理経過

出土遺物は各年度内に可能な限り洗浄・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品はメモ写真を撮影し、それぞれ整理台帳を作成した。木製品は収納・管理の便宜を図るためにオートシーラーと専用フィルムを用いてパックし、仮保管している。調査概要については、『埋蔵文化財年報』(7)~(10)、『埋蔵文化財調査概要』(平成7年度~平成10年度)として発刊している。

報告書刊行に向けての室内整理作業は、平成11年4月に開始した。11年度は金属製品の写真撮影、12年度は土器・陶磁器の接合・復元、木製品の実測、木製品の写真撮影、13年度は土器・陶磁器の接合・復元、土器・陶磁器・金属・石製品・石製玉作関連遺物の実測、木製品の保存処理、14・15年度は土器の接合・復元、土器・陶磁器・ガラス製玉類の実測、土器・陶磁器・石製品・石製玉作関連遺物・ガラス製玉類の写真撮影、図面編纂、挿図及び図版の作成、トレース、原稿執筆、16年度は土器の接合・復元、土器の実測、土器の写真撮影、挿図及び図版の作成、トレース、原稿執筆、編集、17年度は金属製品の保存処理、編集、印刷を行った。

遺物の実測は土器・陶磁器を調査員及び室内整理作業員が行った。木製品・石製品・石製玉作関連遺物・ガラス製玉類・金属製品については業者委託による写真実測を行った。実測図は種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。遺構実測図・写真・航空測量図は、各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパソコンコンピュータを使用してデータ入力した。挿図にある遺構・遺物のデータは、観察表として掲載した。データ入力は人材派遣会社に委託し、整理作業員が補足した。

遺物の写真撮影は業者に委託し、4×5判を基本に、白黒とカラースライドフィルムを使用した。写真図版には密着焼付または引き伸ばしたものを使用した。遺構写真・遺物写真のうち重要なものはプロフォトCD化して保存した。

自然科学分析は平成8年度から平成17年度にかけて専門機関に委託し、結果報告を掲載した。

木製品のうち重要なものは、平成13年度から平成15年度にかけて財團法人元興寺文化財研究所に委託し、保存処理および復元を行った。また金属製品のうち重要なものは平成17年度に財團法人元興寺文化財研究所に委託し、保存処理を行った。

(7) 整理体制

平成11(1999)年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長

谷井保男 埋蔵文化財調査事務所副所長

上野 章 埋蔵文化財調査事務所副所長

2 調査経過

総務 宮成真幸 埋蔵文化財調査事務所主任
江本裕一 埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括 狩野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当 島田美佐子 埋蔵文化財調査事務所主任
中川道子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
深堀茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成12（2000）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
肥田啓章 埋蔵文化財調査事務所副所長
上野章 埋蔵文化財調査事務所副所長
総務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
江本裕一 埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括 狩野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当 島田美佐子 埋蔵文化財調査事務所主任
中川道子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
深堀茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成13（2001）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
肥田啓章 埋蔵文化財調査事務所副所長
上野章 埋蔵文化財調査事務所副所長
総務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
江本裕一 埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括 酒井重洋 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当 中川道子 埋蔵文化財調査事務所主任
新宅茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
中野由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成14（2002）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
肥田啓章 埋蔵文化財調査事務所副所長
上野章 埋蔵文化財調査事務所副所長
総務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
広田英貴 埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括 酒井重洋 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当 中川道子 埋蔵文化財調査事務所主任
中野由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
町田尚美 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成15（2003）年度

総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
関清 埋蔵文化財調査事務所主査・副所長

盛田世津子 埋蔵文化財調査事務所副所長
 総務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
 広田英貴 埋蔵文化財調査事務所主任
 整理総括 宮田進一 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
 担当 伊藤潔 埋蔵文化財調査事務所主任
 町田賢一 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 平成16（2004）年度
 総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
 関清 埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
 盛田世津子 埋蔵文化財調査事務所副所長
 総務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
 広田英貴 埋蔵文化財調査事務所主任
 岩田扶紀 埋蔵文化財調査事務所主任
 整理総括 宮田進一 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
 担当 伊藤潔 埋蔵文化財調査事務所主任
 青山裕子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 新宅茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 町田賢一 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 平成17（2005）年度
 総括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長
 関清 埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
 盛田世津子 埋蔵文化財調査事務所副所長
 総務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
 岩田扶紀 埋蔵文化財調査事務所主任
 整理総括 宮田進一 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
 担当 越前慎子 埋蔵文化財調査事務所主任
 高柳由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
 町田尚美 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

(町田賢一)

第Ⅱ章 立地と歴史的環境

1 立地

(1) 立地

下老子篠川遺跡は、富山県西部の高岡市の南端（高岡市篠川・千鳥丘町）と旧福岡町の北端（現高岡市福岡町下老子・一歩二歩）とにまたがって所在し、南北約1.8km・東西約700mと南北に長く、全体の面積は約1km²にも及ぶ巨大な遺跡である。この付近は、散居村で有名な砺波平野で、西を小矢部川、東を庄川に挟まれ、庄川扇状地扇端部に位置する。この付近では、現在では地形の変化を受け少なくなったものの、自然湧水が至る所で見られ、昔から水利には至便な場所であった。現在の標高は、昭和25年以降の大規模な整備を受け旧地形とは若干異なるが、南側が約18m、北側が約14mで概ね南から北に向かって下っている。遺構が多く見つかったのは、このうち標高17~18mの間である。現況は、宅地が少しある他は大半が水田である。

(2) 地形

土地分類基本調査によれば、庄川扇状地扇端部の微高地を佐野台地（約17.6km²）と呼び、下老子篠川遺跡は、そのほぼ西端に位置する。佐野台地は、古い庄川の扇状地の扇端部が小矢部川の側方浸食によって段丘化し、つくられたものと考えられ、台地の中央を切る旧河道は、庄川扇状地の旧河道と連続し、庄川の旧流路を示している。また、佐野台地は、庄川扇状地の扇端部にあたり、これまで豊富な湧水帯と多くの自噴井とによって台地上の水田灌漑をおこなってきたが、近年の工場進出に伴う工業用水の汲み上げ等により地下水位が低下し、自噴井は枯渇しつつある^(注1)。

(3) 地形と地質

地質図によれば、下老子篠川遺跡の所在する沖積地は、第4紀一完新世平野の表層堆積物—河成堆積物—高位平野に相当する。解説には、庄川の高位扇状地に続く「微高の平野で、小河川によって少し開析され、低い台地状になっている。ここには、グライ土壤が多く、土壤中に泥炭や黒泥を含んだ部分が混じっており、湧水が認められている。また、古墳期の遺跡が広範に発見されていて、2千年前頃より新しい堆積物は少ないと推定できる。」としている^(注2)。

2 歴史的環境

(1) 地名の由来

下老子篠川遺跡は、かつては下老子遺跡・下老子上田遺跡、篠川遺跡・篠川末広遺跡・篠川福田遺跡・篠川道尻遺跡の6遺跡であった^(注3)が、能越自動車道関連の試掘調査の結果、旧福岡町～高岡市まで一つの遺跡であることがわかり、旧福岡町下老子と高岡市篠川のそれぞれの字名を取り、平成6(1994)年につけられた^(注4)遺跡名である。

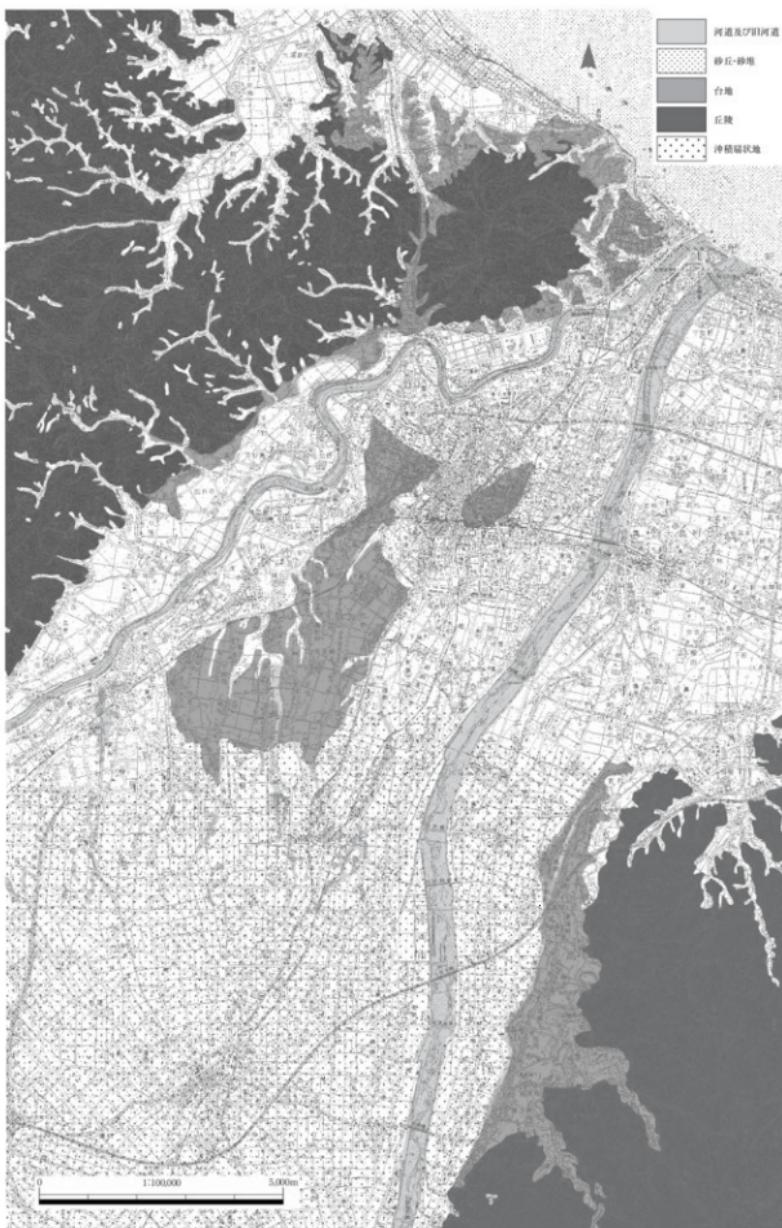
旧福岡町下老子は、その起源を古代の郷である「意悲郷」に比定する説があり、それに習えば、国宝「越中国官倉納穀交替記残巻」（滋賀県石山寺所蔵）で、天平5（733）年～延喜10（910）年の間に意悲郷に大小20余りの官倉が置かれていた事が記されており、古代においては官倉を中心に大きな集落が営まれていたと考えられる。中世になると、「五位庄」の一部となり、室町時代には足利家の料所

注1 鳥見美栄・庄司信 1970『電気分類図 石川』「地形分類 地質」3万分の1 土地分類基準調査課 (国土調査 第100号 国土調査 経済企画庁

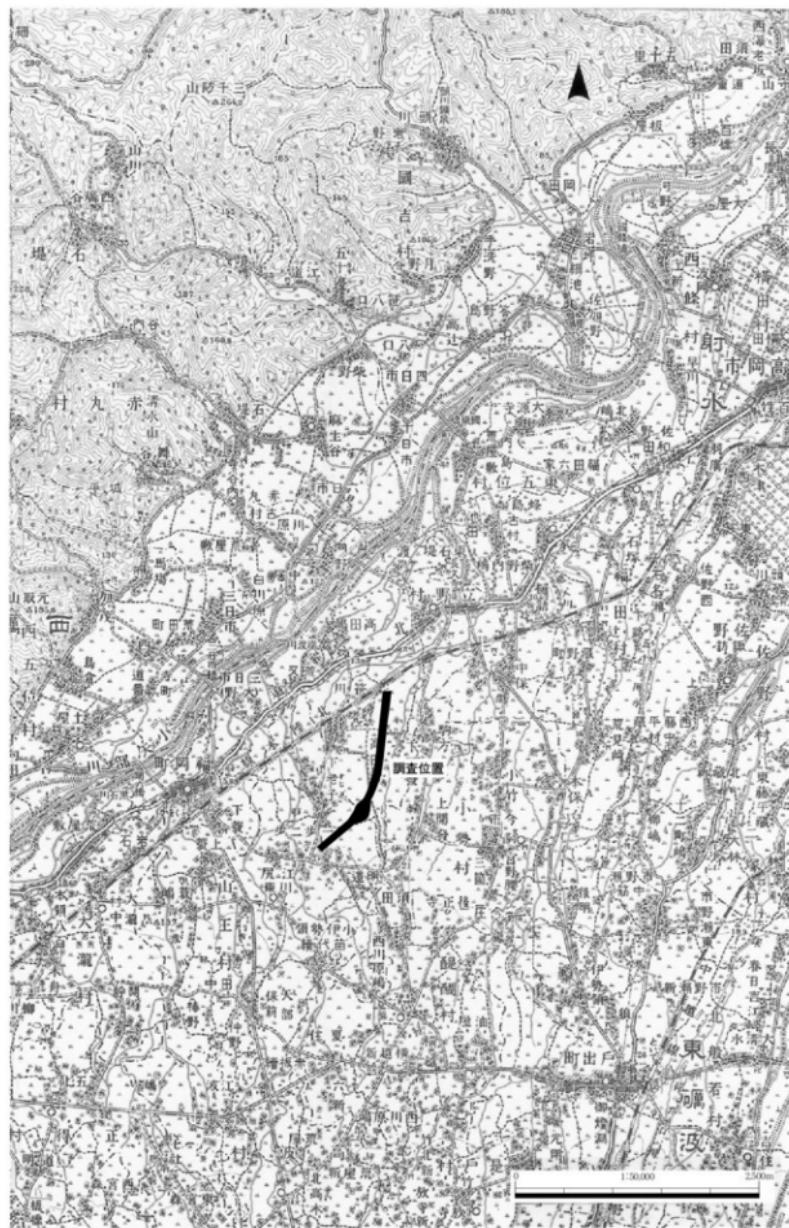
注2 鳥見光一・野沢俊一・井上正則 1986『石動地域の地質』地域地質研究報告5万分の1 施設開拓 金沢 (10) 第21号 通商産業省工業技術院地質調査所

注3 文化庁文化財保護部 1994『全国遺跡地図』16 富山県 財团法人国土土地協会

注4 佐野正男・鈴井洋津・河西健二 1995『能越自動車道関係所蔵文化財跡地調査報告－NEJ-06遺跡－』財团法人富山県文化振興財团所蔵文化財調査委員会



第5図 地形図 (1/100,000)



第6図 遺跡の位置 (1/50,000)
明治42年測量大正3年製版 5万分の1地形図石動

となり京都の相国寺などへ寄進されたりした。その後、畠山・神保・寺島氏を経て近世以降は前田家の領地となった。中世以降は、水田を中心とした農村であり、近世からは現在でも特産である菅笠作りに使われる菅も作られていた。また、下老子集落の南端には、小高い所（現在諂訪社となっている）があり、土倉兵衛の城跡と伝わっているが実態は不明である^(注5)。明治時代になると町村制実施に伴い、山王村に属し、昭和15（1940）年に合併して福岡町、平成17年に合併して高岡市福岡町となり現在を迎える。なお、調査地に隣接する一歩二歩には、平安時代に建立されたとされる鞍馬寺（高岡市福岡町赤丸）が移転してきた法筵寺がある。法筵寺は、はじめ真言宗で後に浄土真宗に帰依した古寺で、時期は不明だが寺侍濱木三郎左衛門のいる一歩二歩に移転した。寺には、鎌倉から室町時代の本尊阿弥陀仏や五輪塔や石塔がありその由緒が窺えるが、書状などの書物は焼失してしまったため、詳細は不明である。また、濱木三郎左衛門が討ち死にしそれを地元の人が葬ったとされる一歩の菩提樹（旧福岡町史跡）がある^(注6)。

高岡市笹川は、文献では中世以前のことは記されていないが、下老子同様に五位庄に属しており、天正14（1586）年には、前田利勝により「篠河村」に九斎市を開催する事を許されたとある。この当時笹川は北陸街道に近く、下老子からも笹川に通じる道がありそこで市が開かれ、両村では物資の売買があったようである。生業は下老子同様に水田であり、一部で音作りも行われた。明治時代になると町村制実施に伴い、立野村に属し、昭和30（1955）年に合併して高岡市となり現在を迎える。高岡市福岡町下老子との境には、小矢部川の支流である中川が流れている^(注7)。

（2）既往の調査と知見

下老子笹川遺跡の本格的な遺跡の調査は、能越自動車道関連の調査以降であるが、それ以前にも遺物の発見の記録がある。高岡市福岡町下老子では、以前から土師器片や須恵器杯が出土し、「福岡町史」によれば、昭和27（1952）年に境川近くで耕地整理中に地下約1m下から台付き壺・高杯・土師器・須恵器など多くの土器片と田下駄が出土したとある。これは今となっては場所の特定はできないが、今回調査のB5・7地区付近であろうか。高岡市笹川では、以前から遺物は出土していたようで、笹川遺跡とされていた。高岡市教育委員会は、平成4（1992）年に行った分布調査で実態が不明であった笹川遺跡を笹川福田遺跡（弥生時代後期～中世）とし、他に笹川道尻遺跡（奈良～平安時代）、

笹川末広遺跡（弥生時代後期～中世）を発見した^(注8)。平成5（1993）年以降は、先述したように能越自動車道関連の調査で、これらの遺跡を含めて下老子笹川遺跡とし本発掘調査を行っている。本書で扱う以外の調査では、財团調査地の約200m東



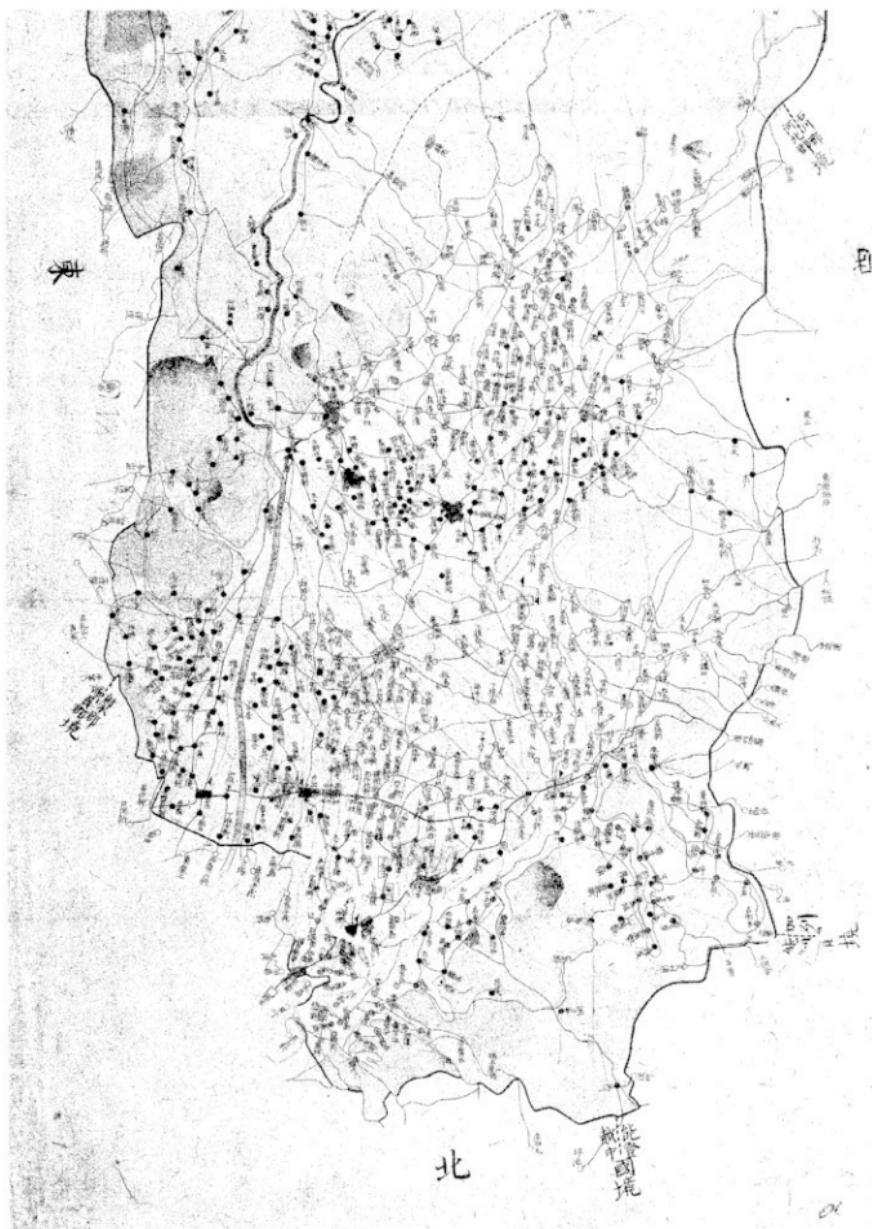
法筵寺

注5 齋山忠之 1975『下老子村の歩み』下老子部落自治会
注6 福岡町史編纂委員会編 1993『高岡市史 上巻』

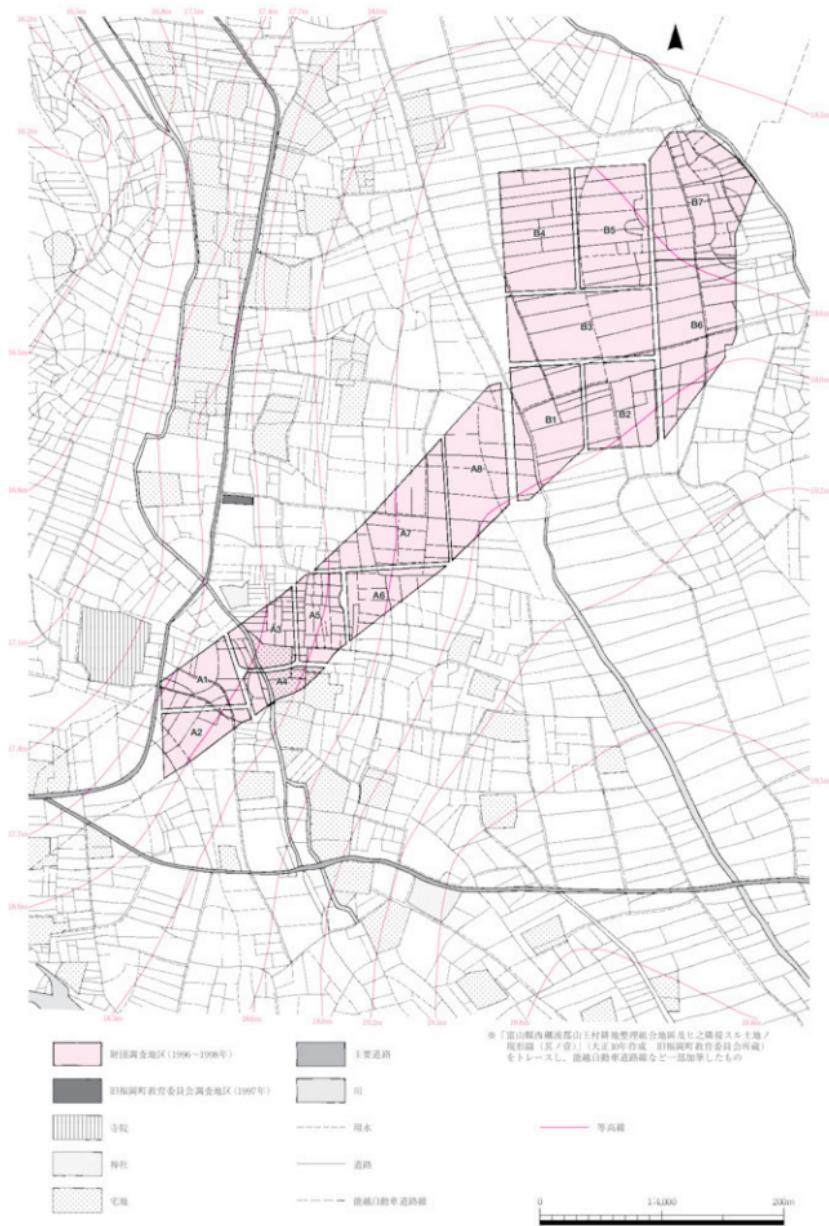


一歩の菩提樹

注7 高岡市史編纂委員会編 1993『高岡市史 下巻』
注8 山口龍一 1993『高岡市埋蔵文化財分布調査報告書』高岡市教育委員会



第7図 碣波郡村々組分繪圖
天保9年（1838年） 藤高樹会蔵



第8図 大正10年地籍図 (1/4,000)
高岡市福岡町下老子・一歩二歩

側で旧福岡町教育委員会（現高岡市教育委員会）が、平成9（1997）年に個人住宅建設に伴う本調査（調査面積200m²）を行っており、天王山式土器を主体とする弥生時代後期の集落が調査されている⁽³⁹⁾。この他の調査は、大規模なものはなく、試掘調査にとどまっている⁽⁴⁰⁾。

調査年月日	調査方法	調査場所	調査主体	調査目的	調査の範囲	出土品数	出土時期	上古時代	下古時代	その他	下古遺物	下古遺跡	備考	
1 1989.9.23	探査調査	高岡市西条	高岡市西条	試掘	宅地造成	499	16	大正・昭和	土師器・陶器	なし	本調査の必要なし	1		
2 1991.1.27	—	高岡市南町一丁目	高岡市南町一丁目	現地踏査	分布	遺跡の動態調査建設		中世～近世	城記	—	NEJ-07による	2		
3 1992.4.17～11.25	築造地元調査	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	分布	道路の分布把握	8,100		古代	土師器	—	富山県埋蔵文化財する	3		
4 1992.4.17～11.25	築造地元調査	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	分布	道路の分布把握	105,000		後ホーリー・晩世	土師器・陶器	—	高岡市埋蔵文化財する	4		
5 1992.4.17～11.25	築造地元調査	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	分布	道路の分布把握	418,000		後ホーリー・晩世	土師器・陶器	—	高岡市埋蔵文化財する	5		
6 1992.4.6～1.17	NEJ-07	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	74,800	4,900	大正・昭和	城記	下古遺跡する	4		
7 1993.3.22	—	高岡市吉田	高岡市吉田	現地踏査	分布	遺跡の動態調査建設	26,800		後ホーリー・晩世	城記	NEJ-07による	6		
8 1994.6.6～7.4	NEJ-08	高岡市吉田	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	76,800	3,800	大正～昭和	城記	下古遺跡する	7		
9 1995.6.25～12.11	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	分布	遺跡の動態調査建設	9,994	9,994	古墳～近代	城記	城記	今日本報告	7		
10 1996.4.23	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	242	44	後ホーリー・晩世	なし	本調査の必要なし	8		
11 1996.6.13～12.24	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	34,700	34,700	後ホーリー・晩世	城記	今日本報告	9		
12 1996.7.1	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	分布	高岡市吉田通尻	老161-2	985	150	後ホーリー・晩世	土師陶器	柱穴	本調査の必要なし	8	
13 1996.9.11～9.22	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	500	50	後ホーリー・晩世	なし	ト尾	本調査の必要なし		
14 1996.12.3	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	406	38	後ホーリー・晩世	土師器	漆・土灰	本調査が必要		
15 1997.5.13～12.19	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	32,730	52,730	大正～昭和	城記	今日本報告	10		
16 1997.5.25～12.30	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	200	200	後ホーリー・晩世	漆・土灰	漆・土灰	天王式土器が見	11	
17 1998.1.1	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	199	27	後ホーリー・晩世	漆・土灰	漆・土灰	本調査の必要なし	12	
18 1998.5.7～6.22	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	3,000	1,006	古代～近世	城記	下古遺物	本調査の必要なし	13	
19 1998.6.22	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	試掘	遺跡の動態調査建設	2,200	6	後ホーリー・晩世	なし	なし	本調査の必要なし		
20 1998.6.26～11.30	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	34,890	34,890	大正～昭和	城記	今日本報告	14		
21 1998.6.30～20	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	865	90	後ホーリー・晩世	土師器・古墳時代	漆・土灰	本調査の必要なし	15	
22 1999.9.21	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	1,835	152	不明	なし	なし	本調査の必要なし	15	
23 2001.9.27	下老子笠川遺跡	高岡市吉田通尻	高岡市吉田	財团	発掘	遺跡の動態調査建設	280	36	不明	なし	なし	本調査の必要なし	16	

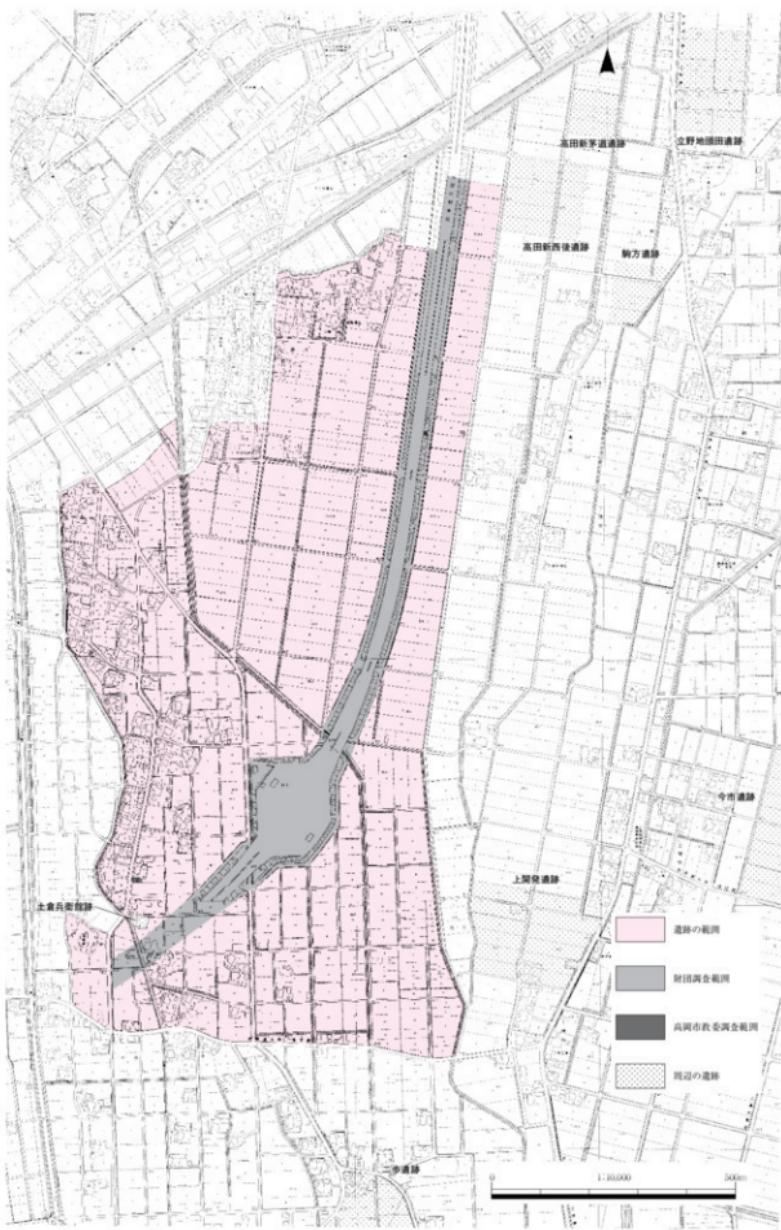
第5表 下老子笠川遺跡既往の調査

下老子笠川遺跡既往の調査 文獻

- 1 口山辰一 1990「笠川遺跡」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成元年度』富山県埋蔵文化財センター
- 2 富山県埋蔵文化財センター 1992「小矢部市・福岡町」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成3年度』富山県埋蔵文化財センター
- 3 口山辰一 1993「笠川遺跡」『笠川遺跡』『笠川未広遺跡』『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ-平成4年度、千鳥ヶ丘地区の遺跡分布調査』高岡市教育委員会
- 4 神保孝造・佐賀利夫 1993【NEJ-07】『能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告書-小矢部市～福岡町間』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 5 富山県埋蔵文化財センター 1994「高岡市」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成5年度』富山県埋蔵文化財センター
- 6 池野正男・酒井重洋・河西健二 1995『能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告書-NEJ-08遺跡-』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 7 武田健次郎・山元祐人・大野淳也 1996「下老子笠川遺跡」『埋蔵文化財調査概要-平成7年度-』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 8 萩山雅夫 1997「下老子笠川遺跡」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成8年度』富山県埋蔵文化財センター
- 9 畠田美佐子・岡本淳一郎・山元祐人・大野淳也・深堀薫・中野由紀子・柴口真澄・上田尚美・匂坂友秋・大岡由記子 1997「下老子笠川遺跡」『埋蔵文化財調査概要-平成8年度-』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 10 岡本淳一郎・山元祐人・大野淳也・深堀薫・中野由紀子・柴口真澄・上田尚美・松原一哉・新宅輝久・細江嘉門・町田賢一・平井晶子 1998「下老子笠川遺跡」『埋蔵文化財調査概要-平成9年度-』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 11 萩山雅夫 1998「下老子笠川遺跡発掘調査報告書」福岡町教育委員会
- 12 萩山雅夫 2000「下老子笠川遺跡」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成10年度』富山県埋蔵文化財センター
- 13 太田浩司 2000「下老子笠川遺跡」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成10年度』富山県埋蔵文化財センター
- 14 畠田美佐子・柴口真澄・上田尚美・町田賢一・新宅輝久・金三津英樹 1999「下老子笠川遺跡」『埋蔵文化財調査概要-平成10年度-』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 15 萩山雅夫 2001「下老子笠川遺跡」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成11年度』富山県埋蔵文化財センター
- 16 萩山雅夫 2003「下老子笠川遺跡」『富山県埋蔵文化財センター年報 平成13年度』富山県埋蔵文化財センター

注9 宮山繁夫 1996「富山県福岡町下老子笠川遺跡報告書」福岡町教育委員会

注10 富山県埋蔵文化財センター 1990・1992・2000～2002「富山県埋蔵文化財センター年報 平成6年度・平成7・10・12年度」



第9図 遺跡の範囲・調査位置 (1/10,000)
高岡市都市計画基本図に加筆

3 周辺の遺跡

次に下老子篠川遺跡の周辺の遺跡^[注1]について、遺跡の所在する佐野台地・庄川扇状地を中心に射水平野・射水丘陵・西山丘陵の一部を含めた範囲で時代順に見てみたい。

旧石器時代の遺跡は庄川扇状地では、東側の芹谷野段丘上に高沢山I遺跡(70)など、射水丘陵では、北側先端部(太閤山丘陵)^[注2]にある上野遺跡(62)などでナイフ型石器が発掘されている。この他は、西山丘陵の先端部にある岩崎遺跡(99)^[注3]でナイフ型石器が表採されているぐらいで非常に数少ない。いずれも後期に属するものと考えられている。

縄文時代の遺跡は庄川扇状地扇尖部を除き、ほぼ全域にみられる。草創期は未発見であるが、早期は射水丘陵先端の南太閤山I遺跡(52)で、遺構ははっきりしないが、早期末の土器がまとまって出土している。前期は、庄川扇状地扇端部の小谷遺跡(68)、小矢部川左岸の微高地の岩坪岡田鳥遺跡(89)^[注4]でそれぞれ土器がまとまって出土している。このように早・前期の遺跡は数少ないが、これらは現況より1m以上下がった面に立地し、住居など明確な遺構を伴わないという共通項があり、今後の調査次第では発見の可能性がある。中期になると、堅穴住居・土坑などの遺構をもつ集落が多くみられるようになる。庄川扇状地扇端部の高岡台地に後期前葉までの小竹戻遺跡(33)、東側の芹谷野段丘上に前葉の嚴照寺遺跡(74)、後葉の串田新式の標識遺跡国史跡串田新遺跡(69)^[注5]などがある。射水丘陵では、中葉の水上谷遺跡(78)、流田No.3遺跡(55)^[注6]などがある。西山丘陵には、中葉から後葉の堂前遺跡(93)^[注7]などがある。後期・晩期になると庄川扇状地や射水平野などの低地(標高5~10m)に遺跡が増加する。庄川扇状地では、扇端部に下老子篠川遺跡に近接する晩期中葉~後葉の駒方遺跡(18)・高田新茅道遺跡(19)・糞島遺跡(3)、前葉の中川遺跡(34)などがある。射水平野では、後葉の二口遺跡(43)、後期末から晩期初頭の布目沢東遺跡(66)などがある。ただし、この時期の遺構は非常に少なく、建物などの遺構が確認されたのは、下老子篠川遺跡と布目沢東遺跡のみで他は遺物包含層からなるものが多い。

弥生時代の遺跡は、中期後半から多くみられる。庄川扇状地では、佐野台地上に富山県を代表する中期の集落石塚遺跡(22)、西佐野千代代遺跡(24)がある。射水平野では、庄川河川敷に住居が確認されたとされる上牧野新庄川遺跡(36)、本田畠遺跡(48)などがある。中期の遺跡の立地は、縄文晚期と同様に低地が主体である。後期から古墳時代前期になると遺跡の数は増大し、庄川扇状地では扇端部に建物1棟を確認した江尻遺跡(2)、佐野台地に集落域の下佐野遺跡(25)・石塚遺跡(22)、庄川と小矢部川に挟まれた低地に鷲北新遺跡(35)、芹谷野段丘上に集落及び墓域の串田新遺跡(69)などがある。射水平野では、標高5m以下に中曾根遺跡(37)・集落及び墓域の高島A遺跡(39)など、標高5~10mに集落及び墓域の二口油免遺跡(45)・布目沢北遺跡(67)などで、この他にも多くの遺跡が見つかっている。射水丘陵では、墓域の南太閤山I遺跡(52)・集落域の上野遺跡(62)などがある。西山丘陵では、東側先端部に出現期古墳の倉谷古墳群(85)などがある。これらの遺跡は、いくつかのまとまりをもって集落を形成していたようである^[注8]。

古墳時代の遺跡は、中期から後期になると集落遺跡の調査例は少なく、古墳が主体となっている。庄川扇状地では、先端部に右名木舟遺跡(5)・集落域の五社遺跡(6)などがある。射水丘陵では、先端部に流田No.17遺跡(54)・丸山古墳(59)などがある。西山丘陵では、東側先端部に集落域の麻生谷新生園遺跡(80)、板屋谷内B・C古墳群(90)・院内東横穴墓群(96)、北側先端部に国史跡桜谷古墳群(100)などがある。この他にも調査は行われていないが、丘陵部には数多くの古墳が見つかっ

注1 ここで扱う周辺の遺跡は、過去に発掘・調査報告が行われその結果明らかになっているものに限定する。

注2 通常の遺跡とは、射水丘陵上に岩谷山Iおよびおばな山古墳と類似が認められ、同時にに黒森委員会により分界調査が行われ、非常に多くの遺跡が見つかり、それにつづけられた遺跡群である。

注3 通常のまとまりで見ると例は、①佐野台地近辺に位置する下老子串田・江尻・下野谷温泉などの1群、②射水本干乳頭部に位置する中曾根・木戸・真島古墳群などの1群、③射水本干乳頭部に位置する岩崎・高岡台地の1群、④射水本干乳頭部に位置する岩崎・高岡台地の1群、⑤射水本干乳頭部に位置する岩崎・高岡台地の1群などの4つの群のうちで大きな1群。

注4 射水丘陵の生谷の先端部の遺跡分布については長瀬田氏の説がある。長瀬田氏によれば、射水丘陵の先端部に位置する射水本干乳頭部に位置する岩崎・高岡台地の1群、「射水本干乳頭部に位置する岩崎・高岡台地の1群」(『富山県考古学研究会報第2号』財團法人富山文化振興財團所蔵)。

ている^(注14)。

古代になると、扇央部にも遺跡が見られ、広範囲な分布となり、集落域は平野部を中心に、生産域は丘陵部へと遺跡の性格によって立地が異なるようになる。庄川扇状地では、扇央部に戸出古戸出遺跡（10）、先端部に石名田木舟遺跡（5）、佐野台地に中保B遺跡（21）・東木津遺跡（26）、芹谷段丘上に高沢島II遺跡（71）などがある。射水平野では、北高木遺跡（41）などがある。小矢部川左岸の沖積地では、麻生谷新生園遺跡（80）・須田藤の木遺跡（92）などがある。これらの遺跡は、集落遺跡で官衙や莊園比定地となっているものが多い。丘陵部では、射水丘陵北側に瓦陶兼業窯の国史跡小杉丸山遺跡（61）・須恵器窯の石名山窯跡（53）他の射水郡窯群、製鉄遺跡の上野南遺跡群（64）、炭焼き窯の水蔵場D遺跡（65）、射水丘陵西側に福山窯跡（77）他の梅檀野窯群、西山丘陵に須恵器窯の末窯跡（84）他の末・大窯群などがある。また、小矢部川河口の伏木台地には、越中国府関連遺跡群（98）があり、国府や国分寺など古代の中心施設が発見されている。

中世の遺跡はほぼ全域でみられるが、古代同様平野部と丘陵部とでは遺跡の性格が異なる。平野部では、庄川扇状地扇央部に鎌倉～室町時代の集落高道向馬遺跡（11）・秋元塙田島遺跡（13）、扇端部に戦国時代の平城木舟城跡（7）とその城下町開闢大滝遺跡（4）など、射水平野に室町時代の八塚C遺跡（44）、小矢部川左岸の沖積地では、鎌倉時代の岩坪岡田島遺跡（89）・室町時代の手洗野赤浦遺跡（86）などがある。射水丘陵では、戦国時代の山城増山城跡（76）とその城下町増山遺跡（72）、西山丘陵では、鎌倉時代の山岳寺院神代テラヤシキ遺跡（94）・戦国時代の守山城跡（95）などがあり、この他に丘陵部では調査は行われていないが、数多くの山城・砦が見つかっている^(注15)。

近世の遺跡は、庄川扇状地では、扇央部に墓地移田野塚遺跡（16）、扇端部付近に集落江尻遺跡（2）・近世北陸道遺跡（20）、高岡台地とその周辺に高岡城跡（32）、その関連遺跡の瑞龍寺遺跡（27）・八丁堀道遺跡（28）などがある。射水平野では、近世北陸道の水上・本開発遺跡（42）などがある。この他には、調査された遺跡は数少なく、近世の集落は現在の集落にはば重複しているものと考えられる。

以上のように時代順に見てきたものをまとめると、まず縄文時代後晩期に丘陵部から扇状地扇端部や標高の低い平野部へ進出する。これは、稲作や農耕などそれまでの時代とは異なる生活様式によるものと考えられる^(注16)。次に弥生時代終末期～古墳時代になると墓域を丘陵に営むようになる。更に古代になると土地開発が進み、これまでほとんどなかった扇央部を含む扇状地全体にまで集落を広げ、須恵器窯や製鉄など生産域は丘陵部に立地する。そして中世には、前半には平野部に集落及び館、後半には平野部に集落・平城とその城下町、丘陵に山城とその城下町・山岳寺院などが立地するようになる。近世では、平野部の平城や街道を中心に集落を構成するといった状況が理解できよう^(注17)。

（町田賢一）

注14 西山丘陵の古墳については、高岡市教育委員会「1984～1988「西山丘陵分布調査概要I～V」」に詳しい。

注15 9号と同じ文献に西山丘陵の山城についても詳しい。

注16 財團法人立川市郷土文化センター「2001「鷹友美術館の伝承地創造～生業の視点を考える～発表レジュメ集」平成13年度日本学術研究会

注17 始源・射水平野の遺跡の分布及びその範囲については、武田健次郎「2000「始源・射水平野における遺跡群の展開」「富山考古学研究」紀要第3号」新潟県立歴史文化博物館編著

3 周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	標高(m)	トク時代	主な遺物	文献
1	下老子木舟跡	高岡市堀岡町下老子地	14~18	縄文期~江戸	縄文柱物、縄文柱建物、土台建物	本屋 木屋
2	江尻遺跡	高岡市堀岡町江尻	18~19	縄文期	縄文柱物、土台建物	25
3	貴鳥遺跡	高岡市堀岡町貴鳥	38~39	縄文期	自然流逝	14
4	開原寺遺跡	高岡市堀岡町開原寺	21~23	鷹取期	縄文柱物、柱跡、井戸(木舟塗下引)	36
5	石名木舟跡	小矢部市石名田・高岡市赤岡町木名	21~22	古墳~平安	古墳、古墳式柱物、縄文柱建物、土台建物(木舟塗下引)	93
6	五柱遺跡	小矢部市五柱	23~24	平安~鎌倉	縄文柱物、縄文柱建物	93
7	木舟塗跡	高岡市福岡町木舟	22~23	鷹取期	柱穴、木柱、縄文舟塗	34
8	木舟塗跡	高岡市木舟	20~21	鷹取期	柱穴、木柱、臼井(木舟塗下引)	44
9	今立遺跡	高岡市今立	18~19	縄文期	木柱、土柱	4
10	日向山遺跡	高岡市日向山	28~30	奈良~平安	縄文柱物、木舟柱脚	25
11	高岡市高岡遺跡	高岡市高岡	35	中世前期	縄文柱物、柱頭	53
12	久保原遺跡	高岡市久保原	54~55	藤原~室町	縄文柱物、柱頭建物、木舟柱脚	60
13	大河内遺跡	高岡市大河内	21~22	古墳~平安	古墳、古墳式柱物、木舟塗	25
14	東岸寺遺跡	高岡市東岸	22	縄文	木柱、木石	66
15	通路跡	高岡市通	23~25	奈良~平安	羽林塗構	8
16	高岡市通路跡	高岡市中田	20~26	平安	羽林塗	83
17	柳原寺遺跡	高岡市柳原寺	20~21	鷹取期	柱穴	10
18	鶴見力遺跡	高岡市鶴見力	20	縄文期	柱頭	49
19	高岡市木舟塗跡	高岡市高田町	30	鷹取期	柱頭	17
20	元伊勢守遺跡	高岡市伊勢守	32	平安	柱頭	62
21	中保寺遺跡	高岡市中保	30~31	平安	船形埴溝、縄文柱建物、道路	58
22	石城遺跡	高岡市和田	11~12	鷹取期	柱穴、火葬場	7
23	石塚山遺跡	高岡市石塚	9~11	室町	通、木柱	39
24	西高野子代遺跡	高岡市佐野	13	前の山の期	縄文柱建物、木柱	17
25	下世木遺跡	高岡市在野	11~12	奈良~古墳期	奈良柱頭、木柱、木舟	81~82
26	東木舟塗跡	高岡市木舟塗	10~12	奈良~平安	縄文柱物、羽林塗構造、道路	7
27	尾高木舟塗跡	高岡市尾高	15	平安	縄文石柱	2
28	八木山遺跡	高岡市八木山	20	平安~光明	八木山	28
29	高岡市中野遺跡	高岡市中野	1~2	古墳~古墳期	柱穴、木舟塗	47
30	北米原遺跡	高岡市北米原	8~5	縄文	縄文柱物、柱頭(中野地区)	53
31	前田遺跡	高岡市米原	30	平安	縄文柱物、通、木舟塗	29
32	高岡城跡	高岡市古城	10	安土桃山(江戸)	土塁跡	32
33	小倉遺跡	高岡市小倉	15	織文~後一期	柱穴、柱頭	35
34	篠之原遺跡	高岡市篠之原	10	平安	柱頭	84
35	篠之原遺跡	高岡市篠之原	5~6	平安	柱頭	3
36	上牧新庄木舟塗跡	高岡市上牧	1~2	鷹取~後期	住居	69
37	小曾根遺跡	高岡市小曾根	1~2	古墳~古墳期	木柱、通	85
38	高木山遺跡	高岡市高木山	1~2	古墳~古墳期	柱穴	47
39	高木山遺跡	高木山	1~2	古墳~古墳期	通	49
40	高木山遺跡	射水市高木山	2~3	古墳~平安	縄文柱物、方形埴溝、木柱	31
41	高木山遺跡	射水市高木山	3	奈良~平安	縄文柱物、通、田川河跡	9
42	木下・木本遺跡	射水市木本・木下	6~5	平安	羽林塗北側下街道	30
43	木下・木本遺跡	射水市木本・木下	8~7	鷹取期	羽林塗北側下街道(木下)	29
44	八郎原遺跡	射水市八郎原	8~7	鷹取期	羽林塗	21
45	日向免遺跡	射水市日向免	2~1	鷹取期	羽林塗、木柱	29
46	射水市大門山遺跡	射水市大門山	8~9	鷹取期	通、木柱	26
47	射水市高木山遺跡	射水市高木山	6~7	鷹取期	通、木柱	30
48	射水市中野遺跡	射水市中野	7~8	鷹取~古墳	木柱	30
49	射水市中野遺跡	射水市中野	8~5	鷹取~中期	通、柱穴	96
50	南木山山頂遺跡	射水市南木山	19~28	奈良~平安	羽林塗柱、羽林塗	46
51	射水市南木山遺跡	射水市南木山	8~10	鷹取~古墳期	羽林塗柱、柱頭	46
52	石高遺跡	射水市石高	2~1	鷹取期	木柱	29
53	高木山遺跡	射水市高木山	2~1	鷹取期	木柱	11
54	高木山遺跡	射水市高木山	30~35	鷹取期	木柱	19
55	通田山3遺跡	射水市通田山	30~31	鷹取期	木柱	20
56	通田山7遺跡	射水市通田山	17~34	鷹取期	木柱	26
57	通田山8遺跡	射水市通田山	35~36	鷹取期	木柱	26
58	通田山9遺跡	射水市通田山	25~35	鷹取期	木柱	10
59	丸山遺跡	射水市丸山	54~56	鷹取期	木柱	65
60	流田山9遺跡	射水市流田山	20~24	鬼頭原石器	鬼頭原石器	22~37
61	小杉木舟塗跡	射水市小杉	23~24	鷹取期	鬼頭原石器	21
62	上野寺跡	射水市上野寺	20~30	鬼頭原石器	鬼頭原石器、住居、火葬窓、柱子探査坑	61
63	千田寺跡	射水市千田寺	11~12	鷹取~中期	セッカ、通	32
64	木舟塗跡	射水市木舟塗	30~31	鷹取期	通	32
65	通田山7遺跡	射水市通田山	35~36	鷹取期	木柱	26
66	通田山8遺跡	射水市通田山	25~35	鷹取期	木柱	26
67	通田山9遺跡	射水市通田山	25~35	鷹取期	木柱	10
68	丸山遺跡	射水市丸山	19~24	鷹取期	木柱	96
69	流田山9遺跡	射水市流田山	20~24	鬼頭原石器	鬼頭原石器	22~37
70	小杉木舟塗跡	射水市小杉	23~24	鷹取期	鬼頭原石器	21
71	高岡市1遺跡	高岡市高岡	53~54	床頭原石器	床頭原石器	61
72	高岡市11遺跡	高岡市堀岡	52~53	奈良	縄文柱物、木舟	42
73	千田寺遺跡	高岡市千田寺	49~50	鷹取~中期	木柱	42
74	土居遺跡	高岡市土居	1~2	鷹取期	柱穴	61
75	通田山9遺跡	高岡市通田山	1~2	鷹取~中期	柱穴	41
76	通田山8遺跡	高岡市通田山	30~31	鷹取期	柱穴	59
77	通田山7遺跡	高岡市通田山	32~33	鷹取期	柱穴	54
78	木舟塗跡	射水市木舟塗	30~40	鷹取期	木柱	62
79	石高木舟塗跡	高岡市石高	18~19	奈良~平安	木柱、木頭	85
80	麻生木舟塗跡	高岡市麻生	13	鷹取期	木柱	63
81	高岡市新庄遺跡	高岡市新庄	53~54	床頭原石器	床頭原石器、羽林塗	63
82	高岡市11遺跡	高岡市堀岡	52~53	奈良	縄文柱物、木舟	42
83	千田寺遺跡	高岡市千田寺	49~50	鷹取~中期	木柱	42
84	土居遺跡	高岡市土居	1~2	鷹取期	柱穴	61
85	通田山9遺跡	高岡市通田山	30~31	鷹取期	柱穴	41
86	通田山8遺跡	高岡市通田山	32~33	鷹取期	柱穴	59
87	通田山7遺跡	高岡市通田山	34~35	鷹取期	柱穴	54
88	木舟塗跡	射水市木舟塗	30~40	鷹取期	木柱	62
89	石高木舟塗跡	高岡市石高	18~19	奈良~平安	木柱、木頭	85
90	高岡市11遺跡	高岡市新庄	13	鷹取期	木柱	63
91	高岡市内山C木舟塗跡	高岡市内山	40~44	鷹取期	木柱	43
92	高岡市内山B木舟塗跡	高岡市内山	19~20	鷹取期	木柱	72
93	御前山木舟塗跡	高岡市御前山	1~2	鷹取期	縄文柱物、木舟	37
94	御前山11遺跡	高岡市御前山	50~51	鷹取~中期	木柱	62
95	御前山6遺跡	高岡市御前山	140~145	鷹取	木柱	62
96	御前山5遺跡	高岡市御前山	195~258	鷹取	山城	64
97	御前山4櫛六星遺跡	高岡市御前山	19~22	古墳~中期	木柱	88
98	城山大舟穴塗跡	高岡市城山	90~100	古墳~中期	木柱	12
99	綾小屋木舟塗跡	高岡市木舟塗	14~22	鷹取~中期	縄文柱物、木舟	77~80
100	下平野遺跡	高岡市下平野	60~63	後漢	縄文柱物、木舟	26
101	宮谷行原遺跡	高岡市太田	18~23	古墳~中期	前方後円墳、通	1

第6表 周辺の遺跡



第10図 周辺の遺跡 (1/100,000)

参考文献

1. 荒井隆 1996『桜谷古墳群調査概報』高岡市教育委員会
2. 荒井隆 1997『瑞龍寺遺跡、齊山地区』『市内調査概報Ⅸ』高岡市教育委員会
3. 荒井隆 1998『赤祖父羽座周遺跡』『鷺北新道跡』『市内調査概報Ⅹ』高岡市教育委員会
4. 荒井隆 1999『今市遺跡、柴・小勢7号線地区』『市内調査概報Ⅺ』高岡市教育委員会
5. 荒井隆 2000『大来田南遺跡』『市内調査概報Ⅻ』高岡市教育委員会
6. 荒井隆・岡田一広・山口辰一 2000『間尺遺跡調査報告』高岡市教育委員会
7. 荒井隆・岡田一広・山口辰一 2001『石塚遺跡、東木津遺跡調査報告』高岡市教育委員会
8. 荒井隆・大田浩司 2002『池遺跡』『市内調査概報Ⅼ』高岡市教育委員会
9. 安念幹倫・高橋真実 1995『北高木遺跡発掘調査報告書』大鳥町教育委員会
10. 池野正男・山本正敏・酒井重洋 1979『富山県小杉町流通業務団地No20道路緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
11. 池野正男・宮田進一・北川美佐子 1986『石名山窑跡発掘調査報告書』大門町教育委員会
12. 池野正男・宮田進一・原田義範 1989『干田道路発掘調査概要』小杉町教育委員会
13. 池野正男・酒井重洋・納谷幸章・原田義範 1991『上野南遺跡群発掘調査報告書』小杉町教育委員会
14. 池野正男・中川道子 2000『開闢大滝遺跡、地崎遺跡発掘調査報告』財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
15. 逸見渡 1981『サザバタケA遺跡』『富山県埋蔵文化財調査一覧 昭和55年度』富山県教育委員会
16. 逸見渡 1982『荒見崎遺跡』『昭和56年度高岡市埋蔵文化財調査報告書』高岡市教育委員会
17. 逸見渡 1983『城光寺B古墳群』『西佐野千代遺跡』『昭和57年度高岡市埋蔵文化財調査報告書』高岡市教育委員会
18. 稲垣尚美 2000『木蔵塙D遺跡発掘調査報告書』小杉町教育委員会
19. 上野章・池野正男 1980『No17遺跡』『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第2次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
20. 上野章・池野正男・宮田進一 1982『No3遺跡』『No7遺跡』『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第3・4次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
21. 上野章・岸本雅敏・神保孝造・斎藤隆 1984『No21遺跡』『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
22. 上野章・岡清・池野正男・松島吉信 1986『No19遺跡』『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
23. 越前慎子 2002『堂前遺跡』『埋蔵文化財調査概要-平成13年度-』財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
24. 宮田進一 2002『古代テラヤシキ遺跡』『水見市史7 資料編五 考古』水見市史編さん委員会
25. 太田浩司 2000『戸出古戸出遺跡調査概報』高岡市教育委員会
26. 尾野寺克美 1997『本江畑田I遺跡発掘調査報告書』大門町教育委員会
27. 尾野寺克美 1997『本田畑田遺跡』『大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告』大門町教育委員会
28. 尾野寺克美 1998『二口遺跡発掘調査報告(2)』大門町教育委員会
29. 尾野寺克美・中井英策 1998『二口油免道路発掘調査概要』大門町教育委員会
30. 尾野寺克美 1998『本宮田遺跡発掘調査報告』大門町教育委員会
31. 尾野寺克美 1999『安吉遺跡発掘調査報告』大門町教育委員会
32. 桐谷俊 1997『高岡城遺跡調査概報』高岡市教育委員会
33. 久々忠義 1991『富山県大鳥町荒堀遺跡発掘調査概要』大鳥町教育委員会
34. 栗山雅夫 2000『舟本城跡発掘調査報告-範囲確認調査報告-』福岡町教育委員会
35. 小島俊彰 1964『高岡公園小竹敷繩文遺跡』高岡市教育委員会
36. 斎藤隆・橋本正春 1995『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第13次発掘調査概要 No15A遺跡』富山県埋蔵文化財センター
37. 酒井重洋・鳥田修一 1989『No19遺跡』『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第9次緊急発掘調査概要』富山県埋蔵文化財センター
38. 酒井重洋・鳥田修一・中川道子 2002『石名田舟本遺跡発掘調査報告』財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
39. 新田輝久 2001『石塚江之戸遺跡』高岡市教育委員会
40. 神保孝造・福島安春 1972『富山県高岡市高田新・勝方遺跡調査報告書』オジャラ7号 富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ・富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ
41. 神保孝造・岡上進一・松本幸治 1977『富山県砺波市嚴照寺遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
42. 神保孝造・久々忠義 1978『上和田遺跡』『増山遺跡』『高沢島I遺跡』『高沢島II遺跡』『富山県砺波市柏野遺跡群予備調査概要』富山県教育委員会
43. 神保孝造・岡上進一・橋本正 1978『富山県砺波市宮森新北島I遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
44. 神保孝造 1997『舟本北道路』福岡町教育委員会
45. 菅田薰・金三津道子・西川麻野・杉山大吾 2006『板屋谷内B・C古墳群』『埋蔵文化財調査概要-平成16年度-』財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所

46. 関清・池野正男・神保孝造・宮田進一 1983『南太閤山Ⅰ道路』『南太閤山Ⅱ道路』『都市計画街路七美・太閤山・高岡線内道路群発掘調査概要』富山県埋蔵文化財センター
47. 宗融子 1997『富山県新湊市松本道路発掘調査報告』新湊市教育委員会
48. 宗融子 2000『富山県新湊市高島A道路発掘調査概要 1999年度』新湊市教育委員会
49. 高橋修宏 1982『小京道路』大門町教育委員会
50. 田中明 2000『富山県射水市大島町水上・本間発道路-近世北陸道発掘調査報告-』大島町教育委員会
51. 田中昌樹 2002『岩坪岡田島道路C 6・7地区(下層)』『埋蔵文化財調査概要-平成13年度-』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
52. 田中道子 1990『秋元道路発掘調査報告書』砺波市教育委員会
53. 利波匡裕 1999『高道向島道路』砺波市教育委員会
54. 砺波市史編纂委員会 1962『砺波市福山<徳万赤坂>須恵器窯発掘報告』
55. 西井龍義 1990『福山窟跡』『砺波市史資料編1 考古 古代・中世』砺波市史編纂委員会
56. 西井龍義・山本正敏・福垣尚美 1991『布目沢東道路』『大門町企業団地内道路発掘調査報告(1)』富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会
57. 根津明義 2000『須田藤の木道路調査報告』高岡市教育委員会
58. 根津明義 2002『中保道路調査報告』高岡市教育委員会
59. 野原大輔 2003『富山県砺波市増山城跡発掘調査報告』砺波市教育委員会
60. 野原大輔・中村恭子 2004『久泉道路発掘調査報告1』砺波市教育委員会
61. 橋本正 1974『小杉町上野道路』記録写真編』富山県教育委員会
62. 橋本正・神保孝造 1974『富山県小杉町水上谷道路緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
63. 橋本正泰 1994『富山県大門町車田新道路』大門町教育委員会
64. 林寺祇州 1992『守山城郡群とその採集遺品』『大境 第14号』富山考古学会
65. 原田義範・福垣尚美 1998『丸山古墳』『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度』小杉町教育委員会
66. 原田義範・福垣尚美 1999『二の井Ⅱ道路』『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1998年度』小杉町教育委員会
67. 深堀義 1999『近世北陸道道路』『埋蔵文化財調査概要-平成10年度-』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
68. 舟崎久雄 1973『砺波市東保高道路発掘調査概報』砺波市教育委員会
69. 間坂儀三郎 1966『放生津潟西岸の牧野地区古代道路 大野地先庄川接岸地住居址』『放生津潟周辺の地学的研究 第3集』富山地学会
70. 町田賢一 2000『手洗野赤浦道路』『埋蔵文化財調査概要-平成11年度-』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
71. 町田賢一 2001『岩坪岡田島道路C 4地区』『埋蔵文化財調査概要-平成12年度-』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
72. 町田賢一 2002『NEJ-13』『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
73. 間宮正光・日沖剛史 2002『倉古古墳群調査報告』高岡市教育委員会
74. 宮田進一・島田修一 2000『富山県大鳥山八塚C道路』大鳥町教育委員会
75. 森隆・島田美佐子 2003『江尻道路・資鳥道路発掘調査報告』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
76. 山口辰一 1987『岩崎道路』『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報IV』高岡市教育委員会
77. 山口辰一 1988『勝勇寺南接地区』『越中国府関連道路調査概報2』高岡市教育委員会
78. 山口辰一 1988『八丁道路調査概報1』高岡市教育委員会
79. 山口辰一 1989『前田幕所遺跡調査概報1』高岡市教育委員会
80. 山口辰一 1991『伏木測候所跡』『越中国有間連道路調査概報5』高岡市教育委員会
81. 山口辰一 1992『下佐野道路調査概報1』高岡市教育委員会
82. 山口辰一 1992『下佐野地区・井波地区』『市内調査概報1』高岡市教育委員会
83. 山口辰一 1993『移田野塙道路調査概報』高岡市教育委員会
84. 山口辰一 1996『中川道路』『高岡市埋蔵文化財分布調査概報II』高岡市教育委員会
85. 山口辰一・荒井隆 1996『石堤長光寺道路』『中曾根道路』『市内調査概報IV』高岡市教育委員会
86. 山口辰一・武部喜光・高柳正春 1997『麻生谷道路・麻生谷新生園道路調査報告』高岡市教育委員会
87. 山口辰一 1998『麻生谷新生園道路・村田地区』『市内調査概報III』高岡市教育委員会
88. 山口辰一 1998『院内東横穴墓群調査報告』高岡市教育委員会
89. 山口辰一 1998『江道横穴墓群調査報告』高岡市教育委員会
90. 山口辰一 1999『末室跡』『国吉・石曽地区の道路調査概報』高岡市教育委員会
91. 山口辰一・荒井隆・日沖剛史 2001『頭川城ヶ平横穴墓群調査報告3』高岡市教育委員会
92. 山本正敏・押川恵子 1992『大門町企業団地内道路発掘調査報告(2) -布目沢北道路第3次調査-』富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会
93. 山本正敏・岡本淳一郎・三島道子 1998『五社道路発掘調査報告』財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所

第Ⅲ章 調査の概要

1 概要

下老子笠川遺跡では、平成7～10年（1995～1998）までの4年間に渡る発掘調査を行い、縄文時代晩期～近代までの遺構・遺物を検出した。ただし、全地区で全時代の遺構が検出されたわけではなく、広大な調査区のため、南側と北側、標高の高低などいくつかの条件で遺構の様相が異なり、1地区あたりでは1ないし4時代の遺構の検出となっている。以下、時代順に遺構の広がりを見ていきたい。

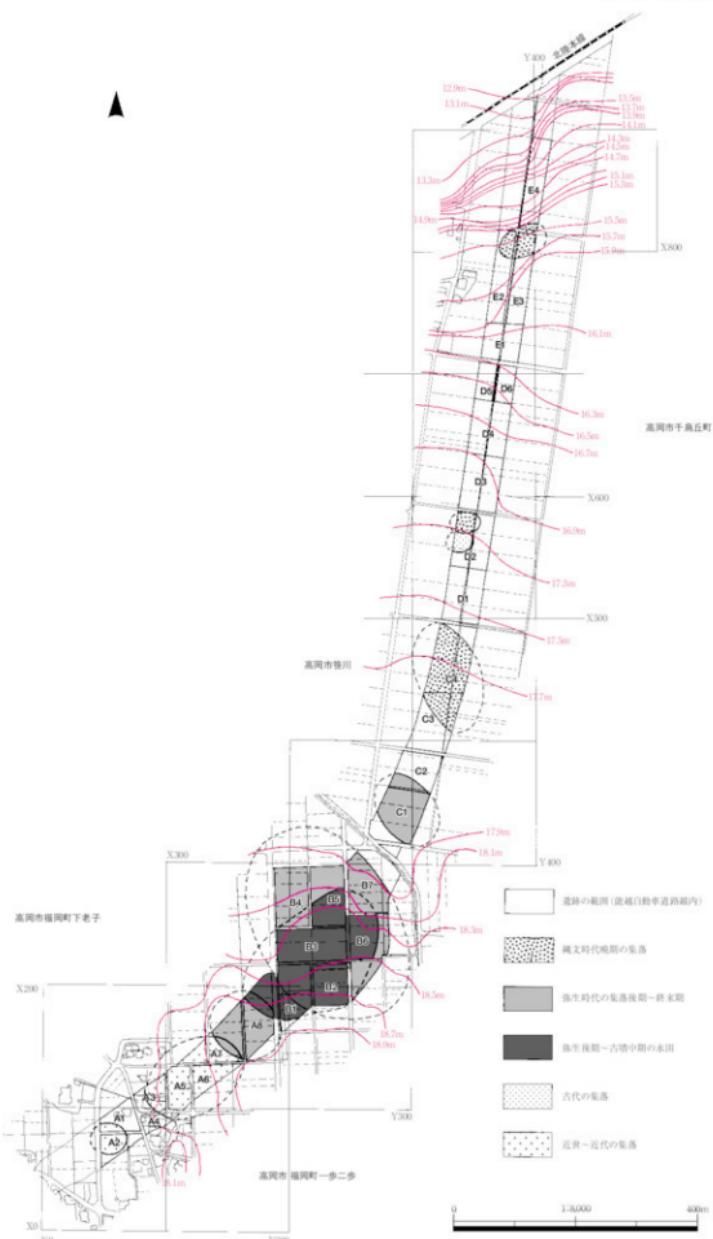
縄文時代 遺跡北側（笠川地内）で晩期の遺構を検出した。C3地区で自然流路、C4地区で建物・土坑・焼土などの集落及び自然流路、D1～3地区で自然流路・土坑など、E2～4地区で建物・土坑などの集落をそれぞれ検出した。特にC4地区では、自然流路の両岸に土器がまとまって捨てられた箇所がみつかり、両岸で異なる様相を持つ土器が検出されている。遺構の時期は、C3～D4地区が概ね晩期中葉～末葉（大洞C2～A式併行期）、E1～4地区が概ね晩期末葉～弥生時代前期（大洞A’式併行期）と考えられる。この他に、C1地区の自然流路から晩期の条痕土器が出土している。このように、遺跡の北側ではほとんどの地区で晩期の遺構・遺物が確認されている。しかし、建物はC4・E3・4地区の3地区でしか検出しておらず、しかも遺構の切り合いはほとんどみられない。また、土器の多くが自然流路肩部の出土であることから、短期間居住した他は、自然流路を基本とした生業（漁労）のために他の場所からやってくる場所であったものと考えられる。

弥生時代 遺跡中央（下老子地内）で後期から終末期（猫橋～影石式併行期）の遺構を検出した。A7・8地区で終末期の堅穴建物・掘立柱建物・周溝遺構・壙・土坑・溝など、B1地区で後期の土坑・溝・壙、B2～7地区で後期の堅穴建物・掘立柱建物・周溝遺構・壙・道路・土坑・溝・壙など、C1地区で後期の建物・溝などを検出した。この他に、C1地区的自然流路から中期後葉～終末期の土器、A3・5・6・C2・D3・6・E2地区の包含層から後期の土器が出土した。遺構の時期は概ね、A7・8地区が終末期、B1～7・C1地区が後期前葉～後葉と考えられる。集落域は、A地区では建物の切り合いは1回と少なく短期間、B地区では建物の切り合いは2～3回とA地区よりは長期間居住していたものと考えられる。また、B地区では調査区外にも建物が延びており、その広がりが調査区外にも続くものと考えられ、県内では大規模な集落であったことが窺える。

弥生～古墳時代 遺跡中央のA8・B1～3・5・6地区で弥生時代後期～古墳時代中期にかけての水田を検出した。水田一枚の大きさは小さいもの（1m²未満）から大きなもの（約25m²）まで様々である。土壤分析を行った結果、プラント・オパールも検出され、今のところ県内最古の水田発見例である。またB5～7地区にかけては、両側に側溝をもち、盛土整形の道路状遺構を検出した。

古代 遺跡中央から北側にかけてで遺構を検出した。B1～4地区で土坑・溝・自然流路、D2地区で堅穴建物・円形周溝遺構などを検出した。この他にはほぼ全地区から土師器や須恵器が出土している。多くの地区で古代の遺構を検出したが、D2地区以外は溝が多く、しかもそれらは併走したり直交したりすることから水田・畠等の生産域であろう。D2地区的堅穴建物の時期は、9世紀後半と考えられる。なお、墨書き土器は出土しているものの、文献にある“悲意郷官倉”を直接関連づける遺構・遺物は検出できなかった。

中世 遺跡中央から北側にかけてで遺構を検出した。A6地区では、掘立柱建物・溝・土坑などの集落、



第11図 時代別集落分布図 (1/8,000)

A 7・8・B 1～6・D 1～4 地区で土坑・溝などを検出した。この他にはほぼ全地区から珠洲・中世土器などの遺物が出土している。多くの地区で中世の遺構を検出したが、A 6 地区以外は溝が多くしかもそれらは併走したり直交したりすることから水田・畠等の生産域であろう。

近世～近代 遺跡のほぼ全域で遺構を検出した。A 1・3・4 地区で井戸・土坑・溝、A 2 地区で掘立柱建物・火葬墓、A 5 地区で、掘立柱建物・土台建物・井戸・土坑・溝、A 6 地区で掘立柱建物・井戸・土坑・区画溝、A 7・8・B 1～6・C 3・D 1～5・E 1～3 地区で溝・自然流路を検出した。特に A 5 地区の土台建物からは、梵鐘鋳型片が出土しており、近接する古刹法延寺との関連性が窺える。中世同様に多くの地区で遺構を検出したが、A 1～6 地区以外は溝が多く、しかもそれらは併走したり直交したりすることから、水田・畠等の生産域である。近世～近代においては集落の中心は、遺跡の南側（一歩二歩地内）にまとまっている。

2 基本層序

下老子篠川遺跡は南北に約1.8kmと非常に大きく長い範囲の遺跡のため、基本層序は南と北とでは様相が異なる。そのため、ここではいくつかの地区ごとに南から北に順に見ていく。

A 1～4 地区では、I 層：耕作土、II 層：暗灰黄色粘土質ロームなどで近世～近代の陶磁器が多く出土する遺物包含層、III 層：黄褐色粘土質ロームなどで近世～近代の遺構検出面となっている。なお、A 1・2 地区では、I 層と II 層との間に部分的に薄く礫が堆積する。

A 5 地区では、I 層：耕作土、II a 層：灰黃褐色粘土質ローム、II b 層：黄灰色粘土質ロームで近世の陶磁器が出土する遺物包含層、III a 層：浅黄色粘土質ロームで近世の遺構検出面、III b 層：灰白色粘土質ローム、IV a 層：黒褐色粘土質ロームで弥生時代後期の遺物包含層となっている。なお、IV a 層では、弥生土器を確認しているが、弥生時代の遺構は検出されなかった。

A 6～8・B 1～4 地区では、I 層：耕作土、II a 層：黄褐色砂質ロームなどで近世の遺物包含層、II b 層：黒褐色シルトなどで古代～中世の遺物包含層、III a 層：暗灰黄色砂質ロームなどで古代～近世の遺構検出面、III b 層：灰黄色シルト、IV 层：黒色粘土質ロームで弥生時代後期～終末期の包含層及び弥生時代後期～古墳時代中期の水田検出面、V 層：暗灰黄色シルトで弥生時代後期～終末期の遺構検出面となっている。ただし、A 6 地区では古代～近世の 1 面、B 4 地区では弥生時代と古代～近世の 2 面で遺構の検出を行った。

B 5～7・C 1・2 地区では、I 層：耕作土、II 層：黒褐色砂質ロームなどで古代～近世の遺物包含層、III a 層：黄褐色粘土質ロームなどで古代～近世の遺構検出面、III b 層：灰黄色粘土質ロームなど、IV a 層：黒色シルトなどで弥生時代終末期の遺物包含層及び弥生時代終末期～古墳時代中期の水田検出面、IV b 層：灰黄褐色シルトなどで弥生時代後期の遺物包含層及び弥生時代後期～終末期の水田検出面、V 層：灰色シルトで弥生時代後期の遺構検出面となっている。B 7 地区では、IV 層まで削平を受け、C 1・2 地区では自然流路があり、層序が若干異なる。

C 3・4・D 1 地区では、I 層：耕作土、III d 層：灰白色粘土質ロームなどで古代～近世の遺構検出面、IV 層：黒褐色粘土質ロームなどで縄文時代晚期の遺物包含層及び一部の遺構検出面、V 層：浅黄色シルトで縄文時代晚期の遺構検出面、VI 層：砂礫層となっている。C 4 地区では、焼土を IV 層上面で検出したものの、他の遺構は埋土との土色の判断が困難であった。そのため、建物については、まず地床炉である焼土を IV 層で検出した後、それを残し、壁溝や柱穴などを V 層まで下げて検出した。また、VI 層の砂礫層が部分的に V 層よりも隆起しており、その部分では VI 層上面を遺構検出面とした。

D 2～4 地区では、I 層：耕作土、II a 層：暗灰黄色シルトなど、II b 層：黒褐色シルトなどで古代～近世の遺物包含層、III a 層：浅黄色粘土質ロームなどで古代～近世の遺構検出面、III b 層：浅黄色粘土質ロームなど、III c 層：黒褐色粘土質ロームなど、III d 層：灰白色粘土質ロームなど、IV 层：黒褐色粘土質ロームなどで縄文時代晚期の遺物包含層、V 層：浅黄色シルトで縄文時代晚期の遺構検出面となっている。

D 5・6・E 1～4 地区では、I 層：耕作土、II 層：灰黄褐色砂質ロームなどで古代～近世の遺物包含層、III a 層：灰黄色シルトなどで古代～近世の遺構検出面、III b 層：灰黄色シルト質ロームなど、IV 层：黒褐色粘土質ロームなどで縄文時代晚期の遺物包含層及び一部の遺構検出面、V 層：灰オリーブ色シルトで縄文時代晚期の遺構検出面となっている。E 地区では、焼土を IV 層上面で検出したものの、他の遺構は埋土と IV 層との土色の判断が困難であった。そのため建物については C 4 地区と同様に地床炉である焼土を IV 层上面で検出した後、それを残し壁溝や柱穴などを V 層まで下げて検出した。

この他にいくつかの地区で地震による噴砂^(注1)を確認した。B 4～7 地区では、弥生時代後期の建物・土坑等を切り IV b 層下で止まる噴砂を確認し、弥生時代後期のものと考えられる。特に B 7 地区では、自然流路の近くで地盤が弱いためか、弥生時代後期の建物が大きく変形し、柱穴から柱根がずれた状態で検出された。C 1 地区では、近世の溝を切る噴砂を確認し近世以降の飛越地震^(注2)と考えられる。D 1 地区では、III d 層を切る噴砂を確認し古代以降のものと考えられる。D 2・4 地区では、IV 层を切る噴砂を確認し縄文時代晚期以降のものと考えられる。E 3 地区では、縄文時代晚期後葉の土坑が噴砂に切られており、縄文時代晚期以降のものと考えられる。ただし D 1・2・4 地区では、基本層序において噴砂の吹き上がり口が確認できなかったため、地震の時期の確定は難しい^(注3)。

(町田賢一)

注1 噴砂とは、地震時の液化現象により地表面に泥が吹き上ぐるもの。主に震度6以上で発生する事が多いが、地盤によっては震度5でもみられる。道路における噴砂等の地盤の影響については、地質考古学で確実した東日本大地震の研究が詳しく。

注2 飛越地震は、安政3年2月26日(1858年4月9日)に富士山根甲斐地方にある御津河断層に震源とする大地震で、マグニチュードは2.0~7.1と推定される。特に巣内では大きな被害が出ている。

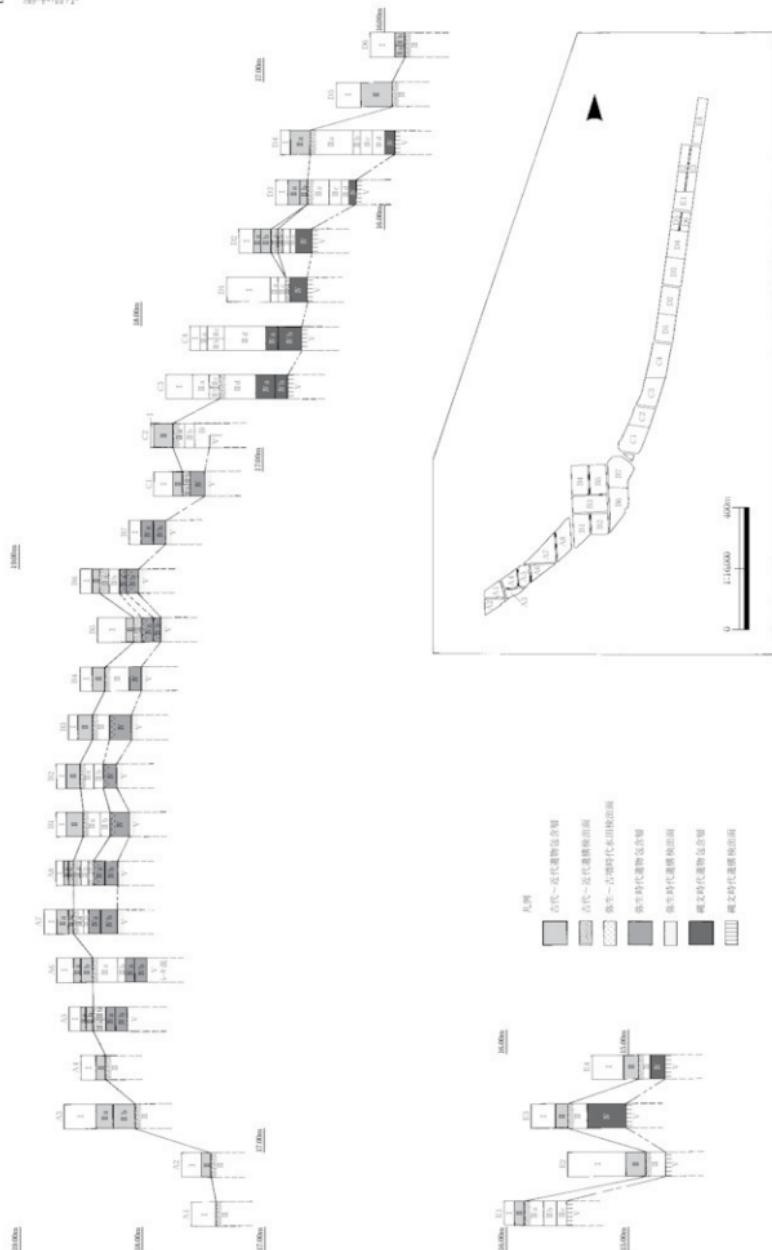
注3 下老子「飛越地震の跡について」は、町田真彦 1998 「地盤のイミテ」『富山考古学研究』紀要別冊刊行財團法人富山県文化振興財團蔵文化財調査委員会、町田賢一 2002 「富山県の地震痕跡調査」『古代学研究 第137号』古代学研究会が詳しい。



C 1 地区噴砂



C 1 地区噴砂



第12図 基本層序模式図

施設	1番	2番		3番		4番		5番		6番	
		Ⅰ番	Ⅱ番	Ⅲ番	Ⅳ番	Ⅴ番	Ⅵ番	Ⅶ番	Ⅷ番	Ⅸ番	Ⅹ番
A.1		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。	
A.2		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。	
A.3		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。		2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。	
A.4	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
A.5	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
A.6	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
A.7	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
A.8	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.1	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.2	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.3	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.4	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.5	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.6	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
B.7	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
C.1	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
C.2	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
C.3	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
C.4	2,Y3,2,BK色地に黒い斑点がある。										
D.1	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
D.2	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
D.3	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
D.4	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
D.5	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
E.1	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
E.2	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
E.3	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										
E.4	2,Y3,2,C-E黄色地に黒い斑点がある。										

第7表 地区別基本属性

種別	空気を汚染したとき																
	手で触れたときに					置いているときに手のどちらと離すか											
部屋	ほとんどないでいいからいい。																
ローム	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																
ローム	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																
シート	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																
シート	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																
ローム	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																
紙	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																
有機質土	まだまことにできがよふるとすぐにいいからいい。																

第8表 土の種類の見分け方

第IV章 縄文時代の遺構・遺物

1 遺構の分類

(1) 建物の分類

遺構検出の多くは、Ⅲ層（無遺物間層で洪水層か）除去後のⅣ層上面で焼土・炉を確認できたが、埋土がⅣ層に近い土色であり遺構検出が困難であったため、建物に関しては可能な限り土層観察用畔をもうけたが、柱穴・溝などはⅤ層まで下げて検出した。そのため、同一遺構でも検出面に上下があることとなった。このような条件の制約があるが、便宜上下記の分類を行った。

A類 掘形を確認した建物

A-1類 炉・柱穴・周間に壁溝を持つもの

A-2類 炉・柱穴を持つもの

A-3類 掘形のみのもの

B類 掘形を確認しなかった建物

B-1類 炉・柱穴を持つもの

B-2類 柱穴のみのもの

A-1・2類は、堅穴建物の可能性が高いものの、炉・焼土を検出した上に本来あるべき掘り込みを確認できたわけではない。そのため、掘形の上に床面を整地した平地建物の可能性も否定できない。A-3類は、A-1・2類同様な可能性があるものの、炉や柱穴はなく小型であるため、住居というよりは小屋的なものを想定したい^[注1]。

B-1類は、平地建物や掘形のない堅穴建物の可能性がある。平地建物は、新潟県に多く検出例があるが、それらは柱穴のみで炉ではなく、下老子笹川遺跡のものを平地建物とすればこれとは異なる構造なのかもしれない。B-2類は、掘立柱建物の可能性が高いが、他に時期は少し古いが、小矢部市^{まごべ}木柱町^{きじゆまち}遺跡^[注2]や石川県能登町真脇遺跡^[注3]などにある木柱列の可能性もある。

(2) 建物以外の遺構の分類

・土坑…貯蔵・廃棄用の穴。

・焼土…若干の掘り込みを持ち、建物から離れ単独で存在する屋外炉。

・自然流路…自然につくられた河川。庄川が流れを変えた時的小河川であろう。

・土器集中地点…遺構はないが、土器が1個体から数個体まとめて出土したもの。一括廃棄した土器捨て場や故意に埋め込んだ埋設土器などがある。



C 3 地区作業風景

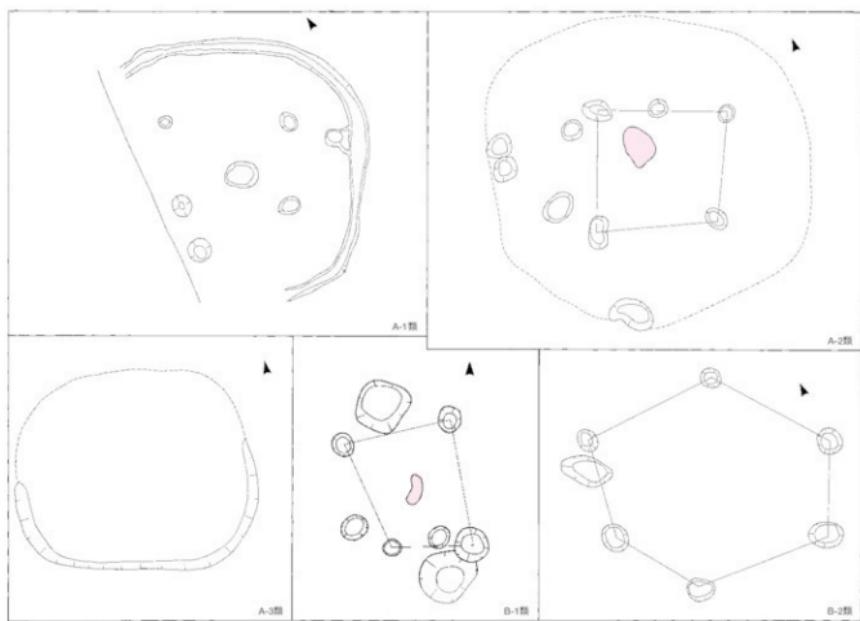


C 4 地区作業風景

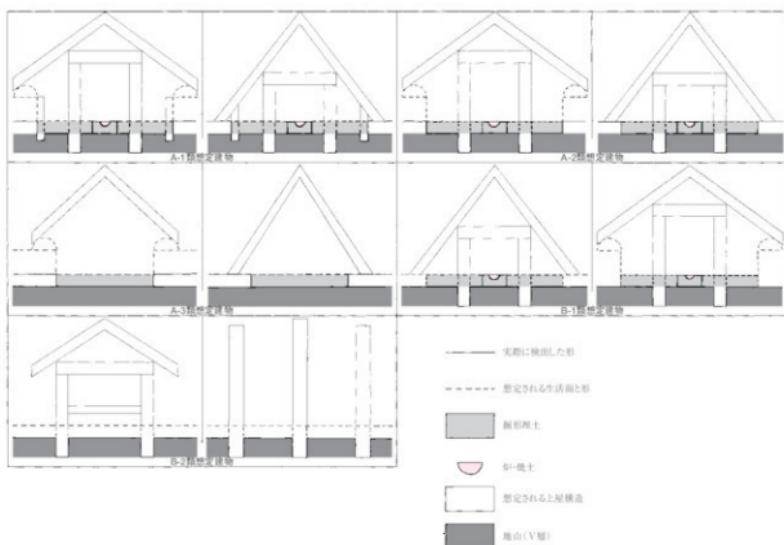
注1 仁坂士介 1969 「集落と住居」『新潟県の考古学』新潟県考古学会 高志書院

注2 伊藤茂三 2001 「曉原遺跡の調査」『木柱町真脇遺跡調査報告』福井県史跡発掘調査会 学生社

注3 加藤三千惠 1986 「庄川の木柱列」『庄川の木柱列』(監修)『庄川の木柱列』庄川市教育委員会・真脇遺跡発掘調査会



第13図 建物の分類



第14図 建物の上屋想定図

2 遺物の分類

(1) 縄文土器の分類

A 縄文土器の器種分類

a 深鉢

深鉢A類…ぐの字状の口縁をもつもの。中屋式^(注4)系統。

深鉢A-1類…口縁部や肩部に施文し、丁寧なつくりの精製土器。

深鉢A-2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。粗製土器。

深鉢B類…肩部に文様をもち、弱く屈曲するもの。下野式^(注5)系統。

深鉢C類…肩部で屈曲し、口縁が外に開くもの。

深鉢C-1類…肩部に文様をもつもの。

深鉢C-2類…口縁端・口縁部に文様をもつもの。

深鉢C-3類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

深鉢D類…肩部で屈曲し、口縁が直立気味のもの。

深鉢D-1類…肩部に文様をもつもの。

深鉢D-2類…口縁端部に文様をもつもの。

深鉢D-3類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

深鉢E類…逆ハの字状の器形をもつもの。

深鉢E-1類…口縁部に文様をもつもの。

深鉢E-2類…波状口縁で口縁部に文様をもつもの。

深鉢E-3類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

深鉢F類…肩部から口縁部にかけて弱く内湾するもの。

深鉢F-1類…口縁部に文様をもつもの。

深鉢F-2類…口縁部と肩部に文様があるもの。

深鉢F-3類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

深鉢G類…肩部が強く張り出し、口縁部にかけて内湾するもの。

深鉢G-1類…口縁部に文様をもつもの。

深鉢G-2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

深鉢H類…丸い肩部に外に聞く短い口縁部がつくもの。

深鉢H-1類…口縁部に文様をもつもの。

深鉢H-2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

深鉢I類…東北系?のもの。

深鉢J類…突帯文系のもの。

b 壺

壺A類…深鉢または浅鉢の変容した壺。いわゆる変容壺^(注6)。無頸壺。

壺A-1類…口縁部に文様をもつもの。

壺A-2類…口縁～肩部に文様が続くもの。

壺A-3類…大型のもの。

壺B類…頸部が緩やかに屈曲し、直立気味の口縁がつくもの。短頸壺。

注4 高斯藤善 1965「先文化」「歴史」A学会連合教育委員会編

注5 吉岡泰暢 1971「石川県下野遺跡の研究」「考古学研究」第26巻第4号、日本考古学会

注6 菊池紀男 1994「煮炊きする壺」「考古学研究」第40巻第4号、考古学研究会

壺B－1類…口縁部に文様をもつもの。

壺B－2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

壺B－3類…寸詰まりの体部をもつもの。

壺C類…口縁端～口縁部にかけて文様をもつもの。広口壺。

壺D類…沈線文系のもの。いわゆる大地式^(注7)系統。

壺E類…小型品で肩部が強く張り出すランプ形のもの。

壺F類…東北系の小型精製品。

c 浅鉢

浅鉢A類…くの字状の口縁部をもつもの。中屋式系統。

浅鉢B類…逆ハの字状の器形をもつもの。

浅鉢B－1類…口縁端～口縁部に文様をもつもの。

浅鉢B－2類…口縁～体部に文様をもつもの。

浅鉢B－3類…口縁内外面に文様をもつもの。

浅鉢B－4類…ミガキやナデなどの調整のみからなるもの。

浅鉢C類…緩やかに外に聞く椀形。

浅鉢D類…肩部が強く張り出し、内湾気味の口縁がつくもの。いわゆる眼鏡状隆帯の浅鉢。

浅鉢E類…有段の口縁部がつくもの。

浅鉢F類…椀形に外に聞く短い口縁部がつくもの。

浅鉢G類…口縁部が強く内湾するもの。

浅鉢H類…浮線網状文のもの。水式^(注8)系統。

d 鉢…深鉢・浅鉢のうち小型のもの。

鉢A類…くの字状の口縁部をもつもの。

鉢A－1類…口縁端～肩部に文様をもつもの。

鉢A－2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

鉢B類…口縁部が緩く屈曲し、外に聞くもの。

鉢B－1類…口縁端～口縁部に文様をもつもの。

鉢B－2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

鉢C類…逆ハの字状の器形をもつもの。

鉢C－1類…口縁～体部に文様をもつもの。

鉢C－2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

鉢D類…逆ハの字状の器形に弱く内湾する口縁部をもつもの。

鉢E類…体部で屈曲し、口縁が強く内湾するもの。

鉢E－1類…口縁～体部に文様をもつもの。

鉢E－2類…条痕やナデなどの調整のみからなるもの。

鉢F類…椀形を呈するもの。

鉢G類…鉢C類のうち寸胴のもの。

舟形…舟形を呈するもの。底面は、楕円形。

筒形…口縁～底部までほぼ直立するコップ形のもの。

筒形A類…横・縱方向に沈線を施すもの。

注7 吉田富夫 1992「後醍醐天皇の一斬刀」「考古学雑誌」37巻4號 日本書古文庫

注8 木暮光一 1996「近畿史料」第1卷下 稲葉史料刊行会

筒形B類…横方向に沈線・浮線を施すもの。

筒形C類…波状文を施すもの。

筒形D類…三角文を施すもの。

筒形E類…渦巻文を施すもの。

筒形F類…工字状文を施すもの。

筒形G類…眼鏡状隆帯を施すもの。

筒形H類…綾衫文を施すもの。

筒形I類…菱形文を施すもの。

筒形J類…沈線で区画した内部に充填刺突を施すもの。

便宜上上記のように分類したが、弥生土器のように器種分化が発達しておらず、用途とその器種分類名は必ずしも一致しない。特に深鉢と壺との分類は難しい。壺としているもの多くはスヌが付着し、用途としては煮炊きの可能性が高い。特に変容壺は深鉢とするか壺とするかに悩んだが、強く内湾口縁部や肩部に文様をもつものは、形態的には無頭壺であることから壺とした。

また、本来形態で分類するなら使わなければならぬのであろうが、縄文時代の器種構成を意図し、壺という器種を使わなかった。あえて壺とするなら、深鉢A～Dがそれに相当しよう^(注9)。

B 縄文土器の調整と文様

a 口縁～底部の調整（第19図）

土器の内外面の調整には、ナデ・ミガキ・条痕・擦痕・縄文がある。特に基本器種である深鉢の9割以上が条痕調整である。条痕には貝殻によるものが大半であるが、他に草茎系や半截竹管によるものもみられる。また、縄文時代とはいうものの縄文を施すものはわずかであり、精製土器か他地域の搬入または影響を受けたものである^(注10)。

b 口縁～底部の文様（第19～21図）

沈線・列点・刺突・浮線・隆線・突帯によるものがある。沈線文は櫛状工具や棒状工具や指頭を用いて施す文様で、平行線・波状・山形・三角・菱形・連弧・工字状・匹字状・鍵手状・羊齒状・玉挽三叉文・楕円区画などがある。列点・刺突文は櫛状工具や棒状工具を押しつける文様で、押引列点文や充填刺突文などがある。沈線・列点・刺突文は深鉢・壺では口縁部と肩部、浅鉢では口縁～体部、筒形では体部に施される。沈線文は特に深鉢や壺では、時期が新しくなるに従って棒状工具から幅広の指頭へと簡略化していくようである。浮線文は沈線を広く彫りミガキを加え、頂部の狭い浮線を作り出す文様で、長野や新潟から伝播されたもので、浅鉢や筒形に施される。浮線文を施すものは少ないが、それを意識した手法や文様を取り入れたものもある^(注11)。隆線文（隆帯）は、浮線文よりも太く大振りなつくりで、粘土紐を貼り付けて作り出す文様である。両側から指でつまみ上げ突起状としたり眼鏡状としたりする。突帯文は、隆線と同様の手法であるが、在地のものではなく、近畿地方以西の系統であることから区別した^(注12)。

c 口縁端部の調整と文様（第21・22図）

口縁端部はナデ・ナデの後、ミガキ・面取り・外面に折り返し・ユビオサエにより小波状とするものが多い。この他に刺突文・沈線文・縄文を押しつける絡条体压痕を施すものなどがある。また、深鉢・浅鉢には、粘土を貼り付けるA字状やB字状の突起を付けるものもある。

d 底面の調整と文様（第22図）

底面には、無調整やナデの他に土器製作時に付いた圧痕が残るものがある。特に網代痕やスダレ状

注9 乾村松 2005「施城考古学と方法論・相談等の問題点」「壺と壺と古学論」

注10 加藤幸生 1969「北陸東部における鵜坂南湖中型手取窯の土器様式の変遷・地元産粘土土器の経年分析と焼成性分析を中心としてー」『北陸の考古学』石川考古学会研究会

注11 石川日出志 1963「『那須郡立石川町の縄文時代中期居候文』」『信濃』第37号第4号「信濃史学会」ほか

注12 齋尾信裕 1963「縄文時代から古事時代の遺傳と遺物の検討」『信濃道史研究報告書2号』財团法人大正信文化財協会 ほか

圧痕は、深鉢に多く残り、壺・浅鉢・鉢の一部にもみられる。網代痕には、網代の編み方により「超え、潜り、送り」を用いていくつかの種類に分けられる^{[1][2]}。これらは、編物自体が出土していない下老子篠川遺跡では、編物を推定する材料となるであろう。この他に木葉痕が残るものもある。

e 土器の胎土

土器の胎土には、長石や石英を含むものが最も多いが、それに次いでこれに海綿骨針を含むものがある。この両者を比べることによって採取地や製作地の違いを明らかにする材料になるかもしれない。この他に金雲母や角閃石などがみられるものがある。しかし、胎土分析などは行っておらず、肉眼観察のみによるものであることから明確なものではない。

出典：荒木ヨシ一 1968 「縄文式時代の網代編」『物質文化』12 物質文化研究会、渡辺誠 1973 「網代の編み方」「金糸?道路発掘調査報告書」舞鶴市教育委員会 ほか



高所作業車からの写真撮影



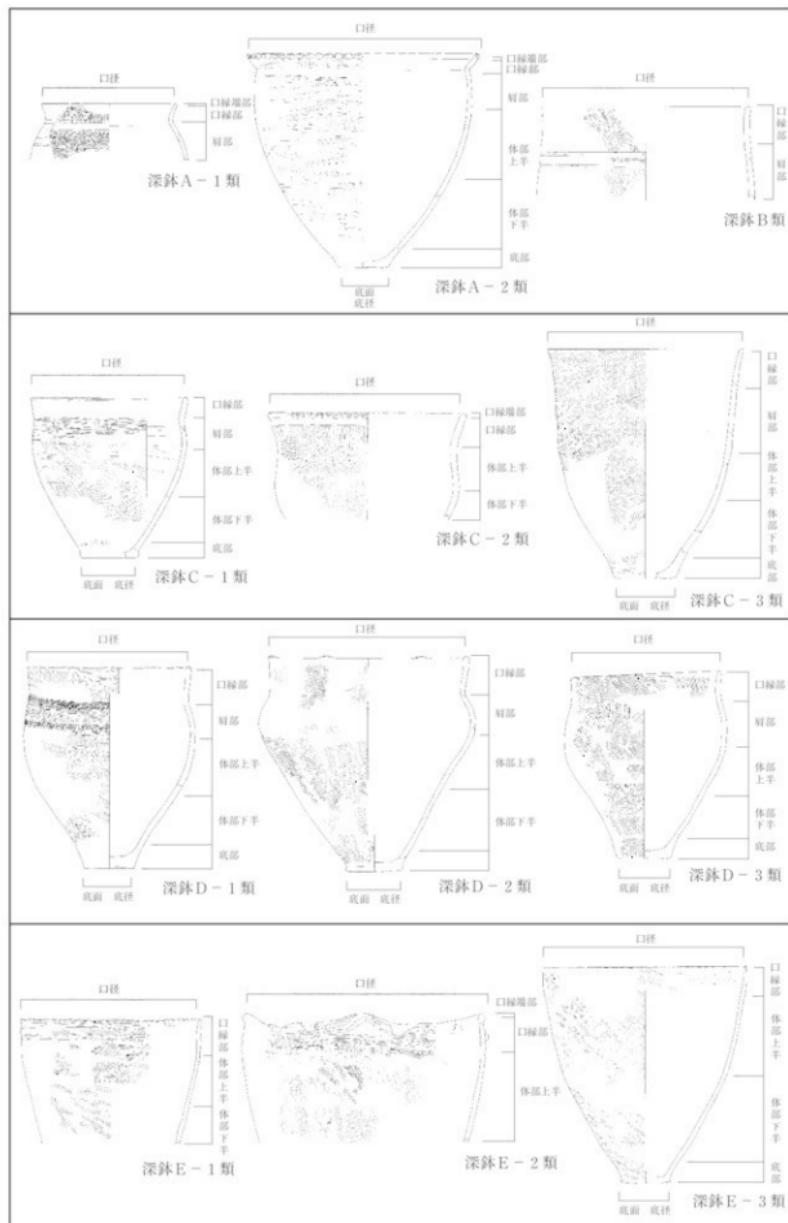
基本層序の観察



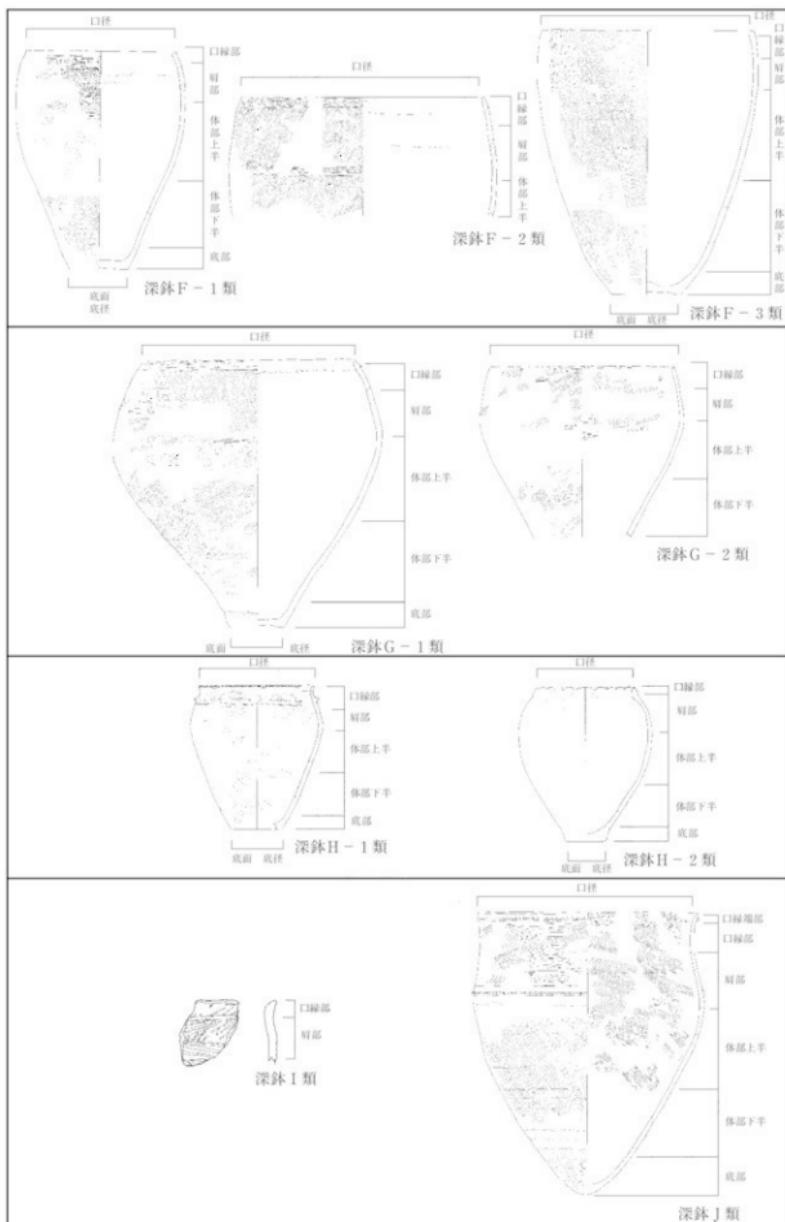
概略図作成



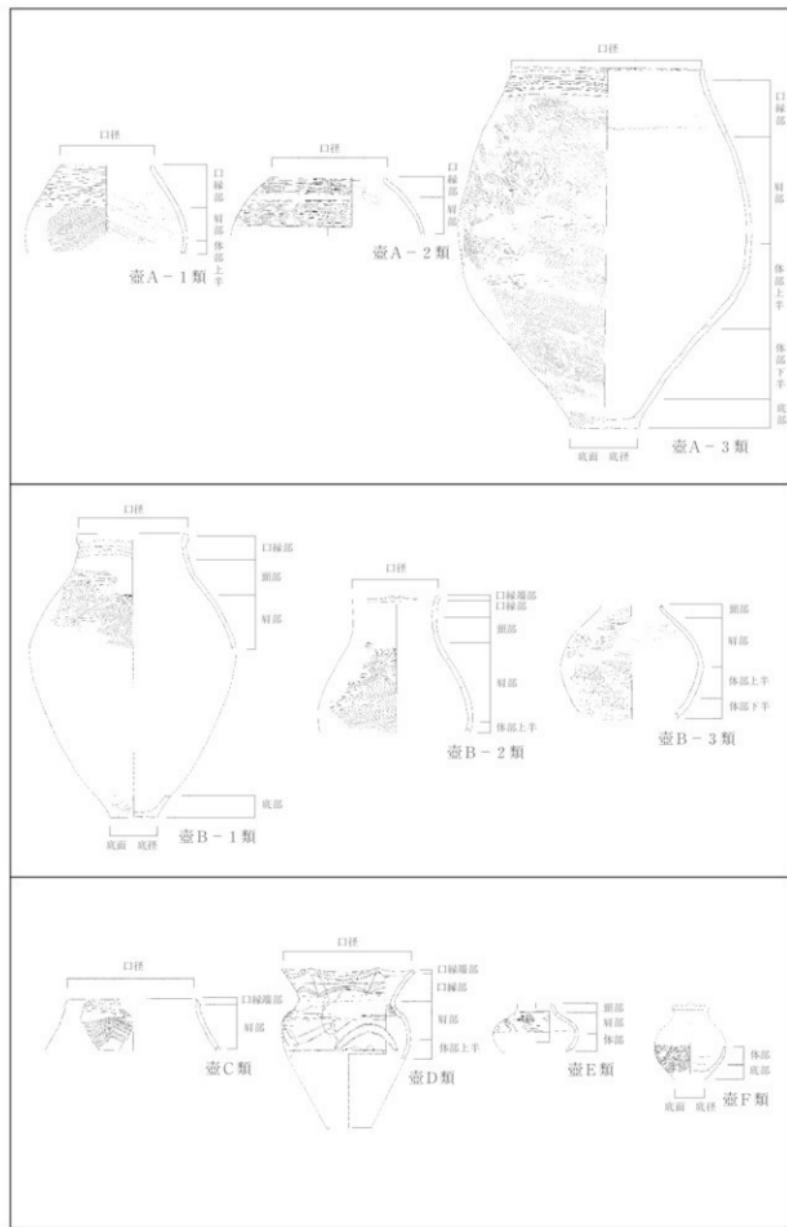
土壤洗浄



第15図 深鉢の分類1



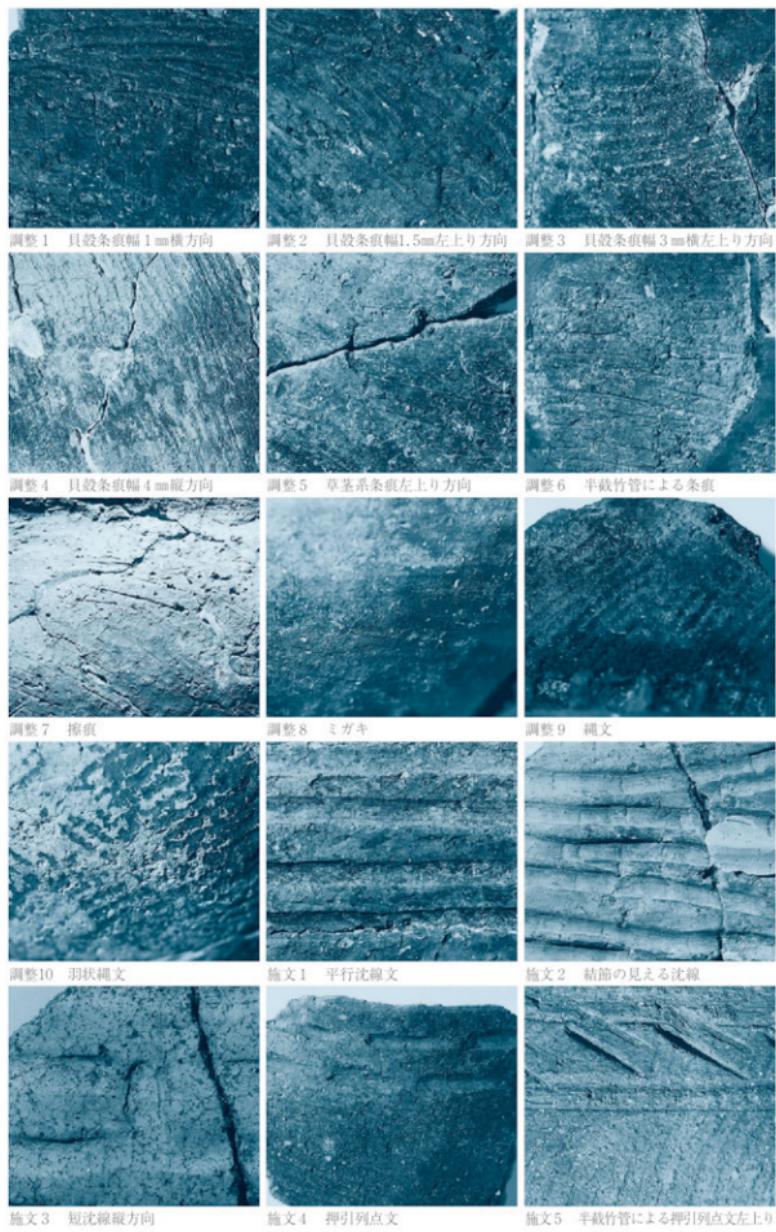
第16図 深鉢の分類 2



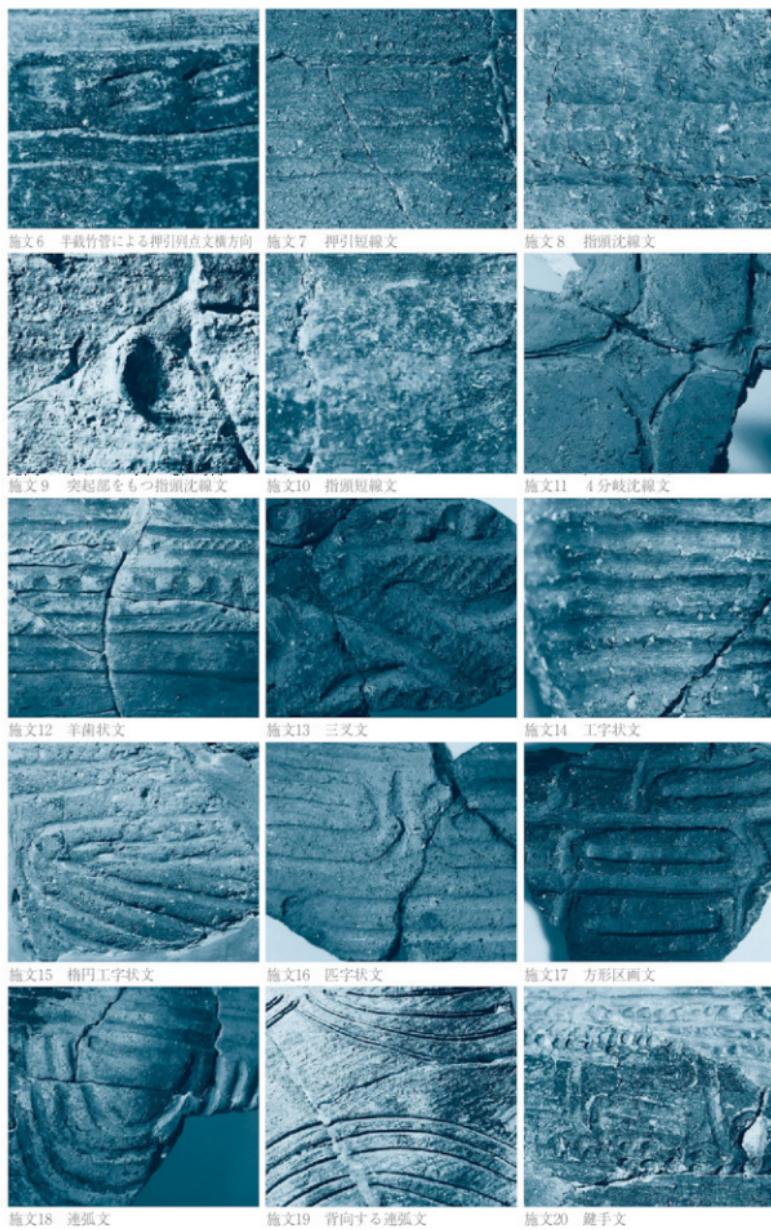
第17図 壺の分類



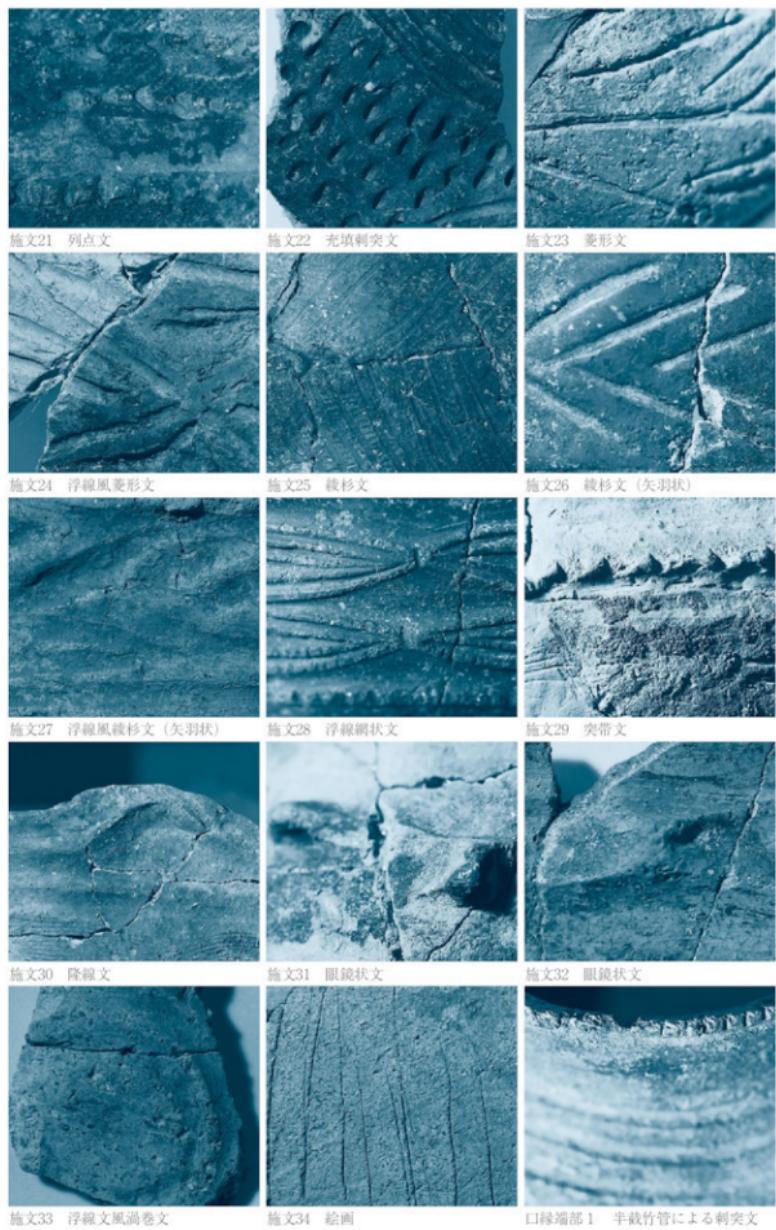
第18図 浅鉢・鉢の分類



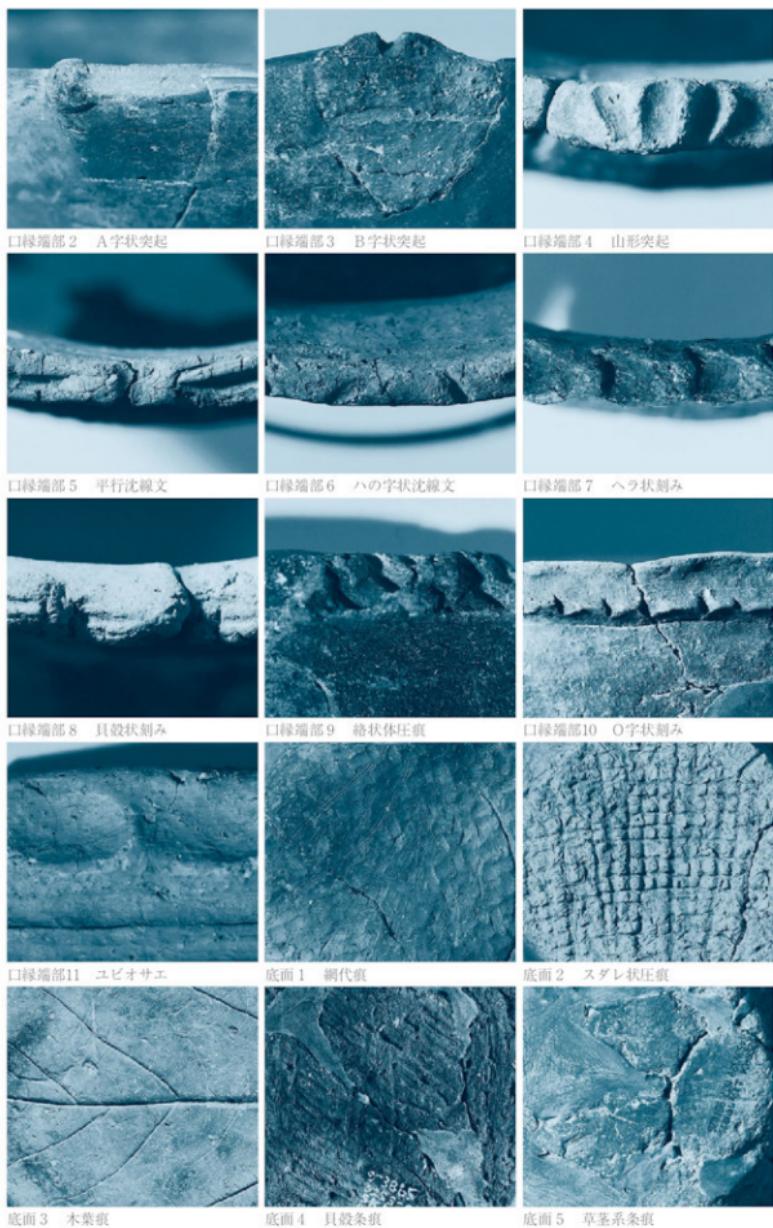
第19図 繩文土器の調整と文様（1）



第20図 繩文土器の調整と文様（2）



第21図 繩文土器の調整と文様（3）



第22図 繩文土器の調整と文様（4）

(2) 石製品の分類

A 打製石斧の分類

打製石斧は、形状から以下の4種に分類した。

a類 両側に抉りがなく、基部から刃部まではぼまっすぐなもの。いわゆる短冊形。

b類 両側に抉りがなく、基部から刃部に向かって広がる台形状のもの。撥形の一類。

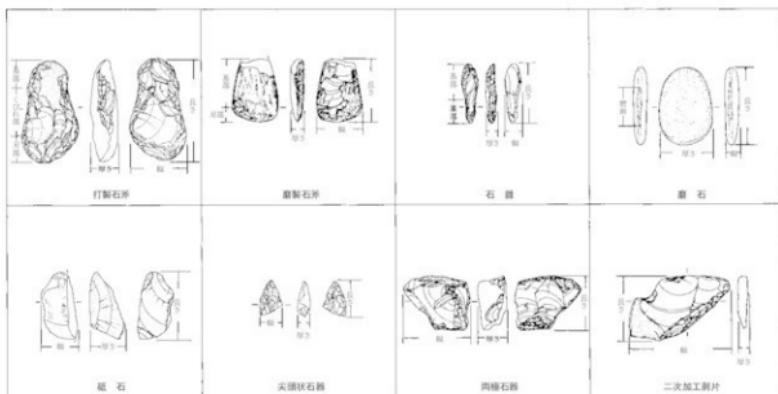
c類 両側に抉りがあり、刃部が半円形のしゃもじ状のもの。いわゆる撥形。

d類 両側に抉りがあり、基部及び刃部が半円形ではぼ同じ形状のもの。いわゆる分銅形。

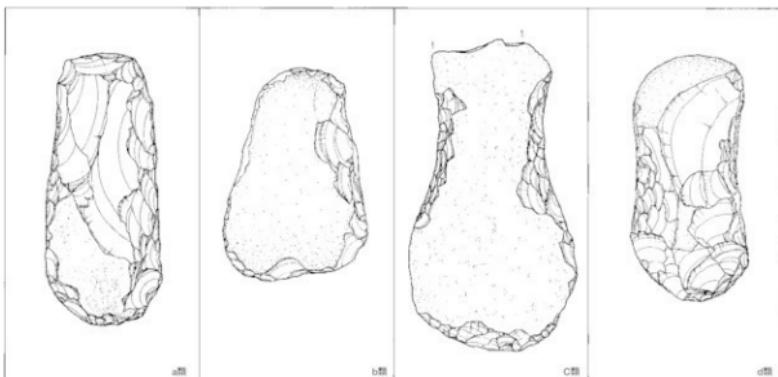
B 打製石斧以外の石製品の分類

石製品の大半は、打製石斧であるがその他に下記の石製品がある。

磨製石斧・砥石・石錐・磨石・尖頭状石器（尖頭状の刃部を持つもの。尖頭器・石匙・石鎌などの可能性がある。）・両極石器（ビエスエスキュー。石器を製作するための石核か。）・二次加工剥片（剥片の内、調整を加え利器として使用したもの。）



第23図 石製品の分類



第24図 打製石斧の分類

3 縄文時代の概要

縄文時代の遺構と遺物は、遺跡の北側（高岡市笛川・千鳥丘地内）にあたるC 1～4・D 1～4・E 1～4地区で検出した。これらの地区は、弥生時代の集落のあるA・B地区に比べ、標高が低く、C地区からE地区に向かって下っていき、約15～18mを測る。

C地区では、C 3地区で自然流路、C 4地区で建物・土坑・焼土などの集落及び自然流路を検出した。建物は検出状態が悪く明確ではないが、地床炉を中心に柱穴が並ぶ浅い掘り込みの堅穴建物、若しくは平地式建物で自然流路の東岸に14棟がまとまっていた。建物の切り合いは1回ぐらいで、長期滞在型ではないものと考える。建物の周りには廃棄施設や貯蔵施設と考える土坑や屋外炉または祭祀を行った場所と考える焼土、土器捨て場または埋設土器と考える土器集中地点があり、これらとともに集落を構成している。集落の時期は出土した土器から、縄文時代晚期後葉から末葉と考えられる。自然流路の西岸には、貯藏穴と考える土坑と土器捨て場があるが、東岸の集落と出土した土器を比べると時期が古くなり、他の場所から自然流路に漁労に来た人々による遺構と考える。自然流路は庄川扇状地扇端部にあたることから、庄川が流れを変えるうちにできた小河川であろう。自然流路内には、大型の流木が多く残り、肩部には埋没樹根がいくつか残っていた。

D地区では、D 1・2地区で土坑・土器集中地点、D 3地区で自然流路・土器集中地点を検出した。D 2地区では北側に土坑が多くまとまっており、土器もこの付近に多く見つかっていることから建物の可能性がある。D 3地区では集落はなかったが、自然流路の両岸に土器がまとまって見つかっており、漁労に来た人々によるものと考える。自然流路内には大型の流木や土器が捨てられていたり、肩部には埋没樹根がいくつか残っていた。出土した土器は縄文時代晚期中葉から弥生時代中期前葉まで幅広くあり、この地へ何回も外から人々がやってきたのであろう。また土器には、在地のもの以外に近畿・長野・東北地方の影響を受けたものが混じっており、広域な移動・交易が窺える。

E地区ではE 3・4地区で建物・土坑などの集落を検出した。建物は3棟ありC 4地区と同様なものと考えられる。土坑は遺物が出土していないが、建物に付随する施設と考えられる。建物の時期は出土土器から、縄文時代晚期末葉から弥生時代前期と考える。包含層出土の土器は縄文時代晚期中葉から弥生時代中期前葉まであり、D地区と同様に外から人々がやってきたのであろう。

この他にB 7～C 1地区に流れる自然流路（古墳時代を中心とする）から縄文時代晚期の条痕文土器、E 1～2地区の自然流路（近世～近代）から縄文時代後期・晚期の土器が出土している。またC 1地区的包含層には、縄文時代晚期中葉から弥生時代中期前葉の土器が出土している。



C 3 地区土器出土状況



C 4 地区土器出土状況



第25図 縄文時代遺構位置図 (1/1000・1/8000)

4 C地区

C地区ではC3地区で自然流路・土器集中地点、C4地区で建物14棟・焼土4・土坑・自然流路・土器集中地点7からなる集落を検出した。遺構の時期は出土した土器から、晩期中葉から末葉まであるが、建物等の集落の中心は晩期後葉～末葉と考える。またC1・2地区では包含層中から縄文土器・石製品が出土しているが、それに伴う遺構は検出しなかった。

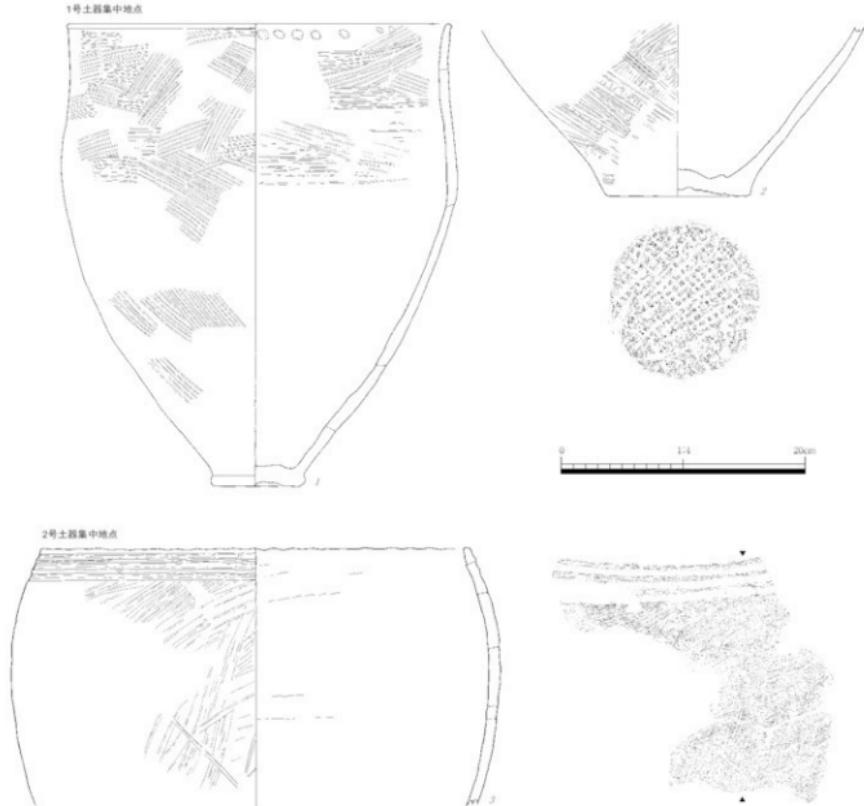
(1) C3地区の遺構と遺物

C3地区では自然流路・土器集中地点を検出した。なお、自然流路についてはC4地区にも続き、その本体がC4地区にあることから次項で扱うこととする。

A 土器集中地点

1号土器集中地点（第26・29図、図版4・29）

調査区東側の自然流路肩付近に位置する。埋設土器と破片の2個体からなる。埋設土器（J）は胴部から底部が埋められ、土器内部には粘土質の埋土に炭化物や骨片らしきものが混じっていた。また

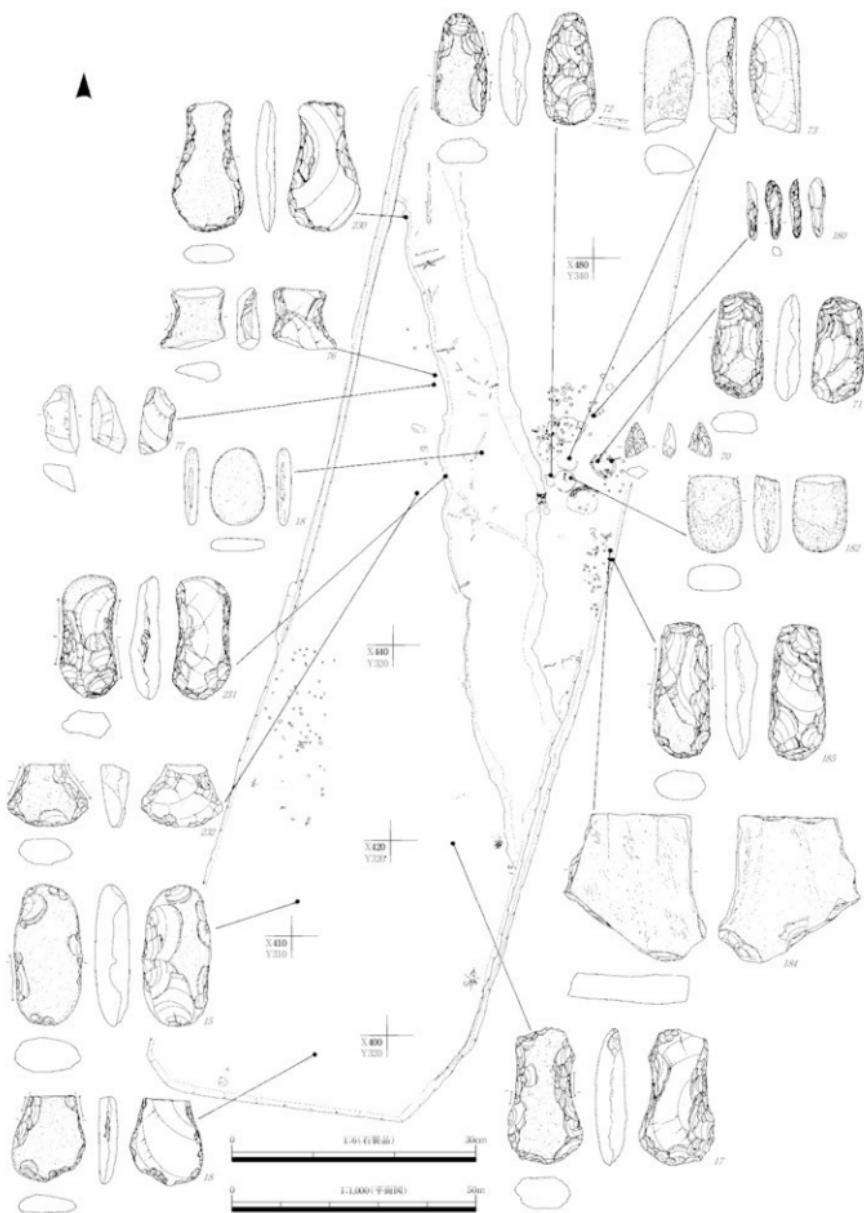


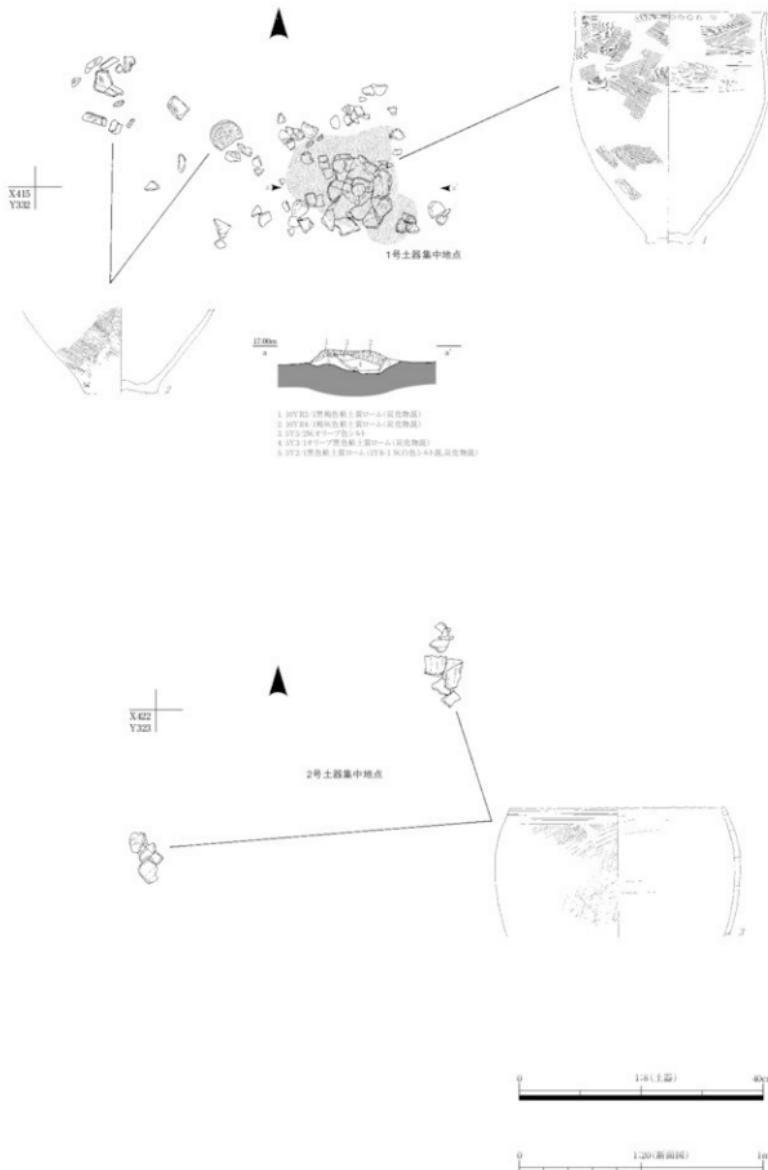
第26図 遺物実測図 (1/4)
C3地区 1号土器集中地点(J・2) 2号土器集中地点(2)



第27図 主な土器出土位置図 (1/1000, 1/10)

C3・C4地区 造構





第29図 遺構実測図 (1/20, 1/8)
 C3地区 1号土器集中地点・2号土器集中地点

た周囲には、炭化物が広がっていた。埋甕（甕棺）の可能性があるが、土壤分析等を実施しておらず、詳細は不明である。埋設土器西側の破片（2）は、深鉢の底部で、逆位で検出した。

1は深鉢D-3類で、口縁部内面に指頭圧痕を残す。2は体部下半に右上がりの後、左上がりの条痕（貝殻）を施し、底面にスダレ状圧痕が残る。

2号土器集中地点（第26・29図、図版4・30）

調査区のほぼ中央に位置する。2箇所に散った破片からなり、いずれも内面を上に向けた状態で検出した。3は深鉢F-1類で、口縁部に細い指頭沈線3条を施す。

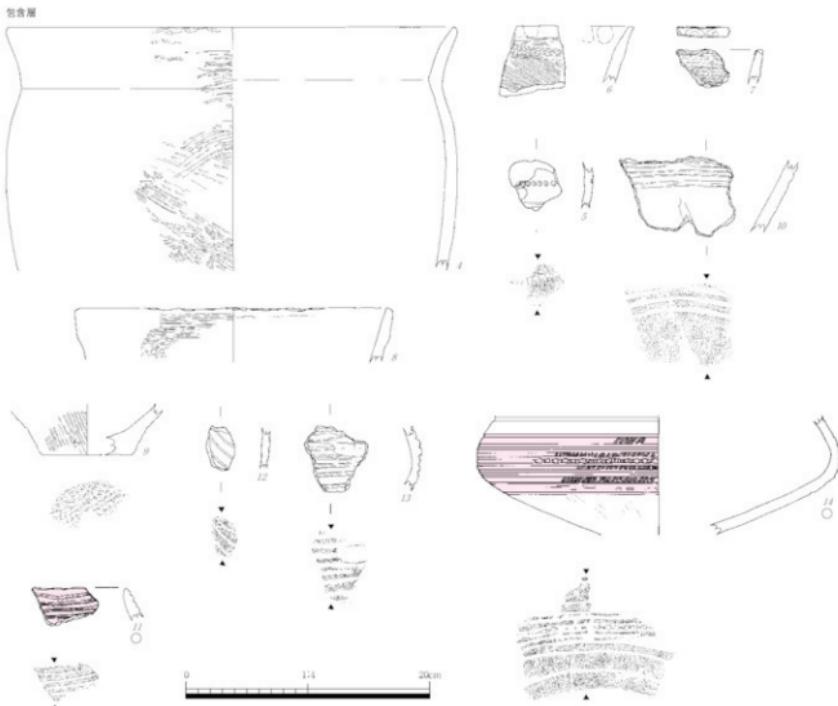
（2）C1～3地区の包含層出土遺物

A 土器（第30図、図版29・30）

出土した土器には深鉢・壺・浅鉢がある。

4～9は深鉢。4・8はA-2類で、口縁端部をユビオサエする。5は押引列点文と平行沈線を施す。B類か。金沢市米泉遺跡^(注14)に類例がある。6・7はA-2類の口縁部と思われ、口縁端部をユビオサエする。9は底部で、底面に網代痕が残る。10は破片のため復元は難しいが、平行沈線文2条を施す浅鉢。B-2類か。11は工字状文を施す。外面は赤彩で、壺A-2類か。12は沈線で連弧文を施す破片。壺C類か。13は平行沈線文と突帯があったと考えられる剥落部分からなる。これも破

注14 西野秀和 1989『金沢市米泉遺跡』石川県立埋蔵文化財センター



第30図 遺物実測図 (1/4)

C1地区 包含層

C1地区(4・7・9～11・13) C3地区(5・6・8・12・14)

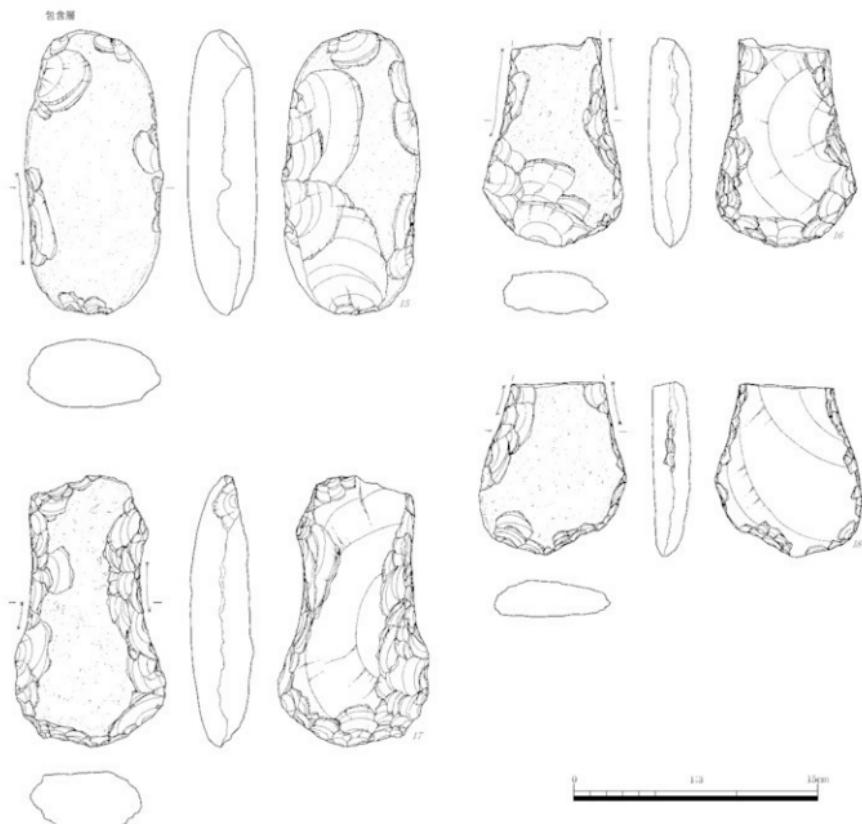
片のため復元は難しいが、楕円形の浅鉢D類か。14は浅鉢A類で、磨消縄文と平行沈線間に刺突を施す。文様帶は赤彩されている。遺物の時期は4・6～8・14が中屋式併行、5が中屋サワ^(注15)～下野式併行期、11・13が長竹式^(注16)併行期と考える。

B 石製品（第31図、図版62）

出土した石製品は打製石斧のみである。

15は楕円形に近いがa類で、砺波市久泉遺跡に類例がある^(注17)。16はb類。17・18はc類。16・18は基部を欠損する。石材は15が砂岩、16が凝灰岩、17が花崗岩、18が花崗斑岩。

(注15) 由久路 2001「関文と坐牛の焼き方－石川県版－」『編年』南書会
 (注16) 高橋勝彦 1985「下野式」「野々市町御経塚遺跡」野々市町教育委員会
 (注17) 野見久輔 2000「久泉遺跡発掘調査報告」砺波市教育委員会



第31図 遺物実測図 (1/3)

C地区 包含層

C1地区(16) C3地区(15・17・18)

(3) C 4 地区の遺構と遺物

C 4 地区ではほぼ中央に自然流路が南東から北西に流れ、その両岸で遺構・遺物を確認した。遺構は、主に調査区南東に集中し、建物・焼土・土坑・土器集中地点を検出した。また、自然流路の両肩で土器集中地点が2箇所見られた。これらは一括して廃棄したものと考えられるが、総じて東岸に比べ西岸の方が古い時期の特徴を持つ土器が出土している。

A 建物

建物はIV層（黒褐色砂質ローム）と遺構埋土（黒色砂質ロームなど）が類似しているため、IV層直上面で焼土を検出し、焼土部分を残して他の部分をV層（浅黄色シルト）まで下げる柱穴・壁溝等を検出し、建物の範囲を推定した。そのため建物構造は削平を受けた堅穴若しくは平地建物の可能性があるが、明確ではない。遺物は主に床面と考えられる地床炉確認面（IV層直上面）から多く出土した。建物の時期は出土した土器から長竹式併行期と考える。

1号建物（S I 1, 第32・33・45図, 図版7・31）

C 4 地区の南東で、建物群内では北側に位置する。地床炉を中心に、その周囲を巡る8基の柱穴と考える穴からなる。建物A-2類。2～3層の埋土をもつ掘形があるものの、建物の規模は不明。他の建物と比較すれば、直径5m弱の円形を呈することになろうか。P 1～8を柱穴としたが、P 2・4・7・8の掘形が深く、4本主柱穴とも考えられる。地床炉周辺には床面と考えられる粘質土層がある。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2480±40B Pと測定した^(注18)。遺物は床面と考える地床炉確認面及び地床炉内から縄文土器片が出土した。

I9は深鉢G-1類。外面は幅の太い棒状工具により、口縁部に平行沈線文4条と下に連弧文3条を施す。内面はケズリ？の後ナデ。S I 4と試掘調査出土の破片とも接合した^(注19)。遺物の時期は繩文時代晩期末葉長竹式併行期と考える。

2号建物（S I 2, 第32・34・45図, 図版8・30）

C 4 地区の南東で、建物群内では北側に位置する。地床炉と考える焼土とその周囲の6基の柱穴（P 1～6）と土坑（SK4401・4402・4411～4413・4415～4418・4497）からなる。掘形は確認できず、建物の規模は不明。他の建物と比較すれば、直径5m弱の円形を呈することになろうか。建物B-1類。柱穴は地床炉周囲のP 1～4が並ぶことから、4本主柱穴となろうか。また浅い土坑であるSK4401もこれに付属する施設である可能性がある。この他にSK4402・4415・4418・4497は埋土と掘形から柱穴と考えられるが、並ばない。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2460±40B Pと測定した^(注18)。遺物はP 1・2、SK4401・4411・4412・4415から縄文土器片が出土している。P 2では、埋土に疊と土器片が混じっていた。

20は深鉢E-3類。口縁部と体部下半～底部があるが接合しない。口縁部は外面を左上がりの条痕の後板状工具？のナデ、内面は板状工具？のナデ。口縁端部はユビオサエにより小波状となる。体部下半～底部は内外面条痕。底面にも条痕を施す。P 2・SK4401より出土。

3号建物（S I 3, 第32・35・45図, 図版9・30）

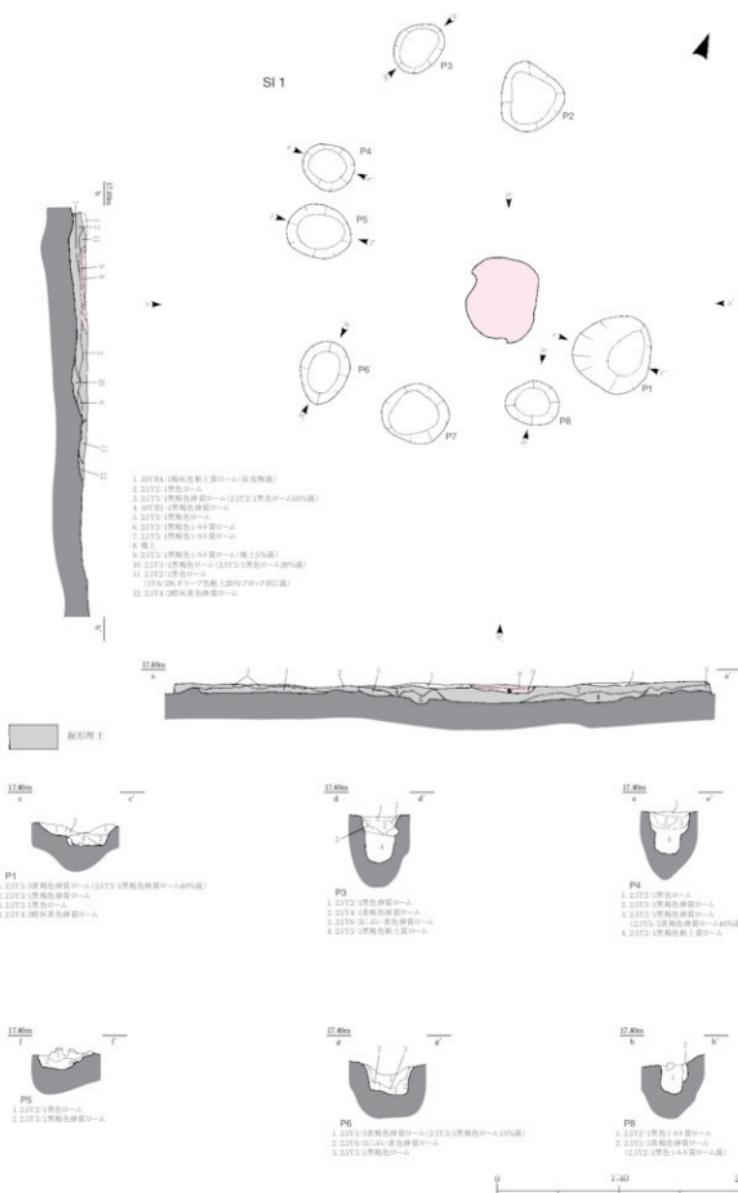
C 4 地区の南東で、建物群内では北側でS I 2の南に位置する。北東部分は掘乱を受ける。地床炉と考える焼土・柱穴・掘形からなる。建物A-2類。掘形埋土は2～3層で、その範囲から建物の形状はほぼ円形を呈していたものと考えられる。掘形埋土上面には粘質土があり、これが床面（貼り床）に相当するものと考えられる。柱穴は地床炉の周りに7基あるが、主柱穴はP 1～4の4本であろう。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2540±40B Pと測定した^(注18)。

^(注18) 第四章 自然科学分析 施式会社加藤分析研究所「出土遺物の放射性炭素年代測定」

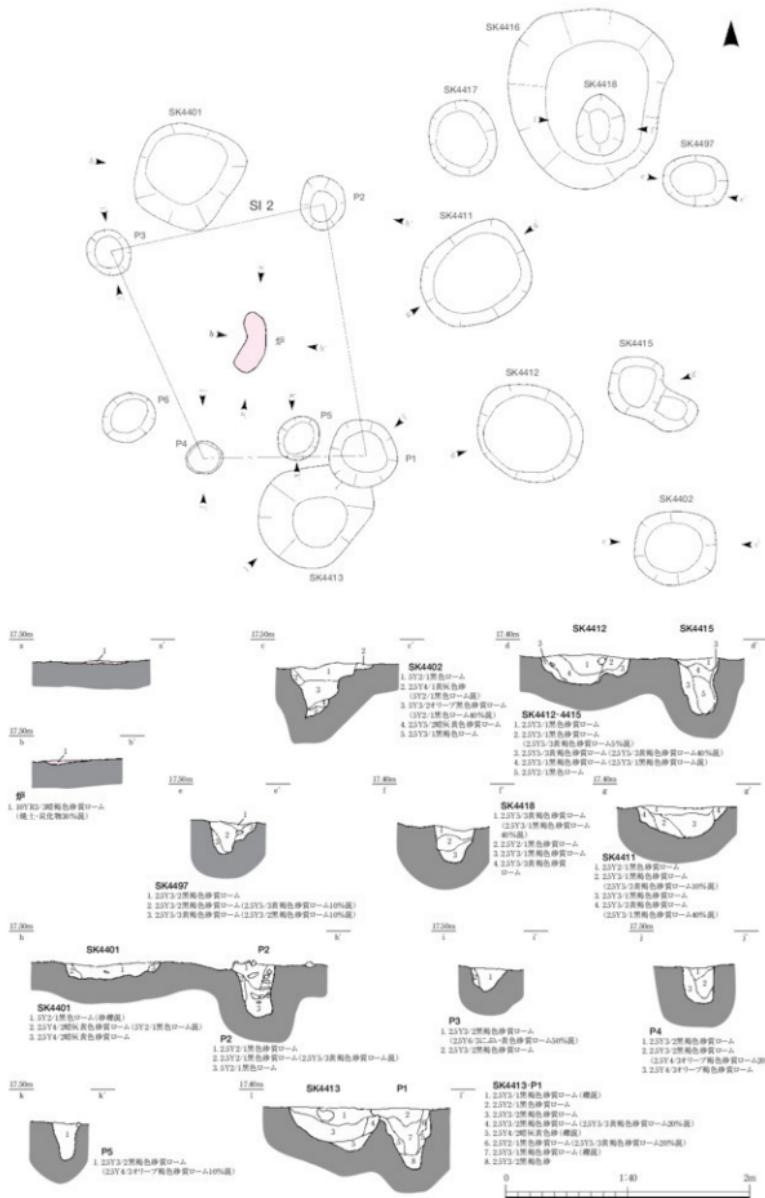
^(注19) 清水泰洋 1995「縄文時代の遺物」『施式会社加藤分析研究所文化財伝承調査報告書-NIJ-08通説』財团法人富山県文化振興財團財团文化財調査委員会編 第6-2



第32図 遺構実測図 (1/200)
C4地区

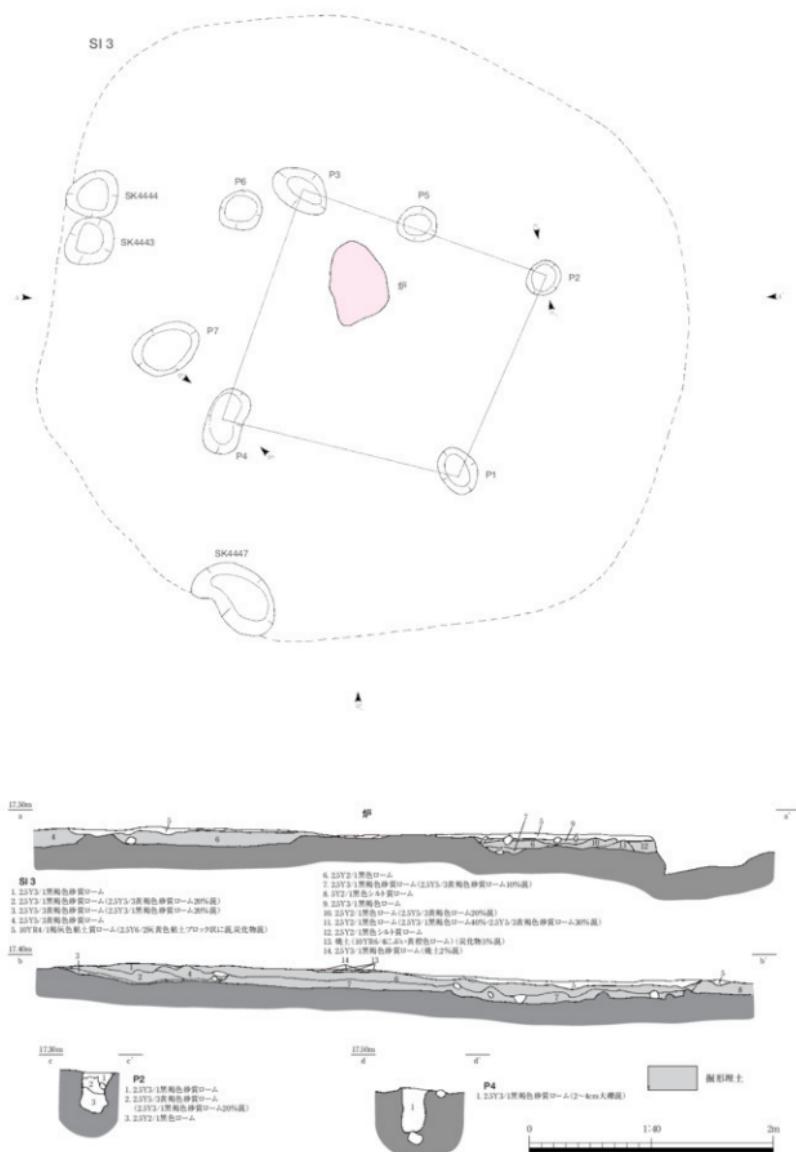


第33図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI1



第34図 遺構実測図 (1/40)

C4地区 SK₂ SK4401·SK4402·SK4411~SK4413·SK4415·SK4418·SK4497



第35図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI3 SK4443・SK4444・SK4447

遺物は床面直上に縄文土器片が多く見られた。

27は先の丸い棒状工具による山形文を施す。壺C類か。

4号建物（S I 4, 第32・36・66図, 図版10・63）

C 4 地区の南東で、建物群内のはば中央に位置する。地床炉・柱穴・壁溝・掘形からなる。建物A-1類。円形に巡る壁溝内部に硬化面（掘形埋土上面）があり、床面と考えられる。壁溝は北と南で一部途切れるものの、ほぼ円形に全周する。柱穴はP 1～13の13基あるが、主柱穴となるのは掘形や埋土からP 1～3・7の4本であろう。P 9・11・13は掘形が浅く壁溝が途切れていることから、入り口施設の柱穴か。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を3140±40 BPと測定した^(注20)。遺物は床面直上・壁溝から縄文土器片・打製石斧・石器が出土している。本建物は建物群で最も残りがよく、壁溝を周囲に巡らせるなど他の建物とは異なる性格をもっているものと考えられる。出土した土器片で熱ルミネッセンス年代測定（石英粗粒子法）を行ったところ、2,000年前と測定した^(注20)。

27は尖頭状の石器片。石鏃の可能性があるが厚い。石材は流紋岩。27は打製石斧でa類。

5号建物（S I 5, 第32・37・45図, 図版11・30）

C 4 地区の南東で、建物群内では北西側でS I 3の南西に位置する。南東部分は試掘トレンチで切られる。地床炉と考える焼土・柱穴・掘形からなる。建物A-2類。また土器を含む埋土をもつ掘り込みを確認した。建物の形状は、掘形から見ると不整円を呈する。柱穴はP 1～10の10基あるが、並ばない。地床炉は8cm程の厚さがあり3層からなる。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2430±40BPと測定した^(注18)。遺物は床面直上とP 4から縄文土器片が出土している。

22は細くて先の丸い棒状工具による連弧文で区画した内部に刺突文を充填する筒型J類。高岡市駒方遺跡^(注21)・白山市乾遺跡^(注22)に類例がある。地床炉直上から出土した。23は棒状工具による浮線文風に作り出した渦巻文を施し、外面を赤彩。筒形E類。駒方遺跡・乾遺跡に類例がある。22・23の時期は晩期末業の長竹式併行期と考える。24・25は底部のみの破片。24は草茎状工具で底面から底部に平行線を数回引いた跡がある。P 4より出土。25は無文の深鉢で、内外面ナデで黒斑がある。26は舟形。底部のみの破片であるが、先の丸い棒状工具で区画しその内部に刺突を充填する。

6号建物（S I 6, 第32・38・66図, 図版11・63）

C 4 地区の南東で、建物群内では西側でS I 8の北西に位置する。西側をS K 4460に切られる。地床炉と考える焼土・柱穴・掘形からなり、建物A-2類。建物の形状は、掘形から見ると円形を呈する。柱穴はP 1～3の3基が南北に並ぶが、主柱穴とするのは難しい。地床炉は8cm程の厚さがあり、2層からなる。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2490±40 BPと測定した^(注18)。遺物は打製石斧（27）と小片のため図示できないが床面直上から縄文土器片が出土している。

27は打製石斧a類でS K 4460より出土。石材は凝灰岩。

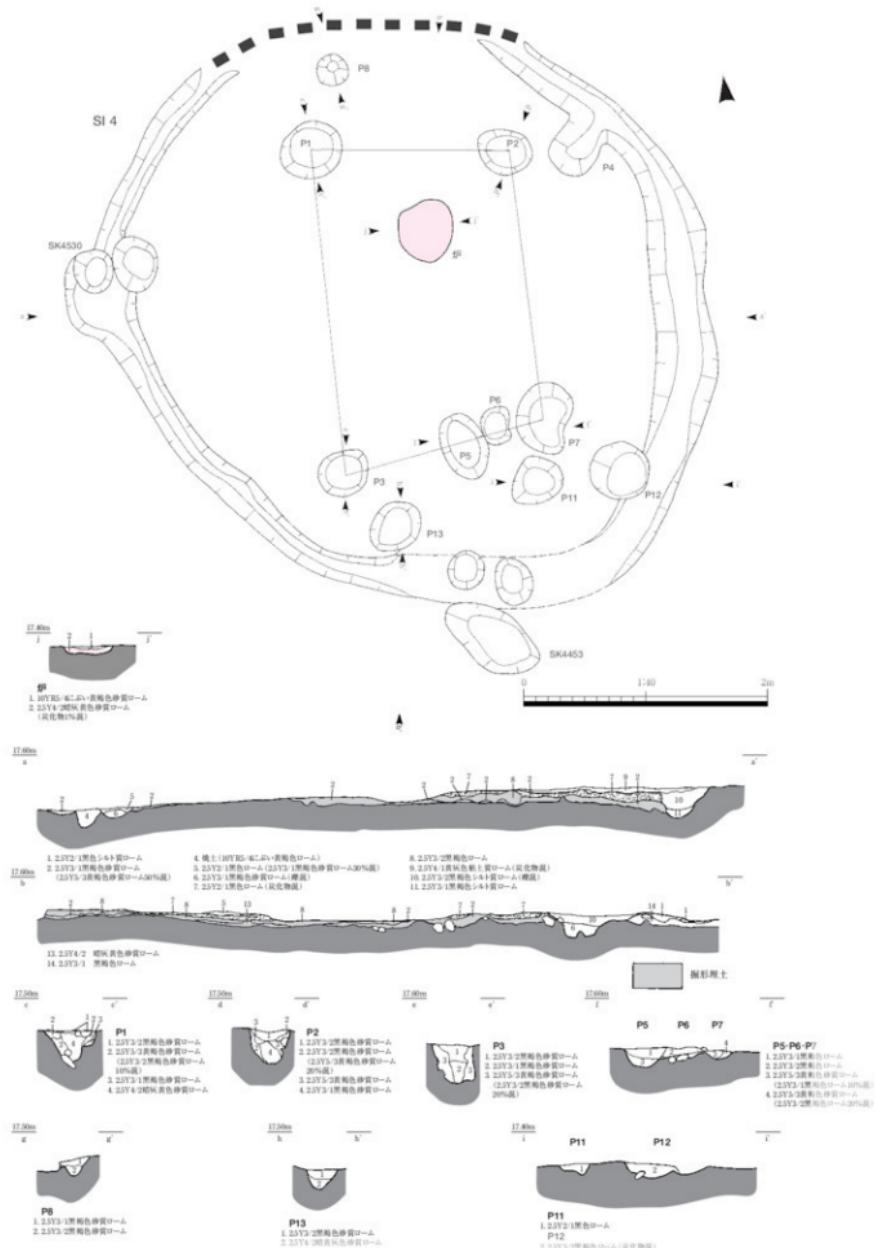
7号建物（S I 7, 第32・39・66図, 図版11・63）

C 4 地区の南東で、建物群内では西側でS I 5とS I 6の間に位置する。北側の約半分は試掘トレンチに切られる。焼土や柱穴ではなく掘形のみを検出した。そのため積極的に建物とはし難いが、小屋的な建物付随施設と考える。建物A-3類。遺物は埋土から磨製石斧未成品（73）と小片のため図示できないが縄文土器が出土している。

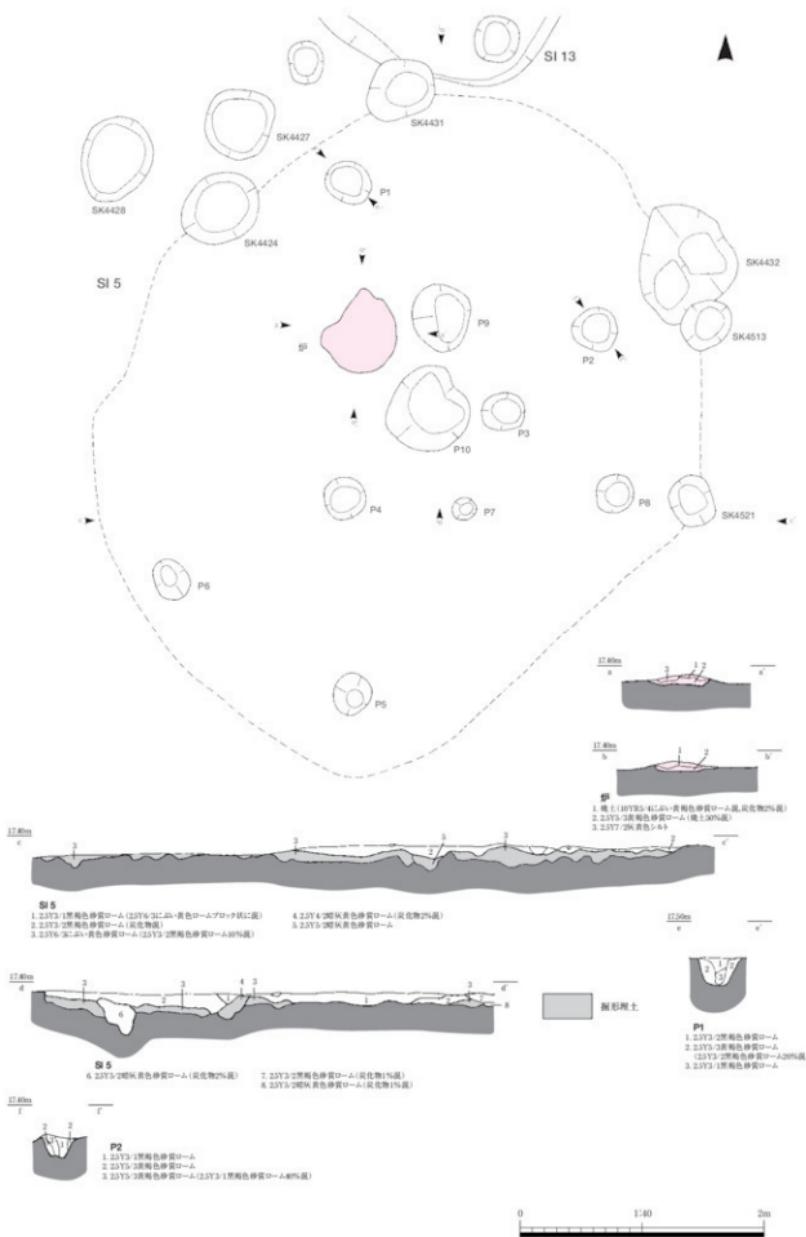
注20 集収章・自然科学分析・歴史文化・株式会社古墳地盤研究所「縄文土器の熱ルミネッセンス年代測定」

注21 研究委員・福島委員会「102『高岡駒方遺跡調査報告書』高岡市立高岡市立高岡高等学校地質歴史クラブ・高岡市立高岡工業高等専学校地質歴史クラブ・高岡市立高岡工業高等専学校地質歴史クラブO・高会

注22 井本泰一「松任市乾遺跡発掘調査報告書」A・C区下限編」財团法人石川県埋蔵文化財センター

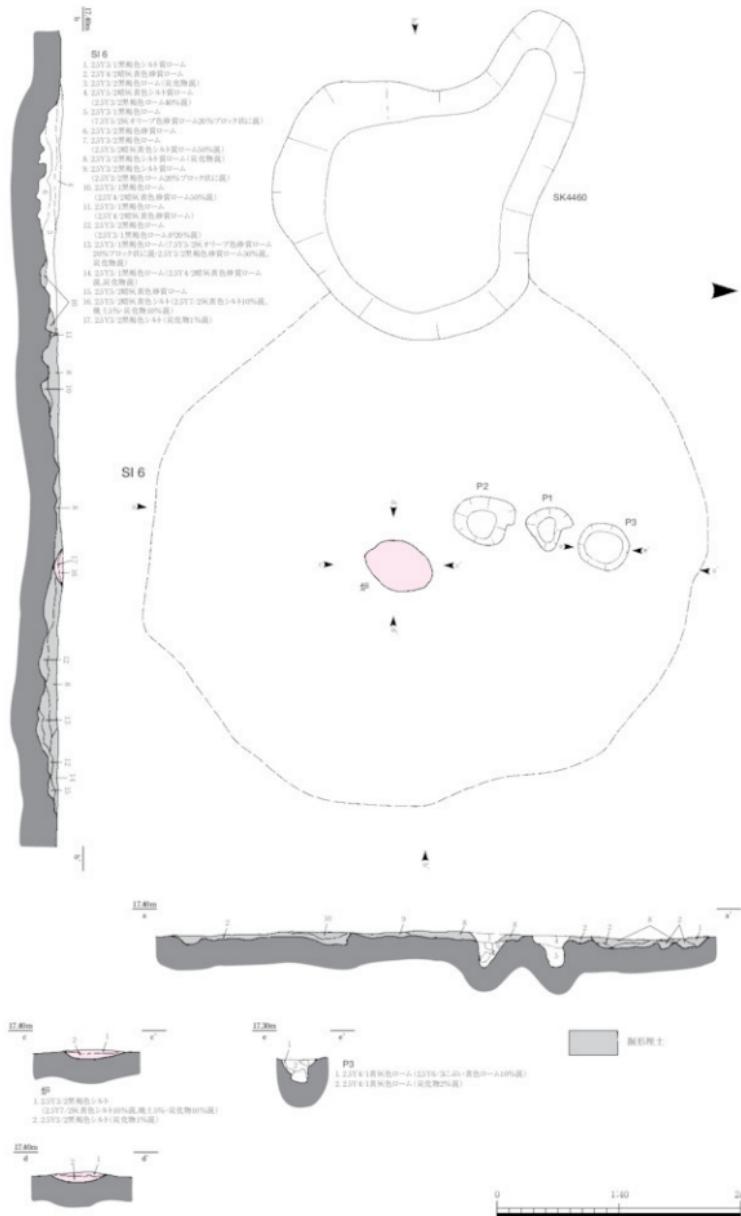


第36図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI4



第37図 遺構実測図 (1/40)

C4地区 SI5 SK4424・SK4427・SK4428・SK4431・SK4432・SK4513・SK4521



第38図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI6 SK4460

27は磨製石斧の未成品で円礫を敲打して整形する。石材は花崗閃綠斑岩。

8号建物（S I 8, 第32・40・45図, 図版12・29）

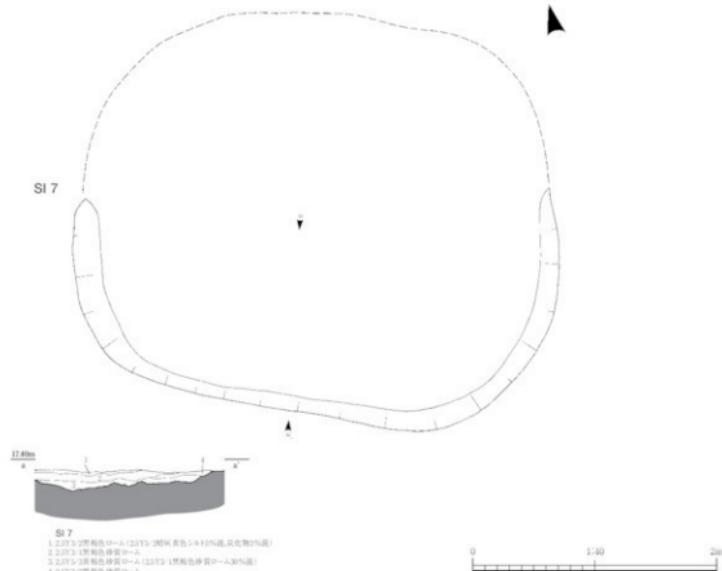
C 4 地区の南東で、建物群内では中央で S I 6 の南東に位置する。地床炉・柱穴・壁溝・掘形からなる。建物 A - 1 類。壁溝は全周しないが、北側で 3 条が切り合ひ建て替えが考えられる。柱穴は P 1 ~ 5 がありこれらが主柱穴と考えられるが、掘形のプランが不整形で明確ではない。P 1・2 は切り合ひ関係にあり、P 2 が新しい。地床炉は小さく単層で浅い。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C 年代を 2430 ± 40 BP と測定した⁽¹¹⁸⁾。遺物は床面上直から縄文土器片が出土している。

27は浅鉢 B - 1 類で、口縁端部をつまみ上げ、先の丸い棒状工具で沈線を施し、粘土粒を貼り付け突起状とする。内外面ミガキの後赤彩。内外面にススが付着し、祭祀的要素が窺える。底面は網代痕があり、1本超え 1本潜り 1本送りか。28は鉢 G 類。内外面ミガキ後ナデ。体部に黒斑が残る。

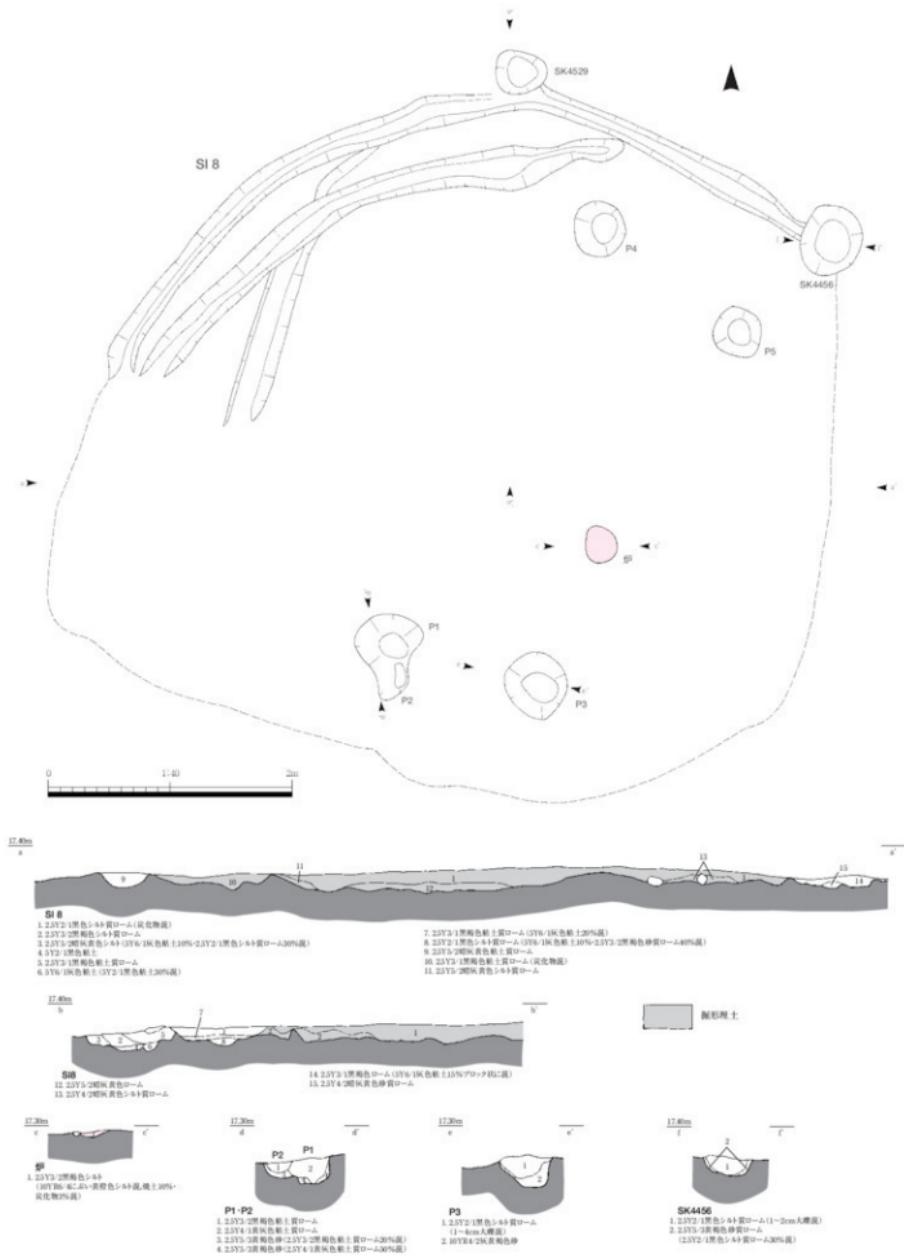
9号建物（S I 9, 第32・41図, 図版12）

C 4 地区の南東で、建物群内では南端に位置する。東の S I 10 と切り合ひ、地床炉と考える焼土・柱穴とみられる土坑群からなる。掘形は確認できなかった。建物 B - 1 類。地床炉は大型で深さは約 8 cm。柱穴と思われる土坑は数基有るが、主柱穴となるのは P 1 ~ 5 の 5 基で亀甲形になるものと考えられる。そうすれば新潟県で多く検出されている建物⁽¹¹⁹⁾と類似性が考えられる。他の土坑は S I 10 と重複しており、切り合ひ関係がはつきりしないことからどちらに所属するかは不明である。炉内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C 年代を 2560 ± 40 BP と測定した⁽¹¹⁸⁾。遺

22 朝日村元尾街道跡・新発田市村青田遺跡・長岡市春波遺跡などがある。



第39図 遺構実測図（1/40）
C4地区 SI7



第40図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI8 SK4456・SK4529

物は、土器等は出土していないが、焼土から骨片が出土している^(注24)。

10号建物（S I 10, 第32・41・46図, 図版13・31）

C 4 地区の南東で、建物群内では南端に位置する。西のS I 9と切り合う。東側は調査区外になっている。地床炉と考える焼土・柱穴とみられる土坑群からなる。掘形は確認できなかった。建物B-1類。柱穴と思われる土坑は数基有るが、主柱穴となるのはP 1・2の2基で、調査区外に2基を想定すれば4本となろうか。遺物は焼土・P 4から縄文土器片が出土している。

29は壺A-1類。外面は赤彩。口縁部に先の丸い棒状工具による波状文と平行沈線文（いずれも結節が見える押し引き）、肩部はミガキ。内面は貝殻によるヨコ条痕。立山町金剛新遺跡^(注25)・魚津市印田遺跡^(注26)に類例がある。土器の性格は、外面をミガキ後に赤彩していることから壺を意識したものではあるが、ススが付着しており煮炊きに使われた可能性が高い。土器の時期は晩期末葉の長竹式併行期と考える。

11号建物（S I 11, 第32・42・50図, 図版13・29・32）

C 4 地区の南東で、建物群内では南側に位置する。東側は調査区外になっている。地床炉と考える焼土、柱穴とみられる土坑群からなる。掘形は確認できなかった。建物B-1類。地床炉は小型で、深さは約4cmと浅い。柱穴と思われる土坑は数基有るが、主柱穴となるのはP 1～3の3基で他には確認できなかったが、東側の調査区外に延びS I 9同様に亀甲形になるものと考えられる。遺物は出土していない。S I 10南方のS K4485～4488は、縦に並ぶ深い柱穴で建物の一部または櫛と考えられるが、調査区の端であることから全容はつかめなかった。またS K4463～4465・4469～4471・4473とS K4461・4468・4478・4479・4509・4510は集中している柱穴で、建物になる可能性がある。遺物はS K4464・4478で縄文土器片が出土している。

40は浅鉢C類か。外面は先の丸い棒状工具で平行沈線を2条施し、ミガキ。内面は炭化物が厚く付着する。S K4464から出土。41は筒形F類。外面は幅の太く先の丸い棒状工具で平行沈線と工字状文を施す。内面はミガキの後ナデ。外面と口縁内部を赤彩する。体部から底部にかけて黒斑が残る。時期は乾遺跡の例から晩期末葉の長竹式併行期と考える。S K4478から出土。

12号建物（S I 12, 第32・43・46図, 図版14・30・31）

C 4 地区の南東で、建物群内では北側に位置する。S I 5・13と切り合う。地床炉と考える焼土、柱穴とみられる土坑群からなる。掘形は確認できなかった。建物B-1類。地床炉は不整形の大型で深さは約4cmと浅い。柱穴と思われる土坑は数基有るが、主柱穴となるのはP 1～5・7の6基で、亀甲形になるものと考えられる。遺物は地床炉上面・P 1・S K4424から縄文土器片が出土している。

30は深鉢G-1類で、口縁部に先の丸く幅の太い棒状工具で浅い平行沈線を3条施す。焼土直上から出土。31は浅鉢B-2類。外面は浮線風の綾杉文・波状文を施す。内面はミガキの後ナデ。外面と口縁内面に赤彩。焼土内より出土。32は深鉢F-1類で、指頭沈線4条を施し焼成後に穿孔している。P 1から出土。

13号建物（S I 13, 第32・43・46図, 図版14・32）

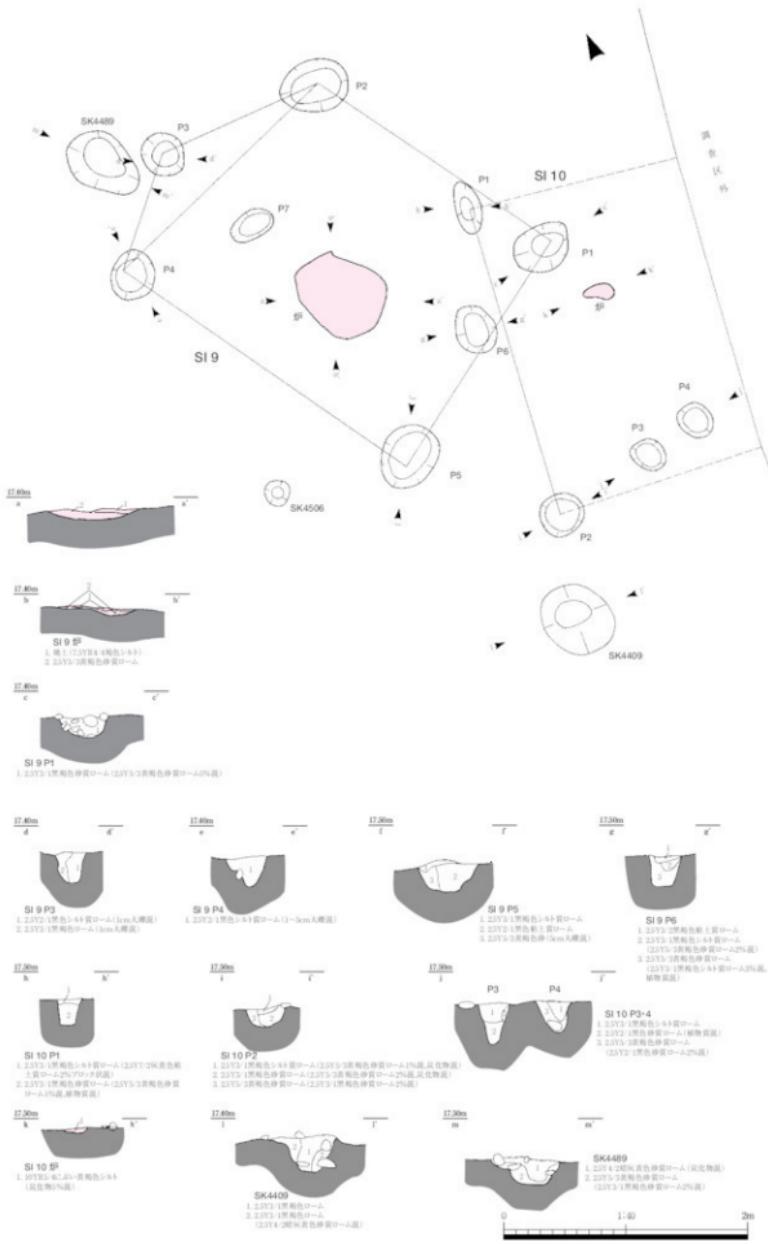
C 4 地区の南東で、建物群内では北側に位置する。S I 12と切り合う。地床炉と考える焼土・隅丸方形の掘形・柱穴とみられる土坑からなる。建物A-2類。地床炉は2箇所有り、いずれも浅く同じ埋土であるが、北の方が若干大きめである。柱穴とみられる土坑はP 1～3の3基が並び、4本主柱穴となろう。遺物は床面と考える地床炉確認面で縄文土器片がまとまって出土している。

33は壺A-2類で、浮線風の匹字文を2段以上施す。乾遺跡に類例がある。時期は晩期末葉の長

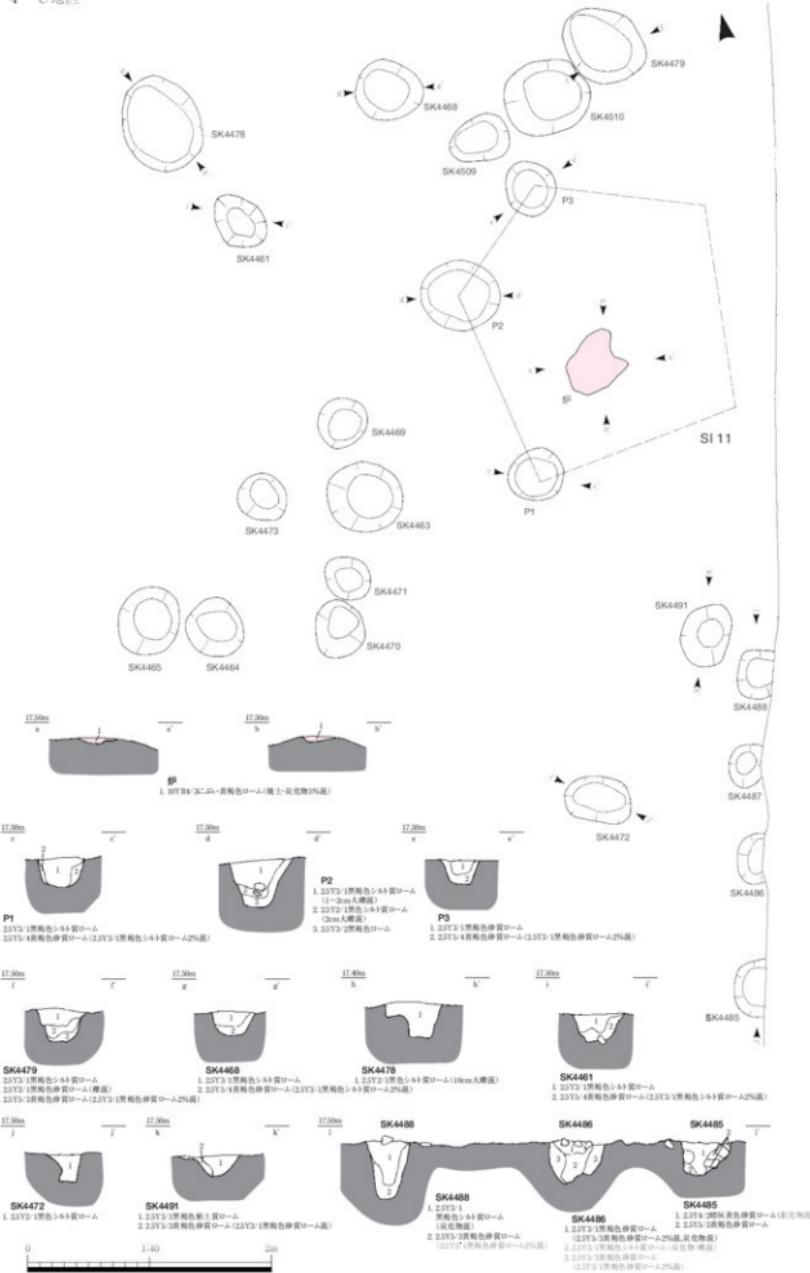
注24 第四章「自然科学分析」海式会社パレオ・クワ 黒澤一葉「骨片同定」

注25 田中正樹 1975『富山県立山町金剛新遺跡祭祀場と祭祀用陶器』立山町教育委員会

注26 麻野一志氏にご教示いただいた。高橋信一・安井和敏・麻野一志 1980『印田遺跡周辺説明会資料』魚津市教育委員会

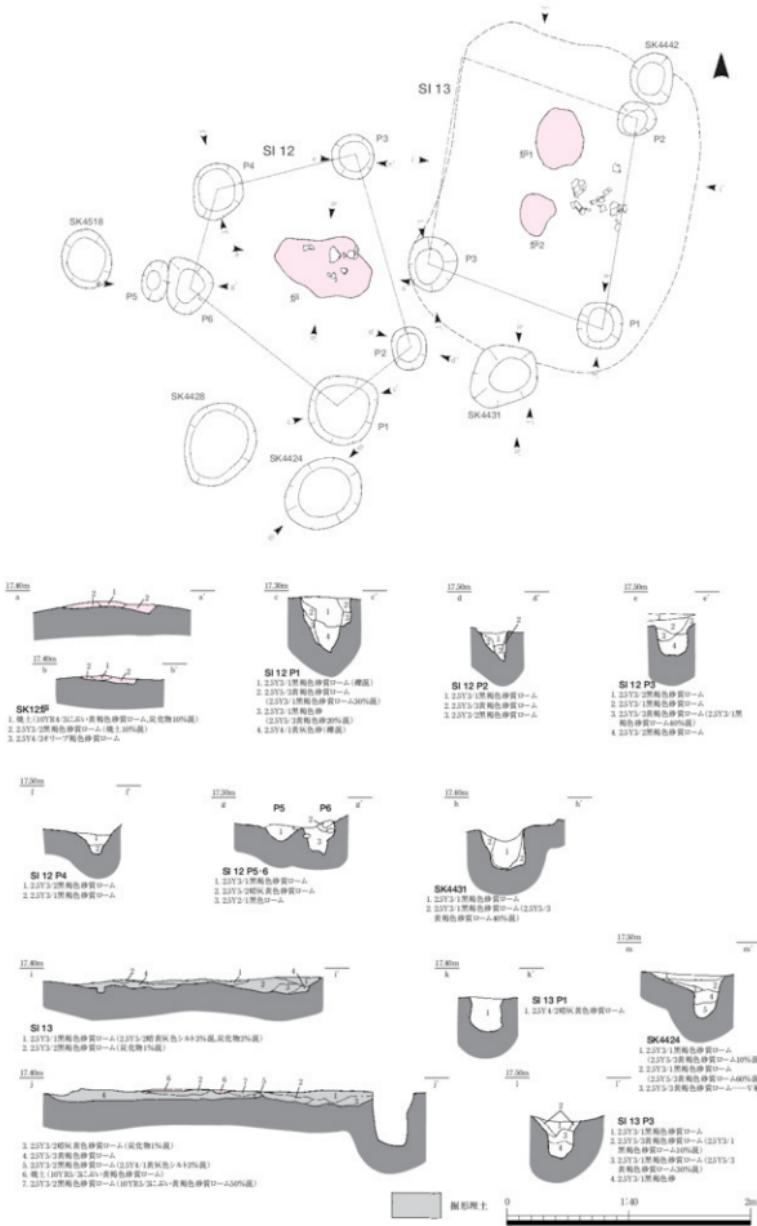


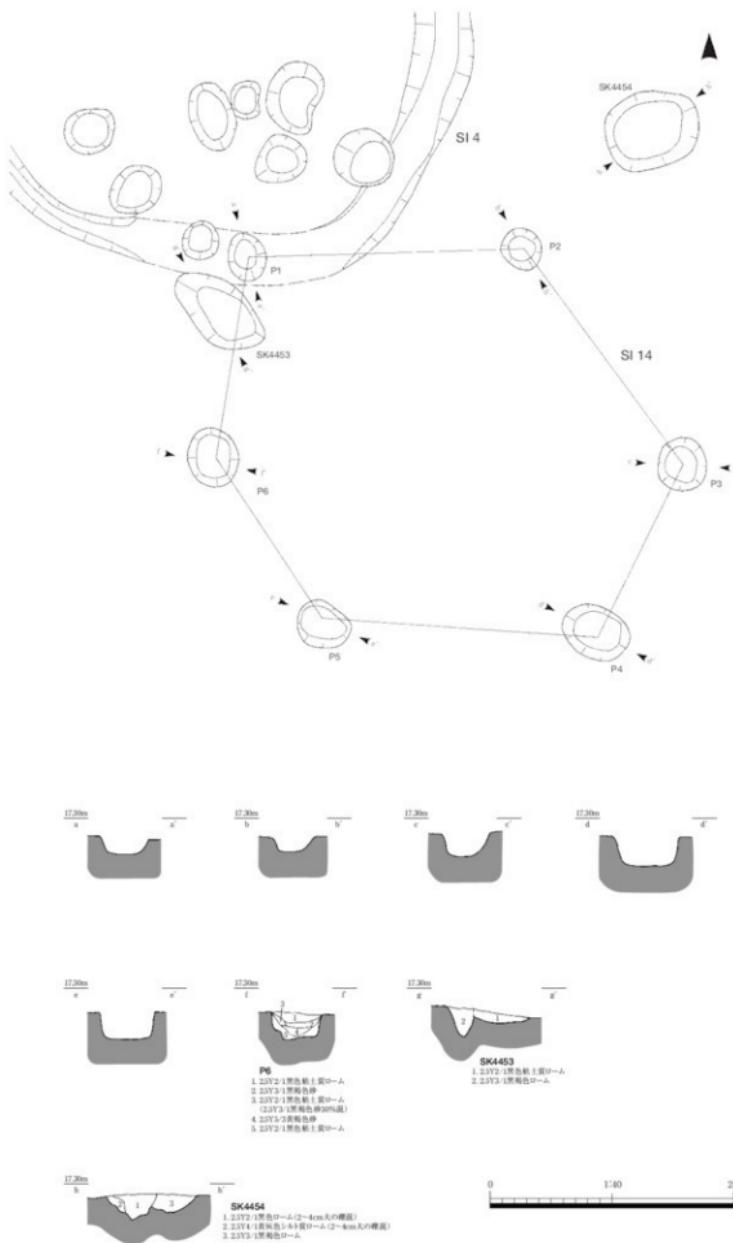
第41図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI9・SI10・SK4409・SK4489・SK4506



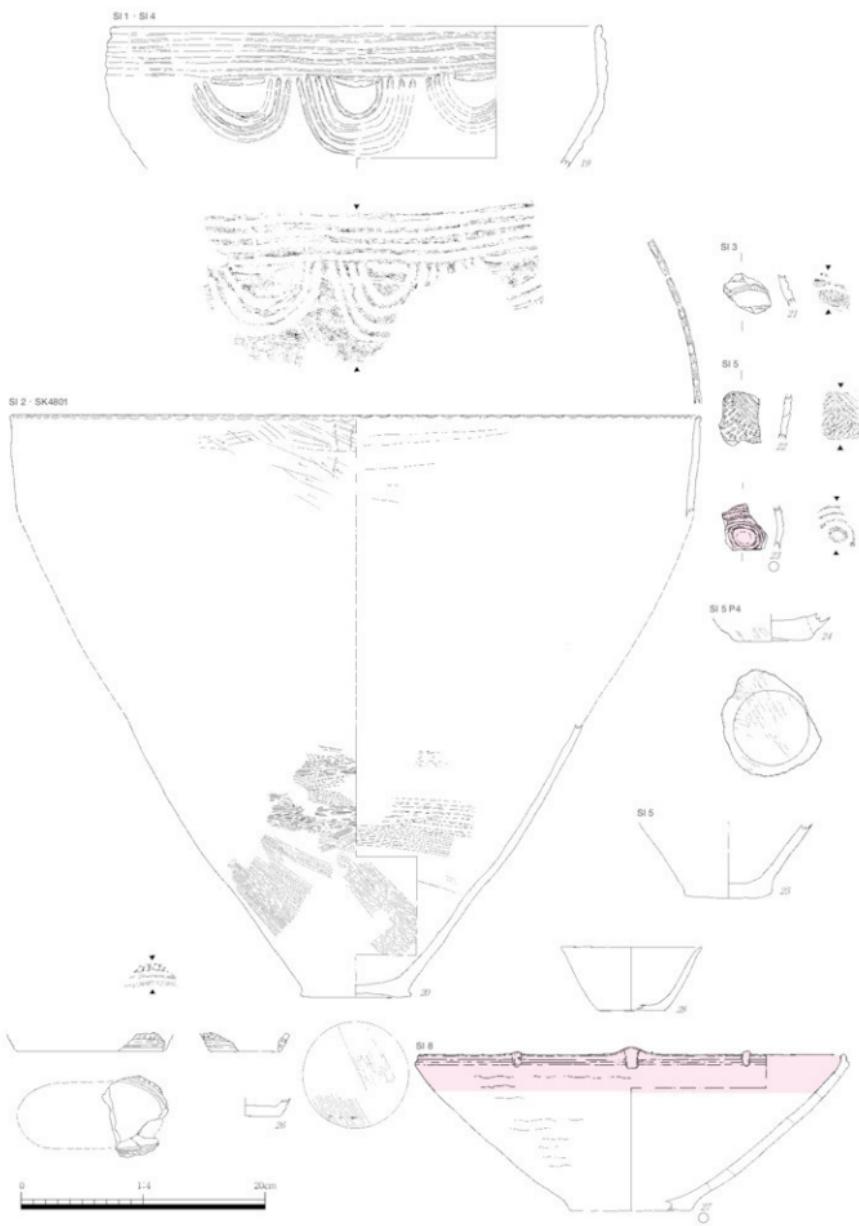
第42図 遺構実測図 (1/40)

C地区 SI 11 SK4461・SK4463・SK4465・SK4468・SK4473・SK4478・SK4479・
SK4485～SK4488・SK4491・SK4509・SK4510





第44図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SI14 SK4453・SK4454



第45図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SI1・SI4(19) SI2(20) SI3(21) SI5(22～26) SI8(27～28)

竹式併行期と考える。**34**は筒形B類で、先の丸い棒状工具で平行沈線を施す。外面にススが付着する。

14号建物（S I 14, 第32・44図, 図版15）

C 4 地区の南東で、建物群内では中央で S I 4 の南東に位置する。6基の柱穴からなり六角形を呈する。建物B-2類。中央に地床炉をもたず掘形も見られないことから、掘立柱建物と考えられる。形状から見ると環状木柱列をイメージするが、柱穴の掘形は浅く小さくそれを想定できる材料が少ない。6本柱の建物とすべきであろう。遺物は出土していない。

B 焼土

ここでいう焼土は掘形や周りに柱穴と考えられる土坑が無く、建物の地床炉とはなりえない単独のものを扱うこととする。

1号焼土（S O 1, 第32・47図, 図版15）

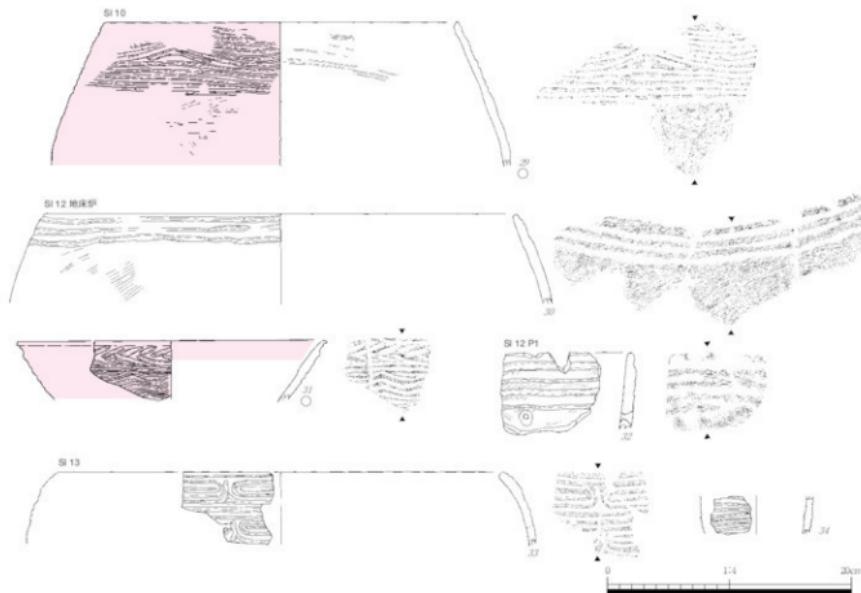
C 4 地区の南東で、建物群内では北東に位置する。ほぼ円形を呈する。深さは浅く4cm。遺物は焼土内より縄文土器片が出土している。屋外炉か。

2号焼土（S O 2, 第32・47図, 図版15）

C 4 地区の南東で、建物群内では北東に位置する。約半分をトレンチに切られるが、ほぼ円形を呈するものと考える。深さは約6cm。遺物は出土していない。屋外炉か。

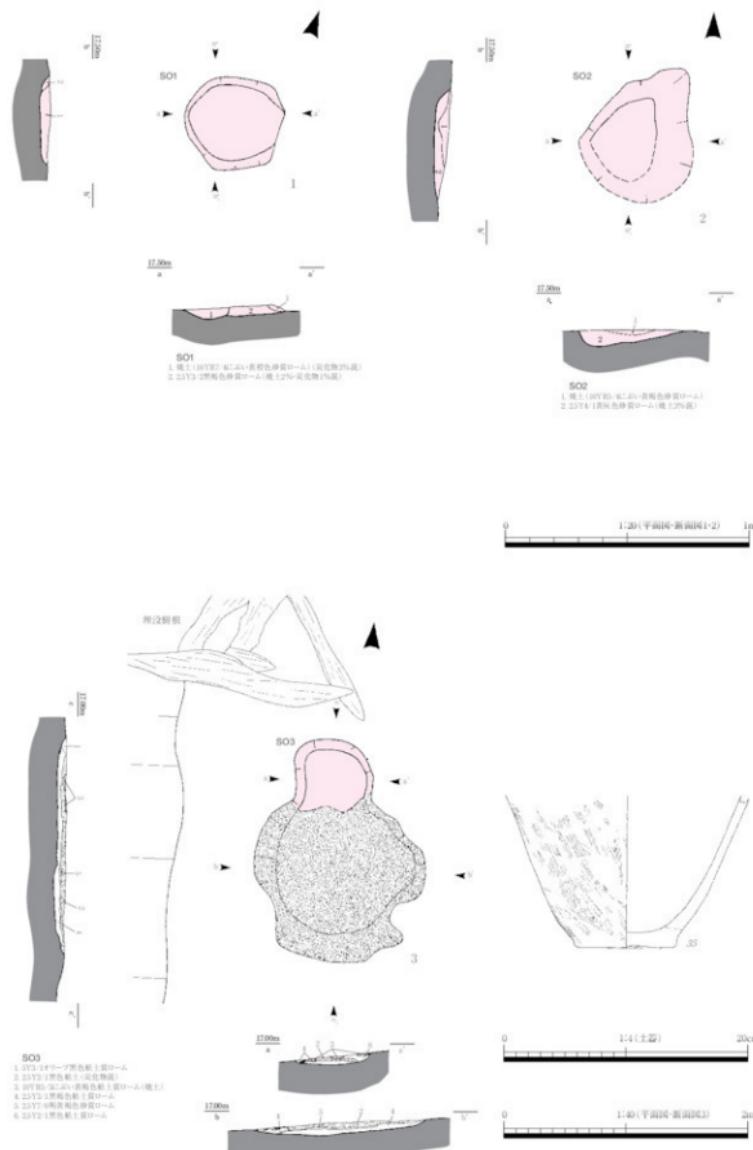
3号焼土（S O 3, 第32・47図, 図版15）

C 4 地区の南東で、自然流路の東肩部分で埋没樹根（バラ科）の南に位置する⁽¹²²⁾。瓢箪形を呈し、北側に焼土が集中し、南側は炭化物が広がる。埋土は上から焼土・炭化物・粘土層が堆積し、多くの種子や骨片と縄文土器片が含まれていた。この焼土遺構は、大きさや炭化物を多く含むことなど、他



第46図 遺物実測図 (1/4)

C4地区 S10(29) S12(30~32) S13(33・34)



第47図 遺構・遺物実測図 (1/20・1/40, 1/4)
C4地区 1.SO1 2.SO2 3.SO3

の焼土とは異なる性格をもっている。単に屋外炉というよりは、集団的に使用した施設と考えた方がよいのかもしれない。また立地が建物よりも少し離れ自然流路の肩部にあることから、祭祀的な意味合いも考えられる。焼土内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2620±60B P^(注21)、2490±40B Pと測定した^(注22)。焼土を熱ルミネッセンス年代測定（石英粗粒子法）したところ、2,400年前と測定した^(注23)。また骨片を鑑定したところ、魚類・カエル・ヘビ類・小型トリ・小型哺乳類が出土^(注24)しており、この集落の食生活の一端が窺える。

35は深鉢の体部下半から底部。外面はタテ条痕。内面は条痕の後にナデ。

4号焼土（S O4, 第32・48図, 図版16）

C 4地区の南東で、建物群の南西に位置する。半円に近い形を呈する。長軸1.1m、短軸0.7m。深さは4cmと浅い。埋土は3層で炭化物層に焼土を含む堆積となっており、粘質土。遺物は炭化物層から縄文土器片・種子・骨片が出土している。またこの周りに縄文土器が潰れた状態ではば10個体みられた（6号土器集中地点）。このことから、焼土の周りで集団で煮炊を行っていたのか、または集団で祭祀を行っていたのかが窺え、この集落の集団にとって特別な場所であったものと考えられる。焼土内の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2620±50B P^(注21)、2500±40B Pと測定した^(注22)。

C 土坑

土坑には貯蔵穴や廃棄土坑や柱穴などがある。ただしここでは建物の内部や付近にあり柱穴を考えるものは扱わないこととする。

4403号土坑（S K4403, 第49・50図, 図版18・32）

C 4地区的南西で、建物群の自然流路を挟んだ向かい側になる。ほぼ円形で2層の埋土からなる。長軸53cm、深さ21cm。埋土にはクルミ・エゴノキが入っており、貯蔵穴と考えられる。この他に縄文土器片が出土している。またS K4403～4405は建物域から離れ単独で立地していることから、建物域の土坑とは時期や用途などで異なる性格をもっているものと考えられる。

36は深鉢B類か。外面は摩滅して不鮮明であるが、右上がり条痕に細く先の尖った工具で平行沈線2条と押引列点文を施す。時期は晩期後葉下野式併行期か。

4404号土坑（S K4404, 第49・50図, 図版18・32）

C 4地区的南西で、建物群の自然流路を挟んだ向かい側になる。梢円形で単層の埋土からなる。長軸1.67m、深さ32cm。底面には木根が入っていた。埋土にはクルミ・エゴノキ・炭化物が入っており貯蔵穴と考えられる。この他に埋土上面から縄文土器片が出土している。

37は深鉢D－3類。38は深鉢の体部下半～底部で、内面に炭化物が付着する。

4405号土坑（S K4405, 第49図）

C 4地区的南西で、建物群の自然流路を挟んだ向かい側になる。不整形で5層の埋土からなる。長軸2.66m、深さ18cm。埋土には縄文土器片が入っていたがプランが一定せず、人為的なものではなく自然の落ち込みの可能性もある。

4419号土坑（S K4419, 第49・66図, 図版18・63）

C 4地区的東側で、建物群の北側に位置する。ほぼ円形で5層の埋土からなる。長軸1.4m、深さ50cm。埋土は下から順に人為的に埋められている。遺物は、打製石斧・縄文土器片・クルミが出土しており、貯蔵穴か廃棄のための土坑と考えられる。また建物からは少し離れているので、建物に伴うものではなく単独で機能していたものと考えられる。

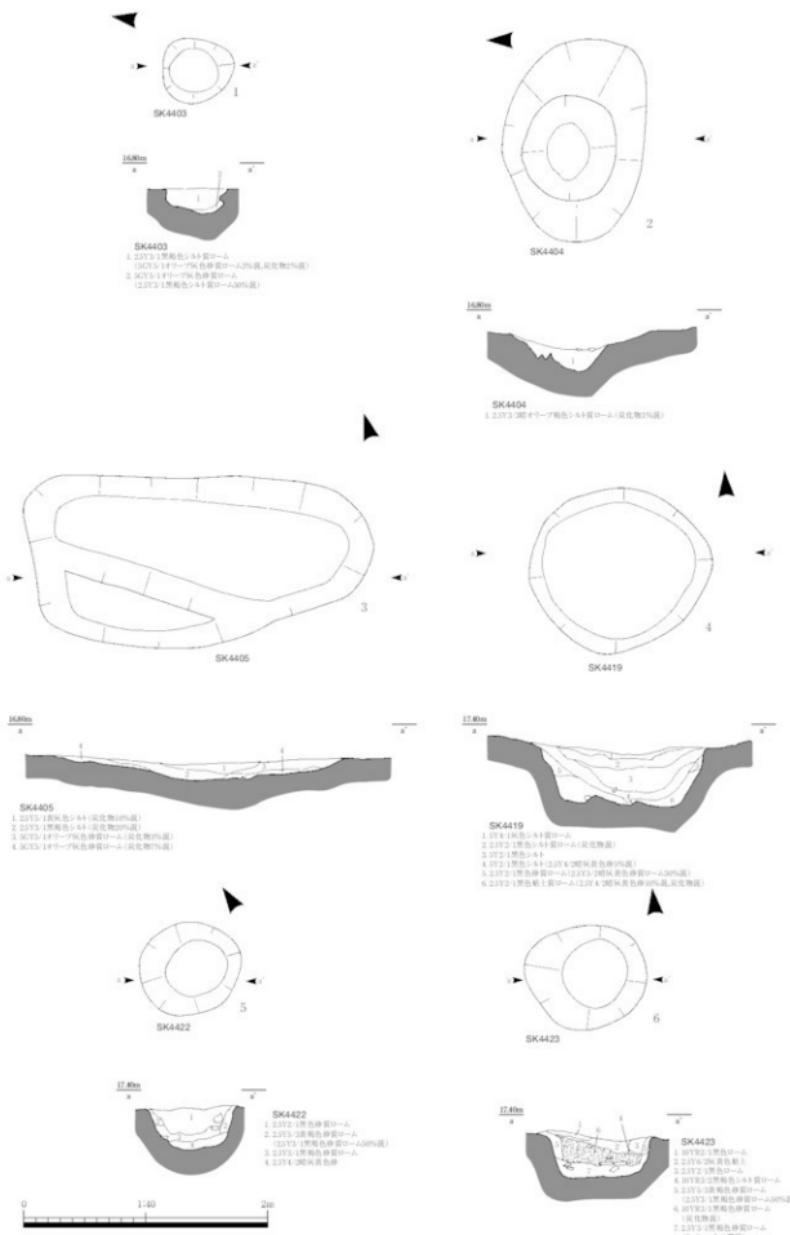
注21 集落Ⅱ 自然科学分析 株式会社古遺跡研究所「放射性炭素・流木の断年測定」

注22 集落Ⅱ 自然科学分析 株式会社古遺跡研究所「縄文時代自然遺物の放射性炭素年代測定」

注23 集落Ⅱ 自然科学分析 水友社人・株式会社古遺跡研究所「縄文時代焼土の熱ルミネッセンス年代測定」



第48図 遺構実測図 (1/20)
C4地区 SO4



第49図 遺構実測図 (1/40)

C地区 1.SK4403 2.SK4404 3.SK4405 4.SK4419 5.SK4422 6.SK4423

74・75は打製石斧の基部。74がc類、75がa類か。石材は74が凝灰岩、75が安山岩。

4422号土坑（SK4422, 第49図, 図版18）

C4地区の南東側で、建物群内に位置する。ほぼ円形で4層の埋土からなる。長軸83cm, 深さ36cm。遺物は縄文土器片が出土している。S I 3・12・13の北に隣接していることから、これらに関係した土坑と考えられる。

4423号土坑（SK4423, 第49・50図, 図版18・32）

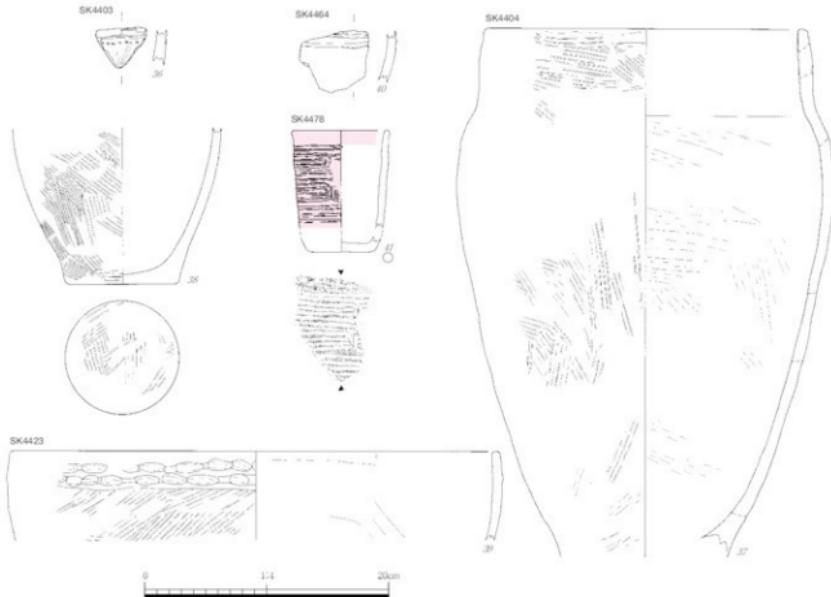
C4地区の南東側で、建物群内に位置する。ほぼ円形で7層の埋土からなる。長軸91cm, 深さ40cm。埋土の下層には縄文土器片の他、炭化物が集中していることから、廃棄以外に祭祀的な土坑とも考えられる。S I 3・12・13の北に隣接していることから、これらに関係した土坑と考えられる。

39は深鉢F-1類で、口縁部に指頭沈線3条とその間に押引状に指頭短線を施す。

D 自然流路

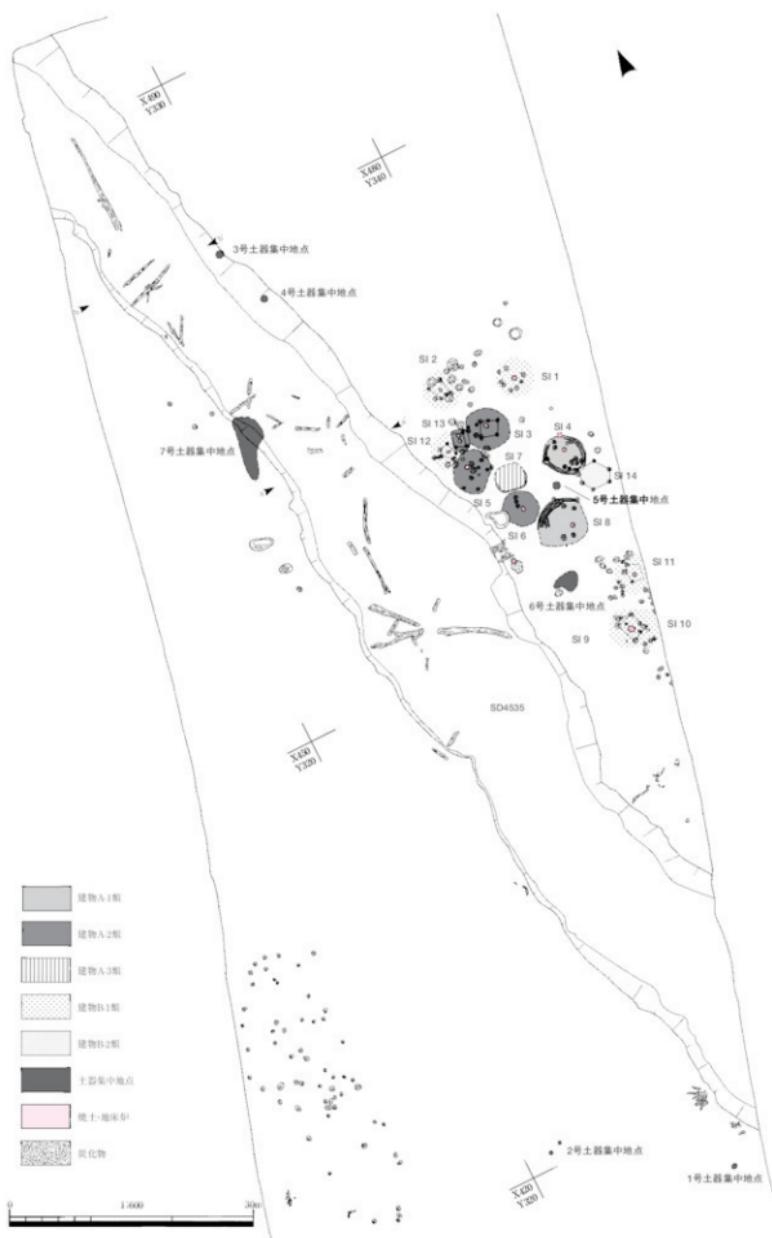
4535号自然流路（SD4535, 第29・51~54図, 図版19・29・32・33）

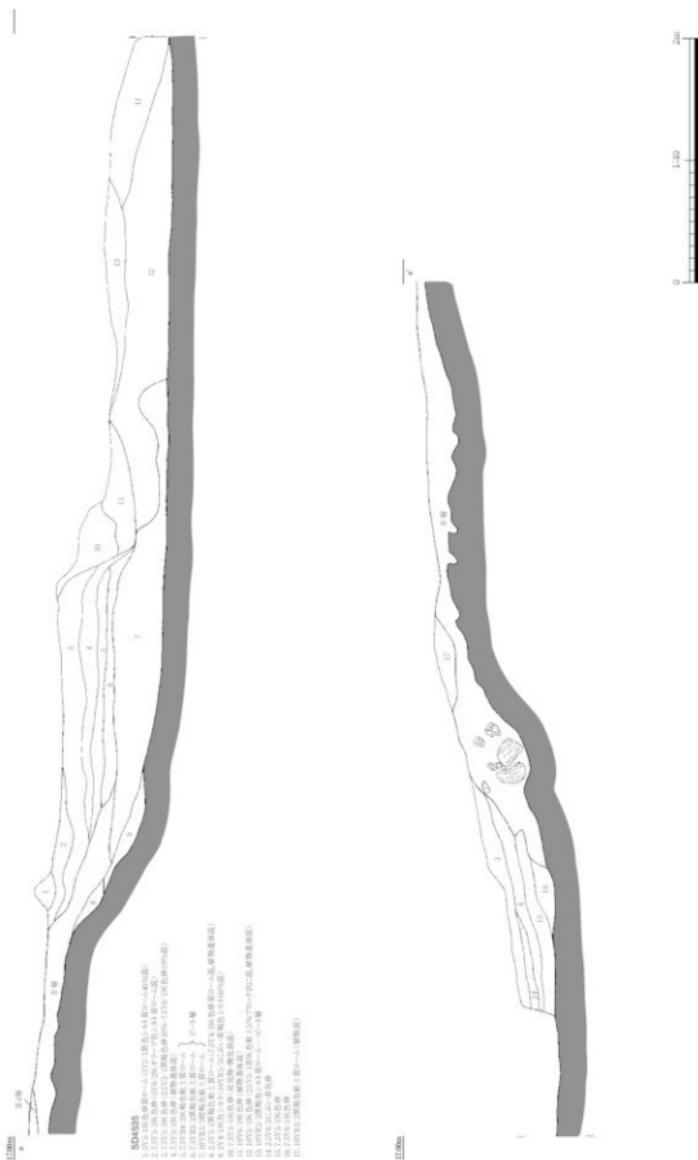
C3地区からC4地区の中央を南東から北西に流れる自然流路。幅は最大で20.3m, 深さは最大で1.48mを測る。何回か流れが変わっているようで、埋土に切り合いがみられる。底面は礫又は砂層で数箇所に湧水が見られた。埋土内には大型の樹木が多く倒れて見つかっている。これらはこの地に元々あった倒木か流木かは不明だが、樹種は多くがトネリコ属で他にヤナギ属がある。また肩部には埋没樹根が数点残り、樹種はバラ科・トチノキ・コナラ属アカガシ亜属・クリなど様々である^(注27)。遺物は埋土から縄文土器片や打製石斧が出土している。自然流路の東岸と西岸では出土する土器の様相が異なり、前者の方が後者に比べ新しい時期のものである。つまりこの自然流路を境に集落の時期が



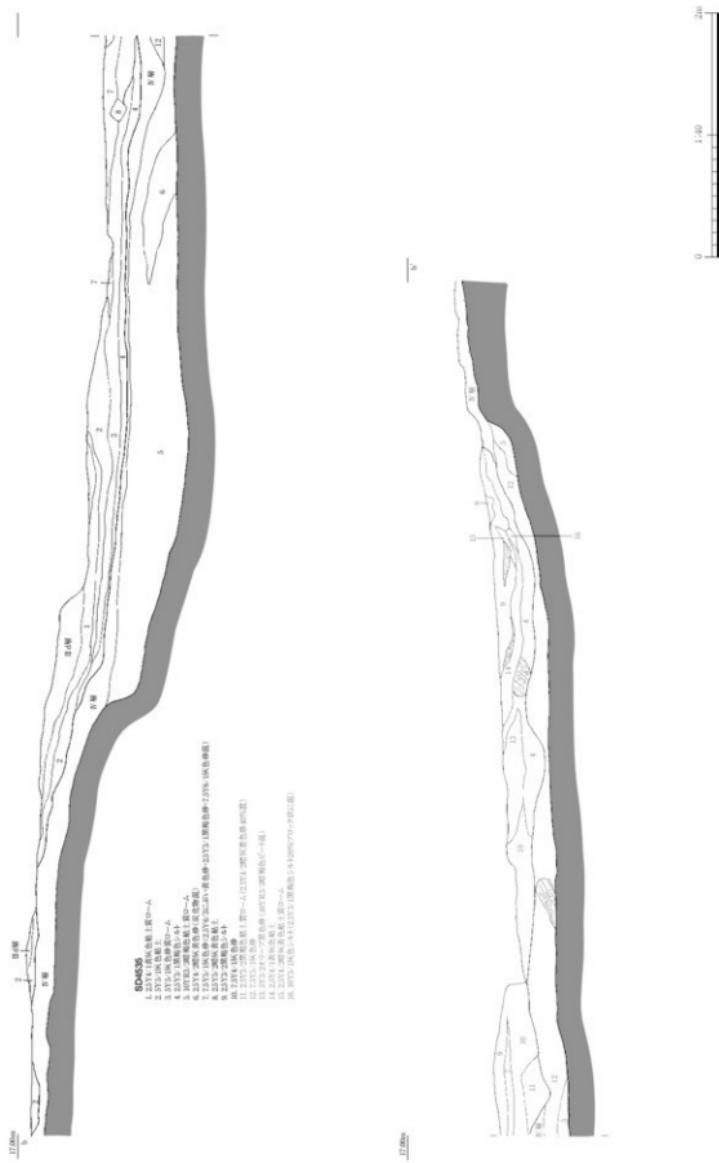
第50図 遺物実測図 (1/4)

C4地区 SK4403(36) SK4404(37・38) SK4423(39) SK4404(40) SK4478(41)





第52図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SD4535



第53図 遺構実測図 (1/40)
C4地区 SD4535

異なるものとなっている。そのためこの流路は川幅以上に大きな断絶を示すものなのであろう。なお現地にて埋没樹根の一部を切り取り放射性炭素年代測定を行ったところ、C 4 地区の自然流路東側のものが ^{14}C 年代を 2390 ± 50 B P (AMS法)、C 3 地区の自然流路西側のものが ^{14}C 年代を 2310 ± 60 B P (β 線法)と測定した^[128]。

42は深鉢C-3類で、底面に網代痕（スダレ状圧痕？）が残る。43は深鉢E-1類で、口縁部に指頭沈線4条、体部に左上がりの粗雑な条痕（草茎か）を施し、口縁部内面に指頭圧痕が残る。44は深鉢F-3類で、外面にススが付着する。45は底部で底面にスダレ状圧痕が残る。

E 土器集中地点

3号土器集中地点（第51・55・56図、図版17・34）

調査区北側で自然流路 S D4535の東肩に位置する。縄文土器1個体（46）が上からの圧力で潰れた



第54図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535



第55図 遺構実測図 (1/20, 1/8)
C4地区 1,3号土器集中地点 2,4号土器集中地点

3号土器集中地点



4号土器集中地点



第56図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 3号土器集中地点(46) 4号土器集中地点(47)

形で出土した。性格は正位で埋められた埋設土器。

46は深鉢E-3類で、口縁端部をユビオサエで外に折り返す。底面には2本超え2本潜り1本送りの網代痕が残る。

4号土器集中地点（第51・55・56図、図版17・33）

調査区北側で自然路S D4535の東肩に位置する。縄文土器1個体（47）が上からの圧力で潰れた形で出土した。3号土器集中地点同様に正位で埋められた埋設土器で、同じ性格を持つものと考えられる。

47は深鉢G-1類で、口縁部に棒状工具による平行沈線2条施す。時期は晩期末葉の長竹式併行期と考える。

5号土器集中地点（第51・57・59図、図版17・34）

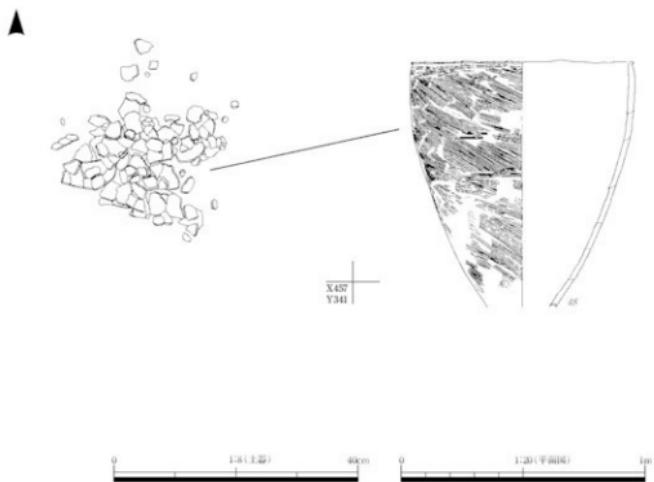
調査区南東のS I 4とS I 8との間に位置する。縄文土器1個体（48）が横位で潰れた形で出土した。埋設土器というよりは建物から廃棄されたものであろう。

48は深鉢F-3類で、口縁端部を面取りし、外に折り返す。

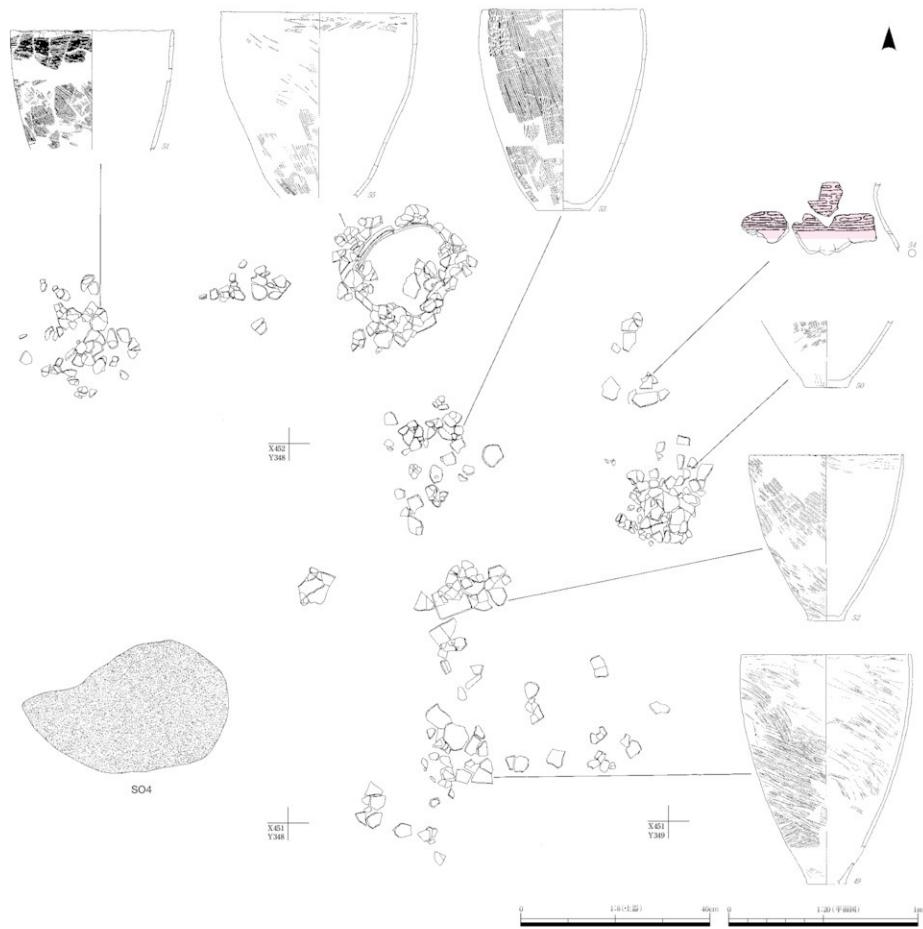
6号土器集中地点（第51・58～60図、図版16・34・35）

調査区南東でS O 4の周りに位置する。ほぼ10個体の土器が潰れ、S O 4を取り囲むように並んでいた。これらはS O 4を囲み祭祀を行った跡であろう。

49は深鉢F-3類で、底面にわずかに網代痕が残る。50は深鉢の底部で、底面に網代の後に条痕を施す。51は深鉢E-3類で、口縁端部にユビオサエと刻みを入れる。52は深鉢E-3類で、口縁端部をユビオサエ。53は深鉢F-3類で、底面を条痕。土器付着の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2690±40BPと測定した（図版18）。54は外面赤彩の壺B-1類。頭～肩部に指頭沈線と指頭短線を施す。頭～肩部の破片のみであるが、包含層出土のII2が同じタイプで、全体は同様であろう。55は深鉢E-3類。この土器のみ逆位で出土した。土器の時期は、条痕の深鉢

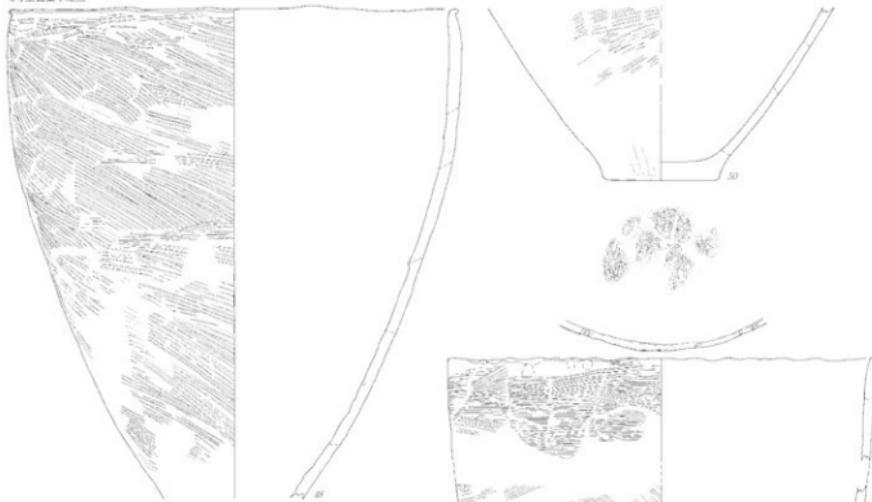


第57図 遺構実測図（1/20, 1/8）
C4地区 5号土器集中地点

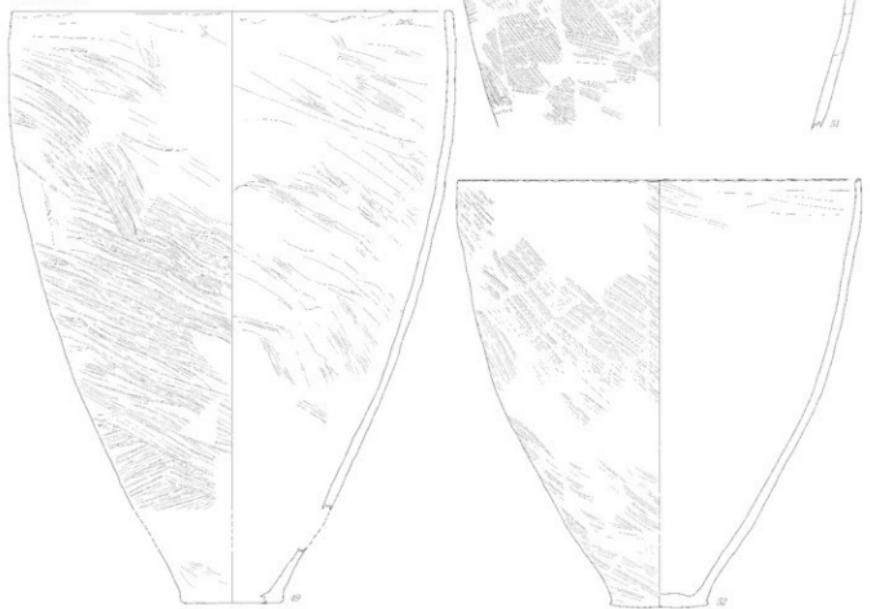


第58図 遺構実測図 (1/20, 1/8)
C4地区 6号土器集中地点

5号土器集中地点



6号土器集中地点

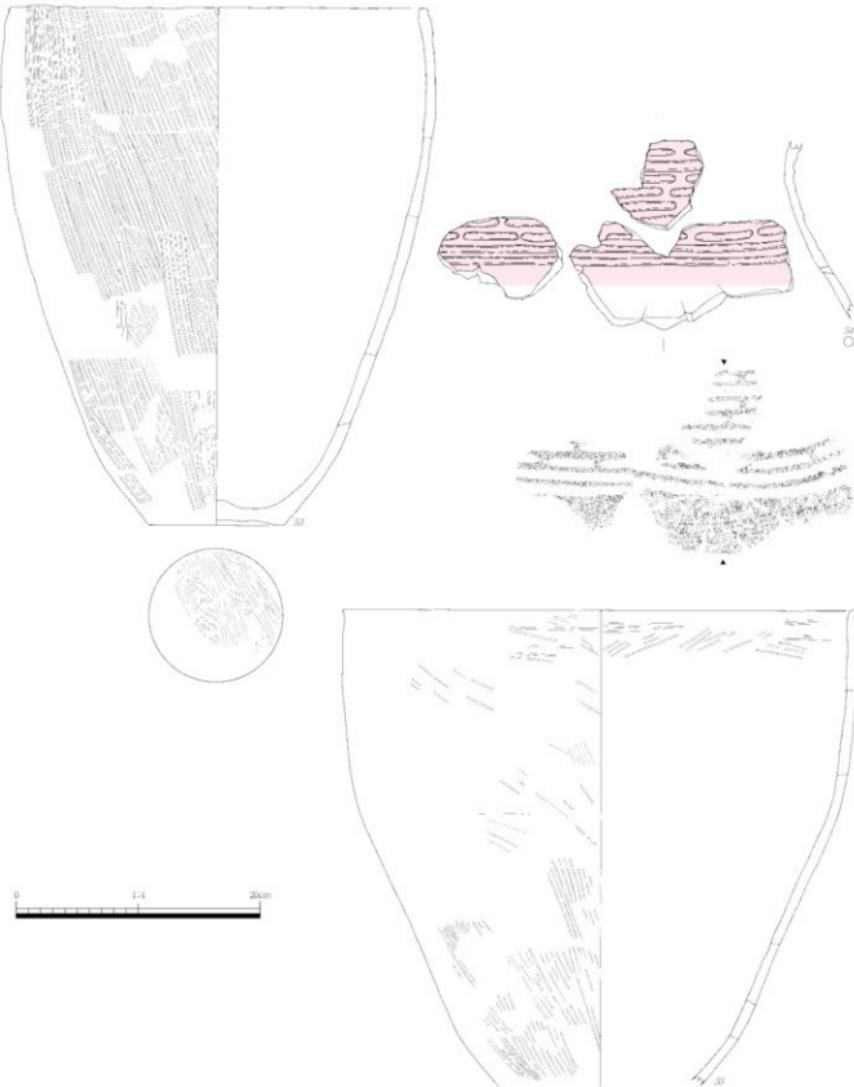


0 1/4 20cm

第59図 遺物実測図 (1/4)

C4地区 5号土器集中地点(48) 6号土器集中地点(49~52)

6号土器集中地点

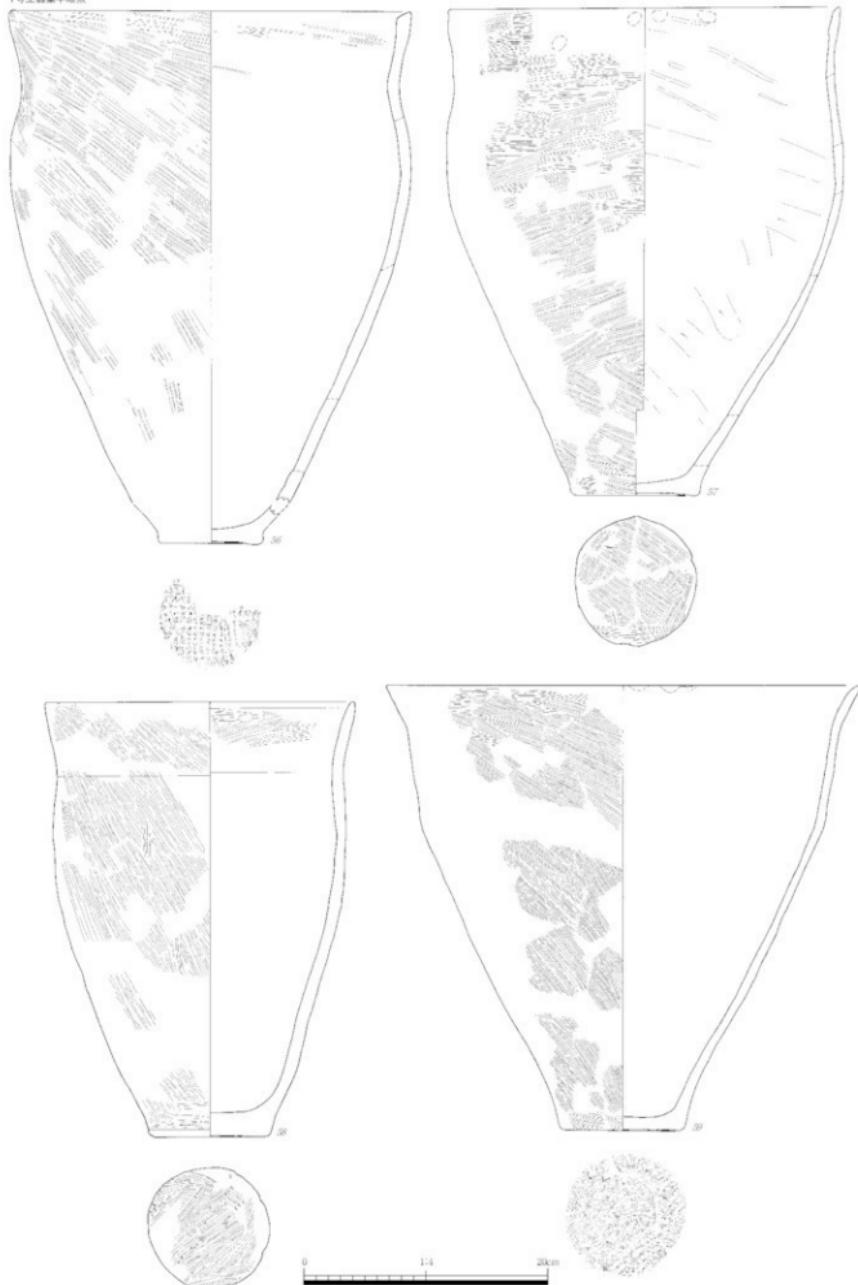


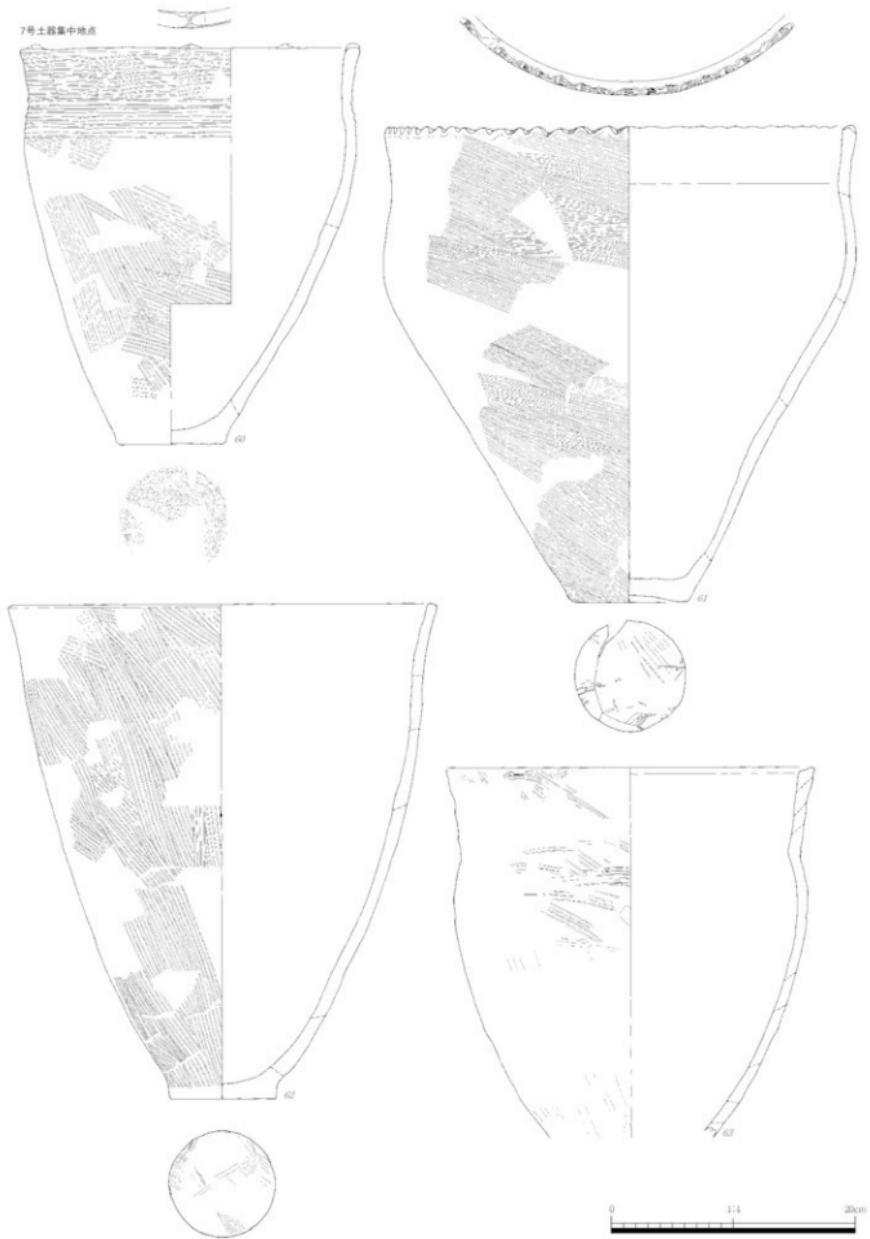
第60図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 6号土器集中地点



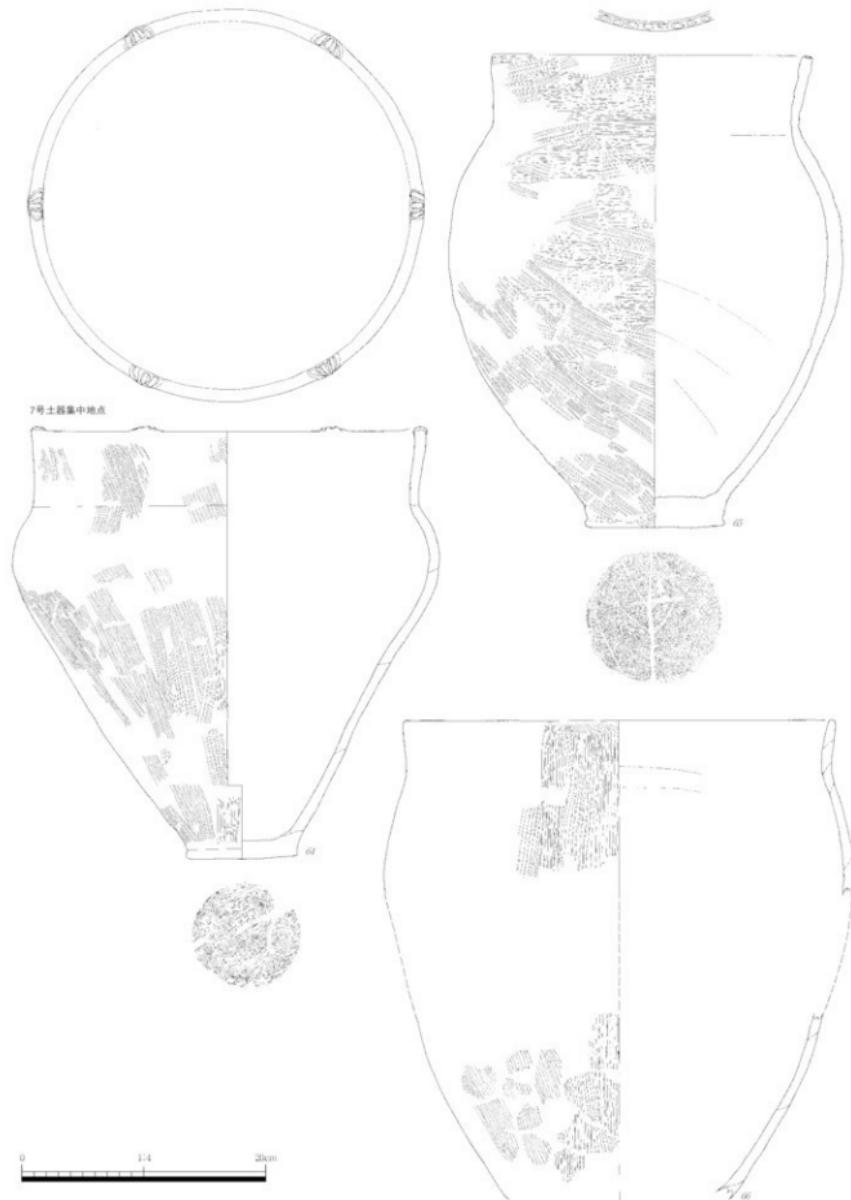
第61図 遺構実測図 (1/20, 1/8)
C4地区 7号土器集中地点

7号土器集中地点

第62図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 7号土器集中地点



第63図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 7号土器集中地点



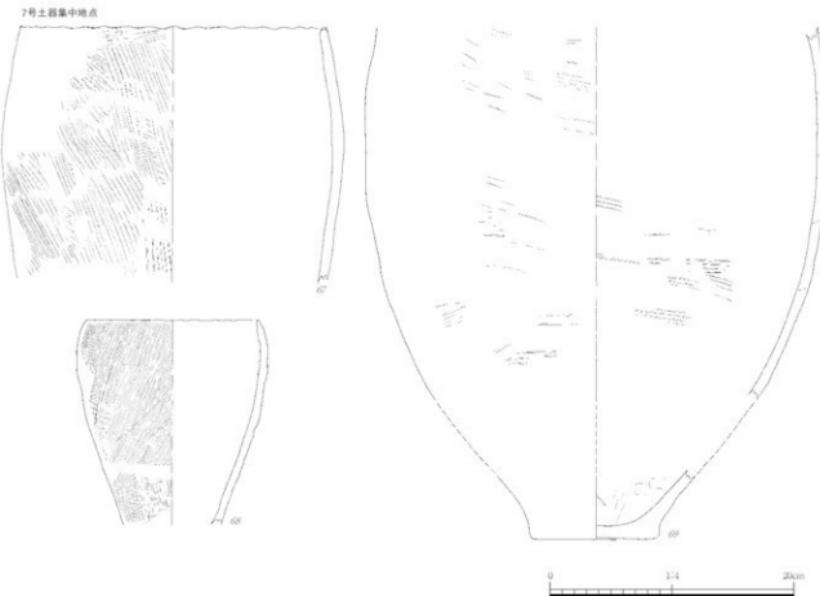
第64図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 7号土器集中地点

が大半であるため難しいが、54が指頭沈線・短線を施す壺であることから、晩期末葉の長竹式併行期となろう。53は縱方向の条痕を施す深鉢で、これより古い時期か。

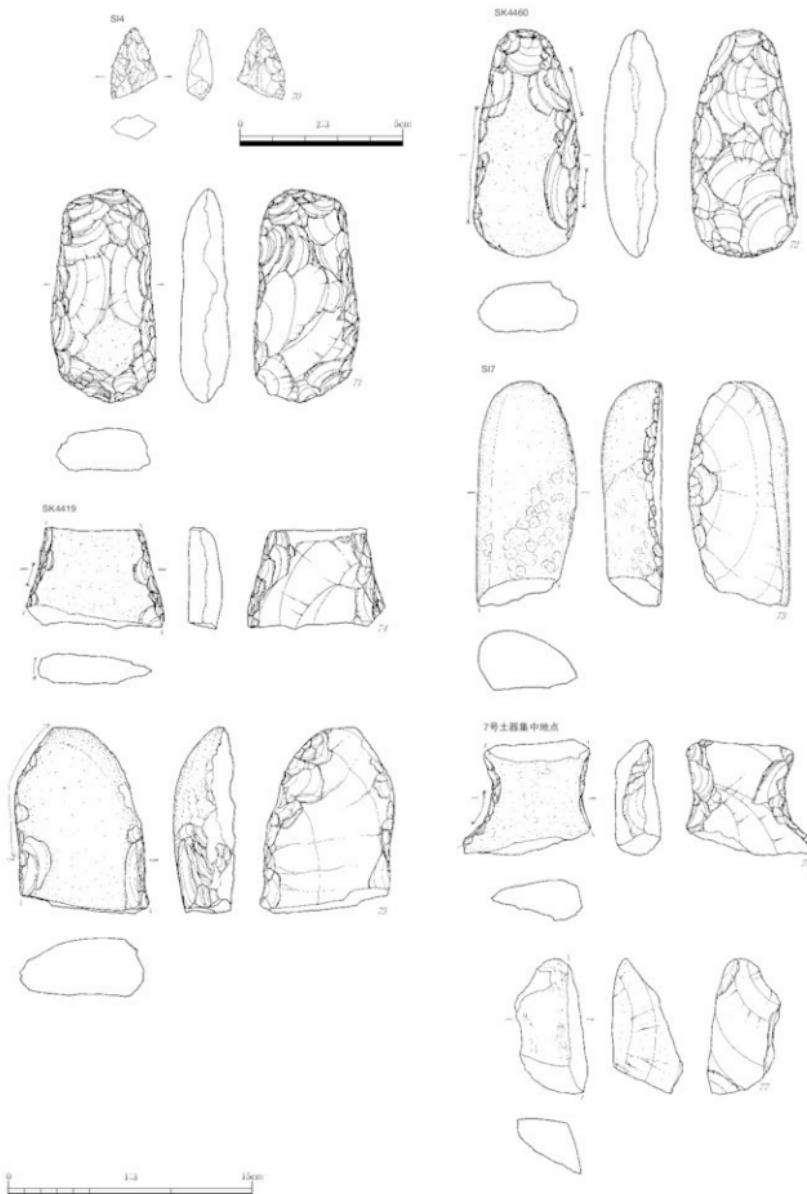
7号土器集中地点 (第51・61~66図、図版17・36~40・62)

調査区中央西側で、自然流路 S D4535の西肩に位置する。数多くの土器がS D4535の肩から底の方へ漬れた状態で出土した。遺構や故意に埋められた形跡もないので土器捨て場であろう。

出土した土器はいずれも深鉢。56・57・66はD-3類。56は底面にスタレ状圧痕が残る。57は口縁端部をユビオサエし、指頭圧痕が残る。底面にも条痕を施す。58・59・63はC-3類。58は底面を網代の後条痕を施す。59は底面に2本超え2本潜り1本送りの網代痕がある。60は肩部に平行沈線5条、口縁部に単位または文様を意識したとみられるヨコ条痕（貝殻）をきれいに施す。口縁端部は面取りし、A字状の突起を5箇所（3箇所を確認）に付ける。底面は網代の後ナデ。61はD-2類で、口縁端部を貝殻の押し引きによる刻みで小波状とする。底面は網代の後板状工具によるナデ。土器付着の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、 ^{14}C 年代を2630±40BPと測定した^(注18)。62はE-3類で、底面に工具痕が残る。土器付着の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、 ^{14}C 年代を2620±40BPと測定した^(注18)。64はD-2類で、口縁端部を面取りし、6箇所に山形（A字突起に棒状工具で3条の刺突を入れる）の突起を貼り付ける。底面は網代の後ケズリ。65はD-2類で、口縁端部に押引列点、底面に木葉痕が残る。土器付着の炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、 ^{14}C 年代を2760±40BPと測定した^(注18)。67はF-3類で、口縁端部をユビオサエし小波状とする。68はE-2類で、内外面にススや炭化物が多く付着する。69は口縁を欠損する深鉢でF-3類か。



第65図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 7号土器集中地点



第66図 遺物実測図 (70 2/3, 71~77 1/3)
C4地区 SI4(70・71) SI7(73) SK4419(74・75) SK4460(72)
7号土器集中地点(76・77)

土器の時期は、肩部に文様帶・斜めや縱方向の条痕・肩部で強く屈曲し、くの字状または直立気味の口縁のものが多いことから、自然流路 S D4535の東側にある土器集中地点よりも古い様相で、中屋サワ～下野式併行期に相当しよう。それは包含層出土遺物からも裏付けられる。そのためこの土器集中地点は、S D4535東側の集落に伴うものではなく、調査区外または跡跡外からもたらされたものであろう。つまり自然流路に漁労をしに来た人々がここで煮炊きもし、その後廃棄したものの跡であろう。

また土器と共に石製品も 2 点見つかった。76 は打製石斧の基部付近の破片で、c 類か。石材は溶結凝灰岩（濃飛流紋岩）。77 は砥石の破片。石材はアップライト。以上の石製品はいずれも破損品であり、使用後に土器と共に捨てられたのであろう。

(4) C 4 地区の包含層出土遺物

C 4 地区では、建物等の集落がある自然流路 S D4535の東側と 7 号土器集中地点がある西側とで時期や土器の様相が異なっていることから、包含層出土遺物は S D4535 の東西 2 つに分けて記述する。

A 自然流路 S D4535 東側包含層（第67～77図、図版40～47・62）

a 土器（第67～73図、図版40～47）

78～103・105・108 は深鉢。78 は D-3 類で、口縁端部を面取りする。79～86・89 は E-3 類。79 は口縁部に細く細かい条痕を施し、それ以下をケズリ風のナデ。80 は外面を左上がり条痕（草茎）の後に断面逆台形の 2 条 1 単位の右上がり沈線を数条施す。82・85 は口縁端部をユビオサエし、外面に折り返す。88・90 は F-3 類で、口縁端部を 88 が内外面ユビオサエ、90 が外面に折り返す。91～97 は口縁又は肩部に沈線文・押引列点文を施すもの。91・93 は E-1 類で、口縁部に先の丸い棒状工具による平行沈線を施す。桜町遺跡に類例がある^(注30)。92 は B 類で、肩部に先が平らな棒状工具による平行沈線 4 条を施す。94 は F-1 類で、口縁部に平行沈線文と押引短線を施す。95 は指頭沈線を 3 条施す。E-1 類か。97 は肩部に平行沈線と押引列点を施す。B 類か。98～103 は底部。98 は右上がりの後左上がり条痕（貝殻）を施し、格子目状とする。底面は 99 がスダレ状圧痕、100 は網代痕で 2 本超え 3 本潜り 1 本送りと 3 本送りが交互にあらわれるもの。103 が貝殻条痕、102 は網代痕で 2 本超え 2 本潜り 1 本送りか。105 は G-1 類で、先の丸い棒状工具で梢円工字文を 5 段施す。108 は G-1 類で、口縁部に太い棒状工具による平行沈線と梢円工字文？を施す。

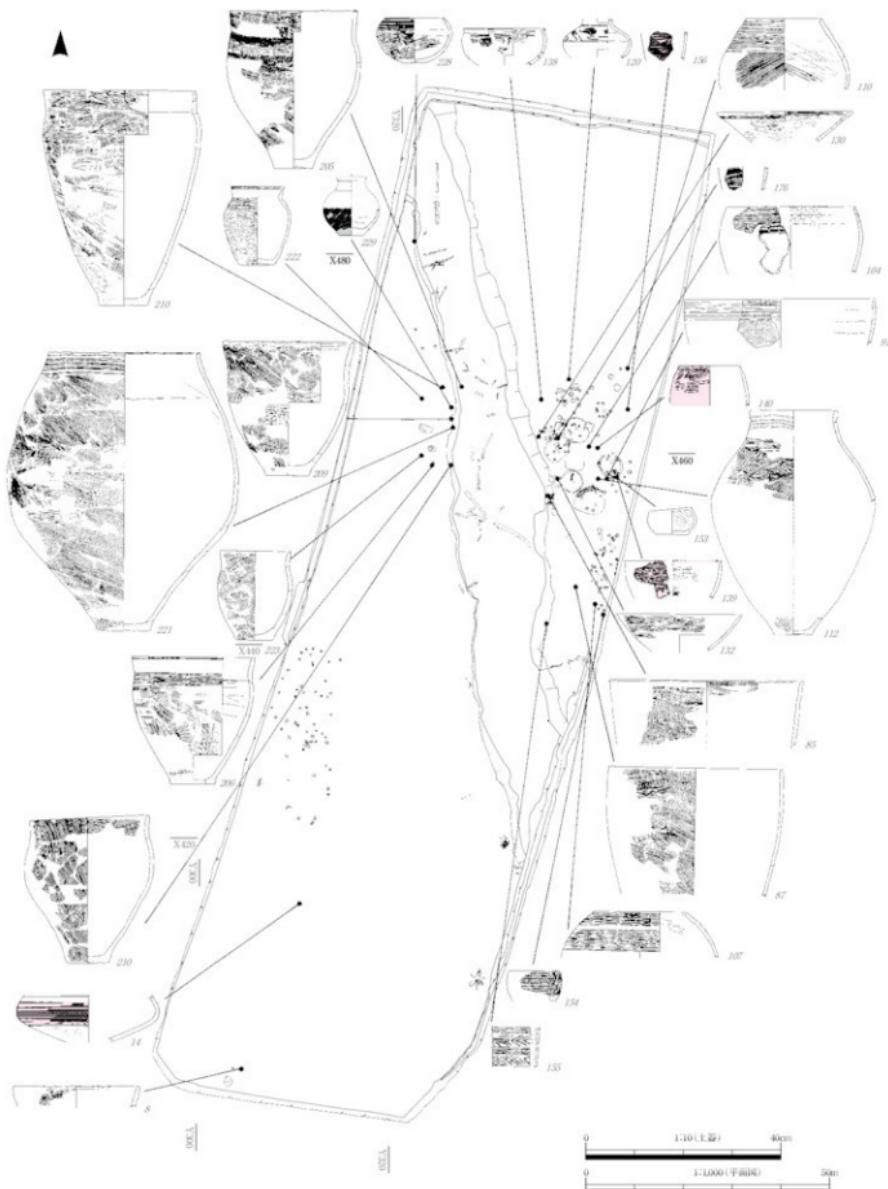
104・109・110 は壺 A-1 類。104 は口縁外面に太い棒状工具による平行沈線に下方から短沈線を施し、工字文風とする。乾遺跡に類例がある。口縁内面は、輪積み痕と指頭圧痕が残る。110 は口縁部に先の丸い棒状工具で平行沈線 10 条の後にミガキ。外面全体にススが付着しており、煮炊きに使われた可能性が高い。なお 104・110 は試掘調査^(注31) 出土の破片と接合した。106・107 は壺 A-2 類。106 は右上がり条痕（貝殻）の後、平行沈線 3 条を上下 2 段に施し、その間に連弧文 4～5 条を上下に背向して施し、赤彩する。107 は口縁部と肩部との 2 篓所に文様帶がある。口縁部は棒状工具により浮き彫りの浮線文風匹字文（断面は四角形）を 4 段に施す。肩部は口縁部と同じ工具で、平行沈線の間に三角若しくは菱形を削り浮線網状文風の文様を創出する。乾遺跡に類例がある。112 は口縁部から肩部と底部の破片で接合しないが、長胴の壺となろう。壺 B-1 類。調整は口縁部に指頭沈線 2 条、口縁端部に上方からユビオサエ、頭部に指頭短線 2 条を施す。底面は網代で 2 本超え 2 本潜り 1 本送り。白山市八田中遺跡^(注32)・野々市町押野タチナカ遺跡^(注33) に類例がある。117～119 は壺 C 類。117 は先の丸い棒状工具による押引列点と下開きの連弧文を施す。115 はこれと同類の破片。118 は口縁端部に隆帯を貼り付けユビオサエ、肩部に先の丸い棒状工具による平行沈線 3 条と連弧文 7～8 条を施す。119 は口縁端部に隆帯を貼り付け両側から指でつまみ上げる。肩部には 118 より細い工具で平

^(注30) 山森伸正 1967 「桜町遺跡－昭和改良工事に伴う東谷地区的調査－」 小矢部市教育委員会

^(注31) 沢山文庫 図版 5～9

^(注32) 丸山正弘 1968 「八田中遺跡」 石川県立加賀文化財センター

^(注33) 離山貴広 1969 「押野タチナカ遺跡・押野大塚遺跡」 石川県野々市町教育委員会

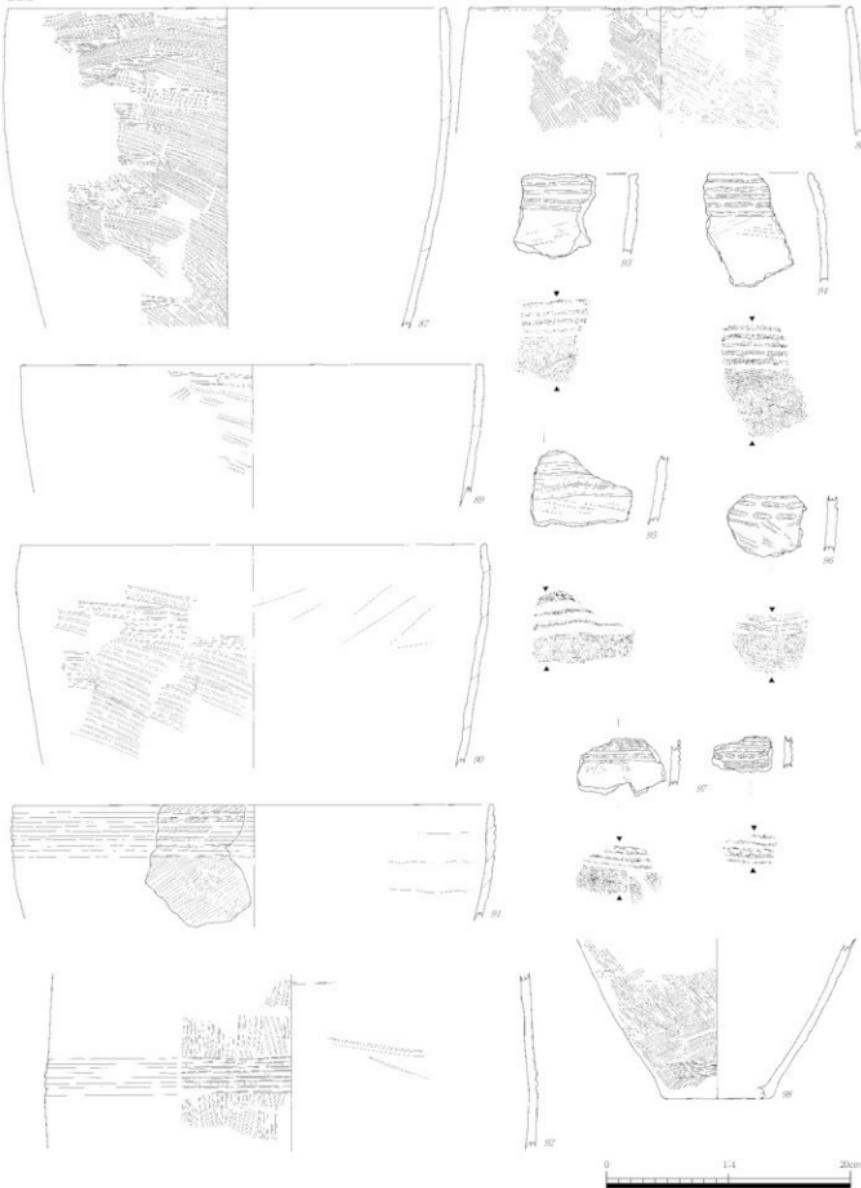


第67図 主な土器出土位置図 (1/1000, 1/10)
C3・C4地区 包含層

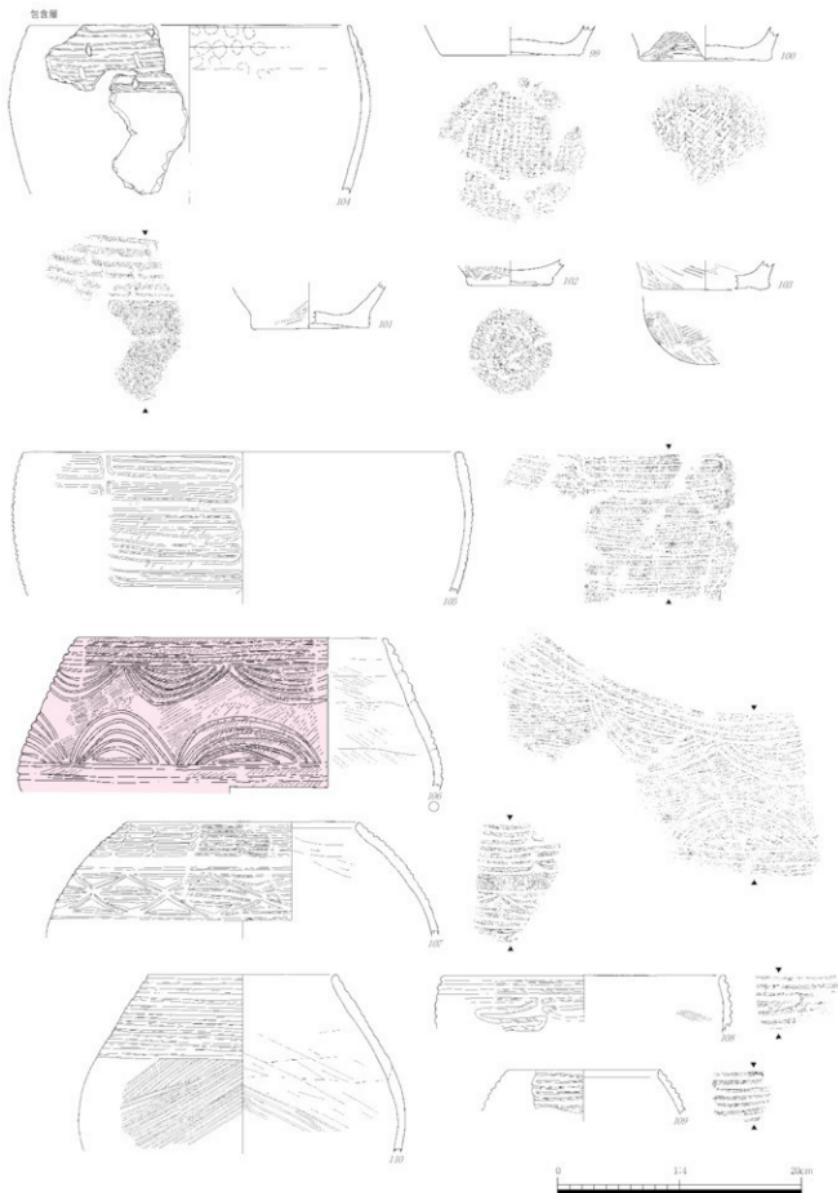


第68図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535東側包含層

包含層



第69図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535東側包含層



第70図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535東側包含層

行沈線 1 条と 2 条を施し、その間に連弧文 2 条を入れる。外面は赤彩。押野タチナカ遺跡・門前町道下元町遺跡⁽¹⁵⁴⁾に類例がある。I13 は口縁部に平行沈線と連弧文、口縁端部を外面に折り返す。I14 は太くて先の丸い棒状工具による連弧文 3 条を施し、外面を赤彩する。I16・I21 は口縁端部を面取りし、口縁部には先の丸い棒状工具による平行沈線・連弧文を施す。I20 は左上がりの細かい条痕の後、先の尖った工具による沈線文（菱形文他）を施し、ミガキ。I22 は指頭沈線による平行沈線 2 条以上と連弧文 3 条を施す。形状は I12 のようなものになると考える。壺 B-1 類か。I23 は剥落した突帯部でユビオサエする。全体は I18 のようなものと考える。I24 は頸部の破片と考えられ、細い沈線の連弧文？を施す。外面は赤彩のように褐色化している。I25 は先の平らな棒状工具による平行沈線 5 条を弧線で区切り、梢円工字文風にした破片。I26・I27 は上げ底状の底部。I26 は黒斑が残る。I27 は外面赤彩。

I28～I39・I45 は浅鉢。I28・I30・I31・I33・I34 は B-3 類。I28 は口縁内外面に浮線文風の平行線を施す。I30 は内外面ミガキで黒色化し、黒色処理したものと考える。口縁は外面に先の丸い棒状工具による平行沈線を 2 条ずつ施す。I31 は外面に平行沈線 3 条以上、内面に突帯を貼り付け、浮線状とする。文様の下には焼成後穿孔がある。I33 は内外面に浮線文風匹字文を施す。I34 は I33 と同類。I29 は B-4 類で、外面ミガキ、口縁端部を面取りし、外面に折り返す。I32・I36 は B-2 類。I32 は太く先の丸い棒状工具で梢円工字文や平行沈線を施す。I36 は先の丸い棒状工具で浅い平行沈線と三角文を施す。口縁外面は赤彩するが、外面ススが付着し、祭祀的用途が窺える。富山市吉岡遺跡⁽¹⁵⁵⁾に類例がある。I35 はヨコ条痕（貝殻）の後、先の丸い棒状工具で平行沈線と押引短線を施す。破片のみなので深鉢かもしれない。I37・I39 は C 類。I37 は波状の口縁端部に指頭沈線 2 条と先の丸い棒状工具で連弧文 3 条を施す。I39 は浅鉢 C 類で、左上がりの後右上がり条痕（貝殻）、その上に棒状工具で浅い連弧文を施し、赤彩する。口縁端部は面取りし外面につまみ出す。試掘調査出土のものと接合した⁽¹⁵⁶⁾。I38 は浅鉢 F 類で、細い沈線で平行沈線と梢円工字文を施した後、ミガキ。胴部には焼成後の穿孔がある。

I09・I11・I40～I53 は鉢。I09・I40・I41 は E-1 類。I09 は浮線文風匹字文（断面は四角形）を 3 段以上施す。I40 は太い棒状工具で平行沈線とその間に連弧文 2 条を施す。外面は赤化し赤彩か。試掘調査出土のものと接合した。I41 は棒状工具による浅い平行沈線 3 条と連弧文 3 条を施し、外面を赤彩する。外面にはススが付着する。I11 は無文の鉢 E-2 類。内外面共にススや炭化物が厚く付着する。口縁部には大きく剥離した痕跡があり、突帯が付いていた可能性がある。I42 は C-1 類。I43・I44 は小破片でいずれも赤彩し、筒形の可能性がある。I43 は隆帯を貼り付け両側から指でつまみ上げる。I48～I51 は鉢 C-2 類。I48 は内外面ススが付着する。I50・I51 はミガキの後赤彩し、筒形の可能性がある。I52 は底部に綻に 3 条 1 単位と横に 1 条の細い沈線を施す。I53 は F 類で、外面はミガキの後口縁と底部に赤彩。

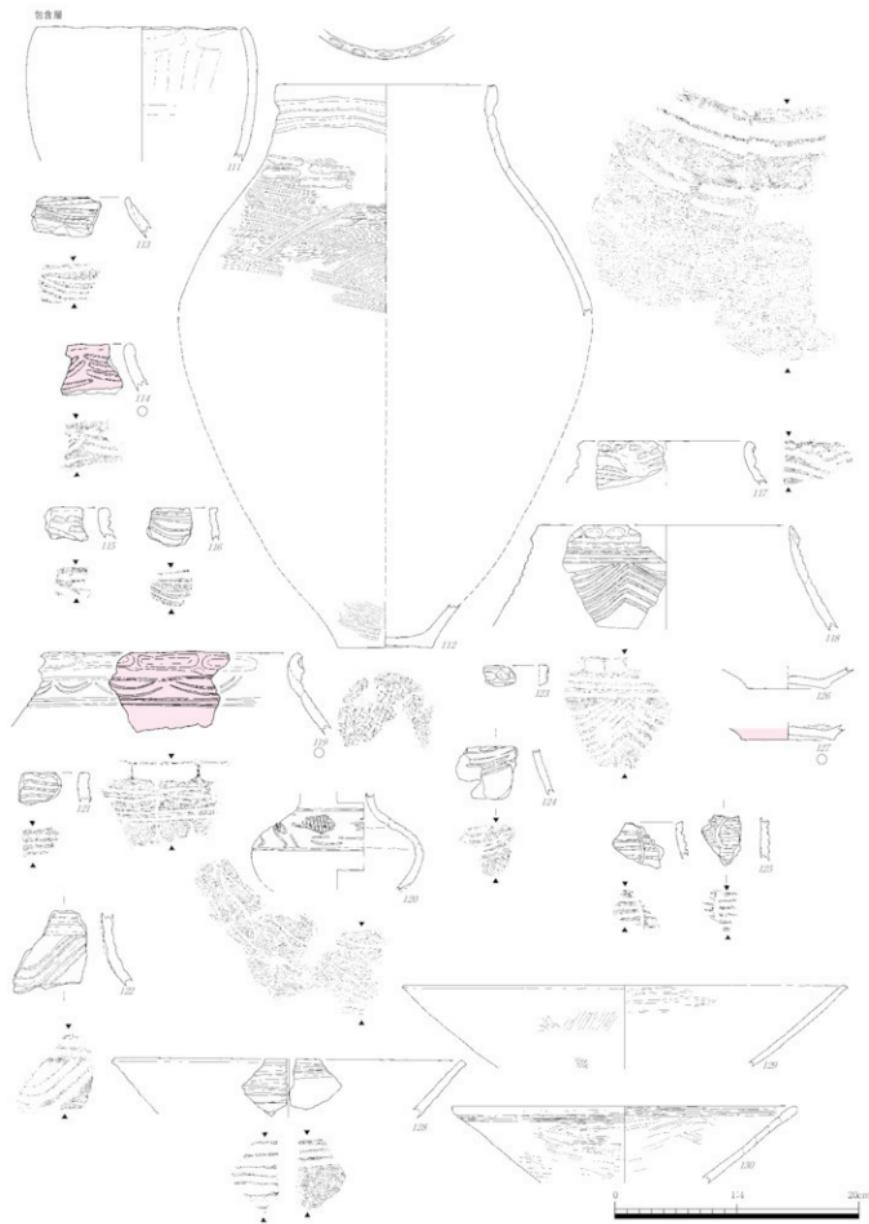
I54 は舟形で、先の丸い棒状工具による 3～4 条の梢円区画を 3 単位、区画内を短沈線で埋める。

I55～I79 は筒形。I55 は先の丸い棒状工具で平行沈線 3 条を 2 段以上施し、その間に矢羽根状の沈線文（綾杉文）を入れる。H 類。外面は磨いて黒色化する。内面は輪積み痕が明瞭に残る。内外面共にススが付着し祭祀的用途が窺える。乾遺跡に類例がある。I56 は先の細く丸い棒状工具で菱形文を重ねて浮線網状文風に施し、外面を赤彩する。I 類。I57 は外面と口縁内面を赤彩する。C 類。I58～I63 は眼鏡状隆帯をもつ G 類。I59 は外面を赤彩。I61 は内外面赤彩。I63 は眼鏡状隆帯内部を穿孔する。I64 は先の丸い棒状工具で平行沈線を横 3 条・綻 3 条施し、外面と口縁内面を赤彩。

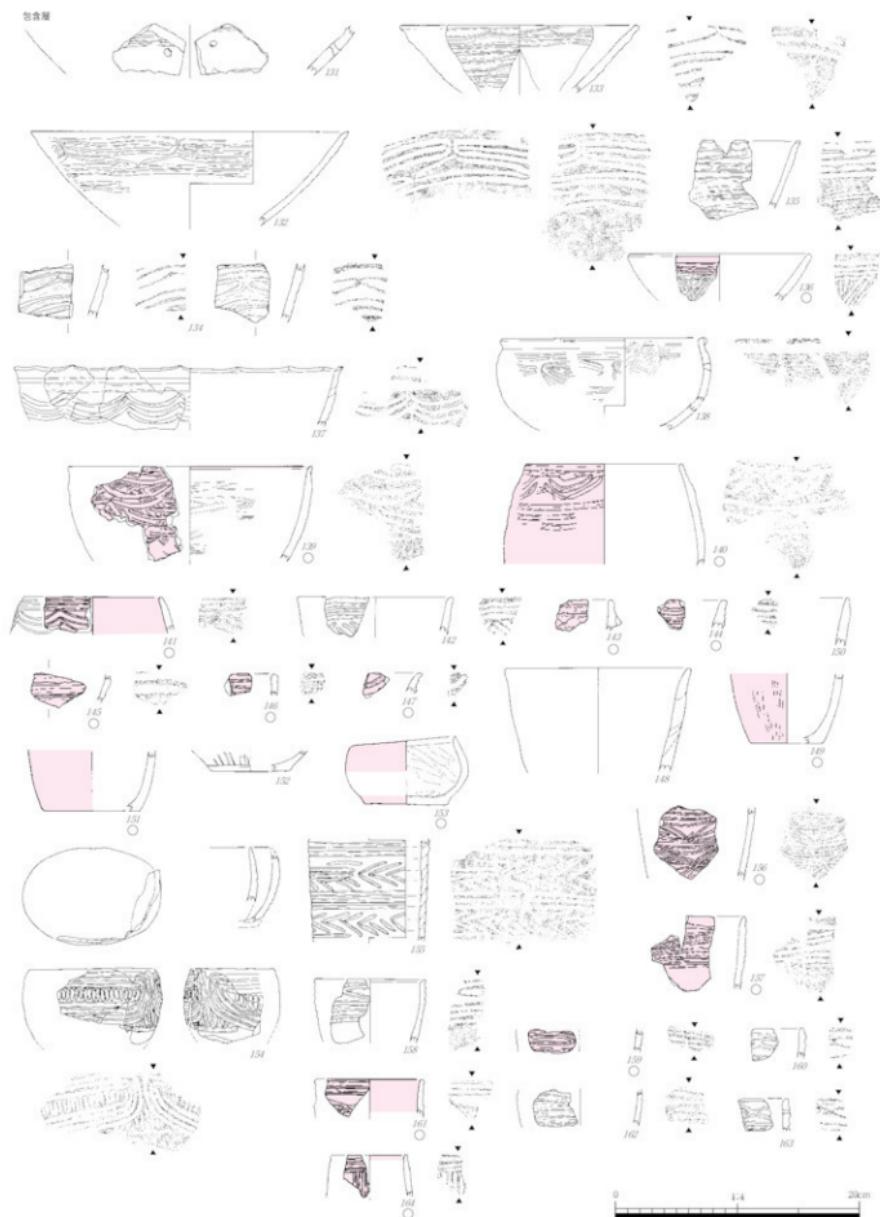
(154) 西野秀和 1985 「門前町道下元町遺跡」 石川県立歴史文化財センター

(155) 佐藤洋一 2002 「富山市吉岡遺跡・柱力遺跡発掘調査報告書」 富山市教育委員会

(156) I39 文庫 図 6-6



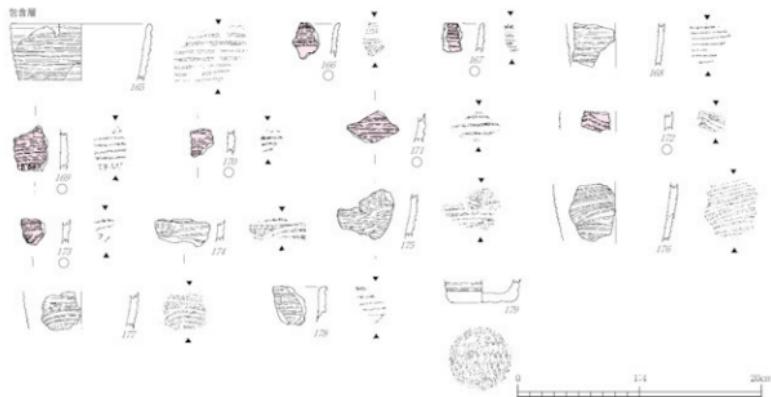
第71図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535東側包含層



第72図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535東側包含層

165～168・170・171はB類。165・168は先の丸い棒状工具で平行沈線を施し、165には外面にススが付着する。170は外面を赤彩する。166・167は半截竹管で平行沈線を3条施し、外面を赤彩。同一個体か。171は太く先の丸い棒状工具で浮線文風とする。外面は赤彩。172は先の丸い棒状工具で波状文3条以上を施し、外面を赤彩する。173・178はD類。173は先の丸い棒状工具で浅い浮線風三角文を創出し、外面を赤彩する。178は先の丸い棒状工具で浮線風三角文を創出する。沈線には結節が残る。169・174～177は先の細く丸い棒状工具で平行沈線や連弧文を施し、その区画内部に刺突を充填するものでJ類。179は底部。外面は結節の見える2条の平行沈線を施し、底面に1本超え1本潜り1本送りの網代痕が残る。これらの筒形土器は乾遺跡に類例が多くあり、鈴木正博氏の言う乾式に相当しよう。(337)

(337) 鈴木正博 2003 「乾・岡式」から「瀬置式」へ~『文様帶クロス』関係から観た共生式形成の複合構造と相互の関係性~『日本考古学会第60回総会 研究発表要刊』日本考古学協会



第73図 遺物実測図 (1/4)
C 4 地区 S D4535 東側包含層

b 石製品（第74～77図、図版62・63・65・66）

出土した石製品には石錐・磨石・磨製石斧・石皿・打製石斧がある。

180は石錐。つまみ部を有し錐部への移行は抉りが浅いため、緩やかなもの。石材は安山岩。

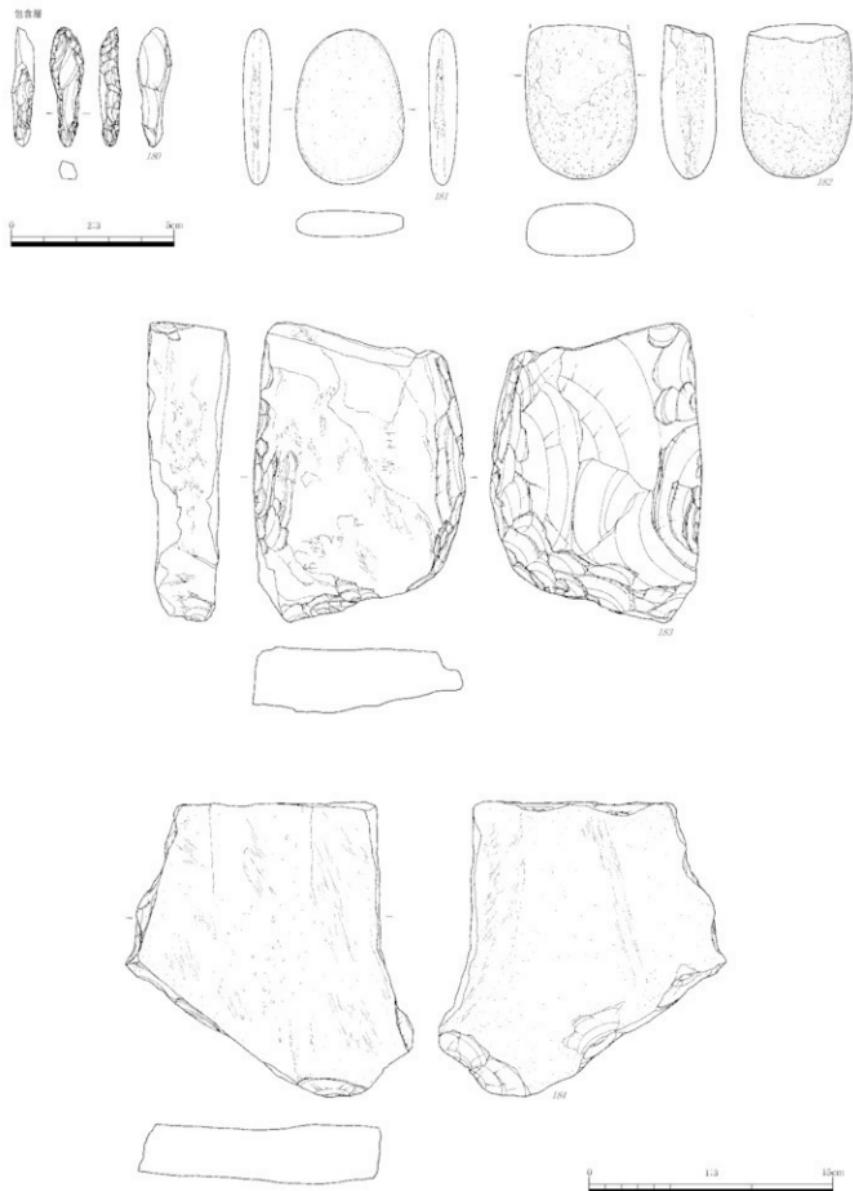
181は磨石。扁平盤を用い両側面を敲打し、磨り面としている。石材は凝灰岩。

182は磨製石斧の未成品。円盤を敲打により整形する。製作途中に基部を欠損したため、研磨前に放棄したものと考えられる。石材は花崗閃緑斑岩。

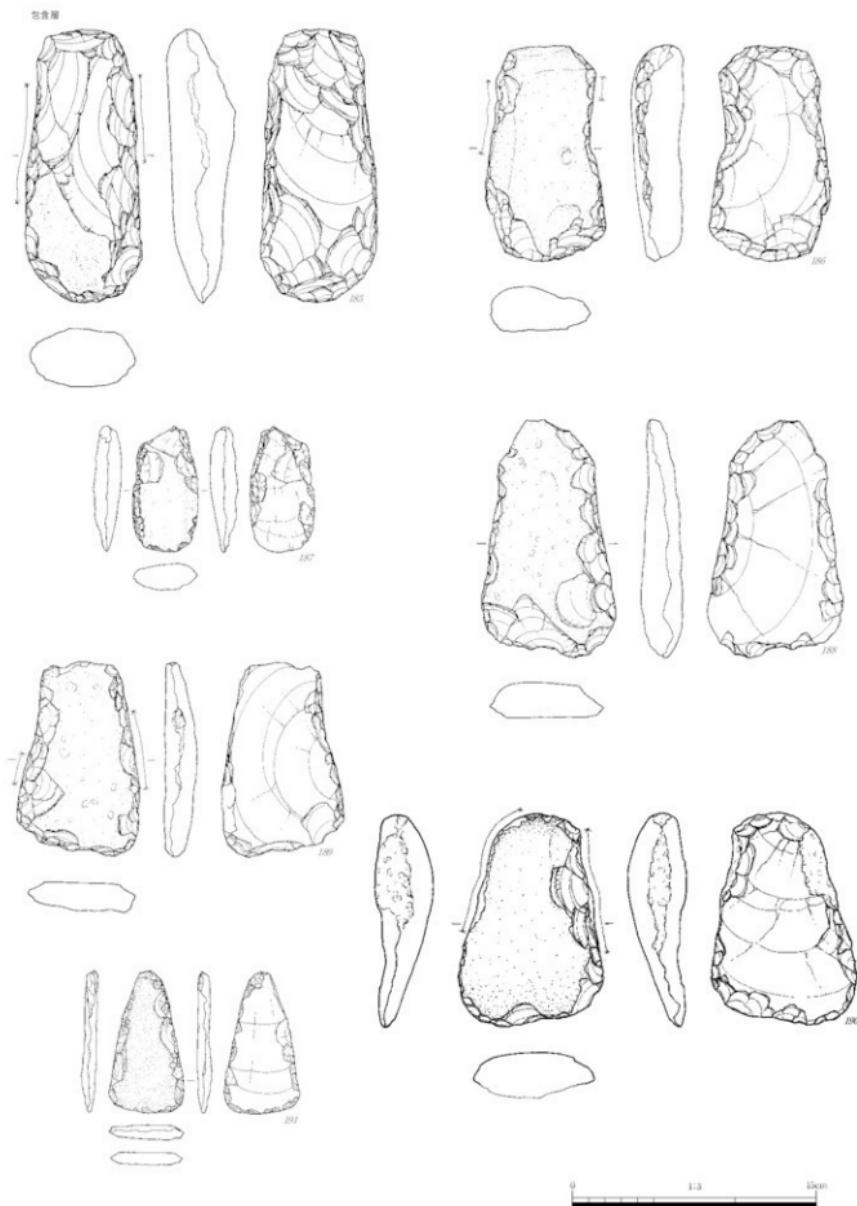
183・184は大型の砥石。183は砥面が表左側面の2面。表面は自然面を側面は切断面を砥面としており、左側面は平らに仕上げられている。石材は凝灰岩。184は扁平盤を用い、砥面は表裏の2面。裏面は対象物が硬いものだったのか砥面が窪んでいる。石材は凝灰質砂岩。

185～204は打製石斧。185～187はa類。185は使用痕分析を行ったところ、刃部の刃こぼれ・摩耗・線状痕を確認し、摩耗した刃部に不明光沢が観察され、横斧タイプの装着の可能性が高いとされる^(注38)。188～191・193～195はb類。188は使用痕分析を行ったところ、刃部の刃こぼれ・摩耗・線状痕を確認し、摩耗した刃部に不明光沢が観察され、横斧タイプの装着の可能性が高いとされる^(注38)。190は使用痕分析を行ったところ、わずかながら摩耗・線状痕を確認し、摩耗した刃部に不明光沢が観察され、横斧タイプの装着の可能性が高いとされる^(注38)。191はヘラ状で非常に薄い。193は基部の一部を欠損。192・196～198はc類。192は右側面に敲打による顕著な刃潰しが残る。刃部は斜刃となっている。使用痕分析を行ったところ刃こぼれと刃潰れのみを確認し、縱斧タイプの装着の可能性が高いとされる^(注38)。196は使用痕分析を行ったところ、顕著な摩耗が刃部の奥まで観察され光沢が見られない事から、対象物は土である可能性がある^(注38)。197は使用痕分析を行ったところ、刃部に線状痕と不明光沢が観察された。裏面側に顕著な摩耗、刃部が斜めに傾くことから横斧タイプの装着の可能性が高い^(注38)。198は使用痕分析を行ったところ、刃部に線状痕と不明光沢が観察されたが、装着方法や被加工物については不明である^(注38)。199・200は刃部のみの破片でc類か。201～204は基部のみの破片で201～203はb類、204はa類か。202は製作途中に破損したと考えられる。なお187・191・194・199・200は、試掘調査で出土した。石材は185・190・201が安山岩、186～189・191・192・195・199・200・203が溶結凝灰岩（濃飛流紋岩）、193・198・202・204が凝灰岩、194が閃緑岩、196が泥岩、197が花崗岩。

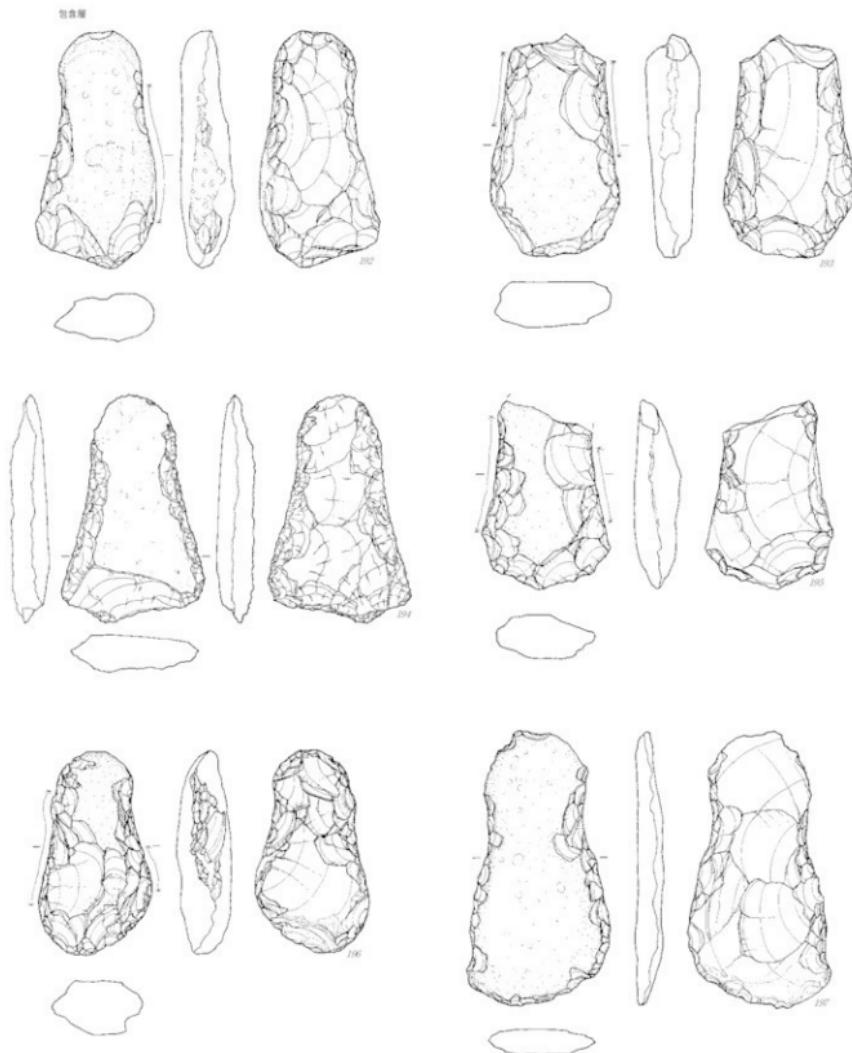
注38 堂島章・自然科学分野 株式会社アミカ 沢谷勝典「磨製石斧・打製石斧の使用痕分析」



第74図 遺物実測図 (180 2/3, 181~184 1/3)
C4地区 SD4535東側包含層



第75図 遺物実測図 (1/3)
C4地区 SD4535東側包含層



第76図 遺物実測図 (1/3)
C4地区 SD4535東側包含層



第77図 遺物実測図 (1/3)
C4地区 SD4535東側包含層

B 自然流路 S D 4535西側包含層（第78～81図、図版47～51・62・63・65）

a 土器（第78～81図、図版47～51）

205～213・216～220・224～227は深鉢。205はD-1類で、肩部に沈線間列点と鍵手文の崩れた文様を施す。口縁端部はB字突起を12個配し、突起間に短沈線を施す。底面は条痕（貝殻）。206はC-1類で、肩部に沈線で工字状文を2段、口縁部に無文帯（ミガキ）、口縁端部に平行沈線1条を施す。底面は条痕（貝殻）。207はB類で、口縁部に太い棒状工具で平行沈線1条、肩部に平行沈線3条と沈線間に押引短線を施す。南砺市井口遺跡に類例がある^(注39)。208はD-1類で、肩部に平行沈線3条、口縁部に平行沈線1条を施す。口縁端部は内面に沈線1条、外面にB字突起と押引状に貝殻で刻む。これらの時期は概ね中屋サワ式併行期となろう。209はC-3類で、口縁端部を太い棒状工具でハ字状刺突と沈線文を施す。210～212はD-3類で、いずれも底面網代痕があり、210がスダレ状圧痕、211が不明瞭、212が2本超え2本潜り2本送りか。211は口縁端部を面取りし、ユビオサエ。212は他のものより体部が長く違う系統なのかもしれない。口縁部は2箇所焼成後に穿孔される。213はC-3類で、口縁端部を面取りし外面に折り返す。216～218はC-3類。216は無文。217は口縁端部を面取り、口縁外面に指頭圧痕が残る。219はF-1類で、口縁部に半截竹管で平行沈線2条とその間に押引列点を施す。220は沈線間に押引列点を施す破片でB類か。高田新茅道遺跡に類例がある。224～227は底部。227は底面条痕で、その他は底面網代痕。224・225は1本超え1本潜り1本送り、226はスダレ状圧痕。

227は壺A-3類。口縁部に指頭沈線を4条、口縁端部を面取りし、指頭による押引列点を施す。底面は網代痕で2本超え2本潜り1本送り。試掘調査で大半が出土し、包含層出土破片と接合した。なお試掘調査では、1個体が潰れて出土している^(注40)。229は壺F類で、R L繩文（羽状繩文か）の後に赤色漆を塗る精製品。口縁～肩部を欠損する。東北地方の系統のもので、搬入品と考えられる^(注41)。

228は浅鉢G類で、内湾する口縁部に平行沈線4条と櫛状工具による刺突を施す。体部はミガキ。214・215・222・223は鉢。214・215はB-1類。214の口縁部は指頭沈線で端部には押引列点を施す。215は口縁端部を先の太く丸い棒状工具で押圧し、波状口縁とする。222はA-1類で、肩部に櫛状工具？で巾2.5mmの細かい沈線を横方向、肩部に平行沈線4条、口縁部に平行沈線1条とその下にミガキを施す。口縁端部は体部の沈線と同じ工具で刺突を施す。外面にスス・炭化物が付着する。223はA-2類で、底面にスダレ状圧痕が残る。

これらの時期は条痕のみの深鉢が多いため判断が難しいが、その形状から概ね中屋サワ～下野式併行期となろう。ただし、227は口縁に指頭沈線を施し、他のものとは異なる形狀をしており、東側包含層と同じ時期の長竹式併行期となろう。217も他よりは若干新しい時期の可能性がある。

b 石製品（第81図、図版62・63・65）

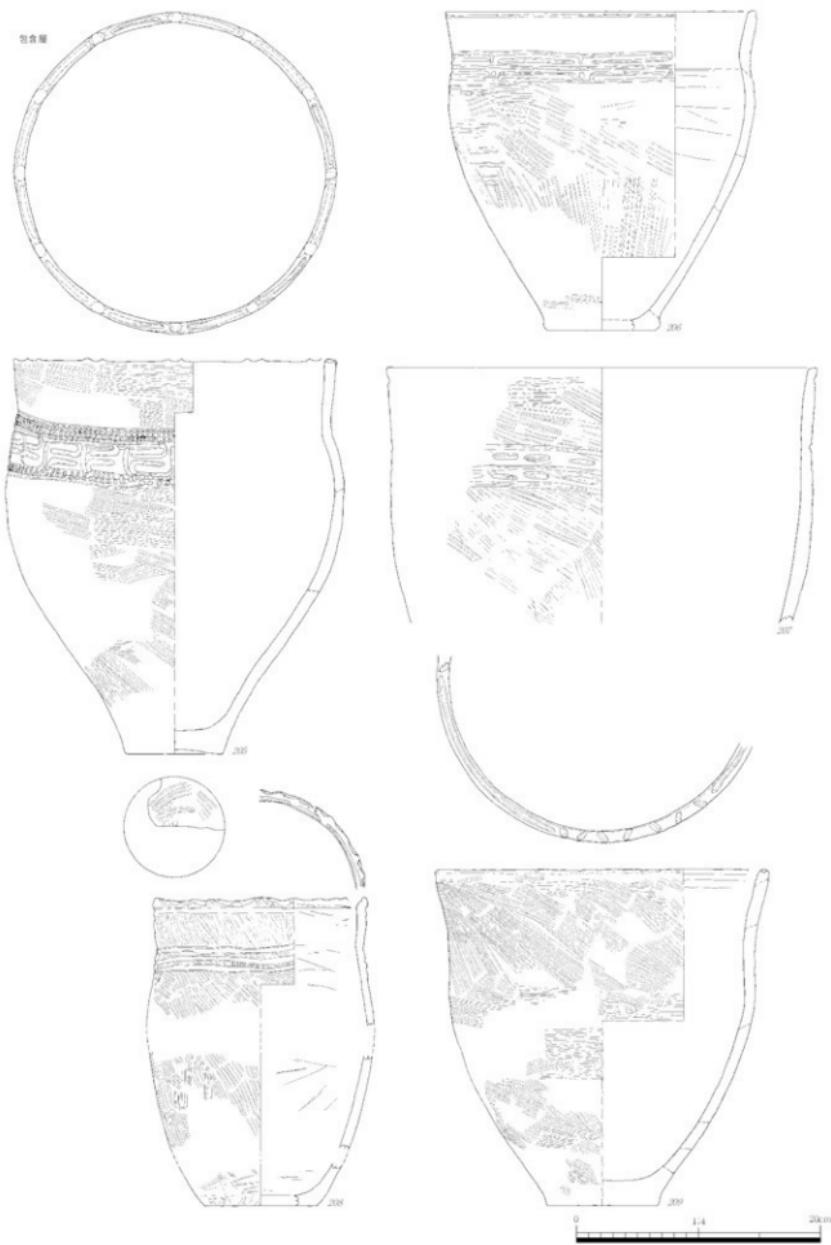
出土した石製品は打製石斧のみである。

230は使用痕分析を行ったところ、広い範囲に特徴的な光沢が観察され、イネ科植物を加工したものと考えられる^(注38)。c類。231はd類。232は刃部のみの破片。c類か。233はc類か。石材は230が砂岩、231が凝灰岩、232が安山岩質凝灰岩、233が溶結凝灰岩（濃飛流紋岩）。

^(注39) 沢井重洋 1986 「飛石村井口遺跡の調査地圖の土器」『大境』第10号・富山考古学会

^(注40) 井川文廣 図6-10

^(注41) 高田新茅道にご教示いただいた。

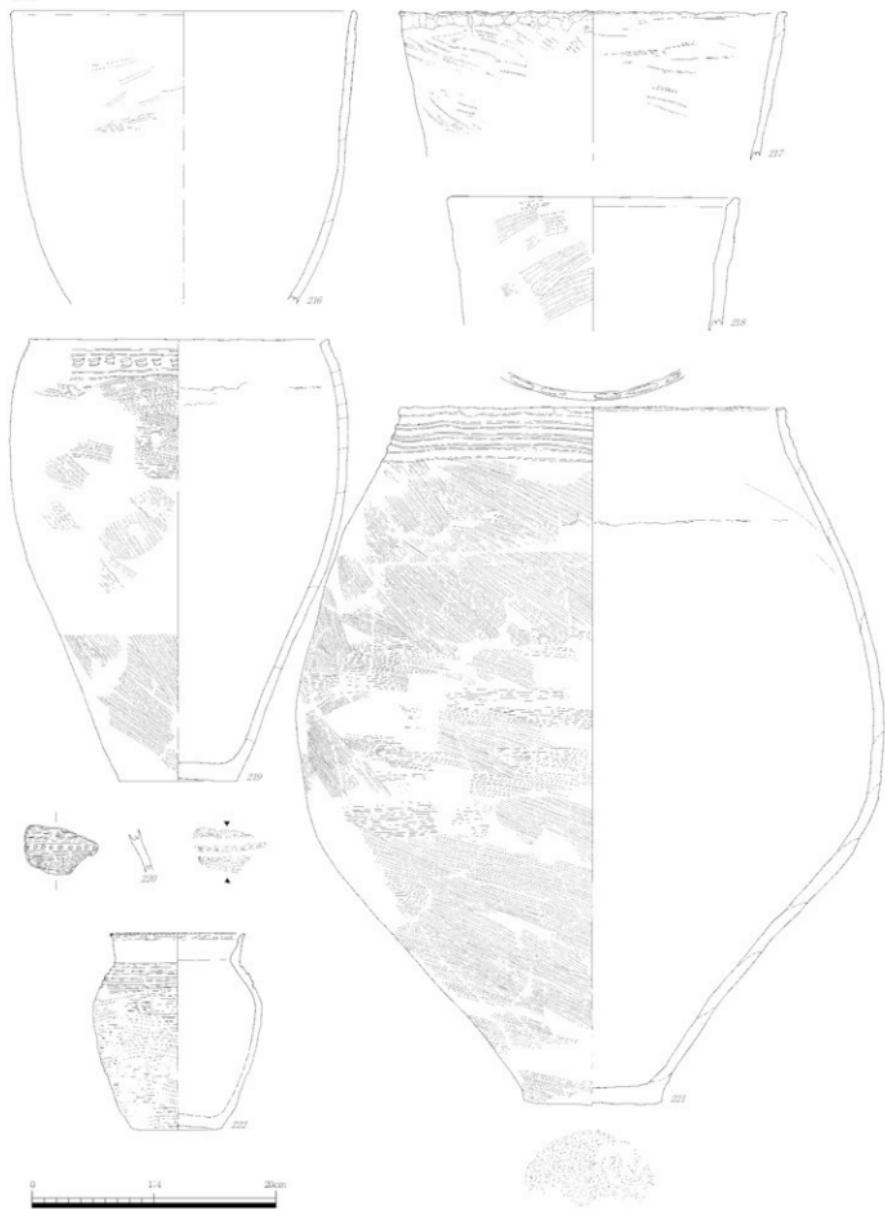


第78図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535西側包含層

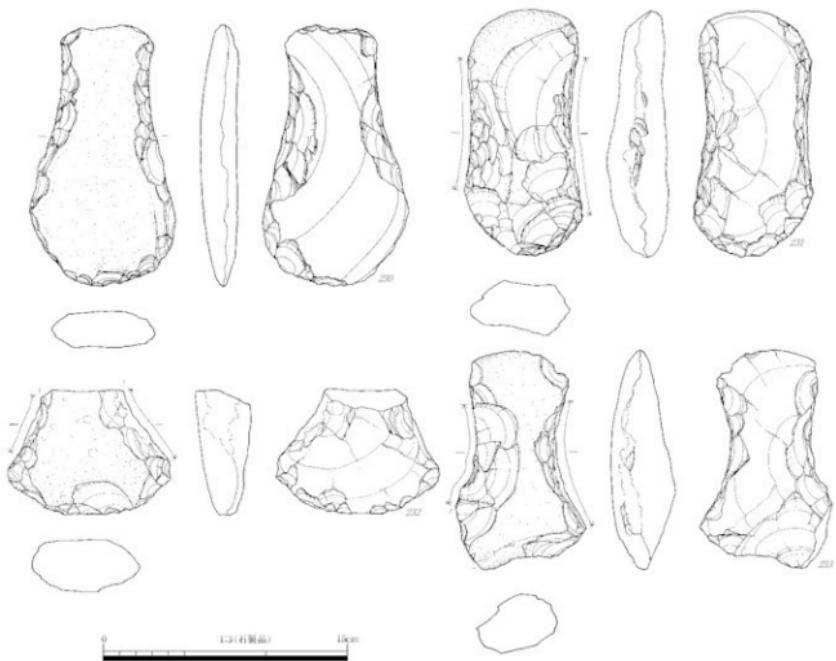
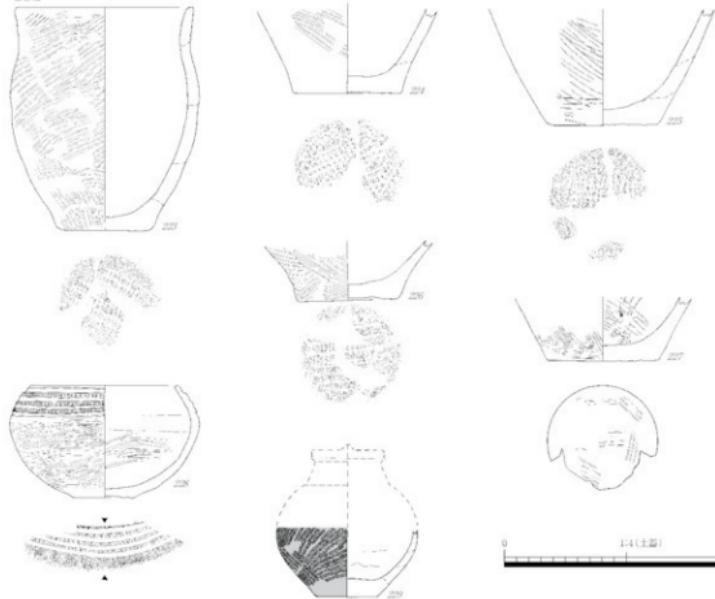


第79図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535西側包含層

参考図



第80図 遺物実測図 (1/4)
C4地区 SD4535西側包含層



第81図 遺物実測図 (223~229 1/4, 230~233 1/3)
C4地区 SD4535西側包含層

5 D地区

D地区では、D1～4地区で縄文時代晚期の土器・石製品、D1～3地区で縄文時代晚期の遺構を検出した。

(1) D地区の遺構と遺物

縄文時代の遺構はD1・2地区で土坑、D2・3地区で自然流路を検出した。特にD2地区では土坑が調査区北西に集中している。これらの土坑には、円形のピット状ものと梢円形もの大まかに分けて2つのタイプが存在する。付近に焼土や炉などは見られないが、ここだけに土坑や包含層中から土器がまとまって出土していることから、建物またはそれに類する施設の存在が窺える。また、自然流路はD2地区からD3地区へ流れ込んでおり、その肩部を中心に土器が集中して出土（土器捨て場）している。遺構の時期は出土した土器から、概ね晚期中葉～末葉である。

A 土坑

4651号土坑（SK4651、第84・100図、図版21・59）

D1地区の中央西側に位置する。3.64m×2.27m、深さ34cmを測る梢円形の土坑。埋土は、上から黒褐色粘土質ローム、暗オリーブ褐色砂、黒褐色シルト、黒褐色粘土質ロームで、上層に1～25cmの大の礫を多く含む。特に黒褐色粘土質ロームの層には、焼けた礫やタール状の炭化物の付着した礫が混じっている。また、地山（礫層）との境に1～4cmの炭化物層がある。遺構の性格は、焼けた礫やタール状の炭化物の付着した礫が入るなど他の土坑とは明らかに異なる埋土及び形状であり、墓壙の可能性が窺える。また、埋土からは遺物は出土していないものの、その直上から大地型の壺（304）が単独で出土しており、この遺構の特殊性が窺える。この土器から見れば、弥生中期か。ただし、埋土の土壤分析しておらず集石土坑とせざるをえない。

4801号土坑（SK4801、第85～87図、図版21・51・52）

D2地区の北西土坑群内に位置する。1.73m×1.13m、深さ35cmを測る不整梢円形の土坑である。埋土は、黒色シルト、灰黄色粘土、黒褐色粘土質ローム、暗灰黄色砂質ローム、黒褐色砂質ロームがレンズ状に堆積し、炭化物が混じる。遺物は縄文土器片が出土している。

234は口縁部に3条の沈線を施す。浅鉢E類。底面は上げ底状でヘラ痕がある。235は浮線文風の破片。内外面赤彩で筒形G類。

4802号土坑（SK4802、第85～87図、図版21・52）

D2地区の北西土坑群内に位置する。径95cm、深さ25cmの円形の土坑である。埋土は黒褐色粘土質ローム、暗灰黄色砂質ローム、黒褐色砂質ロームからなり、炭化物が混じる。遺物は縄文土器片が出土している。

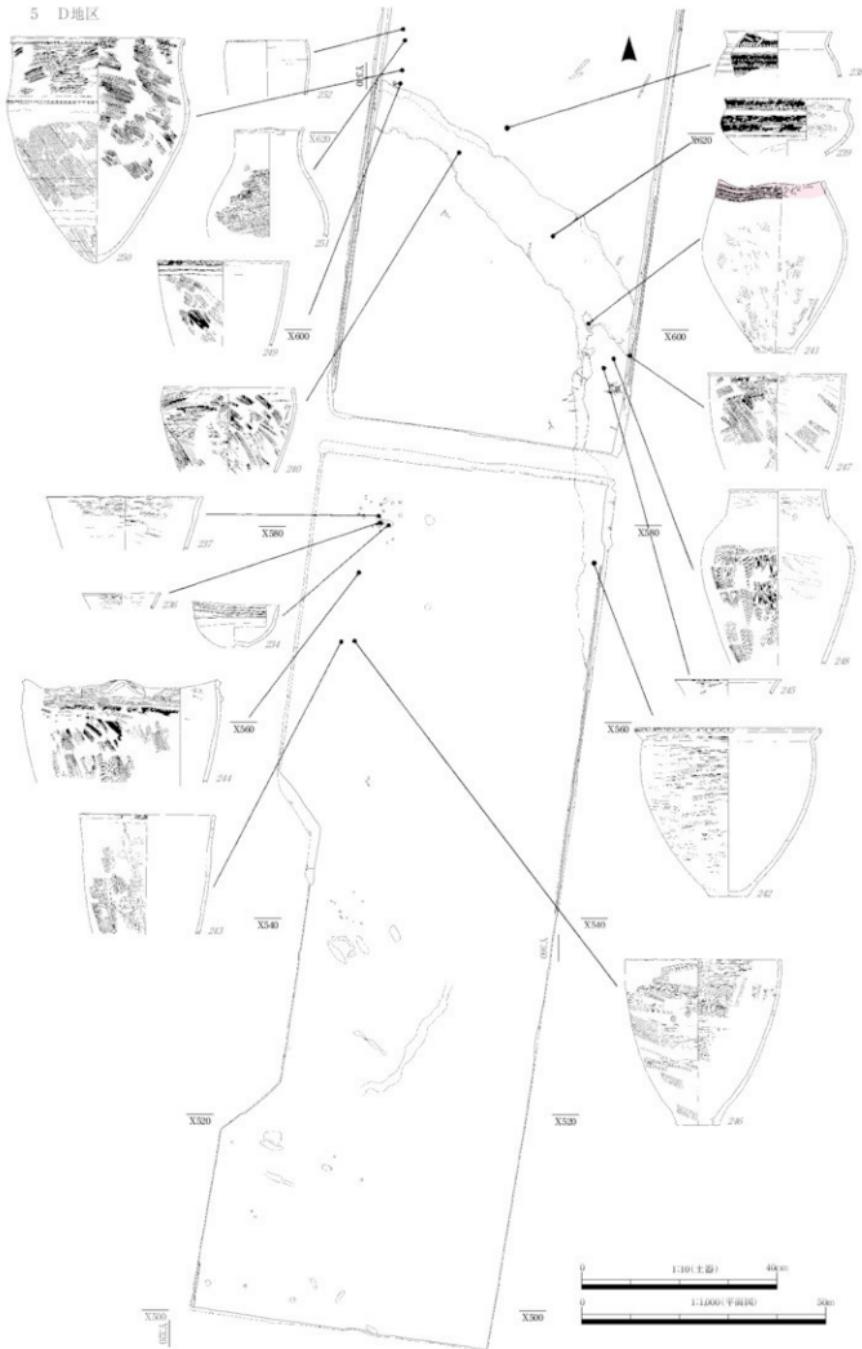
236は内外面ミガキの鉢G類で、口縁端部を外につまみ出す。

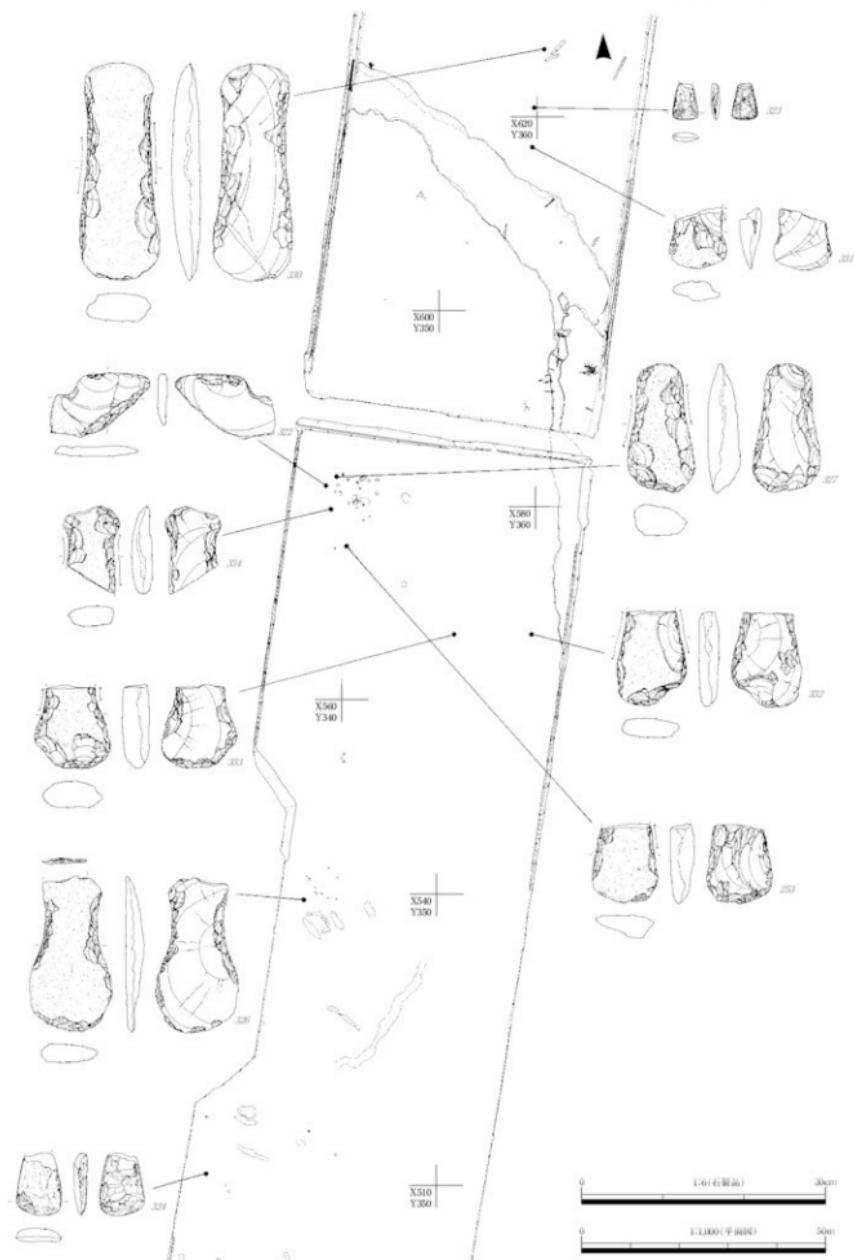
4803号土坑（SK4803、第85・86図）

D2地区の北西土坑群内に位置する。39cm×36cm、深さ15cmの不整円形の土坑である。SK4801、SK4802に比べ規模が小さく、埋土は炭化物を含む黒褐色粘土質ロームの単層であるが、周辺の包含層から多量の縄文土器が出土していることから、同じ時期が考えられる。

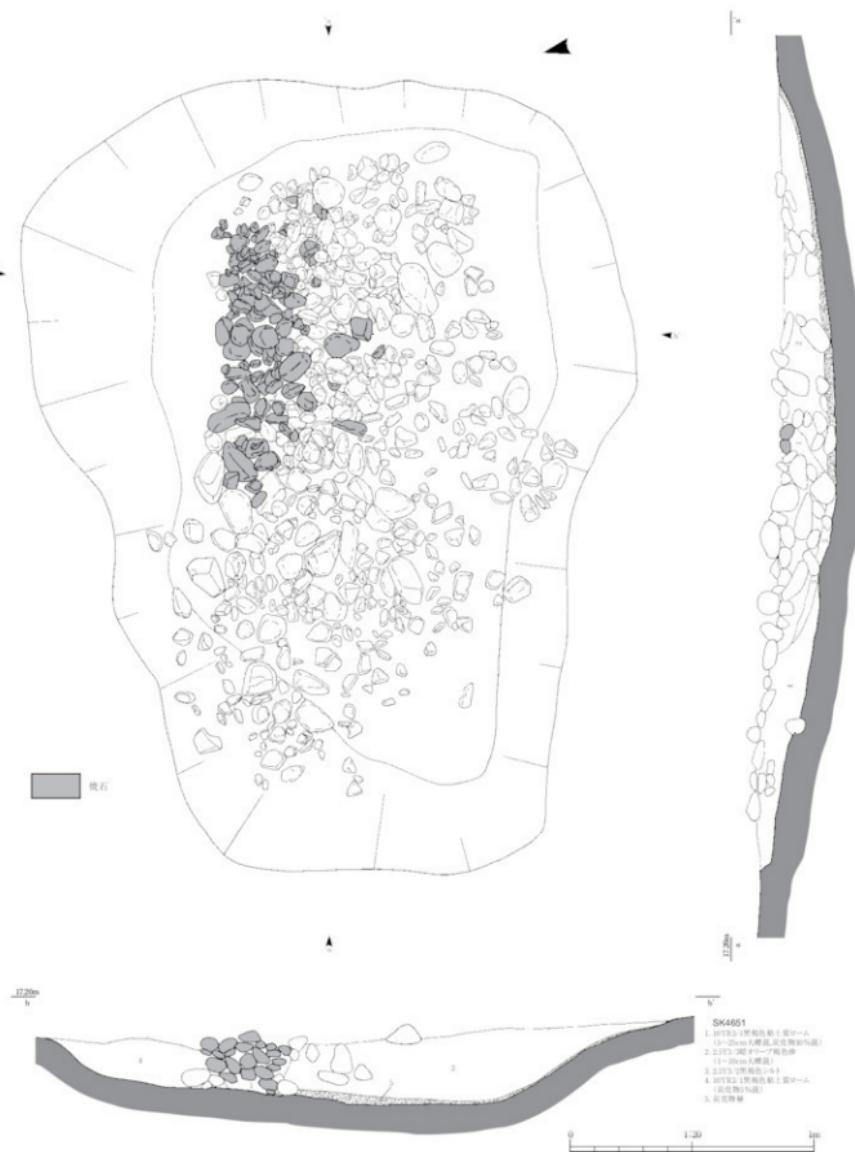
4804～4809・4811・4814～4821号土坑（SK4804～4809・4811・4814～4821、第86・87図、図版22）

D2地区の北西に土坑群を形成する。形状は、ほぼ円形のもの（SK4804・4807～4809・4814・4817～4821）とほぼ梢円形のもの（SK4805・4806・4811・4815・4816）がある。遺物は出土していない。

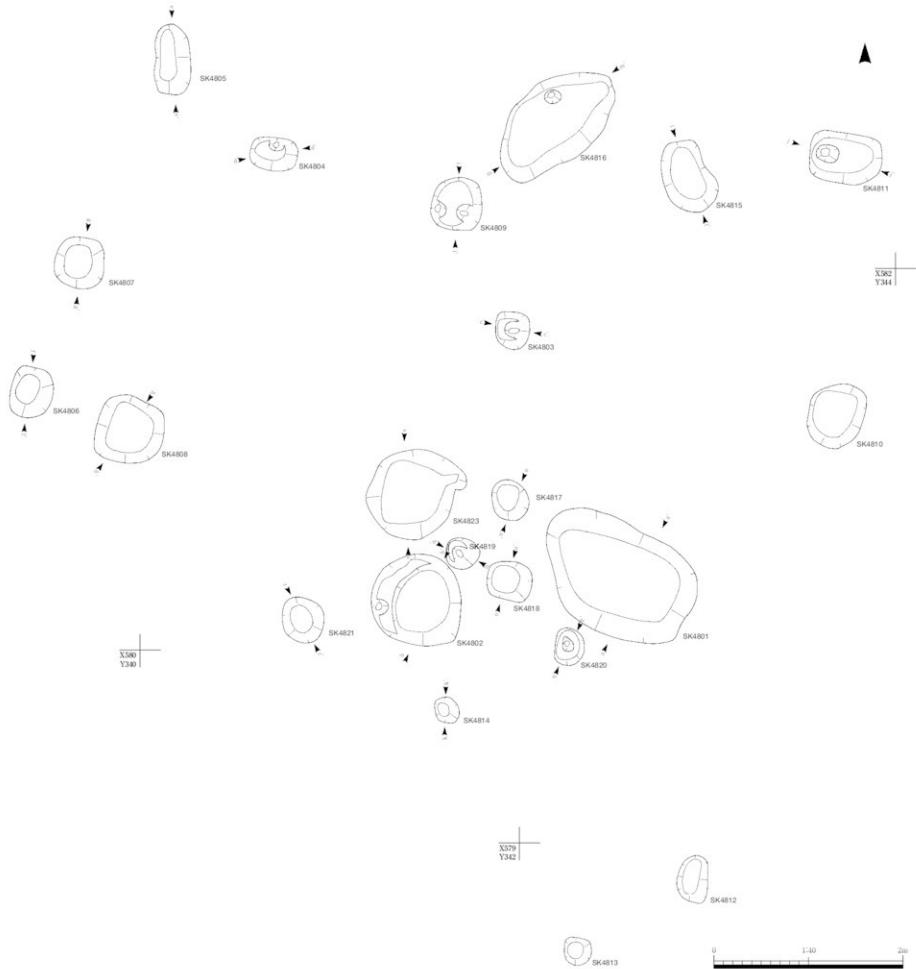




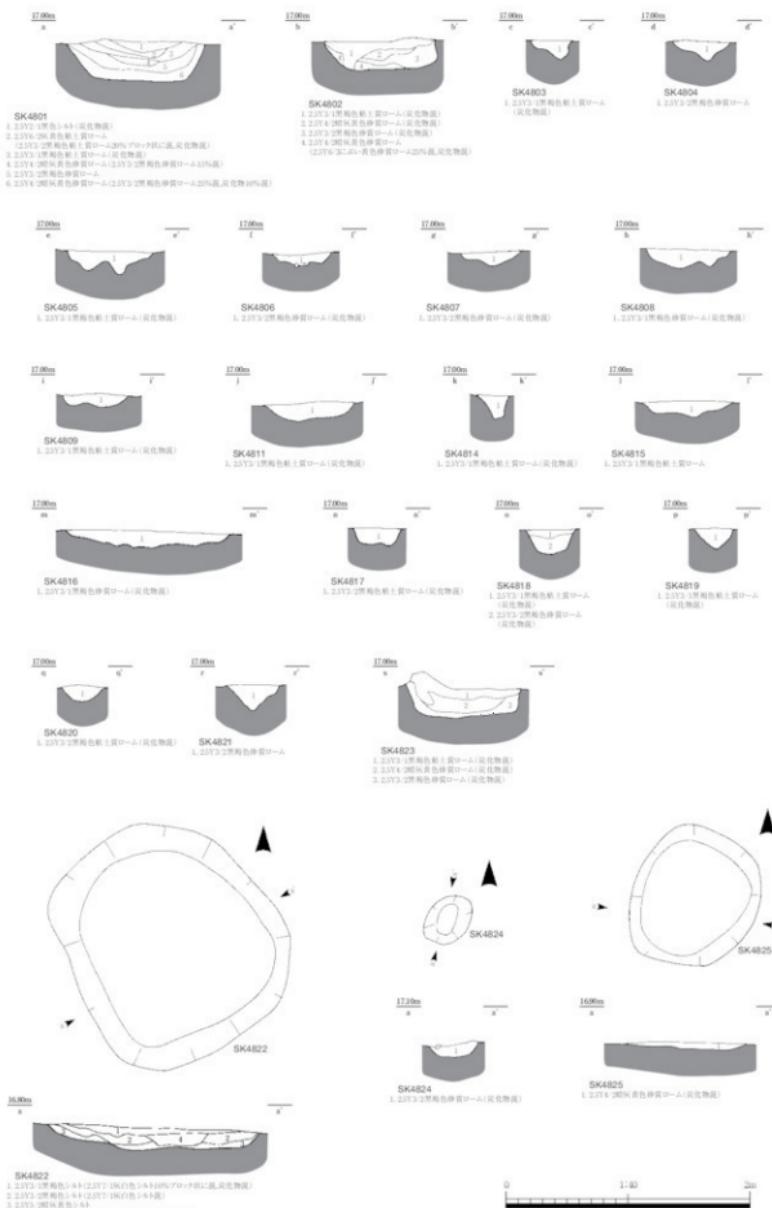
第83図 主な石製品出土位置図 (1/1000, 1/6)
D地区 遺構・包含層



第84図 遺構実測図 (1/20)
D1地区 SK4651



第85図 遺構実測図 (1/40)
D 2 地区 S K4801~S K4811・S K4821



第86図 遺構実測図 (1/40)
D2地区 SK4801~SK4809・SK4811・SK4814~SK4825

これらの土坑は、調査区内の北西に集中してあることから建物の柱穴になる可能性があるが、焼土がなく掘り込みが確認できなかつたため、土坑として扱つた。

4822号土坑 (S K4822, 第86図, 図版22)

D 2 地区の北西土坑群の東に位置する。1.95m×1.75m, 深さ23cmの楕円形を呈し、最も大きな土坑である。埋土は黒褐色シルト、暗灰黄色シルト、オリーブ褐色シルトがレンズ状に堆積し、少量の炭化物が混じる。遺物は縄文土器が出土している。

4823号土坑 (S K4823, 第85~87図, 図版22・52)

D 2 地区の北西土坑群内で S K4802 の北に位置する。95cm×90cm, 深さ38cmを測る、不整形の土坑である。埋土は黒褐色粘土質ローム、暗灰黄色砂質ローム、黒褐色砂質ロームからなり、炭化物が混じる。遺物は縄文土器が出土している。

237は深鉢E-1類で、口縁部に指頭沈線2条の後ミガキ。

4824号土坑 (S K4824, 第86図, 図版52)

D 2 地区の北西土坑群の南西に位置する。42cm×35cm, 深さ13cmの楕円形の土坑である。埋土は黒褐色砂質ロームに炭化物が混じる。時期は遺物から縄文時代晚期後葉とみられる。遺物は縄文土器片が出土しており、9号土器集中地点(244)と接合した。

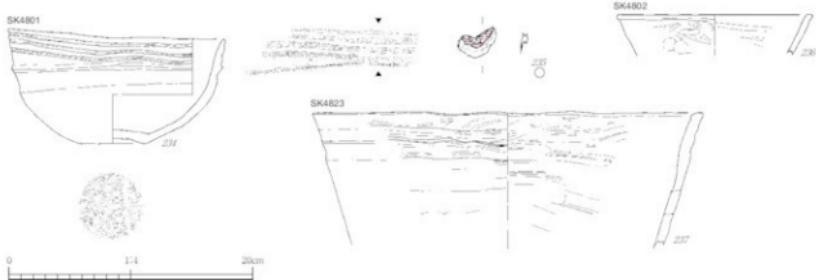
4825号土坑 (S K4825, 第86図)

D 2 地区の北西土坑群の南東に位置する。115cm×106m, 深さ6cmの不整円形の土坑である。埋土は暗灰黄色砂質ロームに炭化物が混じる。時期は縄文時代晚期とみられる。遺物は縄文土器が出土している。

B 自然流路

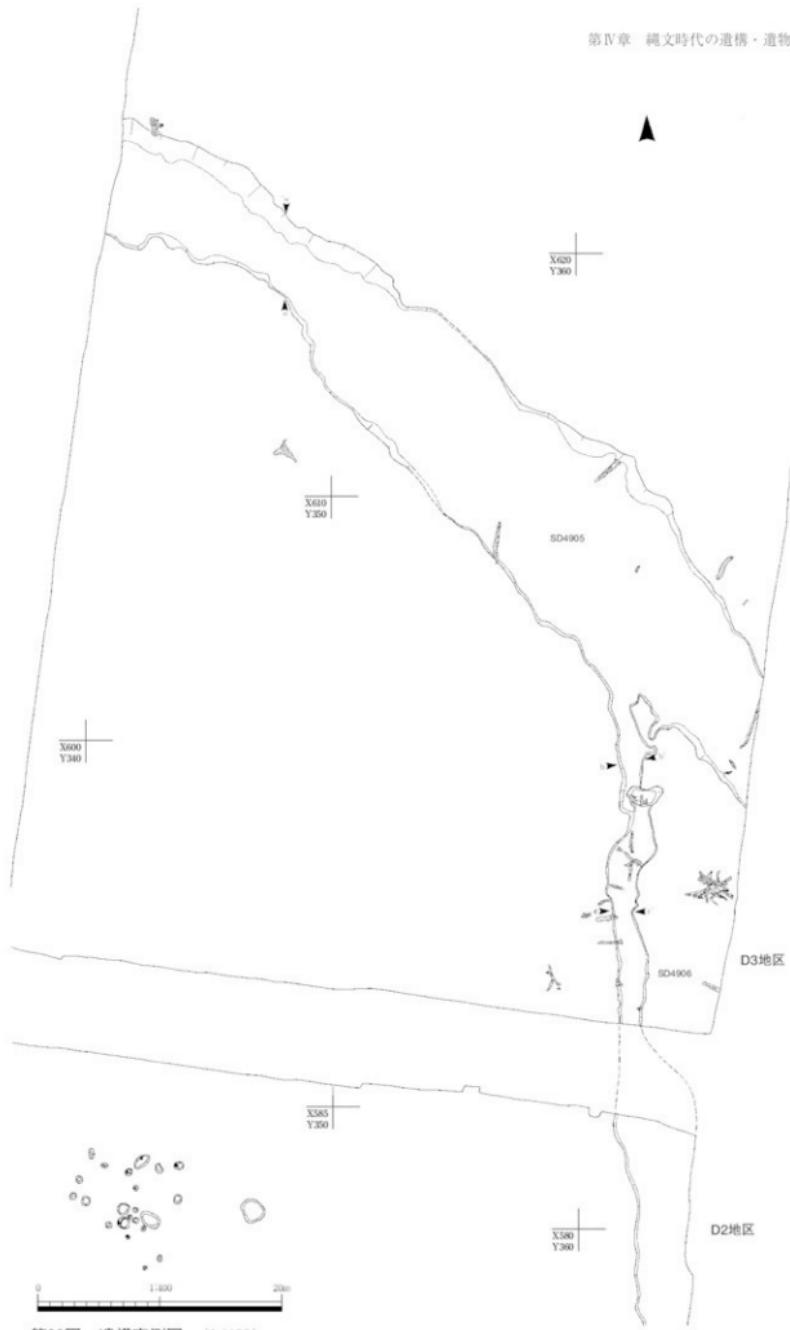
4905号自然流路 (S D4905, 第88~90図, 図版23・51・52)

調査区外の南東方向から北西に流れる自然流路。S D4906と合流する。最大幅8.48m, 深さは1m以上ある。埋土は黄灰色砂質ローム、黒褐色ローム、黒褐色粘土質ローム、暗オリーブ褐色砂質ローム、黒褐色粘土質ローム、黄灰色砂質ロームからなり、少量の炭が混じる。この自然流路内や肩部では、縄文土器が数個体漬れたような状態で出土している。また流路沿いには埋没樹木が多く、出土遺物には流木やクルミなどの種実も含まれていることから、付近に森林が存在していた可能性がある。遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晚期中葉から末葉と考える。遺物は縄文土器がまとめて出土しており、ほぼ完形のものが多い。

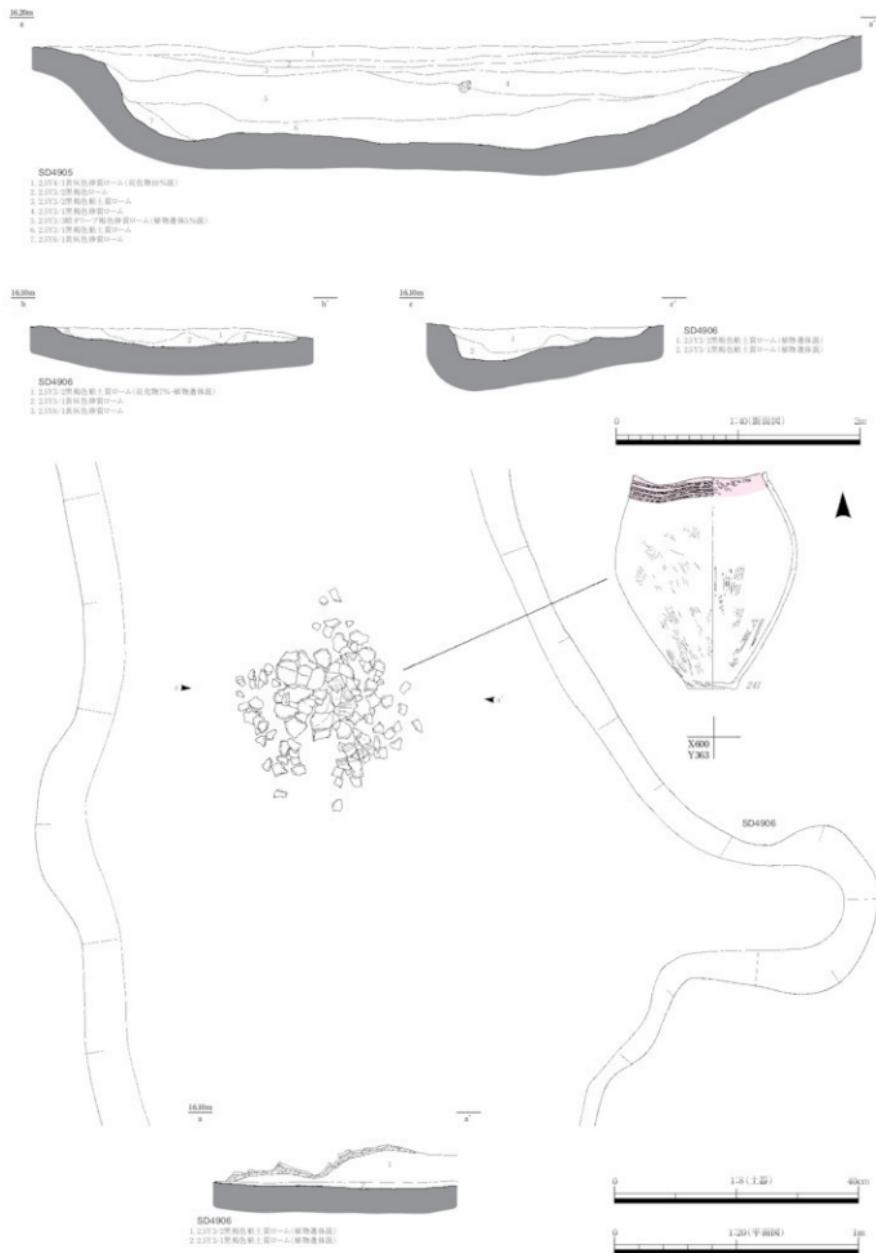


第87図 遺物実測図 (1/4)

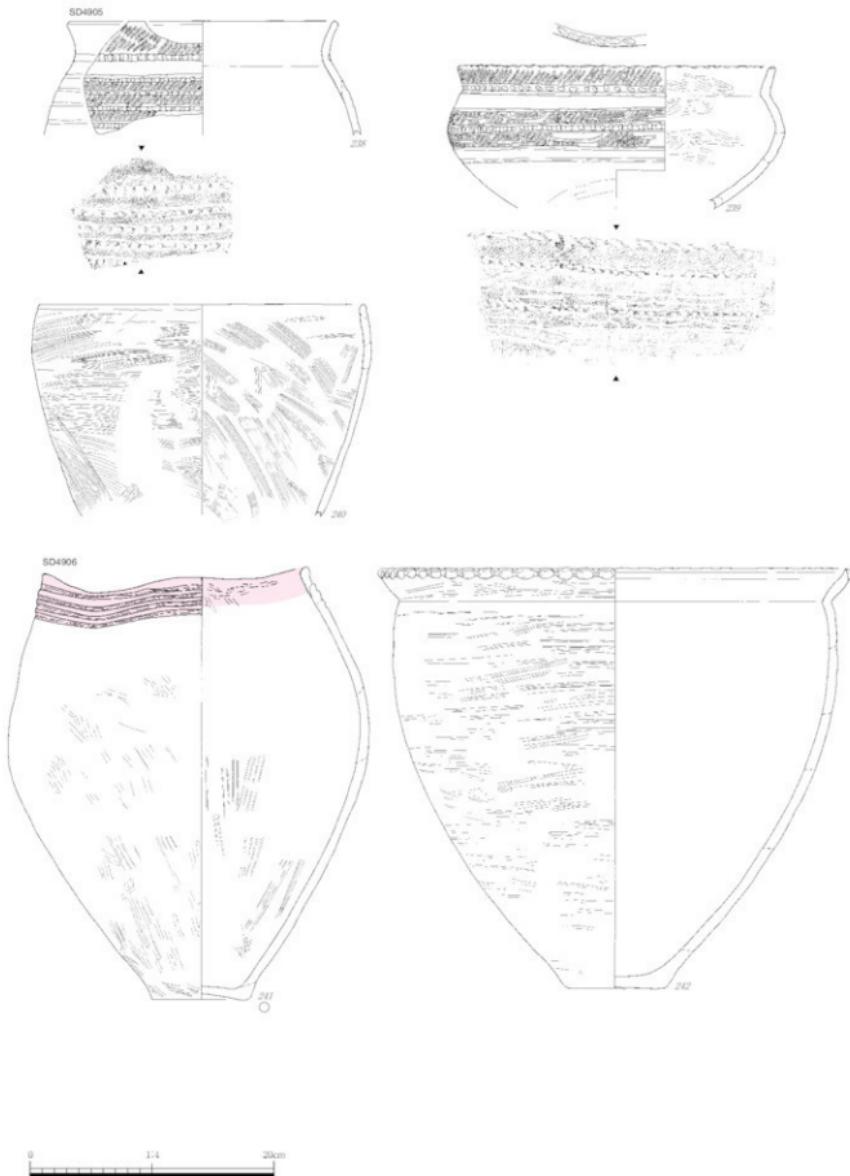
D2地区 SK4801(234・235) SK4802(236) SK4823(237)



第88図 遺構実測図 (1/400)
D地区 SD4905・SD4906



第89図 遺構実測図 (1/20・1/40, 1/8)
D地区 SD4905・SD4906



第90図 遺物実測図 (1/4)
D地区 SD4905(238~240) SD4906(241・242)

238は深鉢A-1類。L R縄文を地文とし、口縁部と肩部に沈線間に連続刺突を施す。中屋2式か。239は浅鉢A類。R L縄文を地文とし、肩部に三叉状文を施す。口縁端部は棒状工具で斜位の刻みを入れる。中屋2式か。240は深鉢F-3類で、口縁端部を外面に折り返す。遺物の時期は、238・239が中屋式併行期で縄文時代晚期中葉、240が縄文時代晚期末葉と考える。

4906号自然流路（S D4906, 第88~90図, 図版23・52）

D 2 地区から北上し、D 3 地区で S D4905と合流する。深さは最大28cmと浅い。埋土は黒褐色粘土質ローム、黄灰色砂質ロームからなり、植物遺体を含む。流路内からは縄文土器が出土している。遺構の時期は、出土遺物と S D4905の支流であることからこれと同様と考える。

241は壺A-1類。体部は外面をタテ条痕の後ミガキ、内面をタテ条痕。口縁部は4単位の波状で赤彩、外面を4条の沈線の後ミガキ、内面をミガキ。内外面にススが付着する。242は深鉢A-2類で、口縁端部をユビオサエにより小波状とする。

C 土器集中地点

8号土器集中地点（第92図, 図版24・52・55）

D 2 地区の西側X567Y338に位置する。条痕深鉢（243）が、横位で潰れた状態で出土。

243は深鉢C-2類で、口縁端部に絡条体圧痕、その下に指頭沈線を施す。県東部の土器の特徴を持ち、包含層出土の272に類例がある。時期は下野式併行期。

9号土器集中地点（第92図, 図版24・52）

D 2 地区の北西側X576Y340、10号土器集中地点の西隣に位置する。条痕深鉢（244）が破片で弧を描くように散らばって出土。

244は深鉢E-2類で、口縁部を粘土を貼り付けた隆帯と指頭沈線で浮線文風とし、結合部をつまみ上げる。またA字状の突起を持ち、波状口縁となる。肩部はヨコ条痕で、体部はタテ条痕。隆帯による大振りな文様のつくりは飛騨地方に多く、その影響を受けたものと考えられる^{注42}。県内では、富山市古沢A遺跡に類例がある^{注43}。S K4824出土の破片と接合した。

10号土器集中地点（第92・95図, 図版24・52・64）

D 2 地区の北西側X576Y341、9号土器集中地点の東隣に位置する。条痕深鉢（245）が横位で破片となって出土。土器の下には打製石斧（253）が出土している。

245は深鉢の口縁部で、A-2類。口縁端部には短沈線を施す。253は基部を欠損する打製石斧。b類か。石材は安山岩。

11号土器集中地点（第91・92図, 図版24・53）

D 3 地区の南東側の S D4905・4906に挟まれた中州上で、13号土器集中地点の南に位置する。条痕深鉢（246）1個体がほぼ完形で横位に潰れた状態で出土。

246は深鉢E-3類で、体部に焼成後2箇所に穿孔。口縁端部をユビオサエし、外面に折り返す。

12号土器集中地点（第91・92図, 図版24・53）

D 3 地区の南東側の S D4905・4906に挟まれた中州上で、13号土器集中地点の東に位置する。条痕深鉢（247）の破片が内面を上に向けて出土。

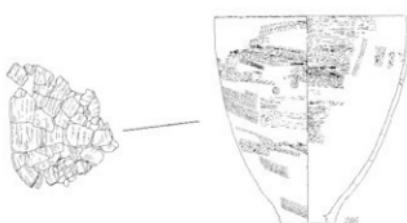
247は深鉢E-3類で、口縁端部をユビオサエし、外面に折り返す。

13号土器集中地点（第91・94図, 図版25・53）

D 3 地区の南東側の S D4905・4906に挟まれた中州上で、11号土器集中地点の北に位置する。突帶文系の深鉢（248）が小破片となって出土。

注42 石川日出志氏・石黒立氏にご教示いただいた。

注43 高橋修宏「1963『古沢A遺跡発掘調査報告』」富山市教育委員会

X397
Y364X397
Y365

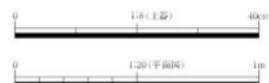
11号土器集中地点



13号土器集中地点



12号土器集中地点

第91図 遺構実測図 (1/20, 1/8)
D地区 11~13号土器集中地点



第92図 遺物実測図 (1/4)

D地区 8号土器集中地点(243) 9号土器集中地点(244) 10号土器集中地点(245) 11号土器集中地点(246)
12号土器集中地点(247) 15号土器集中地点(257)



第93図 遺構実測図 (1/20, 1/8)
D地区 14号土器集中地点・15号土器集中地点



第94図 遺物実測図 (1/4)

D3地区 13号土器集中地点(248) 14号土器集中地点(249・250) 16号土器集中地点(252)

248は突帯文系の深鉢J類。口縁部は内外面に擦痕が残る。口縁端部は面取りし、外面に折り返して突帯を作り出す。口縁部と体部は接合せず合成した。

14号土器集中地点（第93・94図、図版25・53）

D3地区の北西側S D4905の肩部で、15号土器集中地点の東に位置する。深鉢2個体（249・250）が、破片であるが2つのまとまりとなって出土。

249は深鉢E-1類で、口縁端部に貝殻で押し引き状に条痕を施し、その下に指頭沈線を2条引く。立山町利田横柵遺跡^(注44)や射水市針原東遺跡・黒河尺目遺跡に類例がある^(注45)。250は突帯文系の深鉢J類。口縁端部と肩部に突帯を貼り付け、D字状の刻みを入れる。口縁部は細かいヨコ条痕（殻頂部か）、肩部は左上がり条痕（貝殻）、体部は粗い条痕（ケズリ？）。底部は尖底。土器の時期は船橋式～長原式とされる^(注46)。土器に付着する炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2520±40BPと測定した^(注47)。

15号土器集中地点（第92・93図、図版25・53）

D3地区の北西側S D4905の肩部で、14号土器集中地点の西に位置する。壺（251）の上半部のみが単独で逆位で出土。

251は壺B-2類。体部はヨコ条痕（貝殻）で、頸部から上はそれをナデ消す。口縁端部にはA字状の突起をもつ。頸部内面と体部下半外面にスス付着。乾遺跡に類例がある。

16号土器集中地点（第94・95図、図版25）

D3地区の北西端X630Y345に位置する。鉢（252）が横位で潰れて出土。

252は鉢E-2類。体部はタテナデ、口縁部はヨコナデ。内面に輪積み痕が残る。

（2）D地区の包含層出土遺物

D地区ではD1～4地区で縄文時代晩期の土器・石製品が出土した。

A 土器（第96～100図、図版54～59）

254～262・269～281・283～294・298～301は深鉢。254～262はA-2類。外面の調整は、254・255・258～260がヨコ条痕、256がケズリの後ナデ、257・261・262がナデ。254～258・260・262は、口縁端部に指などによる刻みを入れる。269・270はC-3類。272はC-2類で、口縁端部に絹条体圧痕、その下に指頭沈線、体部にタテ条痕^(注47)を施す。8号土器集中地点出土の243、駒方遺跡や富山市吉岡遺跡・豊田遺跡^(注48)に類例がある。273はA-2類で、タテ条痕であるが、中屋式の系統を引く口縁端部に刻みを入れる。274はC-2類で、体部をタテ条痕、口縁端部を同じ工具（貝殻



第95図 遺物実測図 (1/3)

D2地区 10号土器集中地点

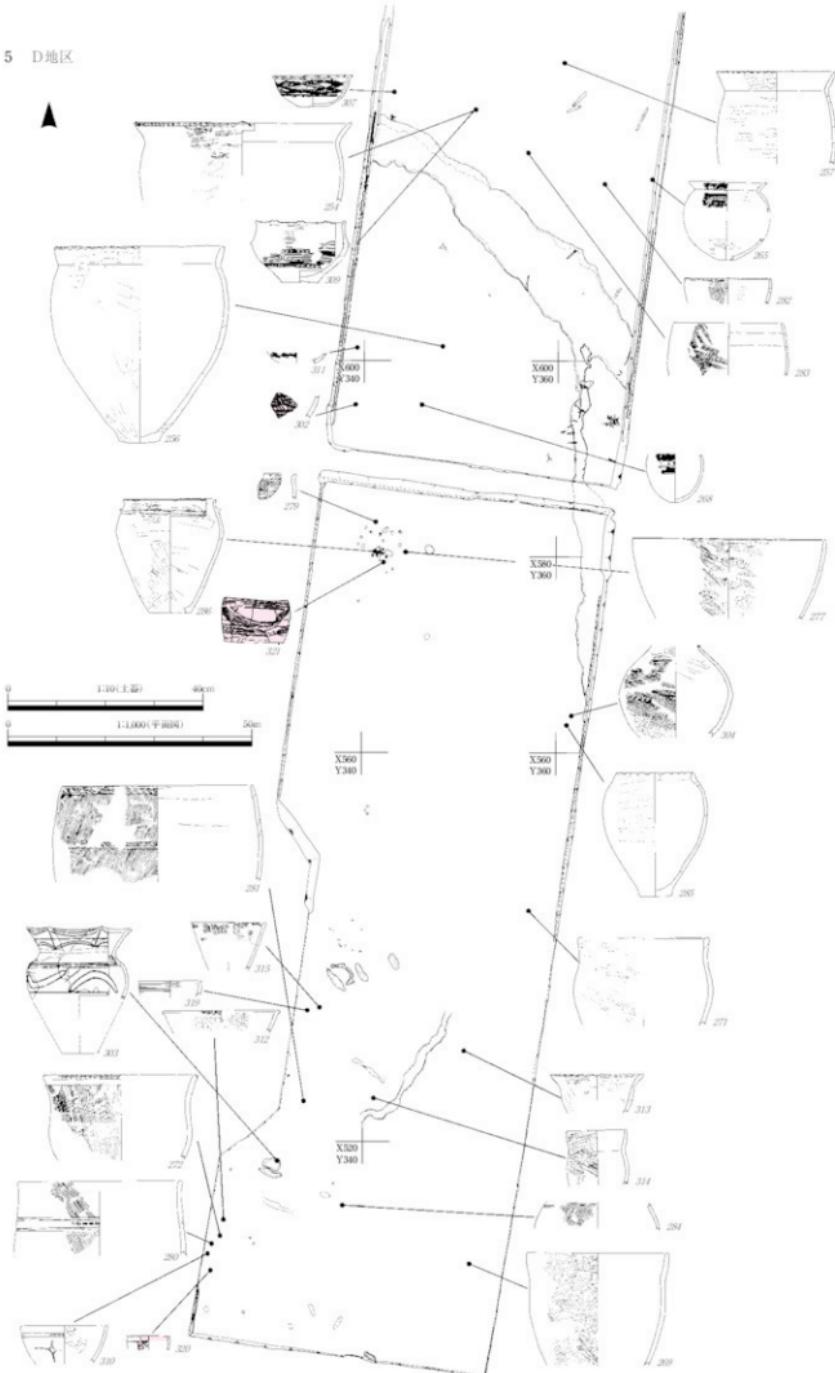
注44 二瀬秀一・田中圭生 2002「利田横柵遺跡」立山町教育委員会

注45 中村泰子 2002「黒河尺目遺跡発掘調査報告」小川町教育委員会

注46 熊井義洋・吉和多氏・松尾信和氏は舟橋式、久保正弘氏は長原式とする。久保正弘 2001「北陸地方の木目状模様と波賀式土器について」『石川県歴史文化財情報』第6号

財团法人石川県歴史文化センター

注47 久保正弘氏は、縦条体を上から下に押し引いたものとする。

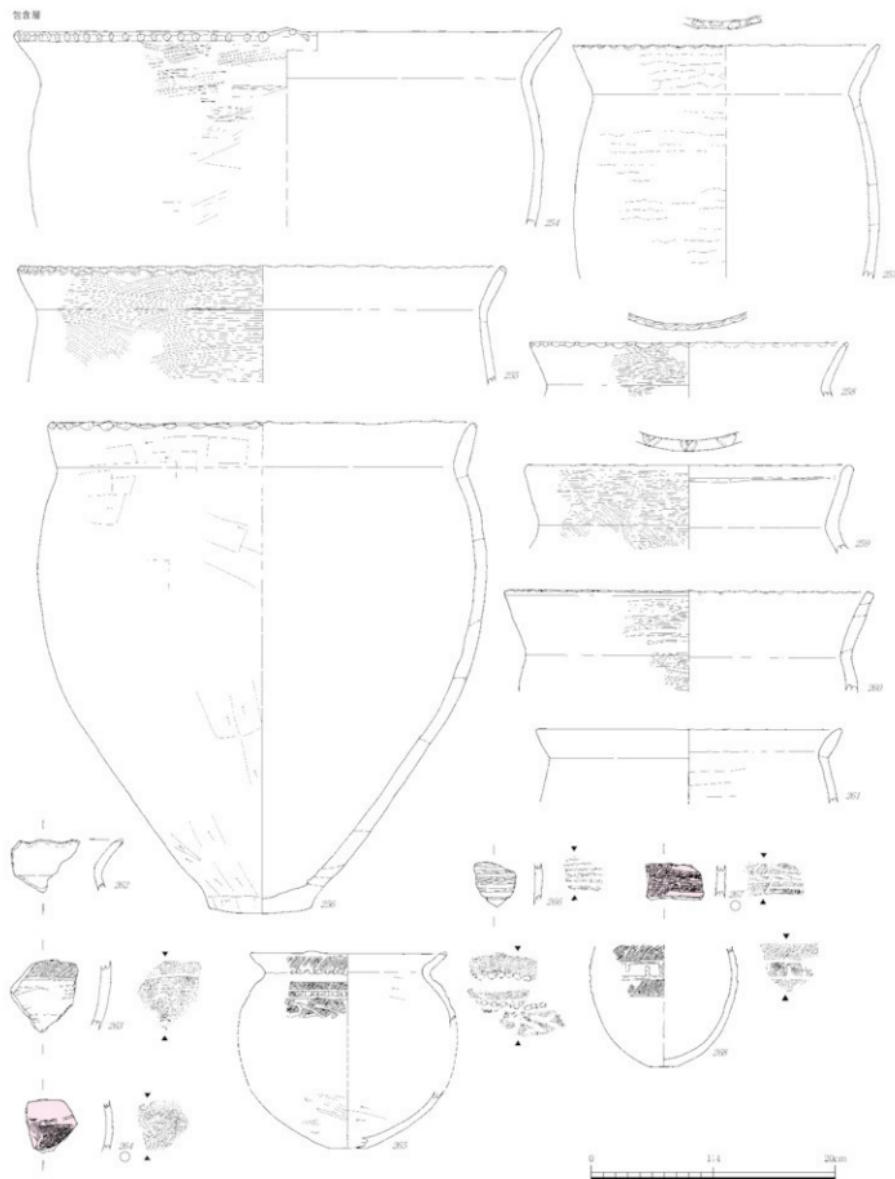


か)で押し引き状とする。吉岡遺跡に類例がある。²⁷⁵~²⁷⁷はE-3類。条痕の原体は、²⁷⁵・²⁷⁶が貝殻で²⁷⁷が草茎か。²⁷⁸・²⁸³はF-3類。²⁷⁹は深鉢I類で、口縁部が弱く屈曲し、無節縄文に四字文?を施す。下老子笠川遺跡では他に類例がなく、搬入品か。²⁸⁰・²⁸¹・²⁸⁴は下野式系統の深鉢。²⁸⁰はB類で、肩部に2条の幅広の平行沈線とその間に押引列点を施す。²⁸¹はF-2類で、口縁部と肩部に半截竹管で平行沈線と左上がりの押引列点を施す。²⁸⁴はB類であろう。²⁸⁰は下野式そのものであろうが、²⁸¹は文様体が上下2段にあることと押し引き列点が崩れていることから、新しい様相(長竹式併行期)を示す。²⁸⁵・²⁸⁶はH類。²⁸⁵は肩部を不鮮明ながらヨコ条痕、体部をナデ、口縁端部をユビオサエで小波状とする。底面には網代痕が残る。H-2類。²⁸⁶は体部をケズリ、口縁部に隆帯を貼付けた後に指頭により眼鏡状とし、ミガキを施す。口縁端部は刻みを入れる。H-1類。²⁸⁷~²⁹²は底部。²⁸⁷は底面に十字状の線刻がある。²⁸⁸・²⁹⁰・²⁹¹は底面に網代痕があり、²⁸⁸は1本超え1本潜り1本送り、²⁹⁰は2本超え2本潜り1本送りか。²⁹³・²⁹⁴・²⁹⁸~³⁰¹は全体が復元できない深鉢の小破片。²⁹³は口縁端部に縦条体圧痕がある。²⁷²と同類か。富山市布尻遺跡^(注49)・立山町古屋敷II遺跡に類例がある^(注50)。²⁹⁴は口縁端部に斜め方向から貝殻による刺突を施す。高田新茅道遺跡に類例がある。²⁹⁸はヨコ条痕に口縁端部をユビオサエで小波状とする。³⁰⁰は指頭沈線2条の上に2個1単位の押引列点文を施す。B類か。高田新茅道遺跡に類例がある。³⁰¹は左上がり条痕に沈線を2条施す。

²⁹⁵・²⁹⁷・³⁰³~³⁰⁵・³¹¹は壺。²⁹⁵・²⁹⁷は口縁部の小破片で壺C類か。³⁰³は沈線文系で、いわゆる大本地型の壺。体部の文様は、平行沈線3条の下に三日月型を上下に配し、その下に平行沈線1条を施す。口縁部の文様は、十字に区画した沈線内に背向する連弧文を2条ずつ施す。口縁の内面は有段となっている。なお、肩部には2箇所の焼成後穿孔がある。外面の調整は、摩耗とススが付着しているため不鮮明であるが、ハケの後にナデか^(注51)。³⁰⁴は壺B-3類で、ヨコ条痕(貝殻)の後、頭部に先の尖った工具による沈線文?を施す。³⁰⁵は壺C類で、口縁端部の隆帯に指頭沈線、肩部に平行沈線と連弧文を施す。³¹¹は縄文を地文とするもので、壺F類か。搬入品か。

³⁰⁶~³¹⁰は浅鉢。³⁰⁶は、内部に短沈線を入れる方形区画を重ねる文様を持つ。外面は施文の後、ミガキ、赤彩する。内面はミガキ。下老子笠川遺跡では他に類例がなく、搬入品か^(注52)。³⁰⁷は浮線網状文の浅鉢。胴部下半の浮線には刻みを入れる。口縁部下には焼成後穿孔する。内外面ミガキ。氷1式古段階^(注53)。³¹⁰はC類で、頭部に平行沈線2条とその間に押引列点を施す。胴部には4分岐の沈線文を施す。高田新茅道遺跡・吉岡遺跡に類例がある。³⁰⁸・³⁰⁹は眼鏡状隆帯をもつもので、D類。³¹⁸は交点の突起部が欠損している。内外面ミガキ。³⁰⁹は欠損部分が多いが、沈線と突起部で眼鏡状とし、平行沈線2条とその間に押引列点、楕円工字文を施す。口縁端部にはB字状突起を施す。内外面ミガキ。³¹⁶は先の細い工具で浅い沈線を施すもの。C類か。外面赤彩。³¹⁷はブタ鼻状の突起の付く破片。沈線文の後赤彩する。C類か。

²⁶³~²⁶⁸・²⁸²・³¹²~³¹⁵・³¹⁸は鉢。²⁶³~²⁶⁸は精製土器でA-1類。²⁶⁵~²⁶⁷は沈線間に列点を施す。²⁶⁵は体部に入組三叉文を施す。²⁶⁸は体部上半を沈線間に縄文と上下から短沈線を入れ鍵手状とする。²⁶⁴は外面を赤彩。²⁶⁸が御経塚式、他は中屋式併行期か。²⁸²はD類で、口縁端部に棒状工具で連続刺突を施す。体部は右上がり条痕で、焼成後穿孔する。³¹²・³¹³はB-1類で、口縁端部をユビオサエ等で小波状とするもの。²⁸²・³¹²・³¹³は金沢市近岡遺跡に類例があり、中屋式併行期^(注54)。³¹⁴はA-2類で、体部は左上がり、肩部は右上がりの条痕(貝殻)。口縁端部を面取りする。³¹⁵はC-2類で、口縁部内外面を細かいヨコ条痕、体部はナデ。³¹⁸はC-1類で、押引列



第97図 遺物実測図 (1/4)

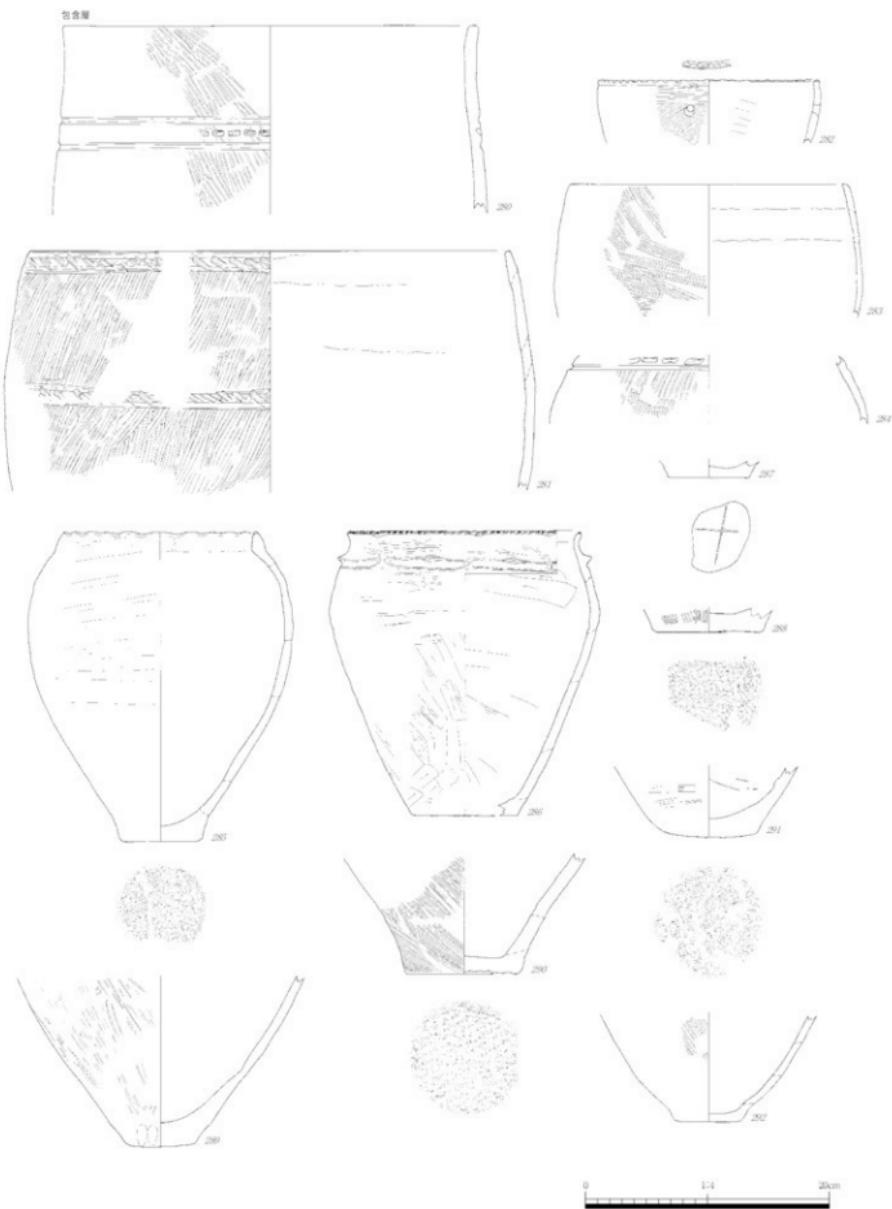
D地区 包含層

D1地区(260・263・266・267) D2地区(259・261・264) D3地区(254～258・262・265・268)



第98図 遺物実測図 (1/4)

D地区 包含層 D1地区(269・272~274) D2地区(270・271・276~278・279) D3地区(275)



第99図 遺物実測図 (1/4)

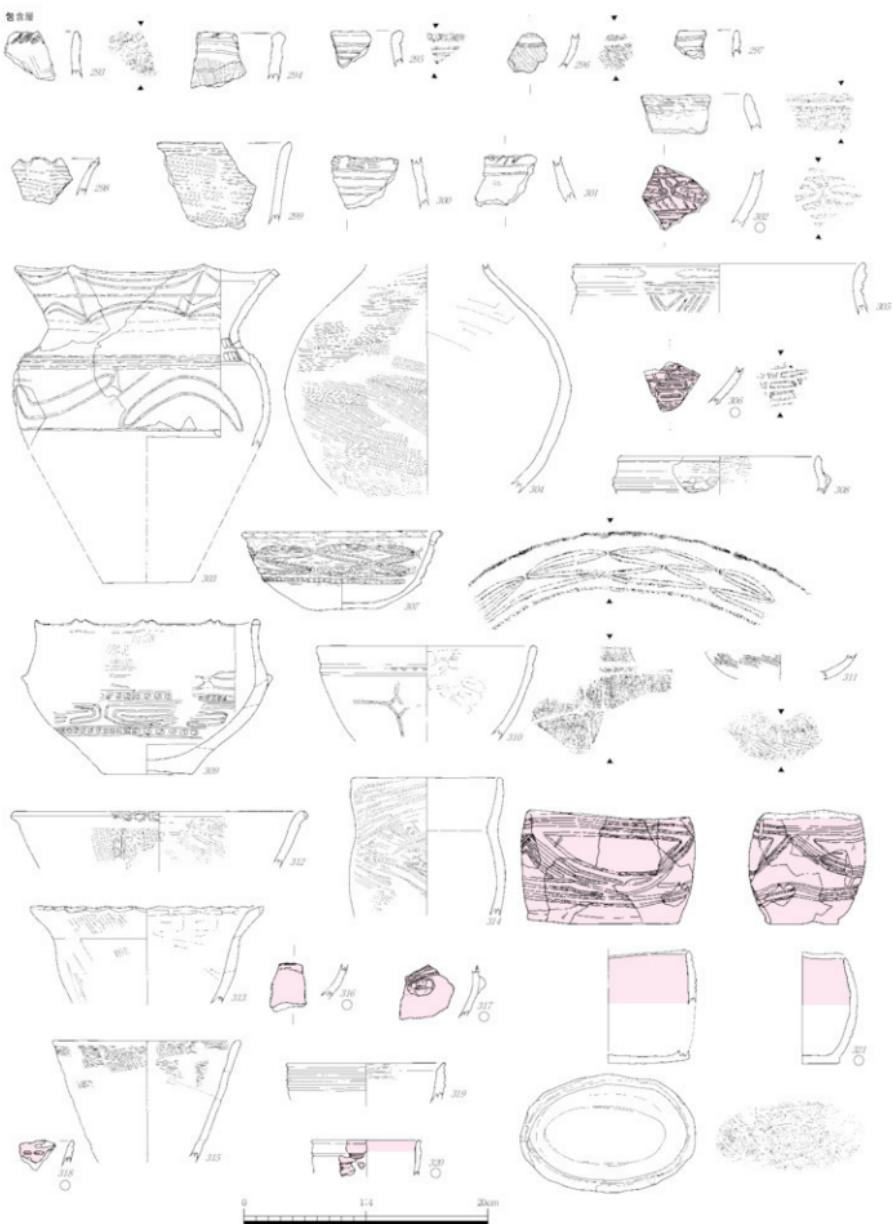
D地区 包含層

D1地区(280・281・284)

D2地区(285・286・291)

D3地区(282・283・287・288・290・292)

D4地区(289)



第100図 遺物実測図 (1/4)

D地区 包含層

D1地区(294・298・300・303・306・308・310・312・315・319・320)

D2地区(295・297・301・304・305・316・321)

D3地区(293・296・302・307・309・311・317・318)

点を施す。内外面赤彩。

319・320は筒形。319はB類で外面に断面箱形の沈線を5条、内面に浅い凹線を施す。320はG類か。外面と口縁内面を赤彩。

321は舟形で、棒状工具による平行沈線と連弧文で文様（2単位）を構成する。外面と口縁部内面を赤彩する。底面には黒斑と木葉痕が残る^(注35)。

B 石製品（第101・102図、図版63～65）

出土した石製品には打製石斧・磨製石斧・剥片がある。

322は横長の剥片を用い、ソフトハンマーによる押圧剥離で整形する二次加工剥片。石匙状の形態であるが、作りが粗雑で実際の使用は窺えない。未成品か。石材は泥岩。

323・324は磨製石斧。323は小型の定角式磨製石斧。使用痕分析では、刃部使用痕の表面への偏り、線状痕が直交することから横斧タイプの装着の可能性が高いとされた^(注36)。324は片刃状の定角式磨製石斧。両側面を擦り切りにより分割したものと考えられる。使用痕分析では、刃部使用痕の裏面への偏り、線状痕が直交することから横斧タイプの装着の可能性が高いとされた^(注36)。

325～335は打製石斧。分類に当てはめると、326～329がc類、330がd類。325はb類で、基端部を欠損する。326は刃部は厚さの薄いつくりとなっている。基端部を欠損する。329は、基部及び刃部の端部を欠損する。330は大型の打製石斧で、長さが26cm以上あり、他の2倍近くで、特別な用途が窺える。331は刃部右上方に大きな剥離があり敲打痕が残ることから、右上方からの打撃によって破損したものと考えられる。a類か。333はc類か。334は基部のみでa類か。335はb類か。試掘調査での出土である。石材は326が花崗斑岩、327・335が花崗閃綠岩、328が閃綠岩、329が安山岩、330が花崗岩、331・333が凝灰岩、332が溶結凝灰岩（濃飛流紋岩）、334が砂岩。

注35 前田正七夫：2004「滋賀県近江八幡市高津町高津地区の『大丸』遺跡」、『滋賀考古学』

注36 大矢尚美：1997「近江八幡市高津町高津地区の『大丸』遺跡」、『近江考古学』

注37 大矢尚美・栗原智子：2007「近江八幡市高津町高津地区の『大丸』遺跡」、『近江考古学』

注38 金三津美樹：1999「下老子井川遺跡の『大丸』遺跡について」、『滋賀考古学研究』紀要第2号

注39 財团法人滋賀県文化財保護財團・滋賀県文化財保護委員会

注40 夏川健史氏にご教示いただいた。

注41 小澤洋次氏にご教示いただいた。

注42 横尾勝：1998「奈良市吉岡遺跡」、『奈良市埋蔵文化財センター』

注43 上田尚美：2009「奈良市吉岡遺跡」、『奈良市考古学研究』紀要第2号

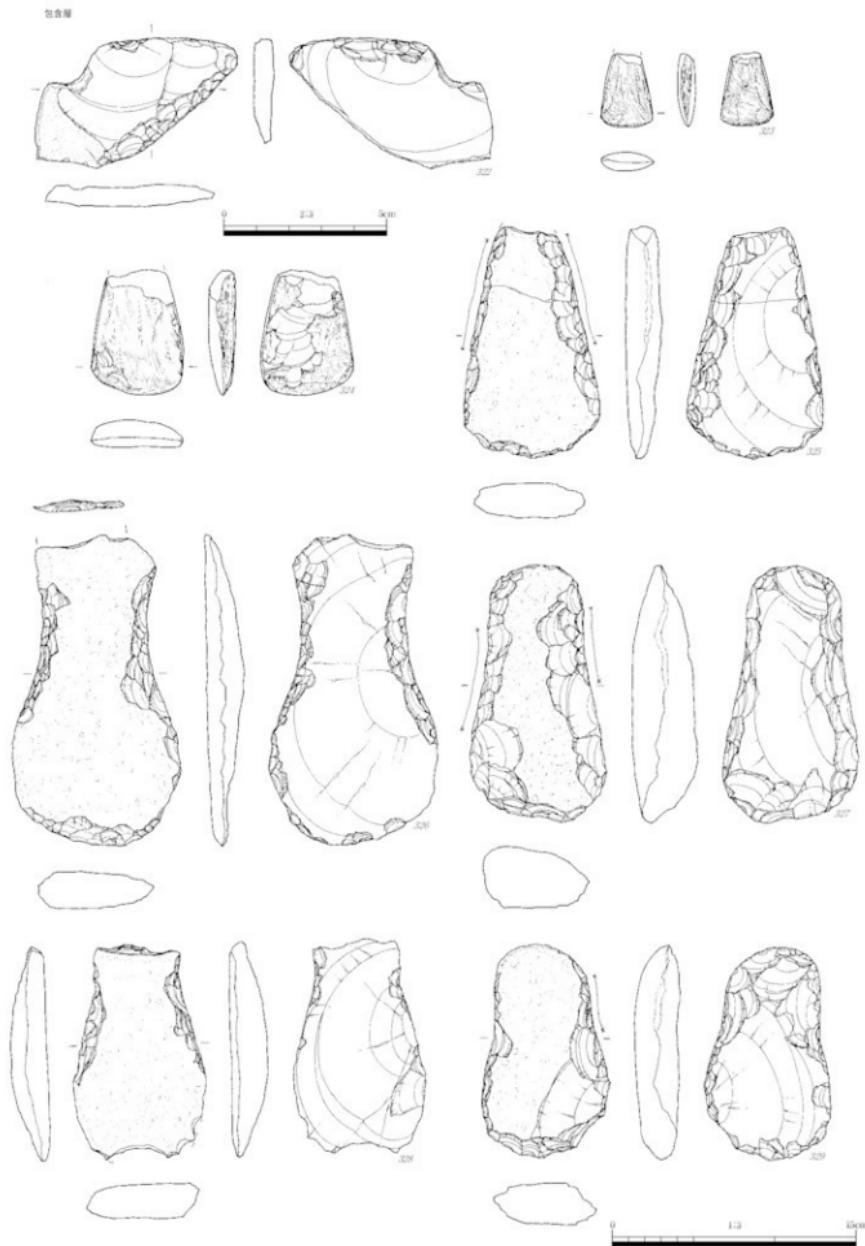
注44 財团法人滋賀県文化財保護財團・滋賀県文化財調査事務所



C 4 地区作業風景



C 4 地区作業風景



第101図 遺物実測図 (322~323, 323~329 1/3)

D地区 包含層
D1地区(324・326) D2地区(322・327) D3地区(322・325・329) D4地区(328)

包含層



第102図 遺物実測図 (1/3)

D地区 包含層
D2地区(332～335) D3地区(330) D4地区(331)

6 E地区

E地区ではE 1～4地区で縄文土器、E 3・4地区では縄文時代の遺構を検出した。

(1) E地区的遺構と遺物

E地区ではE 3地区北側を中心に、E 2地区南側・E 4地区南側で建物3棟、土坑13基を検出した。建物の地床炉はIV層上面で確認することができたが、そのほかの遺構に関しては検出が困難であったとのと、IV層が全体的に層厚が薄いものであったことから、地床炉部分を残してV層上面まで下げて検出した。

A 建物

15号建物（S I 15、第103・104・107図、図版26・27・57・59）

E 3地区北東部にある建物である。掘り込みは浅く、IV層面中でほぼ納まっていた様で、V層上面で検出できたのは壁溝と一部の柱穴のみであった。検出した壁溝から、規模は一辺が約3mで平面プランは方形であったと考えられる。柱穴は3基検出したものの配置には規則性は見られなかった。地床炉周辺から赤彩壺（339）の口縁部の破片が出土した。

336は深鉢E-3類で、S I 16出土の破片と接合した。付着する炭化物を放射性炭素年代測定（AMS法）したところ、¹⁴C年代を2610±40BPと測定した^[118]。337は鉢C-2類で、外面を左上がり条痕（貝殻）の後に穿孔する。口縁端部はユビオサエにより小波状とする。射水市下村加茂遺跡に類例がある^[156]。338・339は壺。338は肩～体部の破片で肩部に先の平らな工具で沈線文を施し、赤彩する。下半はミガキ。壺A-2類か。339は口縁端部に突帯を貼り付けユビオサエとする。口縁部は棒状工具で押引点文と波状沈線文を施す。外面と口縁内面を赤彩する。壺C類。

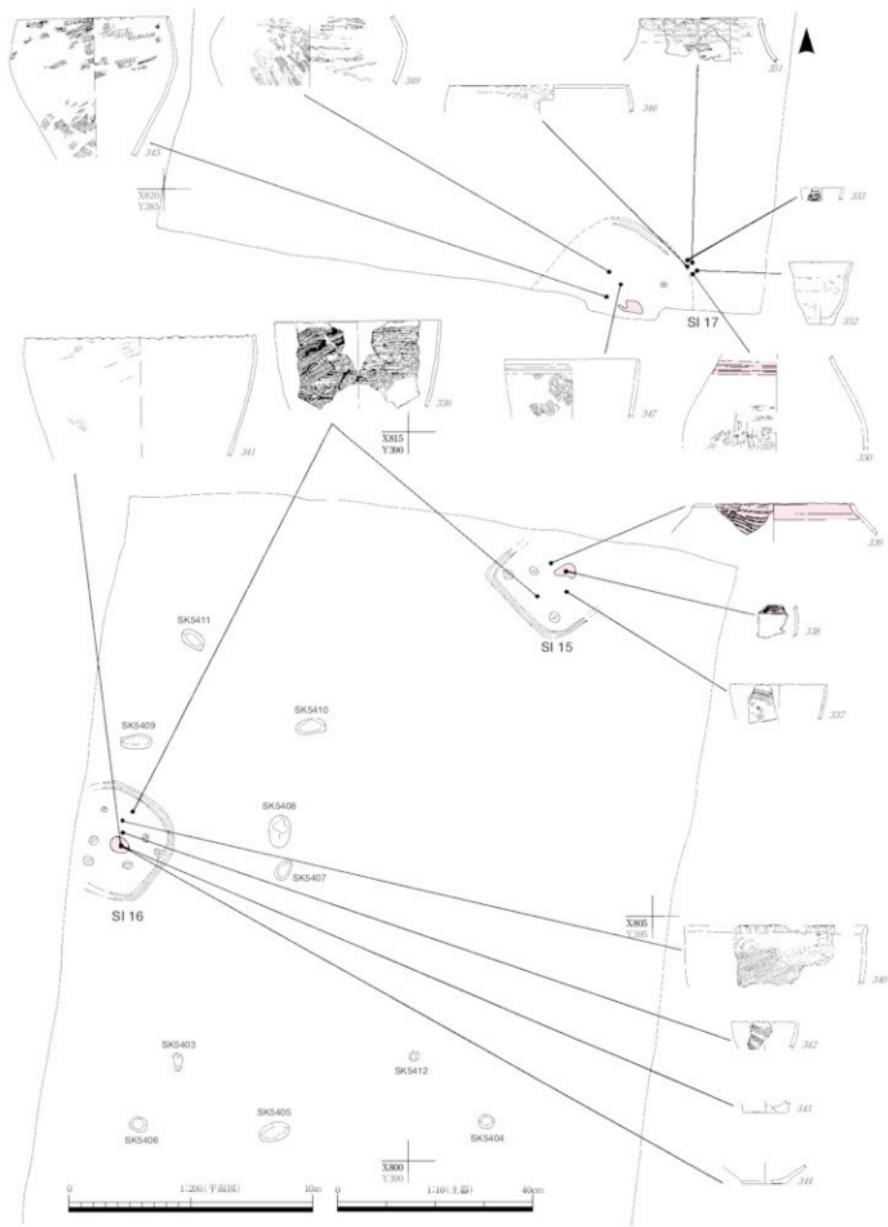
16号建物（S I 16、第103・105・107図、図版27・57・59・60）

E 3地区北西部にある比較的の残りの良かった建物である。床面積は47.9m²であり、短辺2.8m、長辺3.0mを測る。掘り込みは浅くIV層面中でほぼ納まっていた様で、V層上面で検出できたのは壁溝と一部の柱穴のみであった。壁溝は浅いながらも方形に巡る。よって平面プランは、方形であったと考えられる。柱穴と考えられる遺構は6基検出している。各柱穴にはさほど深さが無く、土層観察からは柱痕などの痕跡は確認できなかったが、柱穴の配置には、地床炉を中心に行方に柱穴を配する傾向が見られた。炉は地床炉であり、明瞭な焼土が見られたことから、1・2回の使用のみで廃棄したのではなく、ある一定期間の連続使用が想定できるものであった。遺物は建物周辺と地床炉から条痕深鉢が廃棄された形で出土した。

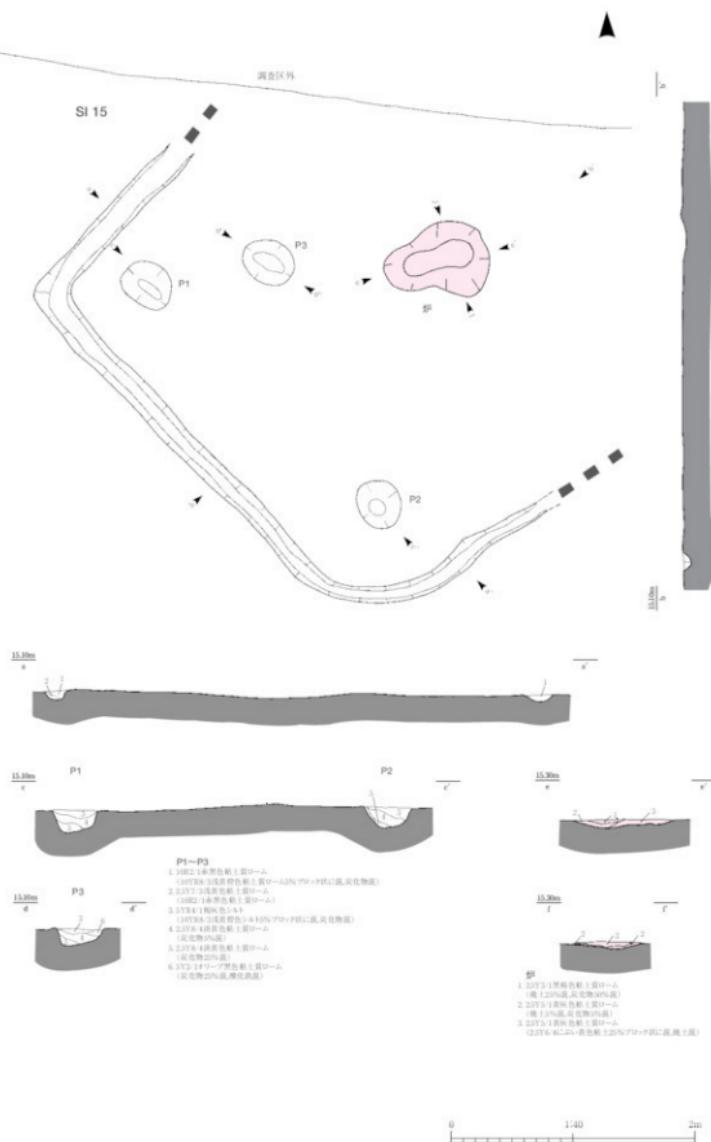
この建物周辺からは、数基の土坑が検出されている。どの土坑も深さはさほど無く、浅いものがほとんどであり、遺物の出土もなかった。しかしSK5408に関しては、規模などから他の土坑とは違いが見られ、建物との関連を考えたい土坑である。

340・341・343・344は条痕深鉢。340はC-2類で、口縁端部に突帯を貼り付け指頭圧痕を残す。体部は右上がり条痕（貝殻）。口縁端部に突帯を貼り付ける手法は、吉岡遺跡など県東部以東に多く、その影響をうけたものであろう。341は外面は体部に左上がり条痕、口縁部に右上がり条痕（貝殻）の後ナデ、口縁端部をユビオサエにより小波状、内面は条痕の後にナデ。343・344は底部で、いずれも底面に網代痕がある。343は1本超え1本潜り1本送り、344は2本超え2本潜り1本送りか。342は鉢C-2類。外面は左上がり条痕（貝殻）で、口縁端部をユビオサエする。

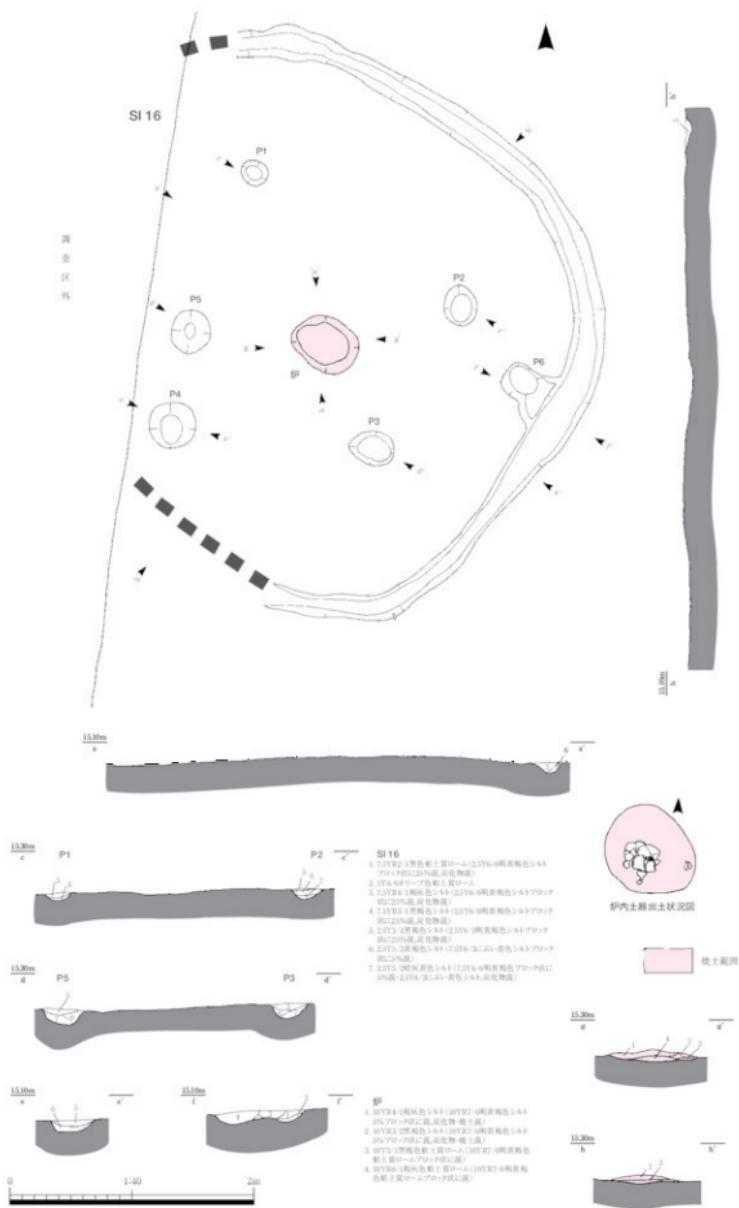
^[156] 久々志義：2009『富山県射水郡下村加茂遺跡実測調査報告』下村教育委員会



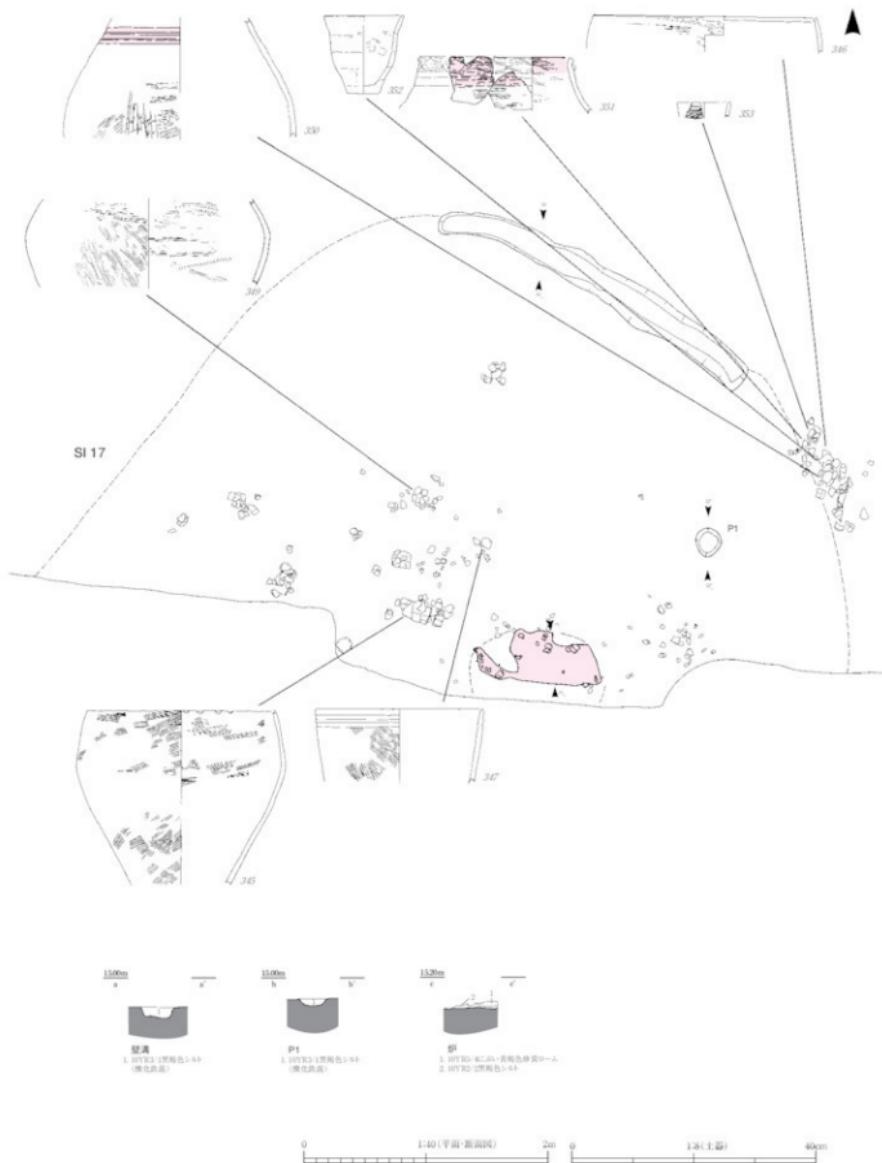
第103図 主な土器出土位置図 (1/200, 1/10)
E地区遺構



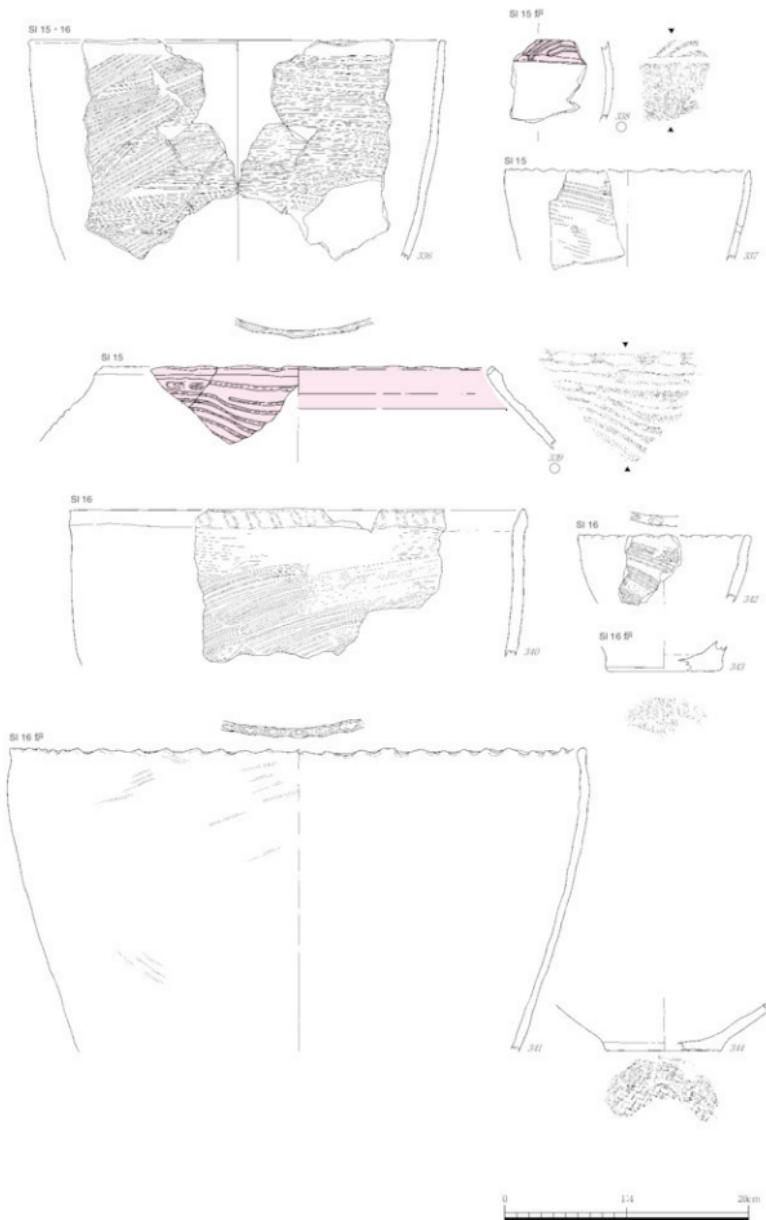
第104図 遺構実測図 (1/40)
E3地[区] SI15



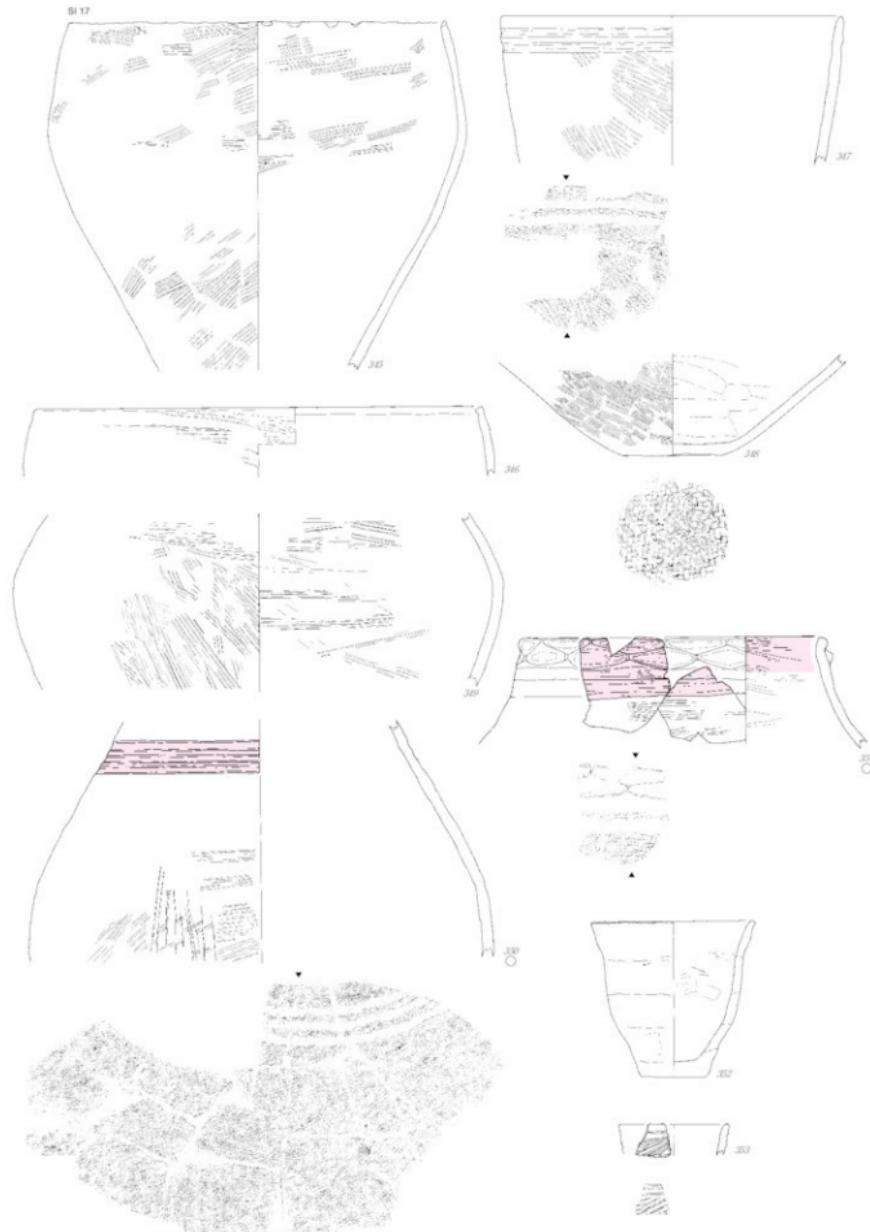
第105図 遺構実測図 (1/40)
E3地区 SI16



第106図 遺構実測図 (1/40, 1/8)
E4地[区] SI17



第107図 遺物実測図 (1/4)
E3地区 SI15(336~339) SI16(340~344)



第108図 遺物実測図 (1/4)
E4地区 SI17



第109図 主な土器出土位置図 (1/400, 1/10)
E地区 包含層



第110図 遺物実測図 (1/4)

E地区 包含層
E2地区(354～357) E3地区(355)

17号建物（第103・106・108図、図版28・57・60・61）

E 4 地区南部に位置する建物である。壁溝と地床炉の一部を検出したものの、平面プラン等の規模は不明である。壁溝は全周するものではなく、北側部分の一部で検出し、炉はE 3 地区で検出した建物と同様地床炉であった。遺物は炉周辺からの出土が多く見られた。

345～349は深鉢。345はG-2類で、口縁端部はユビオサエする。346はG-2類で、口縁端部を面取りし、内面に折り返す。347はE-1類で、口縁部に指頭沈線を2条施す。吉岡遺跡・針原東遺跡に類例がある。348は底部で、底面に網代痕（2本超え2本潜りで1本送りと2本送りの交互か）がある。349は345のような深鉢の体部で、G-2類か。350・351は壺。350は頸部付近に指頭沈線を3条施し、赤彩する。胴部は摩滅しているがヨコ条痕（貝殻）の後、先の尖った細い工具で11条の線刻を縱方向に施す絵画土器。B-1類か。351は口縁部を指でつまみ上げ、浮線網状文風とし、その下に指頭沈線2条を施し、赤彩する。352は鉢B-2類で、内外面ナデ、口縁端部を櫛状工具による連続刺突。353は筒形C類で、沈線による文様を施す。

(2) E 地区の包含層出土遺物

A 土器（第109・110図、図版60～62）

354・355・357は条痕深鉢。354はA-2類で、口縁端部をユビオサエにより小波状とする。中屋式併行期。355はE-1類で、口縁部に2条の指頭沈線と一部にそれをつまみ上げる。口縁端部は指頭により細かい波状とする。氷見市大境洞窟^(注57)・八田中遺跡に類例がある。357は底部で底面にスダレ状圧痕が残る。

356・358は壺。356はB-3類で、外面に条痕（貝殻）の後に綾杉状の沈線文、内面に条痕（貝殻）を施す。胎土（赤褐色）が他のものと異なり、搬入品か^(注58)。358は体部片で外面にはヨコ条痕（貝殻）、内面には炭化物が付着する。B-3類か。

遺物の時期は355・356が新しい様相を示し、柴山出村式併行期以降で弥生土器か。

B 石製品（第111図）

359は両極石器。剥片を素材とし、ハードハンマーの垂直打撃により整形する。石材は流紋岩（鉄石英）。繩文時代かそれ以降のもの。

（新宅・町田賢一・町田尚美）

^(注57) 野中 2002「大境洞窟遺跡」[氷見市史7 資料編五 考古] 氷見市史編纂委員会

^(注58) 須川栄門 1998「老子塚遺跡E地区出土の赤陶土器について」[富山考古学研究] 第1号 財團法人富山県文化振興財團 現藏文化財調査事務所



第111図 遺物実測図（2/3）
E2地区 包含層

参考文献

- 阿部伸一部 1995『縄文後・晚期社会と集団一住居の分析を中心にして』『奈和』第33号 奈和同人会
- 荒川 隆史 1998『新潟県南蒲原郡采田長畠遺跡出土の土器について—縄文時代晚期終末の様相—』『研究紀要』第2号 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川 隆史 2001『日本考古学学会2001年度盛岡大会研究発表資料集 亀ヶ岡文化一集落とその実体— 晩期遺構集成Ⅱ(新潟県)』日本考古学学会2001年度盛岡大会実行委員会
- 荒川 隆史 2004『日本海沿岸東北自動車道開通発掘調査報告書V 青田遺跡』新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 安藤 文一 1974『細池遺跡 新潟県糸魚川市細池遺跡発掘調査報告』糸魚川市教育委員会
- 石川日出志 1981『東海地方西部の櫻王・水神平式期をめぐる問題』『考古学研究』第28巻第1号 考古学研究会
- 石川日出志 1985『中部地方以西の縄文時代晚期浮繩文土器』『信濃』第37巻4号 信濃史学会
- 石川日出志 1988『伊勢湾沿岸地方における縄文時代晚期・弥生時代の石器組成』『条痕文系土器』文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—資料編Ⅱ・研究編』愛知考古学談話会
- 石川日出志 1988『鳥屋遺跡』『鳥屋道路Ⅰ・Ⅱ—新潟県豊栄市鳥屋道路発掘調査報告』豊栄市史編纂委員会・豊栄市教育委員会・鳥屋道路発掘調査団
- 石川日出志 1991『縄文時代晚期浮繩文土器出現期の編年と諸様相』『北越考古学』第4号 北越考古学研究会
- 石川日出志 1993『突帯文期・条痕文期は縄文か弥生か』『第1回東海考古学フォーラム・農耕大会突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム農耕大会実行委員会・突帯文土器研究会
- 石川日出志 1995『工字文から流水平文へ』『みづは』第15号 大和弥生文化の会
- 石川日出志 2000『三河・尾張における弥生文化の成立—水神平式土器の成立過程について—』『駿台考古学論集5』明治大学考古学専攻講座創設50周年記念会
- 石黒 立人 2004『中部地方における四綱紋系土器期以前の認識』『考古学フォーラム』16 考古学フォーラム
- 泉 拓良 1986『縄文時代から弥生時代—西日本における研究の現状と課題—』『日本考古学協会昭和61年度大会 研究発表要旨』日本考古学協会
- 泉 拓良 1990『西日本凸帶文土器の編年』『文化財学報』第8集 奈良大学文学部文化財学科
- 市川 金丸 1990『国説 ふるさと青森の歴史シリーズ3 北の誇り・亀ヶ岡文化 縄文時代晚期編』青森県教育委員会・青森県文化財保護協会
- 伊藤 淳史 2003『比叡山南西麓における縄文から弥生—京都大学構内遺跡出土資料の紹介と検討を通じて—』『立命館大学考古学論集』III-1 立命館大学考古学論集刊行会
- 岩瀬 彰利 2003『施文・調整具として用いられた貝類』『第1回三河考古学談話会研究集会資料集～条痕文系土器の原体をめぐって～』三河考古学談話会
- 上野 章 1994『小杉町京原東道路発掘調査報告書』富山県小杉町教育委員会
- 上野 章 2002『大堀洞窟遺跡』『水見市史7 資料編五 考古』水見市史編さん委員会
- 岡本 勝一・久田 正弘 1991『栗田道路発掘調査報告書』社団法人石川県埋蔵文化財保存会
- 岡本 勝一 2001『松任市 乾谷跡発掘調査報告書A・CII下層編』財團法人石川県埋蔵文化財センター
- 岡本淳一郎 1989『富山県小矢部市 桜町道路—県道改良工事に伴う深沢地区の調査—』小矢部市教育委員会
- 岡安 雅彦 1999『弥生の技術革新 火燒きから覆い焼きへ 東日本を駆け抜けた土器焼成技術』安城市歴史博物館
- 小竹森直子 1988『近江における縄文時代晚期から弥生時代前・中期の遺跡立地に関する一考察』『条痕文系土器』文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—資料編Ⅱ・研究編』愛知考古学談話会
- 折原 譲一 2002『富山市吉岡遺跡・経力遺跡発掘調査報告書—珠泉ニュータウン造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』富山市教育委員会
- 金子 拓男 1969『東日本における縄文晚期の住居址について』『古代文化』第21巻第9・10号 財團法人古代學協會
- 神村 透 1988『浮輪風渦巻文土器』『条痕文系土器』文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—資料編Ⅱ・研究編』愛知考古学談話会
- 川添 和暁 2005『地域社会の変容過程—伊勢湾・三河湾・浜名湖周辺を中心に—』『縄文晚期～弥生中期の地域社会の変容過程』第4回考古学研究会東海例会事務局
- 久々 忠義 1999『富山県射水郡下村・下村加茂遺跡発掘調査報告書』下村教育委員会
- 紅村 弘 1995『地域考古学と方法論・用語等の問題点』『飛驒と考古学 学術研究会20周年記念誌』飛驒考古学学会
- 紅村 弘 1988『条痕系土器論の特徴と遺物における政治的性格の論理』『条痕文系土器』文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—資料編Ⅱ・研究編』愛知考古学談話会
- 小島 俊彰 1967『勝木原遺跡I』富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ
- 小島 俊彰・西野 秀和・酒井 重洋 1994『北陸の土器編年—後期後半～晩期中葉—』『平成4年度科学研究費補助 (総合A) 研究成果報告書 縄文晚期前業～中葉の広域編年』研究代表者 林 謙作

- 小林 青樹 1994「変容壺の成立」『國學院大學 考古學資料館紀要』第10輯 國學院大學考古學資料館
- 小林 青樹 1999「考古學資料集 9 縄文・弥生移行期の東日本系土器 平成10年度文部省科学研究費補助金特定研究A (1) 「日本人および日本文化の起源に関する学術的研究」考古学研究成果報告書』国立歴史民俗博物館
- 小林 青樹 2004「農耕開始期の居住システムと住居構造—中部高地・関東を中心に—」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第12集 帝京大学山梨文化財研究所
- 小林 青樹 2005「縄文・弥生移行期における地域社会の変容過程—関東の事例と追跡動態の反復の減滅パターンー」『縄文晩期～弥生中期の地域社会の変容過程』第4回考古学研究会東海例会事務局
- 小林 正史 1992「器種組成からみた縄文土器から弥生土器への変化」『北越考古学』第5号 北越考古学研究会
- 駒方 敏朗 1990「『藤橋遺跡』『長岡市立科学博物館研究報告』第25号 長岡市立科学博物館
- 駒方 敏朗 1985「藤橋遺跡—史跡整備事業に伴う発掘調査—」長岡市教育委員会
- 駒方 敏朗 1977「埋蔵文化財調査報告書 藤橋遺跡」長岡市藤橋遺跡等調査委員会
- 酒井 重洋 1976「「市町村眼鏡新丸山A遺跡」「大境」第6号 富山考古学会
- 酒井 重洋 1976「富山県魚津市 早月上野遺跡 第2次緊急発掘調査概報」富山県教育委員会
- 酒井 重洋 1986「小町村井口遺跡出土の縄文時代の土器」「大鏡」第10号 富山考古学会
- 酒井 重洋 1987「北野遺跡」「富山県小杉町 北野遺跡・椎土遺跡 緊急発掘調査概要」小杉町教育委員会
- 酒井 重洋 1991「晩期前葉～中葉」『北陸自動車道道路調査報告－朝日町編 6～境A遺跡土器編(第1分冊本文)』富山県教育委員会
- 酒井 重洋 1992「晩期前葉から中葉にかけての土器」「北陸自動車道道路調査報告－朝日町編 7～境A遺跡絆編」富山県教育委員会
- 酒井 重洋 1995「能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告NEJ-08道路－」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 酒井 重洋 2003「中山山遺跡」「富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業発掘体験講座 勅使塚古墳・永代遺跡・安居室跡群・中山山遺跡 発掘調査報告」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 坂詰 秀一 1965「縄文時代晩期の生業問題」「古代文化」第15巻第5号 財團法人古代學協會
- 佐藤 嘉子 1998「梅原胡麻堂遺跡II」福光町教育委員会
- 佐藤山紀男 1993「土器の使われ方」「第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—」第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会・突帯文土器研究会
- 佐藤山紀男 1993「変容壺をめぐって」「第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—」第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会・突帯文土器研究会
- 佐藤山紀男 1994「煮炊きする壺」「考古学研究」第40巻第4号 考古学研究会
- 佐藤山紀男 1994「近畿地方の突帯紋土器の壺、覚書き」「みずほ」第14号 大和弥生文化の会
- 品川 欢也 2003「器種と文様、そして機能の相関関係にみる大洞A式土器の変遷過程」「駿台史學」第119号 駿台史学会
- 品田 高志 1991「横峯A遺跡」「第1回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄作の受容—第Ⅲ分冊 甲信越・北陸・東海地方—」東日本埋蔵文化財研究会
- 品田 高志 1991「尾立遺跡」「第1回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄作の受容—第Ⅲ分冊 甲信越・北陸・東海地方—」東日本埋蔵文化財研究会
- 品田 高志 1991「藤橋遺跡」「第1回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄作の受容—第Ⅲ分冊 甲信越・北陸・東海地方—」東日本埋蔵文化財研究会
- 島田 修一 1990「富山県小矢部市 柵町遺跡—船岡地区の重要な遺跡確認緊急調査—」小矢部市教育委員会
- 島田 哲男 1991「長畠遺跡」「長野県大町市埋蔵文化財包蔵地緊急発掘報告書 長畠 清水氏居跡」大町市教育委員会
- 島田 哲男 1990「一津遺跡」「長野県大町市埋蔵文化財包蔵地緊急発掘報告書 一津—内陸における縄文時代玉作り遺跡—」大町市教育委員会
- 島田美佐子 2003「夷崎道路」「江尻遺跡・夷崎遺跡発掘調査報告—能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅳ」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 設楽 博己 2003「遠賀川と浮繩文—山陰と北陸の交流—」「越境する土器—土器による空間分析—」第8回例会発表要旨集 中部弥生時代研究会
- 新宅 輝久・細江 嘉門 1998「下老子笹川遺跡E地区」「埋蔵文化財調査概要—平成9年度—」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 神保 孝造・福島 安春 1972「富山県高岡市 高岡新・駒方遺跡 調査報告書」富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ・富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブO・B会
- 鈴木 正博 2003「「亀ヶ岡式」から「遠賀川式」へ—文様帶クロス」関係から観た弥生式形成期の複合構造と相互の密結合—」『日本考古学研究会第69回総会研究発表要旨』日本考古学協会

- 鈴木 正博 2004 「『櫛原式』から『唐古式』へ—「木葉文」生成への型式構えは如何にして形成されたか—」『古代』第114号 早稲田大学考古学会
- 鈴木 正博・荒海賀様研究会 2004 「弥生式前期『荒海3式』の型式学的射程—『変形工字文系土器群』の変容に觀る新たな文様帶の生成—」『有限責任中間法人日本考古学協会第70回総会 研究発表要旨』有限責任中間法人日本考古学協会
- 鈴木 正博 2004 「『境木式』の行方—『荒海2a式』から『境木式』へ、そして『弧線文系土器群』や『及川宮ノ西型文様帶』へ—」『倭良岐考古』第26号 「日本先史文化」研究会
- 鈴木 正博 2004 「『荒海式』変遷の背景—常磐弥生式前期への移行に觀られる文化系統の一断面—」『茨城県考古学協会誌』第16号 「日本先史文化」研究会
- 須藤 隆 1986 「東日本における縄文晚期から弥生時代に関する諸問題」『日本考古学協会昭和61年度大会 研究発表要旨』日本考古学協会
- 須藤 隆 1987 「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』第73巻第1号 日本考古學會
- 宗 融子 2000 「上牧野新庄山跡」「富山県新湊市 高島A遺跡発掘調査概要 民間ドライブイン造成に伴う高島A遺跡発掘調査」新湊市教育委員会
- 高瀬 克範 2004 「本州島東北部の弥生社会誌」六一書房
- 高梨 清志・越前 康祐 2000 「富山県舟橋村 浦田遺跡発掘調査報告(3)」舟橋村教育委員会
- 高橋 修宏・古川 知明 1983 「古沢A遺跡発掘調査概要」富山市教育委員会
- 田中 幸生 1999 「北陸東部域における縄文晚期中業から後業の土器様式の変革—境A遺跡出土土器の計量分析と使用痕分析を中心として—」『北陸考古学』石川考古学研究会
- 田部井 功 1985 「縄文晚期・浮線文土器の研究—文様の構造と系統について—」『古代探叢Ⅱ—早稲田大学考古学会創立35周年記念考古学論集』早稲田大学出版
- 出崎 政子 1969 「北陸地方の縄文時代晩期について(1)」「大境」第3号 富山考古学会
- 戸田 哲也 1982 「飛驒における晩期縄文土器の様相」『信濃』第34巻第4号 信濃史学会
- 戸根与八郎・本間 信昭・高橋 陽子 1975 「長畠道路」『上越新幹線沿線埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟県教育委員会
- 永井 宏幸 1993 「条軋文系土器成立期をめぐる諸問題」第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり— 第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会・突帯文土器研究会
- 永井 宏幸 1994 「「柳線紋系土器について」」『朝日遺跡V(土器編・総論)』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 永井 宏幸 1995 「「柳線紋系土器について—生まれは縄文、育ちは弥生—」」『考古学フォーラム』7 考古学フォーラム
- 永井 宏幸 2001 「「柳線紋系土器」「まいぶん愛知」No.65 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井 宏幸 2003 「「条軋紋系土器現状と課題」」第1回三河考古学講話会研究集会資料集～条痕文系土器の原体をめぐって～」三河考古学講話会
- 永井 宏幸 2003 「中部山岳盆地をめぐる大地系土器」「越境する土器—土器による空間分析—」第8回例会発表要旨集 中部弥生時代研究会
- 中川 寧 2003 「出雲地域における縄文・弥生移行期の遺跡の特徴について」『立命館大学考古学論集』III-1 立命館大学考古学論集刊行会
- 中沢 道彦 1999 「中部地方晩期(浮線文土器群)－水I式を中心として－」『縄文時代10「縄文時代文化研究の100年－21世紀における縄文時代文化研究の深化に向けて－」』第2分冊 土器型式編年研究(2) 縄文時代文化研究会
- 中沢 道彦・丑野 輝 1998 「レブリカ法による縄文時代晩期の柵状圧痕の観察」『縄文時代』9 縄文時代文化研究会
- 中沢 道彦 1991 「宮崎遺跡」『第1回東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄作の受容－第Ⅲ分冊 甲信越・北陸・東海地方－』東日本埋蔵文化財研究会
- 中沢 道彦 1991 「石行遺跡」『第1回東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄作の受容－第Ⅲ分冊 甲信越・北陸・東海地方－』東日本埋蔵文化財研究会
- 中沢 道彦 1993 「女鳥羽川式土器小考」『第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会・突帯文土器研究会
- 中沢 道彦 2004 「佐野式土器研究の現状と課題」『第17回縄文セミナー－晩期中業の再検討』縄文セミナーの会
- 中島 栄一 1968 「三条上野原 縄文晚期」新潟県立三条商業高等学校社会科クラブ考古班
- 中島 後一 1977 「松任市長竹遺跡発掘調査報告書」石川県教育委員会
- 中島 後一 1976 「白峰村桑島・東島遺跡発掘調査報告書」石川県教育委員会
- 中司 照批 1986 「福井県13 考古一本文編ー」福井県
- 永峯 光一 1967 「佐野」長野県・高井郡山ノ内町教育委員会
- 中村 健二 1990 「近江・山城の凸彫文後半期の土器について」『滋賀文化財だより』No.144 財團法人滋賀県文化財保護協会
- 中村 健二 1993 「近畿地方における凸彫文土器資料の現状」『第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行

- 委員会・突帯文土器研究会
- 中村 健二 2003 「京都府における凸縁文土器の編年」『立命館大学考古学論集』Ⅲ-1 立命館大学考古学論集刊行会
- 中村 健二 2003 「凸縁文土器における貝の使用について－近畿地方の事例－」『第1回三河考古学談話会研究集会資料集～条痕文系土器の原体をめぐって～』三河考古学談話会
- 中村 智也 1991 「北陸における縄文時代晚期中葉の土器」『金沢考古』第19号 金沢大学考古学研究室
- 中村 友博 2003 「条痕の様相と原体について若干の考察」『第1回三河考古学談話会研究集会資料集～条痕文系土器の原体をめぐって～』三河考古学談話会
- 中村 豊 1997 「浮縁紋土器の成立過程」『立命館大学考古学論集』I 立命館大学考古学論集刊行会
- 中山 誠二 1991 「「道跡」『第1回東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄文の受容－第Ⅲ分冊 甲信越・北陸・東海地方－』東日本埋蔵文化財研究会
- 西井 龍儀 1982 「井口道跡」「井口村史 下巻 資料編」井口村史編纂委員会
- 西野 伸和 1989 「米泉道跡 後・晚期の土器編年」『金沢出米泉道跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 布尾 和史・安 英樹 2005 「縄文晚期から弥生中期の道跡群の変遷－手取扇状地帯の検討から－」『縄文晚期～弥生中期の地域社会の変容過程』第4回考古学研究会東海例会事務局
- 野口 智也 1991 「山中道跡」『第1回東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄文の受容－第Ⅲ分冊甲信越・北陸・東海地方－』東日本埋蔵文化財研究会
- 野口 智也 1993 「突帯文土器」『第1回東海考古学フォーラム・農橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢清瀬辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』第1回東海考古学フォーラム農橋大会実行委員会・突帯文土器研究会
- 橋本 澄夫 1981 「鳥越下谷道跡出土の前期弥生土器」『石川考古学研究会誌』第24号 石川考古学研究会
- 橋本 澄夫 1983 「「道跡」「弥生土器Ⅱ」ニユーサイエンス社
- 橋本 澄夫 1985 「北陸地方における縄文世界の動態に関するノート」『石川考古学研究会誌』第28号 石川考古学研究会
- 橋本 澄夫 1986 「北陸地方における縄文・弥生移行期に関する諸問題」『日本考古学協会昭和61年度大会 研究発表要旨』日本考古学協会
- 浜田 雄彦 1997 「近畿地方における亀ヶ岡系土器の受容について」『滋賀考古』第17号 滋賀考古学研究会
- 原 嘉藤 1972 「長野県松本市女鳥羽川道跡緊急発掘調査報告書」長野県奈良井川改良事業所・長野県松本市教育委員会
- 久田 正弘 1986 「第23群土器 下野式期」『石川県能都町 真籠道跡』能都町教育委員会・真籠道跡発掘調査団
- 久田 正弘 1988 「八田中道跡」石川県立埋蔵文化財センター
- 久田 正弘 1991 「北陸地方西部における弥生時代の地域性について」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報3』平成3年度社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
- 久田 正弘 1991 「北陸地方西部の大洞C式～大洞A式直接の土器編年」『第1回東日本埋蔵文化財研究会 東日本における縄文の受容－第1分冊 研究発表概要・追加資料－』東日本埋蔵文化財研究会
- 久田 正弘 2001 「縄文晚期後半土器における条痕の系譜－新潟県内の資料観察から－」『北越考古学』第12号 北越考古学研究会
- 久田 正弘 2001 「北陸地方の木目沈縁文と速賀川式土器について」『石川県埋蔵文化財情報』第6号 財團法人石川県埋蔵文化財センター
- 久田 正弘 2003 「弥生時代における影響関係について」『石川県埋蔵文化財情報』第9号 財團法人石川県埋蔵文化財センター
- 久田 正弘 2004 「北陸西部の晚期中葉の様相」『第17回縄文セミナー－晚期中葉の再検討』縄文セミナーの会
- 平田 天秋 1985 「前町道下元町道跡」石川県立埋蔵文化財センター
- 福海 貴子 2003 「小松式土器の成立について」『越境する土器－土器による空間分析－』第8回例会発表要旨集 中部弥生時代研究会
- 藤尾慎一郎 1991 「水稻農耕と突帯文土器」『日本における初期弥生文化の成立』横山浩一先生退官記念論文集Ⅱ 横山浩一先生退官記念事業会
- 藤尾慎一郎 2003 「弥生変革期の考古学」同成社
- 藤田富士夫 1973 「杉谷67番道跡・杉谷64番道跡」「北陸自動車道岡孫埋蔵文化財調査報告書 富山市杉谷(67・81・64番)道跡」富山文化研究会
- 藤田富士夫 1975 「富山市古沢道跡発掘調査報告書」富山市教育委員会
- 藤田富士夫 1982 「古沢A道跡・古沢B道跡」「富山市古沢・西金屋地内道跡 試掘調査概要」富山市教育委員会
- 前田 清彦 2003 「条痕文系土器の原体と調整・施文の手順－麻生大橋道跡出土資料の分析から－」『第1回三河考古学談話会研究集会資料集～条痕文系土器の原体をめぐって～』三河考古学談話会
- 前山 精明 1996 「縄文時代晚期後葉粟聚落の経済基盤－新潟県御井戸遺跡出土植物性食料算定の計量分析から－」『甘粕健先生退官記念論集』甘粕健先生退官記念論集刊行会
- 真柄 一志 1976 「富山県魚津市 早月上野道跡（北陸自動車道岡孫埋蔵文化財調査報告書1）」魚津市教育委員会
- 増子 正三 1982 「村尻道跡」『新発田市教育委員会
- 増子 康眞 1988 「東海からみた北陸における弥生式土器成立の過程」『大境』第12号 富山考古学会

- 増子 康眞 1988「条痕文土器群に伴う東北系の土器」『<条痕文系土器>文化をめぐる諸問題—縄文から弥生—資料編Ⅱ・研究編』愛知考古学講話会
- 増子 康眞 1999「東海地方 晩期」『縄文時代文化研究の100年—21世紀における縄文時代文化研究の深化に向けて—』第2分冊 土器型式編年研究（2） 縄文時代文化研究会
- 増山 仁 1987「矢木ジワリ遺跡出土土器の編年の位置付け」『金沢市矢木ジワリ遺跡 金沢市矢木ヒガシワラ遺跡』金沢市文化財紀要66 金沢市教育委員会・矢木第一土地区画整理組合
- 増山 仁 1989「小松式土器の再検討—小松市八日市地方道路出土土器の再整理を通して—」『北陸の考古学Ⅱ』石川考古学研究会々誌 第32号 石川考古学研究会
- 麻柄 一志・斎藤 隆・安念 幹倫 1980「印田遺跡現地説明会資料」魚津市教育委員会
- 町田 勝則 1991「富山県における縄文後・晚期石器研究の現状と課題」『長野県考古学会誌』61・62 長野県考古学会
- 町田 賢一・金三津英樹・上田 尚美・柴口 真澄 1999「下老子篠山遺跡C・D地区」『埋蔵文化財調査概要—平成10年度—』財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 松井 和幸 1980「中部地方における農耕社会の成立について」『考古学研究』第27巻第3号 考古学研究会
- 松尾 信裕 1983「縄文時代から弥生時代の遺構と遺物の検討」『大阪市平野区 長原道路発掘調査報告書Ⅲ—(仮称) 大阪市立第8義養学校建設に伴う発掘調査報告書—』財团法人大阪市文化財協会
- 豆谷 和之 1994「糞置式土器について」『文化財学論集』文化財学論集刊行会
- 豆谷 和之 1994「弥生成立期以前—馬見塚F地点型壺形土器について—」『古代文化』第46巻第7号 財團法人古代學協會
- 豆谷 和之 1995「少条凹縫条痕深鉢」について『みずは』第15号 研究集会記念号 大和弥生文化の会
- 豆谷 和之 2003「大和における最終末の凸帶文土器」『立命館大学考古学論集』Ⅲ-1 立命館大学考古学論集刊行会
- 南 久和 1992「金沢市中屋町ワ遺跡」金沢市教育委員会・石川県鉄鋼団地協同組合
- 南 久和 1999「金沢市史 資料編19 考古」金沢市史編さん委員会
- 南 久和 2001「縄年—その方法と実際—」雨書会
- 南 久和 2003「縄文時代から弥生時代への継き型の構造」『立命館大学考古学論集』Ⅲ-1 立命館大学考古学論集刊行会
- 宮田 明 1995「北陸における縄紋晩期の土器様相—御経塚遺跡出土土器の計量分析から—」『石川考古学研究会々誌』第36号 石川考古学研究会
- 宮田 明 2001「北陸の縄文晩期土器編年のはなし」『馬車馬隊の概要』 http://w2242.nsk.ne.jp/~uma_suke/basha/index.htm
- 安 英樹 1990「北陸における第1・2様式の弥生土器」『石川考古学研究会々誌』第33号 石川考古学研究会
- 安田 良栄 1977「天林北遺跡」「立山町史」上巻 立山町
- 柳井 雄・池野 正男・久々 忠義 1977「富山県大沢野町布尻遺跡緊急発掘調査概要」大沢野町教育委員会
- 家根 祥多 1981「近畿地方の土器」『縄文文化の研究』第4巻 雄山閣出版株式会社
- 家根 祥多 1982「縄文時代」『大阪市平野区 長原遺跡発掘調査報告書Ⅱ—大阪市高速電気軌道第2号線延長工事に伴う発掘調査報告書—』財團法人大阪市文化財協会
- 家根 祥多 1993「剣日突帶文土器研究の現状と課題」『第1回東海考古学フォーラム・農橋大会 突帶文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化的解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム農橋大会実行委員会・突帶文土器研究会
- 山本 直人 1988「石川県能美郡辰口町 辰口西部遺跡群Ⅰ」石川県立埋蔵文化財センター
- 山森 伸正 1987「富山県小矢部市 桜町遺跡—県道改良工事に伴う鶴谷地区の調査—」小矢部市教育委員会
- 湯尻 修平 1983「榮山出村式土器について」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 吉岡 康暢 1971「石川県下野遺跡の研究」『考古学雑誌』第56巻第4号 日本書會
- 渡邊 裕之 2004「新潟県における縄文晩期中葉の様相」『第17回縄文セミナー 晩期中葉の再検討』縄文セミナーの会
- 渡邊 明和 1990「新潟県における縄文時代晩期終末から弥生時代中期前葉の土器」『新潟考古学講話会会報』第6号 新潟考古学講話会
- 渡邊 明和 2000「晩期の土器」『旅峰遺跡 発掘調査報告書Ⅱ 遺物編』新潟県中郷村教育委員会

第9表 繩文時代 建物一覧(1)

(凡例) 繩土=繩文土器, 打斧=打製石斧, 尖頭=尖頭狀石器, 勇斧=磨製石斧

建物	内部施設	旧遺構番号	遺構種類	平面形	面積(m ²)	規模(cm)			出土遺物	掉図	写真図版
						長さ	幅	深さ			
SI 1		C4-SI01	建物A-2類	円?					繩土	33	7
	炉 ⁱ	C4-SI01炉 ⁱ	地床炉	不整	58	50	4	繩土	33	7	
	P1	C4-SI01P1	柱穴	円	64	51	27		33		
	P2	C4-SK132	柱穴	不整	56	51	27		33		
	P3	C4-SK105	柱穴	楕円	45	36	38		33	7	
	P4	C4-SK35	柱穴	円	42	37	34		33		
	P5	C4-SK34	柱穴	円	53	43	8	繩土	33		
	P6	C4-SK104	柱穴	不整	52	40	25		33	7	
	P7	C4-SK133	柱穴	円	53	48	21		33		
SI 2	P8	C4-SK103	柱穴	円	44	36	24		33	7	
		C4-SI02	建物B-1類	不明						34	8
	炉 ⁱ	C4-SI02炉 ⁱ	地床炉	不整	50	18	10	骨片	34	8	
	P1	C4-SK14	柱穴	円	56	50	50	繩土	34	8	
	P2	C4-SK10	柱穴	円	59	56	44	繩土	34	8	
	P3	C4-SK94	柱穴	円	38	35	19		34	8	
	P4	C4-SK95	柱穴	不整	38	37	30		34	8	
	P5	C4-SK96	柱穴	円	40	34	30		34	8	
	P6	C4-SK131	柱穴	円	45	39	24		34		
SI 3		C4-SI03	建物A-2類	不整	87	526	509		繩土	35	9
	炉 ⁱ	C4-SI03炉 ⁱ	地床炉	不整	62	40	3	骨片	35	9	
	P1	C4-SK134	柱穴	円	39	30	23		35		
	P2	C4-SK51	柱穴	不整	40	29	34		35	9	
	P3	C4-SK126	柱穴	楕円	50	34	34		35		
	P4	C4-SK45	柱穴	不整	58	50	38		35		
	P5	C4-SK127	柱穴	円	32	28	11		35		
	P6	C4-SK125	柱穴	円	34	32	17		35		
	P7	C4-SK124	柱穴	楕円	55	41	13		35		
SI 4		C4-SI04	建物A-1類	円	75	515	454		繩土, 打斧, 尖頭	36	9・10
	炉 ⁱ	C4-SI04炉 ⁱ	地床炉	不整	58	42	12	骨片	36	10	
	P1	C4-SI04P1	柱穴	円	48	46	30		36	10	
	P2	C4-SI04P2	柱穴	円	46	36	28		36		
	P3	C4-SI04P3	柱穴	円	42	36	30		36		
	P4	C4-SI04P4	柱穴	隅丸方	40	38	14		36	10	
	P5	C4-SI04P5	柱穴	楕円	58	36	16		36		
	P6	C4-SI04P6	柱穴	不整	30	22	8		36		
	P7	C4-SI04P7	柱穴	不整	58	38	6		36		
	P8	C4-SI04P8	柱穴	円	46	44	14		36	10	
	P9	C4-SI04P9	柱穴	円	32	30	12		36		
	P10	C4-SI04P10	柱穴	不整	46	36	16		36	10	
	P11	C4-SI04P11	柱穴	不整	40	38	14		36		
SI 5	P12	C4-SI04P13	柱穴	円	48	48	14		36		
	P13	C4-SI04P14	柱穴	円	40	40	16		36	10	
		C4-SI05	建物A-2類	不整	79	524	397		繩土	37	11
	炉 ⁱ	C4-SI05炉 ⁱ	地床炉	不整	70	61	8	骨片	37	11	
	P1	C4-SK40	柱穴	円	38	34	24		37		
	P2	C4-SK48	柱穴	円	37	35	19		37	11	
	P3	C4-SK49	柱穴	円	35	31	18		37		
	P4	C4-SK77	柱穴	円	35	35	16	繩土	37		
	P5	C4-SK116	柱穴	不整	34	30	26		37		
	P6	C4-SK117	柱穴	不整	34	28	25		37		
SI 6	P7	C4-SK119	柱穴	円	20	18	4		37		
	P8	C4-SK120	柱穴	円	31	31	19		37		
	P9	C4-SK122	柱穴	不整	55	48	22		37		
	P10	C4-SK123	柱穴	不整	69	66	28		37		
		C4-SI06	建物A-1類	円	63	442	415		繩土, 打斧	38	11
SI 6	炉 ⁱ	C4-SI06炉 ⁱ	地床炉	不整	56	36	5		38		
	P1	C4-SI06P1	柱穴	円	38	36	18		38		

第9表 繩文時代 建物一覧(2)

建物	内部施設	旧遺構番号	遺構種類	平面形	面積(m) ²	規模(cm)			出土遺物	挿図	写真図版
						長さ	幅	深さ			
SI 6	P 2	C 4 - SI06P2	柱穴	不整		48	38	17		38	
	P 3	C 4 - SI06P3	柱穴	不整		40	38	16		38	11
SI 7	C 4 - SI07	建物A-3類	隅丸方	45	395				繩土, 磨斧	39	11
	C 4 - SI08	建物A-1類	不整	116	614	565			繩土	40	12
SI 8	炉 ¹	C 4 - SI08炉 ¹	地床炉 ¹	円		30	26	4		40	12
	P 1	C 4 - SK57	柱穴	円		57	31	28		40	12
	P 2	C 4 - SK58	柱穴	円		27	22	12		40	12
	P 3	C 4 - SK59	柱穴	円		50	50	26		40	12
	P 4	C 4 - SK111	柱穴	円		45	42	21		40	
	P 5	C 4 - SK112	柱穴	隅丸		37	37	16		40	
SI 9	C 4 - SI09	建物B-1類	不明							41	12
	炉	C 4 - SI09炉 ¹	地床炉 ¹	不整	90	80	6	骨片	41	12	
	P 1	C 4 - SK90	柱穴	不整	55	46	16		41		
	P 2	C 4 - SK108	柱穴	楕円	56	43	21		41	12	
	P 3	C 4 - SK74	柱穴	円	44	42	31		41		
	P 4	C 4 - SK75	柱穴	円	51	45	26		41		
	P 5	C 4 - SK76	柱穴	円	68	56	22		41	12	
	P 6	C 4 - SK83	柱穴	楕円	49	40	25	繩土	41		
	P 7	C 4 - SK107	柱穴	楕円	36	22	9		41		
SI 10	C 4 - SI10	建物B-1類	不明							41	13
	炉	C 4 - SO 7	地床炉 ¹	不整	30	16	1	繩土	41		
	P 1	C 4 - SK84	柱穴	楕円	53	34	22		41		
	P 2	C 4 - SK80	柱穴	円	44	42	18		41		
	P 3	C 4 - SK81	柱穴	不整	48	39	35		41	13	
SI 11	P 4	C 4 - SK82	柱穴	不整	50	42	26	繩土	41	13	
	C 4 - SI11	建物B-1類	不明							42	13
	炉 ¹	C 4 - SO 4	地床炉 ¹	不整	52	48	4		42	13	
	P 1	C 4 - SK66	柱穴	円	45	43	25		42	13	
	P 2	C 4 - SK67	柱穴	円	63	57	41		42		
SI 12	P 3	C 4 - SK62	柱穴	円	45	40	20		42		
	C 4 - SI12	建物B-1類	不明							43	14
	炉	C 4 - SO 1	地床炉 ¹	不整	82	46	10	繩土	43	14	
	P 1	C 4 - SK27	柱穴	円	56	54	46	繩土	43	14	
	P 2	C 4 - SK36	柱穴	円	35	28	24		43	14	
SI 13	P 3	C 4 - SK38	柱穴	円	36	34	28		43		
	P 4	C 4 - SK39	柱穴	円	47	42	25		43		
	P 5	C 4 - SK29	柱穴	円	41	38	18		43		
	P 6	C 4 - SK30	柱穴	円	46	41	28		43		
	C 4 - SI13	建物A-2類	隅丸方						繩土	43	14
SI 14	炉 ¹	C 4 - SO 8	地床炉 ¹	不整	50	38	8	繩土	43	14	
	炉 ²	C 4 - SO 9	地床炉 ¹	不整	34	30	2	繩土	43		
	P 1	C 4 - SK52	柱穴	円	37	35	28		43		
	P 2	C 4 - SK41	柱穴	円	30	28	18		43		
	P 3	C 4 - SK37	柱穴	円	45	40	34		43	14	
SI 15	C 4 - SI14	建物B-2類	亀甲	38	772	620				44	15
	P 1	C 4 - SI04P12	柱穴	円	40	32	12		44		
	P 2	C 4 - SK128	柱穴	円	36	32	11		44		
	P 3	C 4 - SK55	柱穴	円	42	40	24		44		
	P 4	C 4 - SK115	柱穴	楕円	55	42	21		44		
	P 5	C 4 - SK114	柱穴	楕円	44	40	19		44		
	P 6	C 4 - SK50	柱穴	円	48	41	22		44	15	
SI 16	E 3 - SI101	建物A-1類	隅丸方	59	470	420			繩土	104	26
	炉 ¹	E 3 - SI101炉 ¹	地床炉 ¹	不整	86	66	6	繩土	104	27	
	P 1	E 3 - SI101P1	柱穴	楕円	42	36	18		104		
	P 2	E 3 - SI101P2	柱穴	円	42	36	16		104		
	P 3	E 3 - SI101P3	柱穴	円	44	36	14		104		
SI 16	E 3 - SI102	建物A-1類	隅丸方	56	418	380			繩土	105	27
	炉 ¹	E 3 - SI102炉 ¹	地床炉 ¹	隅丸方	54	44	22	繩土	105	27	
	P 1	E 3 - SI102P1	柱穴	円	22	20	6		105		

第9表 繩文時代 建物一覧(3)

建物	内部施設	旧遺構番号	遺構種類	平面形	面積(m ²)	規模(cm)			出土遺物	排図	写真図版
						長さ	幅	深さ			
SI16	P 2	E 3 - SI102P2	柱穴	楕円		32	26	8		105	
	P 3	E 3 - SI102P3	柱穴	楕円		34	28	12		105	
	P 4	E 3 - SI102P4	柱穴	円		40	38	8		105	
	P 5	E 3 - SI102P5	柱穴	円		36	32	12		105	
SI17		E 4 - SI01	建物A-1類	円	70	665	385		繩土	106	28
	炉	E 4 - SI01炉	地床炉	楕円		100	42	18	繩土	106	
	P 1	E 4 - SI01P1	柱穴	円		22	22	12		106	

第10表 繩文時代 焼土一覧

遺構	旧遺構番号	出土地点	平面形	規模(cm)			出土遺物	排図	写真図版
				長さ	幅	深さ			
SO 1	C 4 - SO2	X462Y343	不整	96	80	4	繩土	47	15
SO 2	C 4 - SO3	X460Y343	不整	104	94	10		47	15
SO 3	C 4 - SO5	X454Y337	不整	184	140	8	繩土, 骨片, 種実	47	15
SO 4	C 4 - SO6	X452Y338	不整	214	112	8	繩土, 骨片, 種実	48	16

第11表 繩文時代 土坑一覧(1)

遺構	旧遺構番号	出土地点	平面形	規模(cm)			出土遺物	排図	写真図版
				長さ	幅	深さ			
SK4401	C 4 - SK01	X467Y337	円	97	93	36	繩土	34	
SK4402	C 4 - SK02	X465Y339	円	66	60	54		34	8
SK4403	C 4 - SK03	X459Y324	円	68	53	21	繩土, 種実	49	18
SK4404	C 4 - SK04	X461Y324	楕円	167	115	32	繩土, 種実	49	18
SK4405	C 4 - SK05	X463Y323	不整	266	139	18	繩土	49	
SK4409	C 4 - SK09	X446Y341	円	61	54	36		41	
SK4411	C 4 - SK11	X466Y338	円	91	77	38	繩土	34	
SK4412	C 4 - SK12	X466Y338	円	89	77	22	繩土	34	
SK4413	C 4 - SK13	X465Y337	円	79	81	35		34	
SK4415	C 4 - SK15	X466Y339	円	48	45	46	繩土	34	
SK4416	C 4 - SK16	X467Y339	円	147	125	17		34	
SK4417	C 4 - SK17	X467Y338	円	62	55	16		34	
SK4418	C 4 - SK18	X467Y339	円	63	50	35		34	
SK4419	C 4 - SK19	X467Y343	円	140	50	繩土, 打斧, 種実	49	18	
SK4422	C 4 - SK22	X464Y337	円	83	75	36	繩土	49	18
SK4423	C 4 - SK23	X464Y337	円	91	85	40	繩土	49	18
SK4424	C 4 - SK24	X462Y336	円	67	56	38	繩土	43	
SK4428	C 4 - SK28	X462Y336	円	72	58	36		43	
SK4431	C 4 - SK31	X462Y337	円	60	51	34		43	
SK4432	C 4 - SK32	X462Y338	不整	94	73	72		37	
SK4442	C 4 - SK42	X463Y337	円	41	35	50		43	
SK4443	C 4 - SK43	X463Y338	円	41	38	36		35	
SK4444	C 4 - SK44	X463Y338	円	41	39	32		35	
SK4447	C 4 - SK47	X462Y338	不整	72	46	16		35	
SK4453	C 4 - SK53	X458Y343	楕円	85	46	25		44	
SK4454	C 4 - SK54	X459Y344	楕円	76	63	24		44	
SK4456	C 4 - SK56	X456Y342	円	56	48	16		40	
SK4460	C 4 - SK60	X458Y337	不整	220	205	24	繩土, 打斧	38	
SK4461	C 4 - SK61	X452Y342	円	65	58	24		42	
SK4463	C 4 - SK63	X450Y342	円	60	58	19	繩土	42	
SK4464	C 4 - SK64	X450Y341	円	49		10	繩土	42	
SK4465	C 4 - SK65	X450Y341	円	56	49	15		42	
SK4468	C 4 - SK68	X452Y342	円	55	50	20		42	
SK4469	C 4 - SK69	X451Y342	円	40		21		42	
SK4470	C 4 - SK70	X450Y342	円	46	40	15		42	
SK4471	C 4 - SK71	X450Y342	円	40	35	12		42	
SK4472	C 4 - SK72	X449Y342	楕円	54	34	34		42	
SK4473	C 4 - SK73	X450Y341	円	41	37	9		42	
SK4478	C 4 - SK78	X452Y341	楕円	80	63	38	繩土	42	
SK4479	C 4 - SK79	X452Y343	楕円	69	60	28		42	
SK4485	C 4 - SK85	X448Y343	円	46	25	28		42	
SK4486	C 4 - SK86	X449Y343	楕円	42	20	36		42	

第11表 繩文時代 土坑一覧(2)

遺構	旧遺構番号	出土地点	平面形	規模(cm)			出土遺物	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ			
SK4487	C 4 - SK87	X449Y343	椭円	35	25	16		42	
SK4488	C 4 - SK88	X449Y343	円	40	29	47		42	
SK4489	C 4 - SK89	X449Y341	椭円	65	44	23		41	
SK4491	C 4 - SK91	X450Y343	円	48	40	18		42	
SK4497	C 4 - SK97	X467Y339	椭円	52	41	26		34	
SK4506	C 4 - SK106	X447Y340	円	21		8		41	
SK4509	C 4 - SK109	X452Y343	椭円	50	38	17		42	
SK4510	C 4 - SK110	X452Y343	椭円	70	60	20		42	
SK4513	C 4 - SK113	X461Y338	円	45	38	11		37	
SK4518	C 4 - SK118	X463Y335	円	48	40	28		43	
SK4521	C 4 - SK121	X461Y338	円	41	35	19		37	
SK4529	C 4 - SK129	X457Y340	椭円	43	36	16		40	
SK4530	C 4 - SK130	X459Y341	円	35	31	15		36	
SK4651	D 1 - SK51	X518Y331	椭円	364	227	34		85	21
SK4801	D 2 - SK101	X581Y343	椭円	173	113	35	繩土	86・87	21
SK4802	D 2 - SK102	X581Y342	円	95		25	繩土	86・87	21
SK4803	D 2 - SK103	X582Y342	円	39	36	15	繩土	86・87	
SK4804	D 2 - SK104	X583Y341	円	50	35	16		86・87	
SK4805	D 2 - SK105	X584Y341	椭円	74	38	20		86・87	22
SK4806	D 2 - SK106	X582Y340	円	54	45	8		86・87	
SK4807	D 2 - SK107	X583Y340	円	54	52	12		86・87	
SK4808	D 2 - SK108	X582Y340	円	71	68	16		86・87	22
SK4809	D 2 - SK109	X583Y342	円	55	53	12		86・87	
SK4810	D 2 - SK110	X582Y344	円	69	58	8		86	
SK4811	D 2 - SK111	X583Y344	椭円	77	55	16		86・87	
SK4812	D 2 - SK112	X579Y343	椭円	49	32	8		86	
SK4813	D 2 - SK113	X579Y343	円	29		9		86	
SK4814	D 2 - SK114	X580Y342	円	26	24	19		86・87	
SK4815	D 2 - SK115	X583Y343	椭円	78	50	14		86・87	
SK4816	D 2 - SK116	X583Y343	不整	148	85	14		86・87	
SK4817	D 2 - SK117	X581Y342	椭円	41	40	15		86・87	
SK4818	D 2 - SK118	X581Y342	円	48	30	23		86・87	22
SK4819	D 2 - SK119	X581Y342	円	35	32	17		86・87	
SK4820	D 2 - SK120	X581Y343	円	39		14	繩土	86・87	
SK4821	D 2 - SK121	X581Y341	円	50	45	22		86・87	22
SK4822	D 2 - SK122	X581Y347	方	195	175	23	繩土	87	22
SK4823	D 2 - SK123	X581Y342	不整	95	90	38	繩土	86・87	22
SK4824	D 2 - SK124	X576Y340	椭円	42	35	13	繩土	87	
SK4825	D 2 - SK125	X572Y347	円	115	106	6	繩土	87	
SK5201	E 2 - SK101	X795Y368	円	94	81	17		109	
SK5202	E 2 - SK102	X795Y369	円	87	67	16		109	
SK5203	E 2 - SK103	X796Y372	不整	265	161	10		109	
SK5403	E 3 - SK103	X803Y386	円	81	35	3		103・109	
SK5404	E 3 - SK104	X801Y392	円	61	50	10		103・109	
SK5405	E 3 - SK105	X801Y388	椭円	134	68	15		103・109	
SK5406	E 3 - SK106	X801Y385	椭円	75	62	15		103・109	
SK5407	E 3 - SK107	X806Y388	椭円	92	45	8		103・109	
SK5408	E 3 - SK108	X807Y388	円	133	87	29		103・109	
SK5409	E 3 - SK109	X809Y385	椭円	127	54	19		103・109	
SK5410	E 3 - SK110	X809Y389	椭円	120	61	15		103・109	
SK5411	E 3 - SK111	X811Y386	椭円	97	57	10		103・109	
SK5412	E 3 - SK112	X803Y391	円	43	34	7		103・109	

第12表 繩文時代 自然流路一覧

遺構	旧遺構番号	規模(cm)		出土遺物	挿図	写真図版
		幅	深さ			
SD4535	C 4 - SD135	2030	148	繩土、打斧、流木、種実	51・52・53	19
SD4905	D 3 - SD005	848	24	繩土、流木、種実	89・90	23
SD4906	D 3 - SD006	202	28	繩土、流木、種実	89・90	23

第13表 細文時代 土器一覧(1)

(左側)

番号	遺物	当該地名	地区	遺構	出土場所	器物形態	口径 [mm]	底径 [mm]	高さ [mm]	内外施釉・施文	内付赤鉄・焼成	外付赤鉄・焼成	内付赤鉄	
26	7	28	C3	寺ヶ原遺跡	南PAE-3	直筒	31.9	7.3	20%	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	
	2		C3	寺ヶ原遺跡	南PAE-3	直筒	—	—	11.8	9.8%	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	
J	30	C3	寺ヶ原遺跡	XAD7311-XAD7323	直PAE-1	直筒	35.0	13.8	18%	施+7-11.9cm・施+7-11.6cm・施+7-11.5cm・施+7-11.5cm	施+7-11.9cm・施+7-11.6cm・施+7-11.5cm	施+7-11.9cm・施+7-11.6cm・施+7-11.5cm	施+7-11.9cm・施+7-11.6cm・施+7-11.5cm	
	20	4	C3	XAD7286-XAD7299	直PAE-2	直筒	36.0	13.6	10%	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm・施+2-11.5cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm・施+2-11.5cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm・施+2-11.5cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm・施+2-11.5cm	
	3	C3	XAD7300	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	
E	C3	XAD7311	直PAE-2	—	—	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm	
Z	C3	XAD7286	直PAE-3	—	—	—	—	—	—	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	
	8	C3	XAD7299	直PAE-2	直筒	36.0	13.6	10%	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm	施+2-11.9cm・施+2-11.6cm		
F	C3	XAD7286	直PAE-3	—	—	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
B1	C1	XAD7286	直PAE-2	—	—	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
I2	C1	XAD7287	直PAE-2	—	—	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
I2	C3	XAD7311	直PAE-3	—	—	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
E1	C1	XAD7299	直PAE-2	—	—	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
H	29	C3	XAD7286	直PAE-3	直筒	—	7.2	3.8%	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
	21	C1	XAD7286	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
	22	C1	XAD7287	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
	23	C3	XAD7311	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
	24	C1	XAD7299	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
	25	C3	XAD7311	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
G5	21	C4	S1-S1.5・S1.5-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-1	直筒	40.0	2.5	20%	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	
B9	20	C4	S1-S1.5-S1.5-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-3	直筒	—	8.6	1.8%	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	
Z5	24	C4	S1-S1.5	XAD7299	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
Z6	24	C4	S1-S1.5	XAD7299	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	27	C4	S1-S1.5	XAD7311	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	28	C4	S1-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-1	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	29	C4	S1-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-2	直筒	34.6	13.3	9.6	30%	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm	施+11.9cm・施+11.6cm・施+11.5cm・施+11.5cm
	30	C4	S1-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-3	直筒	35.1	13.2	9.4	7.5%	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	31	C4	S1-S1.5	XAD7300	直PAE-1	直筒	—	7.0	10%	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	
	32	C4	S1-S1.5	XAD7300	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	33	C4	S1-S1.5	XAD7311	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	34	C4	S1-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-1	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	35	C4	S1-S1.5	XAD7311-XAD7323	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	36	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-1	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	37	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	38	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	39	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-1	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	40	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-3	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	41	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-2	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm
	42	C4	S1-S1.5	XAD7322	直PAE-1	直筒	—	—	—	—	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm	施+11.9cm・施+11.6cm

第13表 繩文時代 土器一覧(2)

番号	遺物	分類(形状)	地区	通称	出土場所	器形分類	口径	底径	高さ	残存率	特殊箇所	施文	内面調査	外周部物	底土	表面化物	底面		
16	52	C4 52D19	30	C4 S43	X407230	筒AE-1	-	-	80	残7-10% (1)底付 8-11% 筒付 2-5% 底付 3-4% 壁付	1-1底付+側付	底付	1-1底付+側付	9.3	11	11	(9.9-11)		
22	52	C4 S43	32	C4 S43	X407230	筒AE-2	(8.5)	(8.5)	20%	側付+1-2%底付+平底	側付	側付	側付	6	11	11	(9.9-11)		
39	52	C4 S43	30	C4 S43	X407230	筒AE	-	-	8.0	10%	側子+底付 1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子+底付	側子+底付	6	9	9	(9.9)		
42	52	C4 S43	32	C4 S43	X407230-X407230	筒AE?	-	-	8.2	10%	側子+底付 1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子+底付	側子+底付	6	9	9	(9.9)		
9	58	C4 58D19	30	C4 S43	X407230-X407230	筒AE-3	(8.0)	(8.0)	30%	側付+1-2%底付+1-2%筒付+1-2% 平底	側付+側子	側付	側付+側子	8.7	11	11	(9.9-11)		
36	58	C4 58D19	31	C4 S43	X407230	筒AE	-	-	9.0	10%	側子+底付+側子	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	9	9	(9.9)		
39	58	C4 58D20	30	C4 S43	X407230	筒AE-1	-	-	9.0	10%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
47	58	C4 58D19	31	C4 S43	X407230	筒AE?	-	-	9.2	10%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
42	58	C4 58D19	30	C4 S43	X407230-X407230	筒AE-2	-	-	9.2	10%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
51	58	C4 58D19	31	C4 S43	X407230	筒AE-3	(9.0)	(9.0)	9.6	10%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
29	58	C4 58D19	30	C4 S43	X407230	筒AE-4	(9.0)	(9.0)	7.5%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
44	58	C4 58D19	30	C4 S43	X407230-X407230	筒AE	-	-	9.0	10%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
43	58	C4 58D19	30	C4 S43	X407230-X407230	筒AE	-	-	9.2	10%	側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	側子+底付+側子	側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
36	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230	筒AE-5	(9.0)	(9.0)	41.9	41.9	9.2	30%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
47	48	C4 48D19	33	C4 48D19	X407230	筒AE-1	(9.0)	(9.0)	8.7	9.0%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
39	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230	筒AE-2	(9.0)	(9.0)	8.6	9.0%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
47	48	C4 48D19	33	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-3	(9.0)	(9.0)	7.7	9.0%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
39	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE	-	-	8.0	9.0%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
55	48	C4 48D19	33	C4 48D19	X407230	筒AE-4	(9.0)	(9.0)	24.6	24.6	9.2	20%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
32	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230	筒AE-5	(9.0)	(9.0)	8.0	4.0%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
60	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230	筒AE-6	(9.0)	(9.0)	11.1	20%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
55	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230	筒AE-7	(9.0)	(9.0)	11.1	20%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)		
62	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-8	(9.0)	(9.0)	32.2	32.2	9.8%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)	
57	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-9	(9.0)	(9.0)	31.8	30.8	9.7	7.0%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
38	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-10	(9.0)	(9.0)	35.5	35.5	10.0	20%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
48	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-11	(9.0)	(9.0)	36.0	44.0	10.0	40%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
63	48	C4 48D19	34	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-12	(9.0)	(9.0)	25.6	25.6	9.5	40%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
64	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-13	(9.0)	(9.0)	36.0	36.0	9.2	40%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
65	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-14	(9.0)	(9.0)	36.0	36.0	9.2	40%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)
66	48	C4 48D19	35	C4 48D19	X407230-X407230	筒AE-15	(9.0)	(9.0)	36.0	36.0	9.2	40%	筒子+側子+底付+1-2% 筒付 1-2% 平底	筒子+側子+底付+側子	筒子+側子+底付	8.7	11	11	(9.9-11)

第13表 繩文時代 土器一覽(3)

第13表 繩文時代 土器一覽(4)

第13表 繩文時代 土器一覽(5)

第13表 繩文時代 土器一覧(6)

第13表 繩文時代 土器一覽(7)

番號	遺物	分類別	地区	通鑑	出土地点	器物形態	直径(D)/ 高さ(H)	径厚	内径	内周面	施文	胎土	外觀形態	参考文献	出典
31	227	C4	X4071253	外周圈切・施文	底子1.5cm厚・体二三寸(1.5cm厚)7cm(1.5cm厚)	1.5cm厚・底子1.5cm厚・体二三寸(1.5cm厚)7cm(1.5cm厚)	7.6	1.5	7.6	1.5cm厚・底子1.5cm厚・体二三寸(1.5cm厚)7cm(1.5cm厚)	1.5cm厚・底子1.5cm厚・体二三寸(1.5cm厚)7cm(1.5cm厚)	素石	1.5cm厚・底子1.5cm厚・体二三寸(1.5cm厚)7cm(1.5cm厚)	1.5cm厚・底子1.5cm厚・体二三寸(1.5cm厚)7cm(1.5cm厚)	(H)9
228	C4	X4071258	直筒形												(H)9
229	C4	X4071263	直筒形												(H)9
230	C4	X4071274	直筒形												(H)9
231	C4	X4071276	直筒形												(H)9
232	C4	X4071286	直筒形												(H)9
233	C4	X4071322	直筒形												(H)9
234	C4	X4071324	直筒形												(H)9
235	C4	X4071326	直筒形												(H)9
236	C4	X4071328	直筒形												(H)9
237	C4	X4071330	直筒形												(H)9
238	C4	X4071332	直筒形												(H)9
239	C4	X4071336	直筒形												(H)9
K7	D2	SK0001	X4087343	直筒形											(H)9
240	D2	SK0002	X4087346	直筒形											(H)9
241	D2	SK0002	X4087348	直筒形											(H)9
242	D2	SK0002	X4087350	直筒形											(H)9
243	D2	SK0002	X4087354	直筒形											(H)9
244	D2	SK0002	X4087359	直筒形											(H)9
245	D2	SK0002	X4087360	直筒形											(H)9
246	D2	SK0002	X4087363	直筒形											(H)9
247	D2	SK0002	X4087366	直筒形											(H)9
248	D2	SK0002	X4087368	直筒形											(H)9
249	D2	SK0002	X4087370	直筒形											(H)9
250	D2	SK0002	X4087374	直筒形											(H)9
251	D2	SK0002	X40873741	直筒形											(H)9
252	D2	SK0002	X40873750	直筒形											(H)9
253	D2	SK0002	X4087380	直筒形											(H)9
254	D2	SK0002	X4087386	直筒形											(H)9
255	D2	SK0002	X4087396	直筒形											(H)9
256	D2	SK0002	X4087400	直筒形											(H)9
257	D2	SK0002	X4087404	直筒形											(H)9
258	D2	SK0002	X4087406	直筒形											(H)9
259	D2	SK0002	X4087408	直筒形											(H)9
260	D2	SK0002	X4087410	直筒形											(H)9
261	D2	SK0002	X4087412	直筒形											(H)9
262	D2	SK0002	X4087414	直筒形											(H)9
263	D2	SK0002	X4087416	直筒形											(H)9
264	D2	SK0002	X4087418	直筒形											(H)9
265	D2	SK0002	X4087420	直筒形											(H)9
266	D2	SK0002	X4087422	直筒形											(H)9
267	D2	SK0002	X4087424	直筒形											(H)9
268	D2	SK0002	X4087426	直筒形											(H)9
269	D2	SK0002	X4087428	直筒形											(H)9
270	D2	SK0002	X4087430	直筒形											(H)9
271	D2	SK0002	X4087432	直筒形											(H)9
272	D2	SK0002	X4087434	直筒形											(H)9
273	D2	SK0002	X4087436	直筒形											(H)9
274	D2	SK0002	X4087438	直筒形											(H)9
275	D2	SK0002	X4087440	直筒形											(H)9
276	D2	SK0002	X4087442	直筒形											(H)9
277	D2	SK0002	X4087444	直筒形											(H)9
278	D2	SK0002	X4087446	直筒形											(H)9
279	D2	SK0002	X4087448	直筒形											(H)9
280	D2	SK0002	X4087450	直筒形											(H)9
281	D2	SK0002	X4087452	直筒形											(H)9
282	D2	SK0002	X4087454	直筒形											(H)9
283	D2	SK0002	X4087456	直筒形											(H)9
284	D2	SK0002	X4087458	直筒形											(H)9
285	D2	SK0002	X4087460	直筒形											(H)9
286	D2	SK0002	X4087462	直筒形											(H)9
287	D2	SK0002	X4087464	直筒形											(H)9
288	D2	SK0002	X4087466	直筒形											(H)9
289	D2	SK0002	X4087468	直筒形											(H)9
290	D2	SK0002	X4087470	直筒形											(H)9)

第13表 繩文時代 土器一覧(8)

番号	遺物	分類(形態)	地区	通称	出土場所	器物名	直径	高さ	底径	底面	外周面型	内周面型	底面	外周面物	内周面物	底面
57	280	D1	XG57209	彦根	彦根小船	彦根	28.2	3.0	28.2	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平
	280	D2	XG57204	彦根	彦根A-2	彦根A-2	32.8	6.8	32.8	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平
-280	D3	XG71708	彦根	彦根A-3	彦根A-3	31.0	7.0	31.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG87301	彦根	彦根A-3	彦根A-3	31.0	7.0	31.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67302	彦根	彦根A-1	彦根A-1	33.9	3.0	33.9	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D3	XG19720	彦根	彦根A-3	彦根A-3	31.0	7.0	31.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG87304	彦根	彦根A-7	彦根A-7	31.0	7.0	31.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67304-XG71708	彦根	彦根A-7	彦根A-7	21.1	10.8	21.1	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG87304	彦根	彦根C-3	彦根C-3	28.2	3.0	28.2	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67308	彦根	彦根C-3	彦根C-3	30.6	3.0	30.6	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-277	D2	XG47307	彦根	彦根D-2	彦根D-2	26.8	3.0	26.8	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-277	D1	XG17208-XG27207	彦根	彦根A-2	彦根A-2	31.0	9.8	31.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-277	D1	XG47205	彦根	彦根A-2	彦根A-2	30.0	3.0	30.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-279	D1	XG47307	彦根	彦根C-2	彦根C-2	25.4	3.0	25.4	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-279	D2	XG67304	彦根	彦根C-2	彦根C-2	26.7	3.0	26.7	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-279	D2	XG67302	彦根	彦根C-2	彦根C-2	25.4	3.0	25.4	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-277	D2	XG67304	彦根	彦根C-3	彦根C-3	30.4	3.0	30.4	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-279	D2	XG17100	彦根	彦根D-2	彦根D-2	27.1	3.0	27.1	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-279	D2	XG67302	彦根	彦根D-2	彦根D-2	26.7	3.0	26.7	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG19725	彦根	彦根D-2	彦根D-2	33.0	3.0	33.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG87304	彦根	彦根D-2	彦根D-2	30.2	3.0	30.2	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG19700	彦根	彦根D-2	彦根D-2	31.8	3.0	31.8	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG27207	彦根	彦根D-2	彦根D-2	22.6	3.0	22.6	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG47208	彦根	彦根D	彦根D	33.0	3.0	33.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67304	彦根	彦根D	彦根D	30.2	3.0	30.2	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67302	彦根	彦根D	彦根D	31.0	3.0	31.0	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D3	XG27204	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG47207	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D3	XG67304	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D1	XG17100	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D3	XG27204	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67304	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	
-280	D2	XG67300	彦根	彦根底	彦根底	8.5	3.0	8.5	底平	底平	底平	底平	底平	底平	底平	

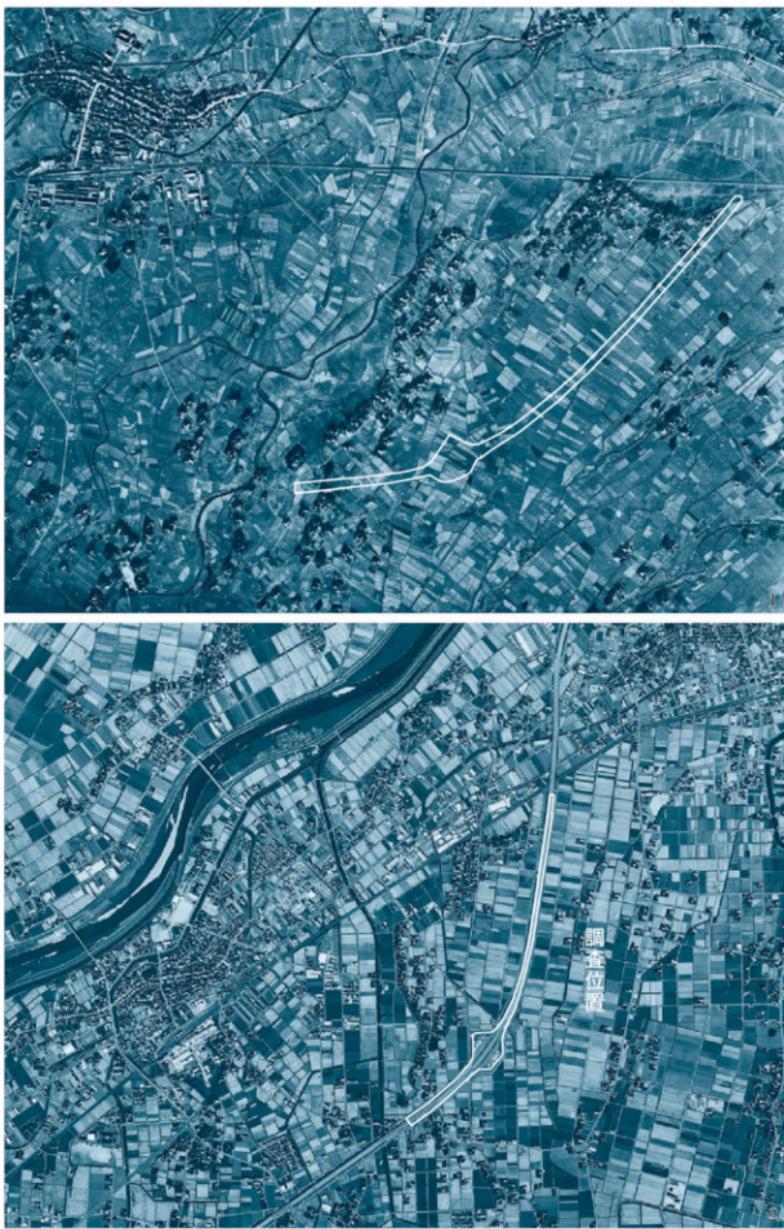
第13表 繩文時代土器一覽(9)

第13表 繩文時代 土器一覧(10)

番号	造形	分類別	地区	遺物	出土場所	器形分類	口径	底径	高さ	残存率	外観説明・状況	内面説明・状況	出土	外部文化	内部文化	基層
101	J2B	E.3	S4340			直筒				10.0%	口縁付切妻平底盤	口縁付切妻平底盤	石			
129	J2B	E.3	S4343			直C	32.0			0.8%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
209	J2B	E.3	S4345			直HC	27.0			1.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
307	J2B	E.3	S4348			直HC	27.0			1.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
302	J2B	E.3	S4349			直HC	36.8			1.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
262	J2B	E.3	S434			直HC	31.0			1.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
307	J2B	E.3	S434			直HC	27.0			1.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
262	J2B	E.3	S4349			直筒				2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
304	J2B	E.3	S4349			直筒				2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
108	J2B	E.4	S4347			直HC	31.6			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
206	J2B	E.4	S4347			直HC	26.4			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
262	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	25.6			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
308	J2B	E.4	S4347			直筒				2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
209	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	27.0			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
206	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	31.7			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
262	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	24.4			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
207	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	24.4			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
262	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	24.4			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
307	J2B	E.4	S4347	X001790		直HC	24.4			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
110	J2B	E.2	X001790			直A-A	42.8			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
205	J2B	E.2	X001790			直HC	28.6			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
306	J2B	E.2	X001790			直HC	28.6			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
262	J2B	E.2	X001790			直筒				2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)
308	J2B	E.3	X001790			直HC	27.0			2.0%	縁付切妻平底盤	縁付切妻平底盤	石			(H.1)

第14表 繩文時代 石製品一覽

写 真 図 版



航空写真

1. 1946年撮影 2. 2002年撮影

図版2



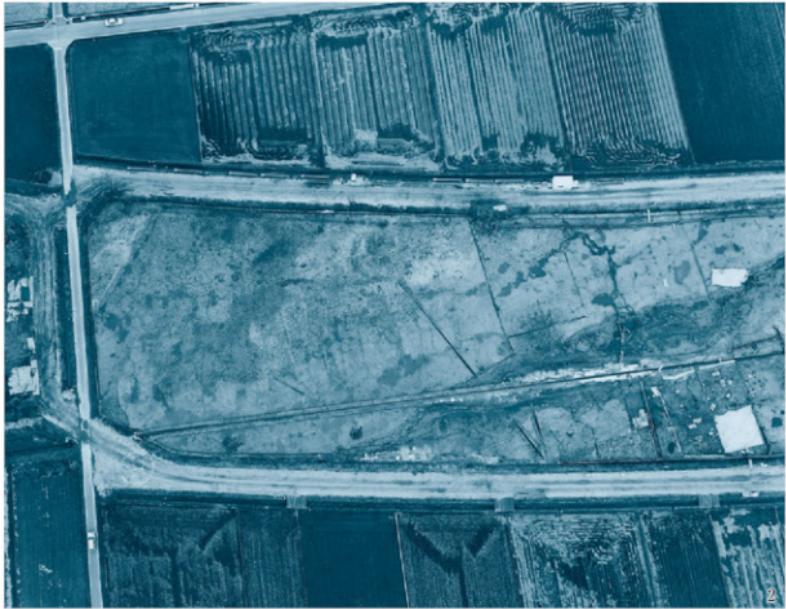
1



2

遠景

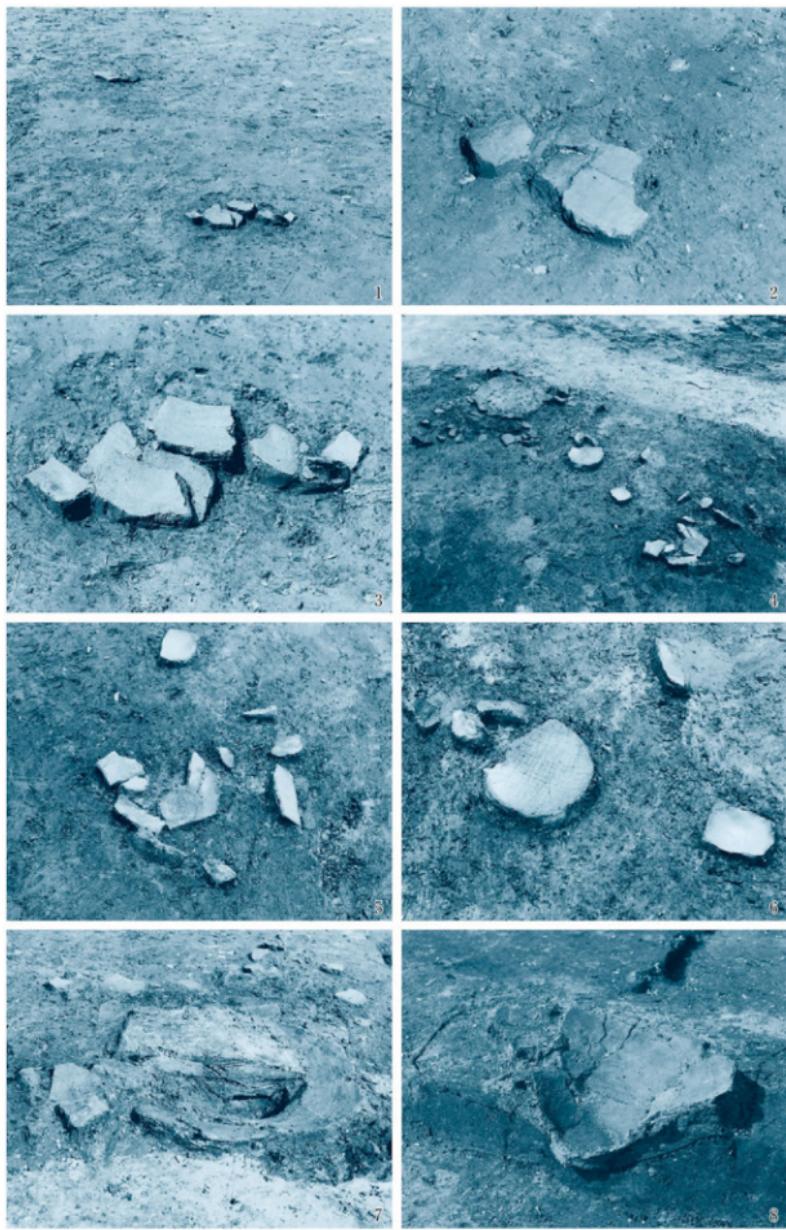
1. 高岡市福岡町下老子一歩二歩地内(北東から) 2. 高岡市並川千鳥丘地内(南から)



C・D地区 全景

1. C・D地区(南から) 2. C3地区(東から)

図版4



C地区 土器集中地点

1. 1号土器集中地点(北東から) 2. 1号土器集中地点(南から)
3. 1号土器集中地点(東から) 4. 2号土器集中地点(北西から)
5. 2号土器集中地点(西から) 6. 2号土器集中地点(北から)
7. 2号土器集中地点(南から) 8. 2号土器集中地点(南西から)



1

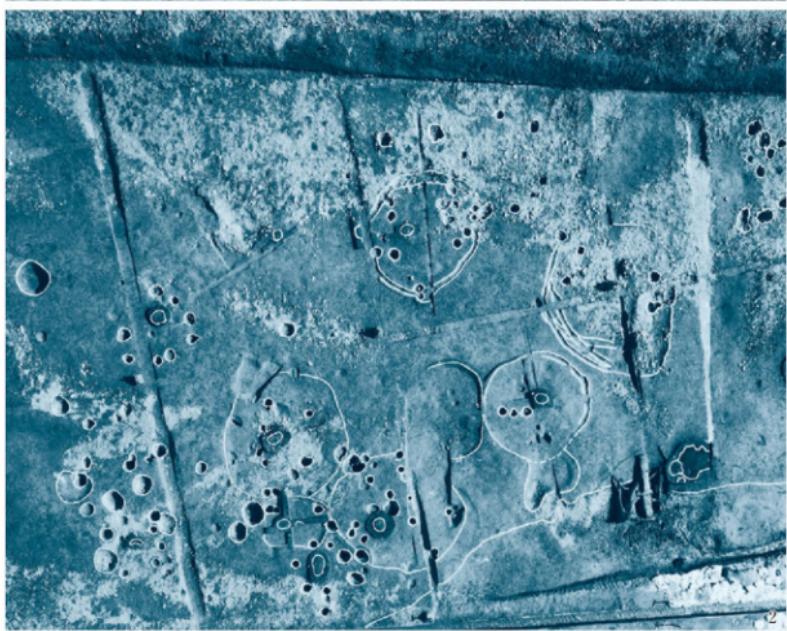


2

C地区 全景

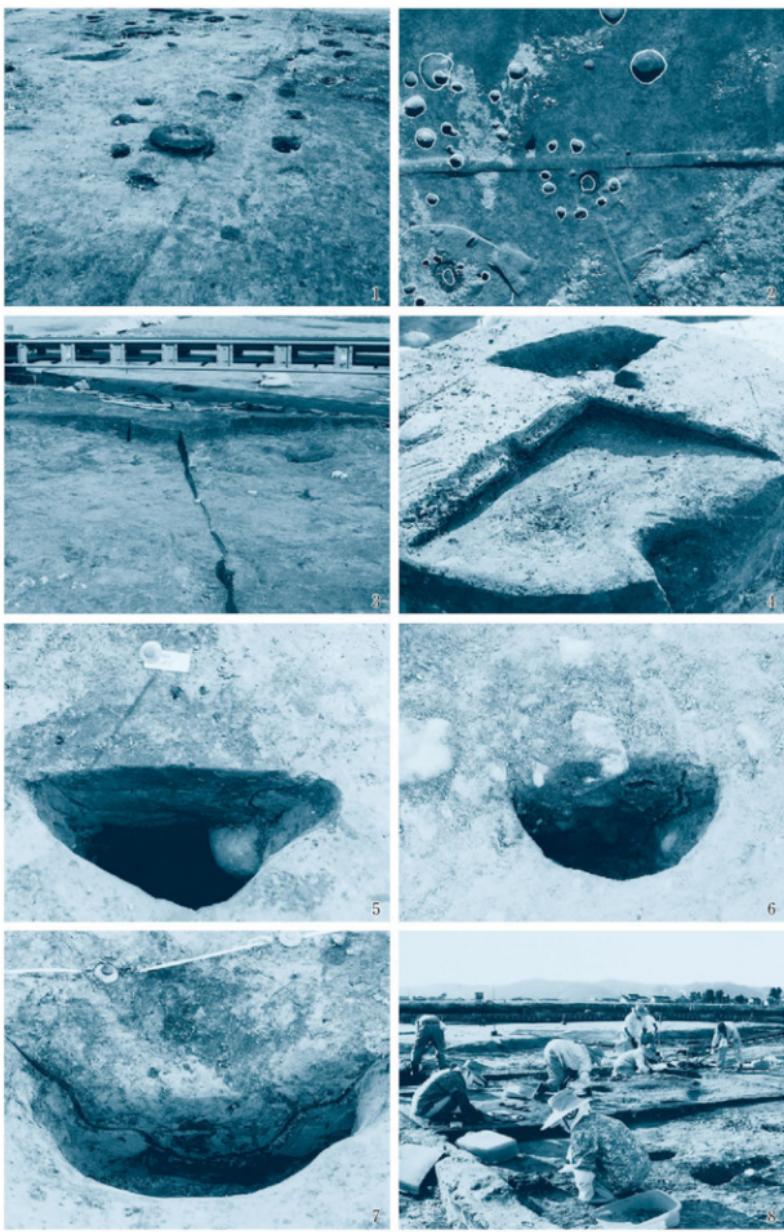
1. C4地区(北から) 2. C4地区(西から)

図版6



C地区 建物

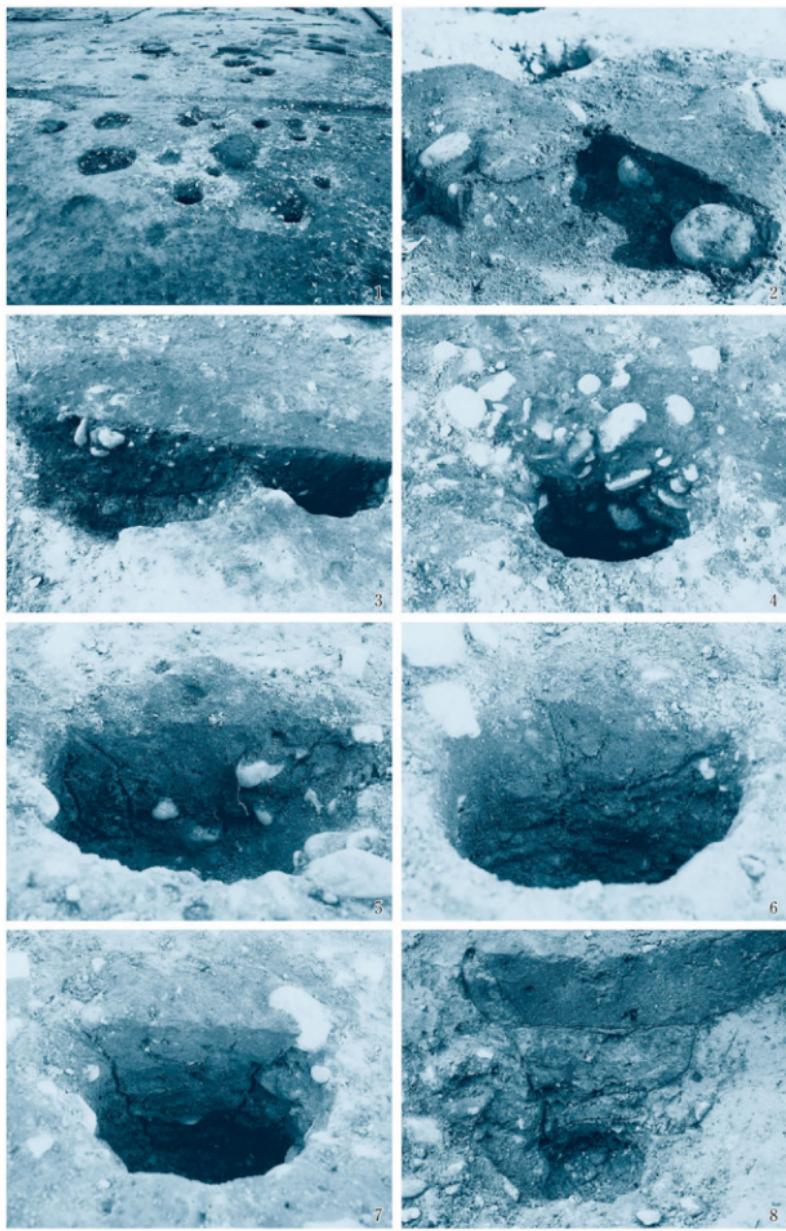
1. C4地区(北から) 2. C4地区(西から)



C地区 建物

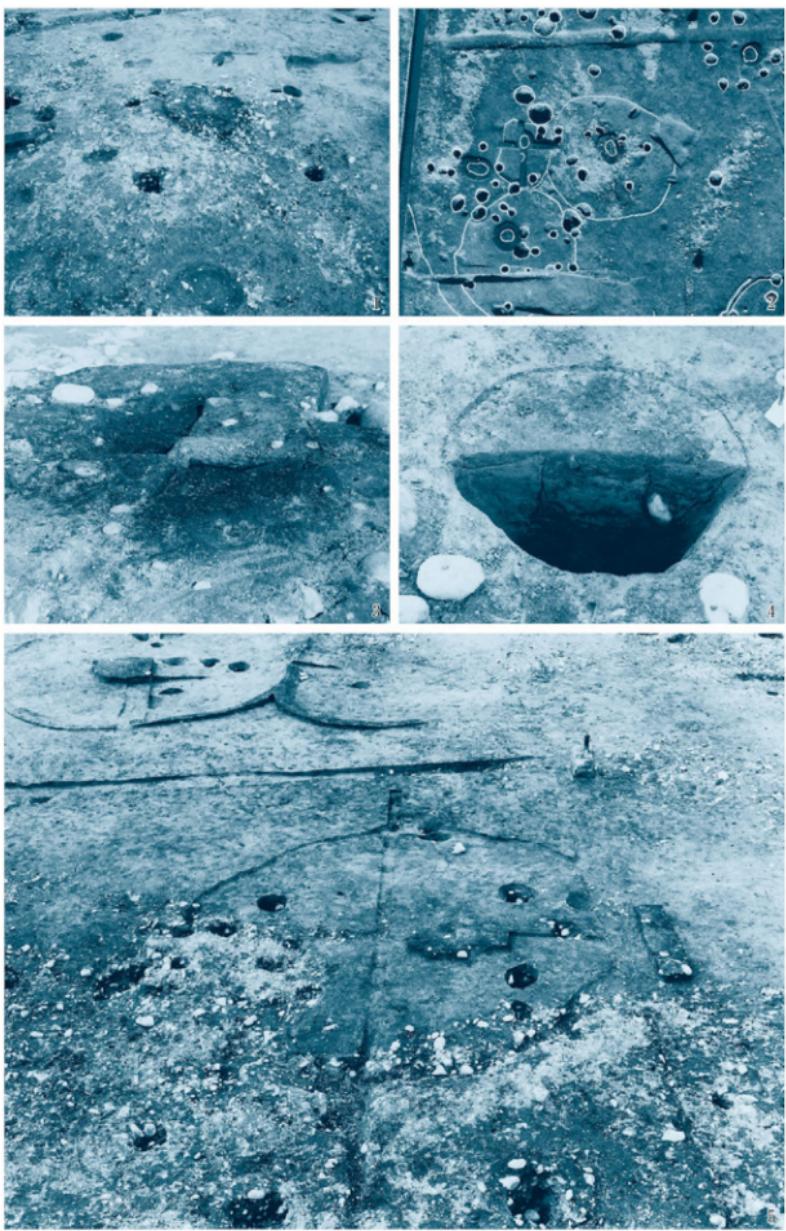
1. S I I 1(東から) 2・3. S I I 1(南から) 4. S I I 1炉(西から) 5. S I I P 3(西から)
6. S I I P 6(西から) 7. S I I P 8(西から) 8. 作業風景

図版8



C地区 建物

1. S I 2 (北から) 2. S I 2 P 1 (南から) 3. S I 2 P 1 (南から) 4. S I 2 P 2 (南から) 5. S I 2 P 3 (西から)
6. S I 1 P 4 (西から) 7. S I 2 P 5 (西から) 8. SK4402 (南から)



C地区 建物

1・2. S13(南から) 3. S13炉(東から) 4. S13P2(西から) 5. S14(東から)